授業科目名称　：芸術論（実践的教育科目）　　授業コード：23601

授業科目英文名称：Art

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| ※安田　恭子（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | AB111 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 芸術に関する基本用語を理解し、芸術作品の趣旨や内容を説明することができる。 | ・定期試験 | 30% |
| 情報収集、分析力 | フィールドワークや授業外において、様々な芸術活動に関する情報を集め、興味を持った芸術作品の鑑賞を通して、その作品を分析することができる。 | ・課題レポート | 10% |
| コミュニケーション力 | 芸術作品や展覧会について、自分なりの感想を述べ、意見交換をすることができる。 | ・授業態度、授業への参加度<br>・グループディスカッション | 10%<br>10% |
| 協働・課題解決力 | PBL（課題解決型学習）として、班別のプレゼンテーションに向け、ディスカッションをグループワークにより実施し、力をあわせて目標を達成する協働と課題解決力を育むことができる。 | ・プレゼンテーション | 10% |
| 多様性理解力 | 異なる時代や地域における文化の違いが芸術作品にも現れていることを理解し、文化や価値観の違いによる芸術活動の多様性について説明することができる。 | ・定期試験 | 30% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 芸術とは何か、何のためにあるのか、どんな歴史をたどってきたのか、これから何処へ向かっていくのかという問題意識のもと、芸術の存在意義や芸術作品について理解を深める。芸術作品を鑑賞するフィールドワークやディスカッション、学生によるプレゼンテーションを通して感性を鍛え、事物の本質を見極める力を養い、自身の専門領域に活かすことができる人材に育つことをねらいとする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①②③④⑥⑦⑧⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 評価は、定期試験60%、課題レポート10%、授業態度と授業への参加度10%、グループディスカッション10%、プレゼンテーション10%の配分でおこなう。授業の振り返りなどでフィードバックを行なう。<br>定期試験では、授業内容に関する理解度を問う。芸術活動の歴史や芸術表現の本質について理解し論述できるかを評価基準とする。 |
| 授業概要 | 芸術は、人類の長い歴史と共に歩んできた。その誕生から変遷・発展していく様子を、国内外の主要作品を通して概説する。学芸員として美術館・博物館での実践的な鑑賞教育への取り組みを活かし、作品の芸術性や芸術表現の本質について受講生とともに考える。主に扱う分野は、美術、彫刻、建築、文芸、服飾、工芸、音楽である。授業は、パワーポイントを使用した講義形態とし、適宜、受講生の意見や感想を求める。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：特に定めない。<br>参考書：授業内で指示する。<br>指定図書：アラン著・長谷川宏訳「芸術論20講」古典新訳文庫 光文社 2015年 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 美術館、博物館やコンサートホール、劇場などで一流の芸術作品に接する機会をつくり、芸術の良さや楽しさを体感してもらいたい。たまには、いつもと違うジャンルの作品に触れたり、自分でチャレンジしてほしい。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション** | 授業の進め方の説明（ガイダンス）と芸術について考える上で必要な基礎的知識と用語について解説する。 | 芸術関連用語についての復習と先史時代の予習 |
| 2 | **先史時代の芸術** | 先史時代の芸術について概説し、洞窟壁画や土器など日本と世界の作品を通して芸術活動の本質について考える。 | 先史時代の芸術についての復習と古代の芸術についての予習 |
| 3 | **古代の芸術** | メソポタミア文明、エジプト文明、エーゲ美術、ギリシア美術、ローマ美術などキリスト教誕生以前の芸術について探っていく。<br>（西暦200年以前） | 古代の芸術についての復習と中世の芸術についての予習 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 4 | **中世の芸術** | キリスト教、ロマネスク・ゴシック美術を中心とした芸術について学ぶ。（200～1400年） | 中世の芸術についての復習と近世の芸術についての予習 |
| 5 | **近世の芸術～ルネサンスを中心に～** | ルネサンス美術で開花した人間中心主義の芸術について学習する。（1400～1700年代前半） | ルネサンスの芸術についての復習とバロックの芸術について予習 |
| 6 | **近世の芸術～バロックを中心に～** | イタリア、オランダなどヨーロッパで広がった芸術について探る。（1600年ごろ） | バロックの芸術についての復習とロココの芸術についての予習 |
| 7 | **近世の芸術～ロココを中心に～** | フランスからヨーロッパ他国につたえられたロココの芸術について学んでいく。（1600年代半ば） | ロココの芸術についての復習と新古典主義の予習 |
| 8 | **近世の芸術～新古典主義を中心に～** | 新古典主義の芸術について学習する。（1700～1800年代ごろ） | 新古典主義の復習とロマン主義の芸術を復習 |
| 9 | **近世の芸術～ロマン主義を中心に～** | ロマン主義、バルビゾン派の芸術について考える。（1700年代後半～1800年後半） | ロマン主義の復習と写実主義の芸術を復習 |
| 10 | **近世の芸術～写実主義を中心に～** | クールベなど絵画やドストエフスキーの文学といった芸術について探っていく。（1800年代） | 写実主義の芸術の復習と印象主義の芸術を予習 |
| 11 | **近世の芸術～印象主義を中心に～** | 印象主義の絵画、音楽などの芸術に加え、日本の浮世絵版画の影響も学ぶ。（1800年代後半ごろ） | 印象主義の復習と象徴主義の芸術を予習 |
| 12 | **近代の芸術～象徴主義を中心に～** | フランスとベルギーの起きた美術や音楽、文学などについて学習する。（1870年ごろ） | 象徴主義の芸術について復習と20世紀芸術の予習 |
| 13 | **20世紀の芸術** | アメリカン・ポップアートなど産業の発展とともに生まれた芸術について考える。（1900年代以降） | 20世紀芸術の復習とプレゼンテーションの準備 |
| 14 | **フィールドワーク** | 佐世保市博物館島瀬美術センターで開催される「ながさきピース文化祭2025 させぼピース展」を鑑賞し、旧石器時代から現代までの芸術についてレポートを作成する。 | 「ながさきピース文化祭2025 させぼピース展」課題レポートの作成とプレゼンテーションの準備 |
| 15 | **プレゼンテーション** | 受講生が情報収集・分析した作品について、プレゼンテーションをおこない、意見交換を実施する。 | プレゼンテーションの復習 |
| 16 | **定期試験** | 筆記試験 | ノートや資料の整理と試験の準備を行なう |

授業科目名称　：学際連携と地域の理解　　授業コード：32005

授業科目英文名称：Interdisciplinary Studies and Regional Understanding

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 小田和人、落合和昭、浦郷淳、張美慶、久田貴幸、梅野潤子、椛島力、髙崎伸也、末廣真理恵(実務経験のある教員) | | | |
| 展開方法 | | | |
| ナンバリング | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 本学の専門分野の概略を理解できる。（第2・3・4・5・6・7・10・11・12・13・14・15回目） | 課題レポート | 72% |
| 情報収集、分析力 | (1)自分の専門分野だけではなく他の専門分野についての情報を意欲的に収集することができる。（第8・9回目）<br>(2)他の専門分野との連携とその見通しについて意見を述べることができる。（第1回目） | 課題レポート<br>学生態度・参加度・課題レポート | 10%<br>3% |
| コミュニケーション力 | 自分の意見を発信し、他者との交流を行うことができる。（各回） | 学生態度・参加度 | 15% |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 学間連携の概念や実践的な手法を理解し、地域社会における課題解決に学際的アプローチを適用する資質・能力の育成を目指す。<br>1.本学に設置された4学科の専門分野の概略や課題について説明することができる。<br>2.自分の専門分野と他分野が連携することで拡がる可能性について、考えを整理することができる。<br>3.地域における課題を見つけ、解決方策を考える活動に自発的・積極的に参画することができる。<br>4.専門性や考え方の多様性を尊重し、相互に認め合い、発言、傾聴、検討する役割を担うことができる。 |
| アクティブラーニングの類型 | ② ④ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 評価は各ユニットに対してレポートを課し、合算した点数により科目の成績とする。<br>レポートのテーマや提出方法、フィードバック等については、各担当教員により授業内で指示する方法により行う。 |
| 授業概要 | 本学４学科の専門分野の構成と研究アプローチの視点、社会的な活用状況、活躍する分野、課題についてユニット毎に概説し、分野間の連携事例等を提示し、専門分野に対するモチベーションや課題意識の向上を図る。<br>また、専門職連携で活躍する外部講師の話を聞き、実社会で連携する場合の可能性や課題等について理解を深める。<br>ユニット毎に学際連携に関するテーマでレポートを課す。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分である。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：特に指定しない。参考書：特に指定しない。<br>指定図書：各担当教員により授業中に指示する。 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | ・日頃から新聞・ニュース等を見聞きし、実際の地域の経済・文化・医療・福祉など「いのち、健康、暮らし」にま<br>つわる情報や課題について関心を高めておく。<br>・専門の異なる他学科の学生と交流することで、多様性を理解し、幅の広い視野を持つようにする。<br>・学科間の結びつきや学問と職業のつながりを意識することで、卒業後に職業人として活躍することや専門職で連携<br>をとることの意味を理解する。 |
| 授業計画 | 回 / テーマ / 授業の内容 / 予習・復習 / 担当教員 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション** | ・学際連携の基本的な概念、地域社会における問題解決の重要性を学ぶ。<br>・科目の目的、授業の進め方、受講する心構え、評価について知る。 | 予習：シラバスを確認する。<br>復習：学修の進め方を確認する。 | 小田和人・落合和昭・浦郷淳・張美慶・久田貴幸・梅野潤子・椛島力・高崎伸也・末廣真理恵 |
| 2 | **福祉の専門性と社会福祉・地域への関わり**<br>**《社会福祉学科》学際** | 福祉の専門性を知るとともに、福祉の専門資格者の業務を通して、社会福祉・地域との関わりについて理解し、課題と対応策を考える。 | 予習・復習：社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の概要を調査・整理する。 | 久田貴幸 |
| 3 | **子どもの権利と暮らしの支援**<br>**《社会福祉学科》学際** | 社会福祉の一領域である児童福祉に着目し、子どもの権利の歴史や権利条約、それを護るための暮らしの支援の実際について学ぶ。 | 予習・復習：子どもの権利とそれを護るための支援について整理・考察する。 | 梅野潤子 |
| 4 | **地域福祉との連携**<br>**《社会福祉学科》地域** | 地域共生社会に関する現状を学び、福祉ニーズを抱える人々が暮らしやすい地域をつくる為に何が必要かを考える。 | 予習・復習：障害者総合支援法および社会における福祉ニーズについて調査・整理する。 | 久田貴幸 |
| 5 | **薬学の専門性と身近な医薬品**<br>**《薬学科》学際** | 薬学の専門性を知るとともに、競技スポーツにおけるドーピング問題、食物との相互作用などを学び、身近な医薬品を正しく使用する方法について学ぶ。 | 予習：身近な医薬品について興味を持って調べる。<br>復習：医薬品を利用する時の注意点について整理する。 | 末廣真理恵 |
| 6 | **健康診断の検査値の読み取り方**<br>**《薬学科》学際** | 健康診断の検査値の読み取り方をそのもととなるからだの仕組みから検査値が変化する仕組みまで学ぶ。 | 予習：自身の健康診断の結果を確認しておく。<br>復習：生活改善法を考える。 | 高崎伸也 |
| 7 | **地域医療との連携**<br>**《薬学科》地域** | 少子高齢化が急速に進行するなかで、「地域医療」が推進されている。本講義では、長崎県や佐世保市の人口動態などを踏まえた地域医療について考える。 | 予習・復習：地域医療、医療の地域偏在について調査・整理する。 | 椛島力 |
| 8 | **外部講師**<br>**ゲストスピーカー講話１**<br>**学際** | テーマ（例）キャリアとしての学際連携<br>外部講師やゲストスピーカーにより実社会の現状や課題について話 を聞く。 | 復習：ゲストスピーカーからの講話に関して考察をまとめる。 | 浦郷淳 |
| 9 | **外部講師**<br>**ゲストスピーカー講話２**<br>**学際** | テーマ（例）学際連携から見るジェンダー問題<br>外部講師やゲストスピーカーにより実社会の現状や課題について話を聞く。 | 復習：ゲストスピーカーからの講話に関して考察をまとめておく。 | 浦郷淳 |
| 10 | **健康と食事のバランス**<br>**≪健康栄養学科≫学際** | 健康栄養学の専門性を知るとともに、食事バランスガイドを基に、食事のバランスについて学び、その量・質的偏りによる体への悪影響（生活習慣病など）を知り、その悪影響への地域の疾病対策について考える。 | 予習：食事バランスガイドについて調べる。<br>復習：食生活をチェックする。 | 小田和人 |
| 11 | **スポーツ・運動時の食事**<br>**《健康栄養学科》学際** | スポーツおよび健康のための運動において、栄養・食事の果たす役割の大きさと重要性が認識されている。今回は、競技スポーツ実践者や心身の健康維持・増進のために運動を行っている者がどのような食事や栄養素を摂る必要があるか考える。 | 予習：運動種目の違いにより、食事の摂り方がどう異なるか調べておく。<br>復習：自身が運動した時の栄養の摂り方を見直す。 | 小田和人 |
| 12 | **地域にある食の力の活用**<br>**≪健康栄養学科≫地域** | 「地産地消」地域の食の力(食環境)を考える。地域にある特産の農産物や伝統的な郷土料理を知る。また、その土地の文化・風習を理解し、町づくりに活用する方法を学ぶ。 | 予習・復習：佐世保市や出身地の農産物や郷土料理について調べておく。食環境について調査・整理する。 | 小田和人 |
| 13 | **観光とは**<br>**《国際観光学科》学際** | 観光学の専門性を知るとともに、そこで働く意義を通じて、観光の今日的な課題を知る。 | 予習：観光とは何か調べる。<br>復習：観光の今日的課題を整理しておく。 | 落合和昭 |
| 14 | **観光に見るスピタリティ**<br>**《国際観光学科》地域** | 観光におけるホスピタリティの重要性について、その特性や事例紹介を学び、現状や影響について理解する。 | 予習・復習：観光においてホスピタリティを高める方策を考える。 | 落合和昭 |
| 15 | **観光とまちづくり**<br>**《国際観光学科》地域** | 観光を通じて地域活性化に取り組む地域情報の収集、様々なツーリズム企画の現状、新たな仕組みについて学ぶ。 | 予習・復習：観光を通じて地域活性化に取り組む地域を調査・整理する。 | 張美慶 |

授業科目名称　：在宅医療概論（実践的教育科目）　　授業コード：14005

授業科目英文名称：Introduction to Homecare Medicine

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 2 | 選択（薬；必修） |
| 担当教員 | | | |
| 大磯　茂、太田　一寿、林　俊介、大町　いづみ、大久保　伸哉（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | AD116 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 我が国の医療における在宅医療の必要性について討議できる。<br>在宅医療には多職種の連携が必要であることを説明できる。<br>在宅で療養を行っている対象者の特性(疾病や障がいなど)について説明できる。 | 課題 | 40% |
| 情報収集、分析力 | 在宅医療に関わる多くの専門職種を類別できる。<br>在宅療養者に対し、それぞれの職種による必要な支援について説明できる。 | 課題 | 30% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | それぞれの職種の立場から在宅療養者への支援を提案できる。 | 課題 | 30% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 在宅医療は、従来の外来通院医療と入院医療に次ぐ第3の医療で、患者が在宅ケアを受けるためには、病院・診療所・訪問看護ステーション・薬局・福祉関係施設などのさまざまな機能を活かした地域におけるチーム医療体制（地域医療連携）の整備が不可欠である。在宅医療の現場でチーム医療を実践するには、それら施設の構成員である医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、理学・作業療法士、社会福祉士等の専門性とそれぞれの職能についての相互理解や連携が必要であり、患者が必要としているケアに対応できるような臨床能力に関する総合実践力を修得する必要がある。本学の各学科を修了する多くの学生は、将来、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士など在宅医療に深いかかわりを持つ専門職を志向している。本授業の狙いは、学生諸君に、在宅医療に必要な基礎知識を身に付けてもらうこと、また、それぞれの専門職種の役割とその連携の重要性を知ってもらい「在宅医療」および「地域医療連携」に対する芽生えを期待するものである。 |
| アクティブラーニングの類型 | ① ② ⑤ ⑩ ⑪ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 講義毎に課す課題（レポート、選択肢問題等）により評価する。フィードバックはポートフォリオ上で行う。<br>全講義時間の3分の1を超える欠席があった学生は、単位認定を行わない。 |
| 授業概要 | 各専門の立場から、授業時に配布する資料、パワーポイント等を使用し講義を行う。授業で学んだことを深めるために、Web講座「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアの基礎知識」（http://www.hhc-nagasaki.jp/webkouza/）を参考にすること。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：指定なし<br>参考書：明日の在宅医療１～７巻（中央法規）<br>指定図書：在宅医療多職種連携ハンドブック“最期まで住み慣れた地域での生活”を支援する（法研）<br>http://www.hhc-nagasaki.jp/webkouza/（Web講座） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | オムニバス形式の講義に全回出席し、積極的な質問などを期待する。全体に関する質問などがあれば、取りまとめ担当教員（薬学研究棟P310：大磯、5号館H24：林、研究棟2階215：大町）に尋ねること。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | **総論** | 在宅医療に係わる多くの専門職と専門職連携の重要性（大磯茂） | 超高齢社会の現状について予習すること。<br>講義内容を復習して課題に取り組むこと。 | 大磯茂 |
| 2 | **在宅医療に係わる社会保障制度** | 在宅医療に関わる社会保障制度の基礎知識（大町いづみ） | 社会保障制度について予習すること。<br>講義内容を復習して課題に取り組むこと。 | 大町いづみ |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 3 | **在宅医療に係わる専門職(1)** | 在宅医療におけるケアマネージャーの役割（鷲峯志保）（ゲストスピーカー・実務家） | ケアマネージャーの業務について予習すること。<br>講義内容を復習して課題に取り組むこと。 | 鷲峯志保 |
| | 4 | **在宅医療に係わる専門職(2)** | 在宅医療における医師の役割（太田一寿） | 医師の業務について予習すること。講義内容を復習して課題に取り組むこと。 | 太田一寿 |
| | 5 | **在宅医療に係わる専門職(3)** | 在宅医療における看護師の役割（大町いづみ） | 看護師の業務について予習すること。<br>講義内容を復習して課題に取り組むこと。 | 大町いづみ |
| | 6 | **在宅医療に係わる専門職(4)** | 在宅医療における訪問看護師の役割（森亜砂子）（ゲストスピーカー・実務家） | 訪問看護師の業務について予習すること。<br>講義内容を復習して課題に取り組むこと。 | 森亜砂子 |
| | 7 | **在宅医療に係わる専門職(5)** | 在宅医療における薬剤師の役割（七嶋和孝）（ゲストスピーカー・実務家） | 薬剤師の業務について予習すること。<br>講義内容を復習して課題に取り組むこと。 | 七嶋和孝 |
| | 8 | **在宅医療に係わる専門職(6)** | 在宅医療における薬局薬剤師の役割（中川勝憲）（ゲストスピーカー・実務家） | 薬剤師の業務について予習すること。<br>講義内容を復習して課題に取り組むこと。 | 中川勝憲 |
| | 9 | **在宅医療に係わる専門職(7)** | 在宅医療における歯科医師の役割（徳富健太郎）（ゲストスピーカー・実務家） | 歯科医師の業務について予習すること。<br>講義内容を復習して課題に取り組むこと。 | 徳富健太郎 |
| | 10 | **在宅医療に係わる専門職(8)** | 在宅医療における管理栄養士の役割（林俊介） | 管理栄養士の業務について予習すること。<br>講義内容を復習して課題に取り組むこと。 | 林俊介 |
| | 11 | **在宅医療に係わる専門職(9)** | 在宅医療における理学療法士（PT）・作業療法士（OT）・言語聴覚士（ST）の役割（本田憲一）（ゲストスピーカー・実務家） | PT・OT・STの業務について予習すること。<br>講義内容を復習して課題に取り組むこと。 | 本田憲一 |
| | 12 | **在宅医療に係わる専門職(10)** | 在宅医療における地域連携室の役割（永田敬博）（ゲストスピーカー・実務家） | 地域連携室の業務について予習すること。<br>講義内容を復習して課題に取り組むこと。 | 永田敬博 |
| | 13 | **在宅医療に係わる専門職(11)** | 在宅医療における地域包括支援センターの役割（江﨑勝明）（ゲストスピーカー・実務家） | 地域包括支援センターの業務について予習すること。<br>講義内容を復習して課題に取り組むこと。 | 江﨑勝明 |
| | 14 | **在宅医療に係わる専門職(12)** | 在宅医療における行政機関の役割（浜口毅丸）（ゲストスピーカー・実務家） | 行政機関の業務について予習すること。<br>講義内容を復習して課題に取り組むこと。 | 浜口毅丸 |
| | 15 | **在宅医療に係わる専門職(13)** | 在宅医療における薬の知識（大久保伸哉・平雄文）（ゲストスピーカー・実務家） | 医薬品の取り扱いについて予習すること。<br>講義内容を復習して課題に取り組むこと。 | 大久保伸哉・平雄文 |
| | | **★注意事項** | 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。 | | |

授業科目名称　：キャリア開発Ⅱ　　授業コード：12009

授業科目英文名称：Career Development Ⅱ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 落合　和昭（実務経験のある教員）、裵　孝承 | | | |
| 展開方法 | 講義・演習 | | |
| ナンバリング | BA311 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | | | |
| 情報収集、分析力 | 情報収集、<br>分析力　授業で得た気づき、情報等を基に、自分自身の現状を踏まえて将来設計に落とし込むことができる。 | ・毎週の授業レポート<br>・課題レポート | 10%<br>20% |
| コミュニケーション力 | 自分の感じた事、考えを自分の言葉で分かり易く説明し、文章で表現することができる。 | ・毎週の授業レポート<br>・課題レポート<br>・授業参画度 | 10%<br>10%<br>10% |
| 協働・課題解決力 | ・自分自身のライフプランを意識し、目的に向かって積極的に行動を起こすことができる。<br>・希望就職先を具体化し、明確な目標意識を持って就職活動に邁進することができる。 | ・毎週の授業レポート<br>・課題レポート | 20%<br>20% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | ２年間の大学生活の中で培ってきた自分自身による「自分磨き」を踏まえ、大学卒業以降の自分のライフキャリア形成上の大きな関門となる就職に備え、就活に必要な実技・知識の習得や、必要なシミュレーション等を実践する事で、希望に沿った就職活動を行う事が出来る様になる事を目標とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ① ② ⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 毎週のリフレクションカードへの記入による定期レポートを提出し40%評価する。毎回必ず自分自身の気づき、気づきの行動への転換、行動の継続の実践状況を確認してほしい。課題レポートは現在時点での自分自身の人生設計を踏まえ、課題に関して①自分の感じたことや考えを、②自分の言葉で分かり易く説明できているか否かで50%評価する。その他授業への参画等を10%評価とし、総合的に評価する。課題レポートのフィードバックは適宜授業時に行う |
| 授業概要 | 担当教員の実務経験や知見に基づく実務的な講義や、外部講師、キャリアセンター職員がテーマに即した授業形式（講義形式、グループワーク、演習形式等）で行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書/参考書：特に定めない。必要資料は授業時に適宜配布する。<br>指定図書：『君たちはどう生きるか』 吉野源三郎著 岩波文庫 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 自分自身の一生をどのように過ごすのかを考えることは人類永遠の課題である。足元では社会人として、地域の善良な一市民として、求められる素養・教養を身に付けて大学を巣立って行く事を、自分自身の人生の中でどう位置付けるかという事を常に意識しつつ、残りの大学生活を送ってほしい。その中で就職は当面する自分自身の人生におけるキャリアパスの一つであるという意識を持って授業に臨んでもらいたい。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション（自身のライフプラン構築と就職活動に向けて）・情報の収集Ⅰ（マイナビの登録と活用）** | 授業への導入、この授業が目指すポイント、当年度就職活動の一般的なスケジュール解説、キャリアセンター利用方法等について学ぶ。インターンシップの情報収集ツールである、『マイナビ2027』の登録、活用法について学ぶ | 予：シラバスを読み込む<br>マイナビの利用を考える<br>復：自身のライフプランの再確認 | 落合・裵 |
| 2 | **情報の収集Ⅱ（リクナビ・Nナビの登録と活用）** | 情報収集の方法理解を深める。<br>リクナビ・Nナビの登録・活用方法について学ぶ<br>（実務家ゲストスピーカーによる講義） | 予：リクナビ・Nナビの利用を考える<br>復：WEBでの情報収集方法を再確認 | 落合・裵・ゲストスピーカー |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 3 | **社会人としての体験Ⅰ（インターンシップ&キャリア）** | 長崎県未来人材課のなかで行われているインターンシップについて情報を収集し、今後の就職活動に備える。（長崎県未来人材課講義） | 予：インターンシップの参加について考える<br>復：実際に参加したいインターンシップを探し始める | 落合・裵・ゲストスピーカー |
| 4 | **社会人としての体験Ⅱ（インターンシップ&キャリア）（学科分離）** | 就職活動における企業・業界研究の一環であるインターンシップ等において、規定の詳細・企業の探し方等の基礎知識を学ぶ。また、先輩の体験談動画を見てインターンシップ等に対する不安を解消する。（外部講師） | 予：インターンシップの参加について考える<br>復：実際に参加したいインターンシップを探し始める | 落合・裵・ゲストスピーカー |
| 5 | **自己表現Ⅰ（自己分析・履歴書/エントリーシートの書き方）** | 就職活動や進路を考える前に、「自身はどんなことをやってみたいか？」「自身の強み・特徴は何か？」を考え、就職活動における「仮の軸」をイメージする。（外部講師） | 予：過去にあった出来事を<br>思い出しておく<br>復：自分史作成をする | 落合・裵・ゲストスピーカー |
| 6 | **自己表現Ⅱ（自己分析・履歴書/エントリーシートの書き方）** | インターンシップ参加において、履歴書やエントリーシート提出が必要な場合がある。文章作成の基本・エントリーシートのよくある質問項目における回答の書き方を学ぶ。（外部講師） | 予：過去にあった出来事を<br>思い出しておく<br>復：自己PRの文章を作り始める | 落合・裵・ゲストスピーカー |
| 7 | **相手を知る（企業研究）（学科分離）** | 自分に合う企業とはどんな企業か？を考える際に必要な「企業研究」の方法を学ぶ。（外部講師） | 予：興味のある企業や業界を考える<br>復：具体的に興味のある企業を探し、比較をする | 落合・裵・ゲストスピーカー |
| 8 | **キャリア開発に必要な能力（NIUドリルの活用）** | NIUドリルを活用し、社会人として求められる基礎能力について考え、SPI（基礎能力）検査を実践して基礎能力の向上を図る。（外部講師） | SPI（基礎能力）について調べ、問題演習を行う。 | 落合・裵・ゲストスピーカー |
| 9 | **キャリア開発の基礎（労働法に関するワークルール）** | 働くことに必要なルールについて労働局より説明頂き『労働法』を学ぶ。（長崎労働局部長講義） | ワークルールの基本知識を学ぶ。 | 落合・裵・ゲストスピーカー |
| 10 | **キャリア開発の礼儀（ビジネスマナー）** | インターンシップや企業訪問、ビジネスの場面での実践的なマナーを身につける。（外部講師） | 就職活動で必要なマナーを身に着ける。 | 落合・裵・ゲストスピーカー |
| 11 | **先輩の話を聴く** | 社会人となった先輩の就活行動と、今何をしておくべきかのアドバイスを確認する。（外部講師） | 先輩の体験談を自分の中にどのように取り込むかを考える。 | 落合・裵・ゲストスピーカー |
| 12 | **働くイメージⅠ（学科分離）** | 自分が希望する業界を考え、いずれかの講義に参加する。 | 観光：社会人基礎力を計測し、それに対する対応を計画する。<br>福祉：講義内容について、自分なりのレポートを作成する。 | 落合・裵・ゲストスピーカー |
| 13 | **働くイメージⅡ（学科分離）** | 観光：マイナビ2027イベントに一つ以上参加する（ﾚﾎﾟｰﾄ有り）。<br>福祉：業界の現役社会人から就職活動や社会人として必要な事柄を学ぶ。（外部講師） | 各業界への具体的関心を高め就活に備える。 | 落合・裵・ゲストスピーカー |
| 14 | **①観光スタートアップセミナー<br>②福祉スタートアップセミナー<br>（学科分離）** | ①または②に参加することで、企業の話を対面で聴くことにより、社会人として必要な事柄を学ぶ。（日程変更の可能性有り） | 参加企業と面談し今後の進路を考える。 | 落合・裵・ゲストスピーカーまたは合説参加施設 |
| 15 | **キャリア開発Ⅱ振り返り（学科分離）** | キャリア開発Ⅱの授業振り返り（担当教員） | 全般的な授業評定 | 落合・裵 |

授業科目名称　：観光史　　授業コード：34602

授業科目英文名称：Tourism History

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| ※板垣　朝之（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CA117 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 観光の歴史および現状の観光の動きを、歴史的な背景を基礎とした知識をもとに説明することができる | ・期末課題<br>・小レポート | 20%<br>25% |
| 情報収集、分析力 | 授業で得た知識から、観光業の現状を歴史的に分析することができる | ・期末課題<br>・小レポート | 10%<br>10% |
| コミュニケーション力 | 観光の歴史や観光業を自分の考えをもって議論することができる | ・授業参画度 | 5% |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | 観光の視点から、現代社会が抱えている問題を分析し、自身の観光に対する意見を観光史の中で位置づけることができる。 | ・期末課題<br>・小レポート<br>・授業参画度 | 10%<br>15%<br>5% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 現代成長産業の一角を担うまでに成長した観光業、同時にコロナ禍やウクライナ戦争によってその将来に危機感を持たれている観光業、そのいずれもが観光業の側面であるが、現状を俯瞰すると今後の日本の基幹産業としての観光業成長への期待が、極めて大きなものであることが改めて認識される。本講義では観光の概念を再確認すると同時に、古代から始まり、19～20世紀における基礎的発展期から今世紀に至る観光の歴史的動きを学び、そこから産業としての観光業の今後への理解を深めることを目的とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ②③⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 毎週の授業後レスポンに授業へのコメント等を記入し提出し、全15週の内2回分を小レポートとして全体の50%評価とする。期末課題は観光史の授業内容を踏まえた自身の考えをまとめる目的で実施し40%評価とする。観光の歴史やこれからの観光業に関し、常に興味、関心を持って授業に臨む事を参画度として10%評価し、これらを総合的に評価する。課題レポートのフィードバックは適宜ポートフォリオや授業時に行う。特に毎週の授業後のレスポンへの質問・コメントの提出を重要視するので、授業に出席し欠かさずにレスポンを提出してほしい。 |
| 授業概要 | 授業はビジュアル資料等を使用し、観光と観光業の諸元を国内/海外/インバウンドという形態別に体系建てて歴史的に概説する。特に産業としての発展・展開期においては当時の歴史的動向等も踏まえて理解を深める。また観光業は交通業、宿泊業等多くの産業を包括的に取り込んだ産業であり、特に交通業等の歴史に関しても併せて理解を深める。<br>担当教員の旅行業での経験等に基づく知見等も利用して、時間軸に沿った観光業の動きに関して広範な知識の習得と理解を目指す。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：特に定めない。<br>参考書：『観光概論』㈱JTB総合研究所 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 歴史を学ぶことの重要な目的の一つは、その事実から学んだことを、現在の環境の中にどう教訓的に生かして行く事が出来るのかにあると考えられる。不確実性の時代である今日にあって、「過去は過ぎたことで参考にならない」ではなく「過去にこそ現代を生き抜く重大なヒントが隠されている」という発想に共感を持てるように意識して授業に望んでほしい。<br>その為には歴史を学びつつ現代を正しく見つめる視点がより重要である。この授業を受講する際にはこの様な意識で望んでほしい。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション<br>観光とは何か** | 観光および観光業の歴史を学ぶ意義を考える | 予：観光の歴史＝「観光史」を学ぶ意義とは何かを考えておく<br>復：「観光史」を学ぶことの意義の再確認 |
| 2 | **世界における観光の歴史** | 世界における「観光史」の流れを考察する | 予：観光の始まりについて考える<br>復：観光の始まりの復習 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 3 | **日本における観光の歴史①** | 日本における観光の始まりから近代までの流れを考察する | 予：日本の観光の始まりから近代への展開について考える<br>復：日本の観光の始まりから近代への展開について復習 |
| 4 | **日本における観光の歴史②** | 江戸期から明治期の日本の観光の流れを考察する | 予：江戸期から明治期の日本の歴史の流れを確認しておく<br>復：江戸期から明治期への日本の観光展開の流れの復習 |
| 5 | **日本における観光の歴史③** | 明治期の日本の観光の新たな動きを考察する | 予：明治期の日本の観光の新たな展開のk農政を考えておく<br>復：明治期の日本の観光の展開の復習 |
| 6 | **日本における観光の歴史④** | 日本独特の旅行形態としての「団体旅行」と「修学旅行」の誕生と展開を考察する | 予：「団体旅行」とは何かを考えておく<br>復：「団体旅行」内容の復習 |
| 7 | **日本の修学旅行の現状** | 修学旅行の現状はどのようになっているのか、OBによる修学旅行の現状に関する特別授業（予定） | 予：修学旅行の現状の問題点は何か考えておく<br>復：修学旅行の現状復習、先輩の話の内容の再確認 |
| 8 | **移動手段としての交通機関の変遷** | 移動手段として交通機関は歴史的にどのように発展してきたのかを考察する | 予：移動手段としての交通機関について考えておく<br>復：交通手段の歴史復習 |
| 9 | **移動手段としての鉄道の変遷、国鉄/ＪＲの発展と展開** | 国有鉄道としての役割、戦前の鉄道の展開を考察する | 予：国有鉄道＝「国鉄」とは何だったのか考えておく<br>復：「国鉄」とJRの歴史的展開の復習 |
| 10 | **国鉄/ＪＲの発展と展開②<br>新幹線の役割と現状** | 第二次世界大戦後の国鉄の展開、新幹線網の拡充と分割民営化への動きと歴史を考察する | 予：自身の新幹線乗車体験を考えておく<br>復：新幹線網の拡充、西九州新幹線の展開復習 |
| 11 | **航空運送業界の歴史** | 戦後日本の民間航空業界発展の歴史を考察する | 予：自身の航空機利用体験を確認しておく<br>復：日本の民間航空業界の歴史復習 |
| 12 | **戦後民間航空史の展開とLCCの登場** | 日本国内線の航空自由化への道のりと新しいビジネスモデルLCC登場を考察する | 予：航空自由化とはどの様な事なのかを確認しておく<br>復：航空自由化とLCC誕生の関係の歴史復習 |
| 13 | **海外渡航自由化、パッケージツアーの登場と海外旅行の大衆化** | 海外渡航自由化と海外旅行発展の歴史を俯瞰し、パッケージツアー誕生の背景を考察する | 予：パッケージツアーとはどの様なものかを考えておく<br>復：パッケージツアー内容の復習 |
| 14 | **インバウンド観光の再編とその歴史** | 日本におけるインバウンド観光の始まりと歴史的展開を考察する | 予：インバウンド観光とは何かを考えておく<br>復：インバウンド観光復習 |
| 15 | **コロナ禍以前のインバウンド観光の実態と今後の展開の考察、授業全体のまとめ** | インバウンド旅行客３千万人への歩みとコロナ禍による挫折、その後の復興と今後の動きを展望する | 予：インバウンド観光の増加理由を考えておく<br>復：コロナ禍後のインバウンド観光の現状の再確認 |

授業科目名称　：国際観光論　　授業コード：24007

授業科目英文名称：International Tourism

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| ※板垣　朝之（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CA212 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 異なるものを認め、「異文化」を理解する事で得られる喜びを、観光の切り口から提示・説明できる知識の取得と、その活用を実践することが出来る | ・期末課題<br>・小レポート<br>・授業参画度 | 20%<br>15%<br>5% |
| 情報収集、分析力 | 文化の違いで生じる摩擦や興味の異なりを予測分析するだけの情報を収集出来る | ・期末課題<br>・小レポート | 10%<br>10% |
| コミュニケーション力 | 文化の違いを共有・理解するために、自身とその社会が持つ文化に関してその特徴を説明することが出来る | ・小レポート<br>・授業参画度 | 10%<br>5% |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | 文化の多様性をふまえた観光展開案を提示することが出来る | ・期末課題<br>・小レポート | 10%<br>15% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 観光行動は人々の生活に非日常の「楽しさ」や「豊かさ」を与えるものであり、非日常性体験の典型のひとつが異文化との接触であるとすれば、それを積極的に理解する態度能力が求められる。この授業では異文化・他国文化理解をキーワードに、観光という切り口から国際的な文化の在り方を学び、それらとの接触から得られる「楽しさ」、「豊かさ」を共有し、自国文化への再理解を深化させることを目標とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ②③⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 毎週の授業後レスポンに授業へのコメント等を記入・提出し、全15週の内2回分を小レポートとして全体の50%評価とする。期末課題はこの授業の内容を踏まえた自身の考えをまとめる目的で実施し40%評価とする。世界の色々な動きや海外ニュース等に常に興味、関心を持って授業に臨む事を参画度として10%評価し、これらを総合的に評価する。課題レポートのフィードバックは適宜ポートフォリオや授業時に行う。 |
| 授業概要 | 授業はビジュアル資料等を使用し、交錯する文化の諸相、宗教、言語、民族、政治、経済といった諸要素が、歴史的にまた現代世界にどの様に存在し、どの様に進行しているのかを概観し、観光という手段を通じてその様な諸相をどのように理解してゆくのか、また異なる文化の諸相をどの様に自分事として捉え理解できるようにするのかという課題を確認しつつ進行する。従って授業の多くの部分で異文化の「形式・様式」への理解を深める事を通じ、自文化への理解を深める事を目標とする。また担当教員の旅行業での経験等に基づく知見等も利用して、広範な諸元を総合的に理解、判断できる知識の習得を目指す。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：なし<br>参考書・指定図書：「新・観光立国論」デービット・アトキンソン著/東洋経済新聞社刊 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 現代社会は「不確実性の時代」とされており、紛争が続く諸国間の関係を見ても第二次世界大戦後に構築された国際関係のレジームは大きな変革を求められている。この様な環境下、我々が一個人として不確実性の時代をどの様に生きてゆくのかは大きな課題である。授業を通じ、観光という身近な切り口から時代の舞台上の動きを理解し、個人としてその動きにどの様に対処して行けるのかのヒントを掴むという大きな目標に共感できることを期待する。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **観光とは何か、国際観光の役割を再考する** | 授業全体のガイダンスと「観光」および「国際観光」の持つ意味について改めて考察する | 予：「観光」の意味について確認しておく<br>復：「観光」の意味を復習 |
| 2 | **「文化」とは何か①** | 「文化」と呼ばれる事柄には具体的にどの様なものがあるのか、まずは文字・言語について考察する。 | 予：「文化」について考える<br>復：「文化」の諸相の復習 |
| 3 | **「文化」とは何か②<br>宗教とは何か①** | 「文化」の需要な要素である「宗教」うち、「世界宗教とは何か」、世界にはどの様な宗教があるのかを再確認する。 | 予：「宗教」と何かについて考える<br>復：「世界宗教」の復習 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 4 | **「文化」とは何か③<br>宗教とは何か②** | 「世界宗教とは何か」②、信者数世界最多であるキリスト教の文化を考察する。 | 予：キリスト教とはどの様な宗教かを考えておく<br>復：キリスト教文化の復習 |
| 5 | **「文化」とは何か④<br>宗教とは何か③** | 「世界宗教とは何か」③、イスラム教・仏教の文化を考察する。 | 予：イスラム教・仏教とはどの様な宗教か考えておく<br>復：イスラム・仏教文化の復習 |
| 6 | **「文化」とは何か⑤<br>建築様式から学ぶ** | 「現存する文化のカタチ」としての「古代建築様式」から、文化の変遷を考察する。 | 予：古代建築にはどの様なものがあるかを考える<br>復：建築様式の復習 |
| 7 | **「文化」とは何か⑥<br>彫刻・宗教絵画を学ぶ** | 文化の一形式として「彫刻」、「宗教絵画」の歴史と変遷を考察する。 | 予：彫刻・宗教絵画に関し知っている事をまとめる<br>復：彫刻・宗教絵画の復習 |
| 8 | **「文化」とは何か⑦<br>西洋絵画の歴史を学ぶ** | 文化の形式の変遷の具体例として「西洋絵画」を例に文化の変遷を考察する。 | 予：西洋絵画の歴史的変化に関して知っていることをまとめる<br>復：西洋絵画の歴史確認 |
| 9 | **「文化」とは何か⑧<br>文化の一形態としての「食文化」を学ぶ①** | 文化の形式としての各国の「食文化」を考察し、現在の「国際観光」の重要要素である「ガストロノミーツーリズム」を理解する。 | 予：世界の食文化に関し知っていることを確認する<br>復：文化としての食の復習 |
| 10 | **「文化」とは何か⑨<br>文化の一形態としての「食文化」を学ぶ②** | 世界各国の「食文化」と「ガストロノミーツーリズム」、「和食」と「日本食」の文化を考察する。 | 予：和食に関ししっていることを確認する<br>復：文化、観光資源としての和食の復習 |
| 11 | **日本の国際観光戦略の歴史** | インバウンド/アウトバウンド双方の観光戦略をどのように描き、辿ってきたのかを考察する。 | 予：アウト/インの観光の動きに関し考えておく<br>復：アウト/インの動きの経済的意義の復習 |
| 12 | **戦前日本の国際観光戦略と第一次世界大戦後の世界の動き** | 明治以降の日本の国際観光戦略の動きと第一次世界大戦後の世界の動きを考察する。 | 予：明治時代に関し知っていることを確認する<br>復：第一次世界大戦の意味の再確認 |
| 13 | **戦後日本の国際観光戦略の動き、海外旅行/アウトバウンドツーリズムの展開** | 第二次世界大戦後日本の復興と冷戦下の世界の動き、その後の海外旅行発展の動きを考察する。 | 予：戦後世界の動き、冷戦に関し知っていることの確認<br>復：海外旅行展開の意義の最確認 |
| 14 | **アウトバウンドとインバウンド、経済政策としての国際観光** | 発展し多様化する世界経済と海外旅行の大衆化、インバウンドとの相関、コロナ禍による「国際観光」への影響について考察する。 | 予：コロナ禍前の国際観光の在り方を確認する<br>復：コロナ禍後の国際観光戦略の復習 |
| 15 | **全体のまとめ、「国際観光」が果たす役割の再確認** | ポストコロナの国際観光の在り方、世界経済を舞台とした「国際観光」の役割の考察、授業全体のまとめ。 | 予：国際観光の世界的な役割を考えておく<br>復：国際観光の今後に関する自身の考えをまとめる |

授業科目名称　：観光事業論　　授業コード：44610

授業科目英文名称：Tourism Industry

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 井上　英也（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CA201 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 観光業界の各セクター（旅行業、航空業、宿泊業、交通業など）の基本的な知識を習得し、それぞれの業界が観光事業全体にどのように寄与しているかを理解できる。 | 授業内テスト | 30% |
| 情報収集、分析力 | ・観光業の現状と課題についての情報を収集し、信頼性の高い資料を選定できる。<br>・観光市場の動向や観光客の行動パターンを分析し、マーケティング戦略や観光商品<br>　の設計に活かすことができる。<br>・観光業におけるトレンドや競争環境に関するデータを適切に解釈し、将来の展望を<br>　予測できる。 | レポート<br>レポート<br><br>プレゼンテーション | 10%<br>10%<br><br>20% |
| コミュニケーション力 | グループワークを通じて、自分の意見を論理的に表現し、他者の意見を尊重しながら協力できる。 | 授業貢献 | 10% |
| 協働・課題解決力 | グループ内で役割を分担し、協力して観光事業に関する課題解決に取り組むことができる。 | 授業貢献 | 10% |
| 多様性理解力 | 持続可能な観光やエシカルツーリズムに関する多様な視点を学び、観光業における社会的責任を果たすための行動ができる。 | 授業貢献 | 10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 1.観光事業の基礎知識を習得し、観光業の重要性を理解する。<br>2.観光業の主要な構成要素（旅行業、航空業、宿泊業、交通業など）の役割と相互関係を把握する。<br>3.観光業の現状と将来の展望を考え、持続可能で革新的な観光業のあり方について議論する。<br>4.観光業界の多様なキャリアパスを紹介し、将来の職業選択に役立つ知識を提供する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ②④⑤⑥⑦ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 授業貢献　：30% 質問、発言などの回数、グループワーク、プレゼンテーションなどを観察法で評価。<br>授業内テスト：30% 授業の理解度を問う。<br>レポート　：20% 資料の選択、論旨・形式要件などをもとに評価。<br>プレゼンテーション：20% 内容、表現、聴衆の理解度などを基に総合的に評価。<br>尚、テスト、レポート、プレゼンテーションなどへのフィードバックは、授業中あるいはManabaにおいて個別におこなう。 |
| 授業概要 | 本講義では、観光業界の基本的な知識と実務を学び、観光事業におけるさまざまな業界（旅行業、航空業、宿泊業、交通業など）の役割を理解する。受講者は、観光商品の開発や地域振興のためのアイデアを企画し、実際の業界動向を反映させた学びを得ることができる。<br>授業では、アクティブラーニングを中心に、ディスカッションやグループワークを通じて知識を深め、業界の専門家を招いたゲストスピーカー講義も実施する。これにより、観光業の現場における課題やトレンドを実践的に学び、将来のキャリアに役立つスキルを養う。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書　：特に指定しない。<br>参考書　：授業の中で適時指示する。<br>指定図書：「真実の瞬間」ヤン・カールソン（著） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 1.観光産業の動向に関心を持ち、様々なメディアを通じた情報収集を習慣化する。<br>2.観光産業でのインターンシップ、アルバイトなどでの実務経験を通じて、授業で獲得した知識を確認する。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション** | 講義の進め方、講義内容、試験の方法などを説明する。 | シラバスを読んでおく。 |
| 2 | **観光事業の基礎** | 観光事業の概要と観光業界の基本的な構造について学び、観光事業の発展と経済への影響を考察する。 | 予習：関心がある観光事業を取り上げ調べてくる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 3 | **観光業の主要業界（旅行業界、航空業界、宿泊業界）** | 旅行業界、航空業界、宿泊業界の基礎知識とそれぞれの役割を理解し、観光業の構成要素としての旅行代理店、航空会社、ホテル業の関係性を考える。 | 復習：各業界の特徴をまとめる。 |
| 4 | **旅行業界の理解①** | 旅行会社の現状と課題について包括的に理解し、今後のあるべき姿を考察する。 | 予習：旅行会社を１社取り上げて調べてくる。 |
| 5 | **旅行業界の理解②（ゲストスピーカー）** | 旅行業界の現状と将来について旅行代理店の立場からの解説を受け、国内外の観光客の動向や最新のマーケティング戦略について学ぶ。 | 復習：ゲストスピーカーの所属する会社に関して、授業で学んだことをまとめる。 |
| 6 | **航空業界の理解①** | 航空会社の現状と課題について包括的に理解し、今後のあるべき姿を考察する。 | 予習：航空会社を１社取り上げて調べてくる。 |
| 7 | **航空業界の理解②（ゲストスピーカー）** | 航空業界の現状と将来について航空会社の立場からの解説を受け、国内外の観光客の動向やそれに対応したゲストサービスのあり方について学ぶ。 | 復習：ゲストスピーカーの所属する会社に関して、授業で学んだことをまとめる。 |
| 8 | **宿泊業界の理解①** | 宿泊業の現状と課題について包括的に理解し、今後のあるべき姿を考察する。 | 予習：ホテル会社を１社取り上げて調べてくる。 |
| 9 | **宿泊業界の理解②（ゲストスピーカー）** | 宿泊業界の現状と将来についてホテル会社の立場からの解説を受け、国内外の観光客の動向やそれに対応したゲストサービスのあり方について学ぶ。 | 復習：ゲストスピーカーの所属する会社に関して、授業で学んだことをまとめる。 |
| 10 | **地域観光とDMO（Destination Management/Marketing Organization）** | 地域観光の商品開発とその重要性を理解すると共に、DMOの役割について学ぶ。その上で観光地のマーケティング戦略と地域振興について考察する。 | 予習：DMOについて調べてくる。 |
| 11 | **持続可能な観光** | 観光業における持続可能性と環境保護の重要性を理解し、観光業の倫理的側面と観光客の意識について考える。また国内外で問題となっているオーバーツーリズムに関して理解する。 | 予習：オーバーツールズムが問題となっている地域1か所を調べてくる。 |
| 12 | **観光業のキャリアパス** | 観光業界でのキャリアパスを業界ごと（旅行業、航空業、宿泊業など）に理解し、受講生各自の適合性について考える機会を提供する。 | 復習：最も関心のある業界でのキャリアパスを作成する。 |
| 13 | **観光業の未来予測** | 観光業の将来に関する予測と新たなトレンド（エコツーリズム、医療観光、デジタル観光など）を考える。加えて、観光業に影響を与える可能性のある外部要因（気候変動、経済状況など）を考察する。 | 復習：最も関心のある業界の未来を予測してまとめる。 |
| 14 | **観光業の課題と解決策** | 観光業が抱える課題を再確認し、その解決策をグループで議論する。<br>各グループのアイデアを発表し、フィードバックを受ける。 | 予習：これまでの授業で学んだ観光業の課題をまとめてくる。 |
| 15 | **地域の新たな観光商品（発表）** | あらかじめ決められたグループで観光商品を開発するアイデアを考えて発表する。 | 予習：グループ発表の準備をする。 |

授業科目名称　：地域観光研究B（アメリカ・ヨーロッパ）　授業コード：22019

授業科目英文名称：Regional Tourism Studies A(U.S.A/Europe)

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 竹田　文雄（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CA227 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 世界文化遺産、世界自然遺産を中心とする代表的な観光資源の情報を的確に収集し、「いまの様相」を説明できる。 | ・随時試験 | 20% |
| 情報収集、分析力 | | | |
| コミュニケーション力 | 学内外での授業への積極的な参画、およびアクティブラーニングの実践ができる。 | ・授業参画度 | 20% |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | 多民族多文化が共生するこれらの広範な地域に存在する主要観光資源群の「地域ごとの多様性」を理解し、取りまとめることができる。 | ・随時試験 | 60% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | ・世界文化遺産、世界自然遺産を中心に、広範に点在する主要観光資源の特色を踏まえながら学修する。<br>アメリカ： 移民、開拓、商業主義に紐づいて今日に至る「地域ごとの多様性」を認識する。<br>ヨーロッパ：美術や宗教の変遷と人々や国家の歴史を経て成立した「文化の多様性」を認識する。<br>・主要観光資源の解説にはヴィジュアル資料も使用することにより、魅力の本質の理解度を深める。 |
| アクティブラーニングの類型 | ②⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 随時試験２０点　（観光資源自体への理解度。ポートフォリオ小テスト。授業中に随時実施予定。）<br>随時試験６０点　（地域ごとの多様性への理解度及び明解度。ポートフォリオ小テスト。授業中に適宜実施予定。）<br>授業参画度２０点（授業課題への取組み姿勢、質問・コメント等の有無とその回数。）<br>諸々のフィードバックは、ポートフォリオを用いて、または授業時間内に適宜実施していく。 |
| 授業概要 | 担当教員の旅行業実務経験と知見を踏まえた実践的授業である。特定のいくつかの国々の主要な世界遺産をピックアップしつつ、文化的・歴史的背景を踏まえた上でこれら主要観光資源の「いまの様相」を学修していく。視聴覚的教材も使用しながら多様な観光資源を見ていくことで、「気づき」や「感想」を学生がポートフォリオを用いて発信できる機会も設けていく。なお、学修上のキーワードは「文化の多様性」と設定する。<br>なおカリキュラムの進行状況によって方面を入れ替える場合がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は１８０分。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：特に指定しない。資料（レジュメ）をポートフォリオに掲載する。<br>参考書：特に指定しない。<br>指定図書：『アメリカ素描』 司馬遼太郎著 新潮文庫<br>『ヨーロッパものしり紀行』神話・キリスト教編 紅山雪夫著 新潮文庫 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 資料（レジュメ）をポートフォリオに格納するので必要に応じて適宜参照すること。担当教員からの配布は行わない。また授業中に投影するスライドは、ポートフォリオには掲載しない。毎回の授業ではメモを取る習慣をつけることを推奨する。<br>授業理解度向上のポイントは「地域ごとの多様性」「文化の多様性」にどれだけ興味を持てるか？である。たとえば「地球温暖化に伴う海面上昇が冬のヴェネツィアにもたらす影響」等、世界の情勢に日頃から関心を持つことが肝要である。<br>他の学生に迷惑をかけないように留意すること。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション<br>アメリカの基礎知識** | ・授業全体のガイダンス。<br>・北米・中米・南米の特色、地理的要件と観光資源について概観する。 | アメリカ大陸の発見とアメリカの合衆国の建国について確認する。 |
| 2 | **北アメリカ大陸の観光資源** | アメリカ合衆国およびカナダの観光資源と世界遺産の特徴を把握する（１）。 | アメリカ合衆国、カナダの世界自然遺産を確認する。 |
| 3 | **北アメリカ大陸の観光資源** | アメリカ合衆国およびカナダの観光資源と世界遺産の特徴を把握する（２）。 | アメリカ合衆国、カナダの世界文化遺産を確認する。 |
| 4 | **中部アメリカの観光資源** | 中部アメリカ、南アメリカ大陸の主要な先住民文化、観光資源および世界遺産の特徴を把握する（１）。 | 中部アメリカ、南アメリカ大陸の世界遺産を確認する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 5 | **南アメリカ大陸の観光資源** | 中部アメリカ、南アメリカ大陸の主要な先住民文化、観光資源および世界遺産の特徴を把握する（２）。 | 中部アメリカ、南アメリカ大陸の世界遺産を確認する。 |
| 6 | **ヨーロッパの基礎知識** | ヨーロッパの特色、地理的要件と観光資源について概観する。 | ヨーロッパにどのような国々があるのか？ 位置関係や特色を確認する。 |
| 7 | **ギリシャの観光資源** | ヨーロッパ文化の原点としてのギリシャ、その代表的観光資源と世界遺産の特徴を把握する。 | ギリシャの観光資源と、パルテノン神殿、エーゲ海の島々、メテオラについて確認する。 |
| 8 | **フランスの観光資源（１）** | 首都として繁栄したパリの歴史的観光資源および世界遺産の特徴を把握する。 | パリ市街の観光資源と、パリにある世界遺産構成資産を確認する（３つあげておく）。 |
| 9 | **フランスの観光資源（２）** | フランス各地方の観光資源と世界遺産の特徴を把握する。 | パリ市以外のフランス各地方にある世界遺産構成資産を確認する（３つあげておく）。 |
| 10 | **エジプトの観光資源** | 古代４大文明のひとつ、エジプトの観光資源と世界遺産の特徴を把握する。 | エジプトの世界遺産、歴史、美術を確認する。 |
| 11 | **イタリアの観光資源（１）** | ローマ帝国、キリスト教の国教化、教皇と王権の対立、などに紐づくローマの観光資源を把握する（１）。 | ローマにある観光資源、特に古代ローマ期の遺跡について確認する。 |
| 12 | **イタリアの観光資源（２）** | ローマ帝国、キリスト教の国教化、教皇と王権の対立、などに紐づくローマの観光資源を把握する（２）。<br><br>アルプス以北との窓口であったミラノの観光資源と世界遺産の特徴を把握する。 | ローマの４大バシリカとヴァチカン市国の衛兵、ミラノの地理について確認する。 |
| 13 | **イタリアの観光資源（３）** | ルネサンスの内容とフィレンツェの観光資源および世界遺産の特徴を把握する。 | フィレンツェの観光資源と、ルネサンスについて確認する。 |
| 14 | **イタリアの観光資源（４）** | 海洋都市国家であったヴェネツイアの観光資源と世界遺産の特徴を把握する。 | ヴェネツィアの観光資源、サンマルコ広場について確認する。 |
| 15 | **総復習と総括** | 第１回から第１４回までの内容をあらためて概観する。 | 予：14週までの授業全体のレビュー。 |

授業科目名称　：　MICE論　　授業コード：　32607

授業科目英文名称：　MICE

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 森尾　真之（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CA225 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | ・産業としてのMICEの意義や特徴、推進の現状と課題、そして展望について説明ができる。<br>・MICEの多岐にわたる業務について、それぞれの役割や業務内容を理解することができる。 | 企画書<br>レポート | 50%<br>20% |
| 情報収集、分析力 | MICEの将来性や日本各地の施設の活用の課題について理解し、自分の意見として指摘することができる。 | レポート | 20% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | 企画・提案における自分の強みは何かを考えることができる。 | 授業参加度・態度 | 10% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | MICEとは企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字を使った造語で、出島メッセ長崎や長崎スタジアムシティ、「グローバルMICE戦略都市」である福岡市など北部九州における拠点整備が進んでいる。その構造的な特徴として、旅行業・宿泊業など幅広い関連産業への大きな影響が期待される産業であり、「観光立国」のエンジンとして地域観光や経済の活性化に大きく資するビジネス領域に関わる多くの人材が求められている。本講義ではその意義や課題など実績的な知識を専門家の講義を通した人材育成による事業支援を目的とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ② 授業の導入段階で授業テーマに学修者が興味・関心を持つように工夫する授業<br>⑩ 学期途中で課題をだし、レポートを纏めることによって能動的な学修を喚起する授業 |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 架空のテーマ設定による国際会議の具体的な運営方法を検討する企画書の評価を50%とし、自身のアイデアを表現するなどの論述を求める内容で理解度の評価を行う。課題レポートは講義内で数回実施され、MICE産業に携わる職業観とMICEが地域観光に資する意義を理解しているかどうかを、ポートフォリオからフィードバックとして評価する（40%）。 |
| 授業概要 | MICEに関する現役の実務家である各分野（会議運営会社、ホテル、会議施設など）の外部講師と旅行業での実務経験のある担当教員との協働による高度な専門的授業で、MICE産業のすそ野の広さと地域観光への影響の大きさを学び、将来的な専門人材育成につながる学習を行う。<br>また、本講義と並行して実践型講義「MICE実習（1単位）」が設定される（３年次履修）<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書/参考書：特に定めない。講義中にレジュメなどを配布し使用する。 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 本講義はMICEの関係者に多大な支援を得て実施する講義であり、観光業、MICE関連産業のキャリアを真剣に考えたい学生を対象とするものであり、積極的な関心をもって授業に臨むことを期待する。また、第9回・第10回の現地研修については、長崎市内での実施を予定しているが、本講義の通常講義の時間帯以外での実施となる。講義の早い段階で実施日時を講義内で発表する。なお、現地までの交通費は自己負担とする。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション<br>（講義の概要）** | ・講義の概要：①地域観光におけるMICEのポジショニングと戦略②産業としてのMICEの現状（どんな業務があるか）<br>・講義スケジュールの確認（現地研修日程など） | 復：講義の概要を理解する。 |
| 2 | **MICEと<br>地域観光政策①** | 【MICEの開催効果（経済効果・レガシー効果）】<br>なぜ国際会議・イベントを誘致するのか？我が国の訪日観光の戦略におけるMICE国際競争力の強化とMICE開催地としての認知度向上のためのブランディングとプロモーション方針を学ぶ。 | 予：JNTO HPを確認<br>復：国の観光政策としてのMICEについて |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 3 | **MICEと<br>地域観光政策②** | 【MICE実施のために選ばれる街づくり（１）】<br>開催地の「魅力」はどのようにして演出し、発信するのか。開催地における会議開催のための機能、環境面から考える。 | 復：都市の観光政策におけるMICEの役割についてまとめる。 |
| 4 | **MICEと<br>地域観光政策③** | 【MICE実施のために選ばれる街づくり（２）】<br>「選ばれる」観光地・都市のブランディングとは？<br>都市の魅力をどのように創り、伝えるのか。欧米や国内の事例、都市のデザインから考える（ユニークベニュー） | 復：魅力ある都市での対面来訪者の満足度向上のカギは。 |
| 5 | **MICEと<br>地域観光政策④** | 【都市観光政策の司令塔コンベンションビューロー（CVB）】<br>MICEを地域の新しいアイデンティティとして、CVBによる会議を中心としたブランディングやMIの誘致などを目的とした各地域の観光政策を学ぶ。 | 復：都市の観光政策におけるDMOの役割 |
| 6 | **MICEと<br>地域観光政策⑤** | 【コンベンションビューローの具体的な事例について】<br>長崎国際観光コンベンション協会の業務について学ぶ | 予：長崎DMOのHP<br>復：長崎の会議の魅力を考える。 |
| 7 | **MICEと<br>地域観光政策⑥** | 【スポーツによるまちづくり】<br>各地で開設が増えているアリーナ施設の特徴と、施設を利用した地域の参加型スポーツイベント活性化の実態を学ぶ。またスポーツツーリズムを競技者以外の視点から考える重要性について考える。 | 予：各地のスポーツアリーナのHPを確認する。 |
| 8 | **MICEを支える仕事①<br>MICEと<br>地域観光政策⑦** | 【地域におけるイベント（事例研究）】<br>地域の魅力や、新しい地域のブランディングにつながる各地のイベントの事例から、企画に至る背景や地域にどのような影響を及ぼすかを考える。 | 復：身近なイベントの地域における意義を考える。 |
| 9 | **企画提案（課題レポートの説明）** | 【課題レポートの説明】<br>架空の想定で設定された国際会議の具体的な運営方法を検討する企画書を作成する課題についての説明。（広島、沖縄などの競合都市に勝つための戦略も） | 復：課題の概要を確認する。 |
| 10 | **MICEを支える仕事①PCO（１）** | 【会議運営会社（PCO）の会議誘致と運営】<br>MICEの誘致におけるPCOの重要な役割について学ぶ。日本におけるMICE市場の現状や誘致提案などに触れ、いかに主催者や参加者のニーズをくみ取るかを考える。 | 復：PCOの業務内容について整理する。 |
| 11 | **MICEを支える仕事②PCO（２）** | 【会議運営会社の施設管理について】＜現地研修＞<br>PCOが行う会議施設などの開発、コンサルティングおよび運営（指定管理者）について学ぶ。社会資本の整備手法としての制度についてもまちづくりの観点からの理解を深める。 | 復：出島メッセ長崎の差別化できるポイントをまとめる |
| 12 | **MICEを支える仕事③国際会議場** | 【出島メッセ長崎見学】＜現地研修＞<br>長崎のMICE拠点である出島メッセ長崎の施設を見学する | 復：施設の特徴をまとめる。 |
| 13 | **MICEを支える仕事④ホテル** | 【ホテルのMICEにおける役割】<br>MICEの実施に当たり、ホテルは宿泊機能のみならず、会場としての役割や飲食サービスなど、サプライヤーとして様々な役割を担っていることを学ぶ（外部講師） | 復：ホテルにおけるMICEの業務について整理する。 |
| 14 | **MICEを支える仕事⑤旅行会社** | 【旅行会社のMICEについて考える】<br>旅行会社におけるMICEビジネスの成り立ちについて学ぶ。 | 復：MIに関する旅行会社の役割を整理する。 |
| 15 | **講義のまとめ** | 【企画発表会】あらかじめ選抜された発表者による企画書課題のプレゼンテーションと講義の総括 | 復：一番良かったと思う発表とその理由をまとめる |

授業科目名称　：情報処理論　　授業コード：25604

授業科目英文名称：Computer Literacy

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 尾場　均（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CA216 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 最新の情報技術や情報モラルを理解し、自ら情報機器や情報サービスを活用することができる。 | 課題レポート<br>定期試験 | 5%<br>25% |
| 情報収集、分析力 | 情報技術に関心を持ち、新しい技術やサービスを理解できる。<br>情報技術の知識を広め、情報社会を理解することができる。 | 課題レポート<br>定期試験 | 5%<br>45% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | 情報のモラルやルールについて考え、正しく理解・判断することができる。 | 課題レポート<br>定期試験 | 5%<br>15% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 通常のコンピュータ演習であるワープロや表計算の操作を学ぶのではなく、情報処理や情報通信などの基礎的な知識を身につけ、ITに関連する様々な技術、社会で情報活用する際に困らない情報モラルやネチケット（ネット上でのエチケット）、情報社会で必要な用語や仕組みを理解する。また、情報化の推進、情報メディアを利用した情報活用の実践方法について理解することを目標とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ② |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 定期試験の成績を85%とし筆記試験を行う。授業内容に関係する課題レポートを提出する。<br>課題レポートの成績は、15%とする。定期試験の内容は、専門用語の理解を前提に情報の最新技術、メディア媒体の容量や２進数変換などを情報の仕組みの理解度を評価する。<br>ポートフォリオによるレポートについては、講義内容に対して自分の考えを述べることができたかを評価し、フィードバックは、ポートフォリオを通して行う。 |
| 授業概要 | 講義形式である。情報技術に関連する専門用語を理解する。担当教員のコンピュータのプログラム開発経験に基づき、PC 向けアプリケーション、ソフトウエアの構造設計など情報技術について授業をすすめる。ポートフォリオやWebにアクセスして効果的に専門知識を高める。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2025(情報トピックス シリーズ) 日経BP社<br>参考書：必要な教材等はポートフォリオ・Webにアクセスして入手すること。<br>指定図書：キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2025(情報トピックス シリーズ) 日経BP社 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 社会生活や教育のなかで本格的な情報社会が始まっている。情報関連の専門知識を学び，正しく理解して欲しい。また、情報関連の基礎知識および資格検定試験に必要な知識であり、履修と同時に情報関連の検定試験にもチャレンジして欲しい。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **講義の目的<br>2024年度情報関連トピックス** | 2023年の情報社会系、情報技術系の情報を理解する。 | 話題の情報社会系、情報技術系の情報を調べること |
| 2 | **インターネットの活用①** | SNN、ZoomとTeam、メダバース、生成AI、YouTubeと動画配信サービス、ブログとCMS | 知らない用語を事前に調べること |
| 3 | **インターネットの活用②** | Wikipedia、ネットショッピング、ファイル共有とクラウドストレージ、メールコミュニケーション | 身近なクラウドストレージやサービスを確認すること |
| 4 | **情報倫理とセキュリティ** | 情報セキュリティ、ウイルス、ネット詐欺、ネットワーク利用のリスク、暗号化 | 最新のネットワークの事件を調べること |
| 5 | **情報社会とは** | AI(人工知能）、IoT、電子商取引や電子マネー、電子政府とSociety5.0 | 身近なAIやIoTを確認すること |
| 6 | **情報社会デザイン** | 情報システム、産業システムとICT、ユニバーサルデザインやメディアリテラシー | バリアフリーとユニバーサルデザインの違いを理解すること |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 7 | **情報メディアに関わる技術** | ビットとバイト、文字コード、フォント、オーディオ・画像・動画ファイル | 画像や動画のファイル形式を再確認すること |
| | 8 | **ネットワークやインターネットに関わる技術** | サーバとネットワークサービス、 インターネットの仕組み、ドメイン名、HTMLとCSS、ウェブサイトとウェブアプリケーション、ブロックチェーンと暗号資産、TCP/IP、 | 自宅のネットワークの利用やサービスを確認すること |
| | 9 | **ハードウェアに関わる技術** | ハードウェアの基本要素、スマートフォンとタブレット、USBなどのストレージ、補助記憶装置、入力装置・出力装置 | 保存メディアやデバイス、回路について確認すること |
| | 10 | **ソフトウェアに関わる技術** | オペレーティングシステム、アルゴリズム、プログラミング、コンピュータシミュレーション | コンピュータの構成について理解すること |
| | 11 | **DXとは何か？その概念と重要性** | DXの定義と背景、なぜDXが重要なのか？<br>デジタル技術を活用したビジネスモデルやプロセス | 授業で学んだ用語（デジタルトランスフォーメーション、デジタル化、ビジネスモデルなど）をまとめる |
| | 12 | **DXを成功させるための戦略と組織** | DX戦略の立て方、現状分析、目標設定<br>組織変革の重要性、DX人材育成 | なぜDXが重要なのかを考えること |
| | 13 | **DXの最新動向と未来** | AI、IoT、ブロックチェーンなど、DXを加速させる最新技術の動向<br>DXがもたらす社会の変化：働き方、生活様式、産業構造 | 最新のDXに関するニュース記事を調べる |
| | 14 | **コンピュータの歴史と現代のIT業界** | コンピュータの歴史、Google、Apple、Meta、Amazon、Microsoft | 現代のIT業界をリードする企業の歩みや考え方を確認すること |
| | 15 | **これまでの授業のまとめ** | これまで学んだことを確認する。 | これまでの授業内容をまとめたノートや教科書を整理すること |

授業科目名称　：MICE研修　　授業コード：01520

授業科目英文名称：Training for MICE

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3 | 1 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 森尾　真之（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義・実習 | | |
| ナンバリング | CA309 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | ①MICE人材に求められる資質や知識について理解し、自身のスキルとして獲得するための方法について認識できる。<br>②主催者、参加者の視点で提供したサービスに対して振り替えることができる。 | 実習レポート△ | 10% |
| 情報収集、分析力 | 実習での気づきについて理解を深め、課題に対して自分の意見として指摘することができる。 | プレゼンテーション○ | 30% |
| コミュニケーション力 | ①実際に事業の現場に参加することで業務内容を理解し、関係者間の連携の重要性について自分の視点で述べることができる。<br>②グループでのプレゼンテーションの論点整理などにおいてチームビルディングに貢献することができる。 | 実習レポート△ | 10% |
| 協働・課題解決力 | 実習現場で指示に従い、メンバーと協力しながら与えられた役割や成果を上げることができる。 | 実習◎ | 50% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | MICEとは企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 （Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字を使った造語で、出島メッセ長崎及び「グローバルMICE戦略都市」である福岡市など北部九州における拠点整備が進んでいる。本講義専門家の監修のもと、実際MICEの現場をフィールドとした実習体験や事前事後の講義などの実践的で高度な専門的講義である。 |
| アクティブラーニングの類型 | ④ 学修者個人やグループに課題解決を促す授業（PBL等）<br>⑥ ある課題について調査した結果を個人やグループで発表させる授業<br>⑦ ある体験を課し、その中で感じたことをもとに議論したり、発表させる授業<br>⑪ 既修事項をもとにした能動的な活動を行う授業 |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 履修対象は専門講義「MICE論」を履修した3年生以上の学生。実習では実習時の態度や積極性を受け入れ側の評価に基づき、総合的に教員が評価（50%）、プレゼンテーションではMICE誘致につながるブランティングについて、実習や講義の中から自分の視点で述べられているかどうか（30%）、課題レポートでは実習を通した振り返りとMICE産業に携わる職業観と地域観光に資する意義を理解しているかどうかを、ポートフォリオからフィードバックとして評価する（20%）。 |
| 授業概要 | MICEに関する現役の実務家である各分野（行政、会議運営会社、ホテル、旅行会社、会議施設、イベント企画会社など）の外部講師と旅行業での実務経験のある担当教員との協働による授業で、実際のMICE現場での実習も踏まえた実践型講義である。また実習を通じて得た経験をもとに、与えられた課題についてグループプレゼンテーションを行い、運営会議会社の実務担当の方からの指導・評価を受ける。なお実施時期は11月以降で、対象となる会議が決定後に履修スケジュールが発表される。<br>また本講義の受講者数は10名程度とし、履修希望者が受講者受け入れ数を超過した場合は、必要な選考を行う場合がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書/参考書：特に定めない。「MICE論」講義レジュメなどや適宜資料を配布し使用する。<br>指定図書：イベント＆コンベンション概論（ＪＴＢ総合研究所） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 本講義は外部の関係者に多大な支援を得て実施する講義であり、MICE関連産業のキャリアを真剣に考えたい学生を対象とするインターンシップ型講義であることから、学習に対して積極的な関心をもって授業に臨むことを期待する。実習について、正当な理由がない場合の欠席は認めない。実習にかかる交通費などは個人の負担となることからあらかじめ承知の上履修登録を行うこと。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション（講義）** | ・本講義の進め方と実習についての説明<br>・PCO業務の基礎知識（事業の利益構造や誘致戦略について学ぶ）<br>・プレゼンテーションの課題について | 予習：シラバスを読む<br>復習：実習時期のスケジュールを確認する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 2 | **実習準備** | 【実習対象となる案件について学習】（講義）<br>・会議の目的・参加者・スケジュールの確認<br>・PCOの業務内容と役割分担 | 予習：MICE論「PCOの仕事」について復習<br>復習：実習における注意事項の確認 |
| | 3 | **実習** | 【MICE演習】<br>福岡国際会議場または出島メッセ長崎で実施される会議の現場で実習を行う。<br>（1日～1日半） | 予習：学会の内容について理解しておく。<br>復習：実習レポートの作成 |
| | 4 | **実習** | 【MICE演習】<br>福岡国際会議場または出島メッセ長崎で実施される会議の現場で実習を行う。<br>（1日～1日半） | 復習：実習レポートの作成 |
| | 5 | **実習** | 【MICE演習】<br>福岡国際会議場または出島メッセ長崎で実施される会議の現場で実習を行う。<br>（1日～1日半） | 復習：実習レポートの作成 |
| | 6 | **実習** | 【MICE演習】<br>福岡国際会議場または出島メッセ長崎で実施される会議の現場で実習を行う。<br>（1日～1日半） | 復習：実習レポートの作成 |
| | 7 | **実習振り返り<br>（レポート課題）** | ・各役割の振り返りと発表（グループワーク）<br>・「MICEの現場から何を学んだか」プレゼンテーションの起案 | 予習：レポートの発表準備<br>復習：プレゼン内容の確認 |
| | 8 | **プレゼンテーション** | 振り返りのレポート発表（プレゼンテーション）とディスカッションを行う。 | 予習：プレゼン内容の最終チェック<br>復習：プレゼン評価の振り返り |

授業科目名称　：観光まちづくり論　　授業コード：12609

授業科目英文名称：Tourism Community Development

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 森尾　真之（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CA222 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | ・一般的な地域課題（経済、生活、環境）について、その背景や課題相互の関連性について説明できる。<br>・観光まちづくりについて、また観光マーケティングについて説明することができる。 | 課題レポート◎ | 30% |
| 情報収集、分析力 | ・地域課題の背景を理解し、観光まちづくりの事例について情報取集し、講義の内容をより深く理解することが出来る。<br>・グループワークで、チームで決めたテーマをもとにAIを活用したアイデアを提示することができる。 | 課題レポート◎<br>企画書ワーク○ | 20%<br>10% |
| コミュニケーション力 | グループで提案した企画案のオリジナリティを生かした発表を行うことができる。 | 企画書ワーク○ | 10% |
| 協働・課題解決力 | グループワークにおいて、チームの意見をまとめ、差別化できる企画案を提案することができる。 | 企画書ワーク○<br>授業への取り組み | 20%<br>10% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本講座は、人口減少に伴い縮小する地域の課題についての理解を深め、地域を持続可能で豊かな生活を維持するための観光の在り方を考える講義である。観光がどのように産業の継承やまちづくりに関わるのかを、新しい観光の価値観における地域と観光の適切なかかわり方を考え、地域活性化への具体的な取り組みや指標について学ぶ。講義では、具体的な観光まちづくりやツーリズム事例を通した地域における実務者、実務経験のある担当教員との協働による実践的な授業である。観光マーケティングにおいてはフレームワークを利用して、グループワークでの着地型観光商品の企画にも取り組む。 |
| アクティブラーニングの類型 | ① 予習を課し、それをもとにした授業<br>② 授業の導入段階で授業テーマに学修者が興味・関心を持つように工夫する授業<br>⑥ ある課題について調査した結果を個人やグループで発表させる授業<br>⑩ 学期途中で課題をだし、レポートを纏めることによって能動的な学修を喚起する授業 |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 1） 課題レポート（配点合計 50%）では、自分が特に関心を持った地域課題について、自分自身の問題意識と考えられる方策についてレポートとして記述することを求める。Manabaでの質問については、ゲストスピーカーからの回答を講義中に紹介、またはポートフォリオから学生へのフィードバックとする。<br>（2） 企画書ワーク（配点合計 40%）については、グループで考えたテーマをもとにした企画提案をベースにしたものとする。フィードバックについては、外部講師および担当教員から行い（30%）。優れた企画に関しては講義内での発表を行ない評価対象とする（10%）<br>（3） 授業への取り組みについては、出席及びレポート提出回数、ワークの授業態度を評価対象とする（10%） |
| 授業概要 | 観光まちづくりに関する実務家である外部講師と旅行実務の経験のある担当教員との協働による実践的な授業である。講義の学びの主な到達点は、下記の4つである。<br>（1）地域課題を実際に目の前で起こっていることとつなげて考えることができる。<br>（2）観光まちづくりの方法や具体的な効果について、新しい観光の方向性を踏まえて説明するができる。<br>（3）観光マーケティングについて、その必要性や具体的な手法について、実際に運用し、説明することができる。<br>（4）観光商品の開発においてＡＩなどの情報を活用して、地域活性化と観光振興の両面から意義ある企画を立案できる。<br>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、180 分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：なし<br>参考書：なし（※ただし講義中に講師から推薦される場合もある。）<br>指定図書：十代田朗著（2024）『新しい観光学』観光とリゾート、そしてオルタナティブ・ツーリズム |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 本学が立地する大村湾岸はハウステンボスを中心とした、新たな観光振興の取り組みの可能性の宝庫であり、本講義を通して手付かずになっている観光企画商品の開発の一助となることが期待されている。あらゆる分野の産業やコンテンツとの連携が可能であり、観光学科の多くの学生に体験してもらうことで、それぞれのキャリア選択に意義のある経験となることが期待される。 |
| 授業計画 | 回 / テーマ / 授業の内容 / 予習・復習 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション<br>「観光的視点」とは** | シラバスの説明、地域課題の背景やポイントを整理して考える。また、各予定外部講師の簡単な紹介やしかるべき応対態度などの注意点について説明。 | 予：シラバスを事前に読み込んでおく。 |
| 2 | **観光まちづくりの視点①<br>これからの世代が関わる「まちづくり」とは** | 地域の衰退が進む背景にある、経済成長一辺倒という価値観は、どんな社会を作ってきたか。これからの地域のまちづくりにおいて必要となる、新しい「ものさし」とは一体どんなものか。そしてそれに伴う新しい観光の概念とはどんなものか。 | 復：新しい観光のニーズにおける「異日常」とは。 |
| 3 | **観光まちづくりの視点②<br>持続可能な観光に取り組む意義とは** | 観光は地域の活性化にどのような貢献ができるのか。経済活動である「観光」と地域社会で住民が主体となって生活環境の改善を図る「まちづくり」が同時に展開されている。 | 復：観光消費額における「地域調達率」とは何か。 |
| 4 | **観光まちづくりの視点③<br>地域主導の内発的なまちづくり** | 住民が主体的な地域ではどんな取り組みが行われているのか。持続的な地域の暮らしと観光の両立のための地域主導の内発的まちづくりがどのように行われるべきなのを考える。（外部講師） | 復：地域活性化の取り組みのゴールは何か。 |
| 5 | **観光まちづくりの視点④<br>これまでの観光政策と新たな担い手** | 官製主導による地域振興策による大規模開発やマスツーリズムにより観光地は疲弊した歴史と、オーバーツーリズム（観光公害）など、経済成長一辺倒の観光の在り方を考える。観光の力で地域の経済活力を高め、利害関係者と調整しながら地域主導の観光地づくりを推進するDMOの組織と役割について学ぶ。 | 復：これまでの官製主導の観光がもたらした負の遺産とは何か。オーバーツーリズムの背景にあるものは何か。 |
| 6 | **観光まちづくりの視点⑤<br>新しい観光アプローチ～再生型観光へ** | 観光で地域を再生することは、経済効果だけでなく、地域資源への再投資も重要な視点である。その方法として、地域の魅力を形づくってきた共有財の再生の仕組みづくりの可能性に議論が及んでいる。 | 復：環境と観光との共生に対する主体的な住民の関わりで大切なことは何か。 |
| 7 | **観光まちづくりの視点⑥<br>斜面地の魅力と中心市街地活性化、「関係案内所」の取り組み** | 風光明媚な多くの国内観光地には斜面地が多いが、一方で高齢者が住みにくくなり、街の営みやにぎわいが失われていく課題がある。コミュニティの関係性を維持し、空き家・空き店舗の再生、地域資源の保存や活用による中心市街地のにぎわい創出の取り組みを長崎市内の事例を通して考える。（外部講師） | 復：地域の魅力を形作るうえで、住民自身はどのような役割を果たすのか。 |
| 8 | **観光をプロデュースする①<br>マーケティングプロセスを概観する** | 地域の観光の担い手に求められるマーケティングについて学ぶ。新しいツーリズムに求められるのは、量的な目標に加え、市民生活こそが観光資源であるという視点が必要である。<br>観光商品を企画するにあたってのマーケティングプロセスを概観する。 | 復：地域の豊かさとは何かを住民の目線から考える。 |
| 9 | **観光をプロデュースする②<br>地域をマーケティングする** | 観光の担い手「DMO」について、国が進める仕組みづくりとその機能について学び、観光地マーケティングの基本について学ぶ。（外部講師） | 復：活性化のための国の施策についての理解を深める。 |
| 10 | **観光をプロデュースする③<br>（長崎の魅力を考える）** | 長崎の魅力は一つ一つのまちづくりの多様性の面白さと大村湾やサンセットロード、島原半島など景色の多様性である。我々の住む長崎の良さをどのように観光商品として発信できるかを考える。（外部講師） | 復：オーバーツーリズムなど観光が地域に負荷をかける事例を考える。 |
| 11 | **観光をプロデュースする④<br>マーケティング・フレームワーク（1）** | ＜グループワーク＞<br>観光商品を考える上での、マーケティング・フレームワークを学び、現状分析と目標設定を行う。 | 予：自分が取り扱ってみたいテーマを考える。 |
| 12 | **観光をプロデュースする⑤<br>マーケティング・フレームワーク（2）** | ＜グループワーク＞<br>目標設定をもとに、AIを使って商品フレームを考え、テーマを絞り込む。 | 復：自分のテーマを生成AIを使って調べてみよう。 |
| 13 | **観光をプロデュースする⑥<br>マーケティング・フレームワーク（3）** | ＜グループワーク＞<br>企画を差別化できる要素（KFS）を考え、企画立案を完了させる。 | 予：誰の何のための企画であるとよいのかを考える。 |
| 14 | **地域でのキャリアを考える** | 大学のある長崎県での地域とともに歩むキャリアを考える。（外部講師） | 復：地域に貢献する自分のイメージはどんなものか。 |
| 15 | **観光をプロデュースする⑦<br>観光商品発表** | グループの中から観光企画商品発表。 | 復：地域に関して学ぶことの大切さを整理する。 |

授業科目名称　：　国内観光研修A（北海道）（実践的教育科目）　授業コード：　01501

授業科目英文名称：　Training for Domestic Tourism A(Hokkaido)

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 1 | 2 | 選必 |
| 担当教員 | | | |
| 国際観光学科教員 | | | |
| 展開方法 | 講義・実習 | | |
| ナンバリング | CA120 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 観光研修のテーマを理解し、テーマについて専門的な説明ができる。 | 研修日誌の内容 | 25% |
| 情報収集、分析力 | 研修先に関する基礎的知識を有し、興味を持って積極的に課題に取り組むことができる。 | 研修日誌の内容 | 10% |
| コミュニケーション力 | 研修を通して学んだ内容を、大学の授業で得た知識と結びつけて、わかりやすく説明することができる。 | 事前・事後学習と研修中の態度と行動 | 15% |
| 協働・課題解決力 | 研修先の観光に関わる問題点を見出し、その解決策を提案することができる。 | 研修日誌の内容 | 30% |
| 多様性理解力 | 研修先の観光地や観光施設等の多様な特徴について説明することができる。 | 研修日誌の内容 | 20% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本科目は、北海道を主な研修先とし、当該地域の観光地の視察・見学、観光施設の調査などの実践的な学びを通して、観光を総合的に学ぶことを目的とした実習型の授業である。大学内の授業により学んできた観光に関する知識について、実際に目で見て体感し、現場を知ることにより、理論と実践の有機的結合を図り、観光研究を充実向上させることがねらいである。アクティブラーニングとしては研修体験を踏まえて研修日誌をまとめ、発表させる。 |
| アクティブラーニングの類型 | ⑦ ⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 研修日誌、担当教員の定める課題、研修中の学習態度･意欲、プレゼンテーションなどから総合的に評価する。学生へのフィードバックは、研修中や事前・事後学習の指導を通して適宜行う。 |
| 授業概要 | 担当教員の定めたテーマによって研修プログラムが設定される。プログラム内容の詳細については、別途配布されるプログラム概要を参照すること。<br>研修は旅行の形態をとるが、あくまで授業であることを理解し、責任を持って行動し、学修することが求められる。6 時間(3 回)以上の事前･事後学習と現地における研修（合計60時間以上）により構成される。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：担当教員の指示による。<br>参考書：担当教員の指示による。<br>指定図書：担当教員の指示による |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | ・研修プログラムのテーマを十分に理解して、プログラム選択を行うこと。<br>・事前・事後学習には必ず出席すること。<br>・団体行動であることに注意し、担当教員の指示に従うこと。他の学生の迷惑になる行為や、授業目的に逸脱するような行為は慎んでほしい。<br>・別途研修費を納めること。このうち、履修登録時に申請金として2万円を納める必要がある。なお、自己都合等<br>の理由により研修を辞退した場合、申請金は原則返金されないので注意して履修すること。<br>※研修中の体調管理には留意し、既往症がある場合には必ず事前に申し出ること。 |
| 授業計画 | 回 / テーマ / 授業の内容 / 予習・復習<br>1 / **別途指示する。** / / |

授業科目名称　：　国内観光研修B（東日本）（実践的教育科目）　授業コード：　01502

授業科目英文名称：　Training for Domestic Tourism B(Eastern Japan)

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 1 | 2 | 選必 |
| 担当教員 | | | |
| 国際観光学科教員 | | | |
| 展開方法 | 講義・実習 | | |
| ナンバリング | CA121 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 観光研修のテーマを理解し、テーマについて専門的な説明ができる。 | 研修日誌の内容 | 25% |
| 情報収集、分析力 | 研修先に関する基礎的知識を有し、興味を持って積極的に課題に取り組むことができる。 | 研修日誌の内容 | 10% |
| コミュニケーション力 | 研修を通して学んだ内容を、大学の授業で得た知識と結びつけて、わかりやすく説明することができる。 | 事前・事後学習と研修中の態度と行動 | 15% |
| 協働・課題解決力 | 研修先の観光に関わる問題点を見出し、その解決策を提案することができる。 | 研修日誌の内容 | 30% |
| 多様性理解力 | 研修先の観光地や観光施設等の多様な特徴について説明することができる。 | 研修日誌の内容 | 20% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本科目は、東日本を主な研修先とし、当該地域の観光地の視察・見学、観光施設の調査などの実践的な学びを通して、観光を総合的に学ぶことを目的とした実習型の授業である。大学内の授業により学んできた観光に関する知識について、実際に目で見て体感し、現場を知ることにより、理論と実践の有機的結合を図り、観光研究を充実向上させることがねらいである。アクティブラーニングとしては研修体験を踏まえて研修日誌をまとめ、発表させる。 |
| アクティブラーニングの類型 | ⑦ ⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 研修日誌、担当教員の定める課題、研修中の学習態度･意欲、プレゼンテーションなどから総合的に評価する。学生へのフィードバックは、研修中や事前・事後学習の指導を通して適宜行う。 |
| 授業概要 | 担当教員の定めたテーマによって研修プログラムが設定される。プログラム内容の詳細については、別途配布されるプログラム概要を参照すること。<br>研修は旅行の形態をとるが、あくまで授業であることを理解し、責任を持って行動し、学修することが求められる。6 時間(3 回)以上の事前･事後学習と現地における研修（合計60時間以上）により構成される。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：担当教員の指示による。<br>参考書：担当教員の指示による。<br>指定図書：担当教員の指示による |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | ・研修プログラムのテーマを十分に理解して、プログラム選択を行うこと。<br>・事前・事後学習には必ず出席すること。<br>・団体行動であることに注意し、担当教員の指示に従うこと。他の学生の迷惑になる行為や、授業目的に逸脱するような行為は慎んでほしい。<br>・別途研修費を納めること。このうち、履修登録時に申請金として2万円を納める必要がある。なお、自己都合等<br>の理由により研修を辞退した場合、申請金は原則返金されないので注意して履修すること。<br>※研修中の体調管理には留意し、既往症がある場合には必ず事前に申し出ること。 |
| 授業計画 | 回 / テーマ / 授業の内容 / 予習・復習<br>1 / **別途指示する** / / |

授業科目名称　：　国内観光研修C（西日本）（実践的教育科目）　授業コード：　01503　01504　01505　01506

授業科目英文名称：　Training for Domestic Tourism C(Western Japan)

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 1 | 2 | 選必 |
| 担当教員 | | | |
| 国際観光学科教員 | | | |
| 展開方法 | 講義・実習 | | |
| ナンバリング | CA122 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 観光研修のテーマを理解し、テーマについて専門的な説明ができる。 | 研修日誌の内容 | 25% |
| 情報収集、分析力 | 研修先に関する基礎的知識を有し、興味を持って積極的に課題に取り組むことができる。 | 研修日誌の内容 | 10% |
| コミュニケーション力 | 研修を通して学んだ内容を、大学の授業で得た知識と結びつけて、わかりやすく説明することができる。 | 事前・事後学習と研修中の態度と行動 | 15% |
| 協働・課題解決力 | 研修先の観光に関わる問題点を見出し、その解決策を提案することができる。 | 研修日誌の内容 | 30% |
| 多様性理解力 | 研修先の観光地や観光施設等の多様な特徴について説明することができる。 | 研修日誌の内容 | 20% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本科目は、西日本を主な研修先とし、当該地域の観光地の視察・見学、観光施設の調査などの実践的な学びを通して、観光を総合的に学ぶことを目的とした実習型の授業である。大学内の授業により学んできた観光に関する知識について、実際に目で見て体感し、現場を知ることにより、理論と実践の有機的結合を図り、観光研究を充実向上させることがねらいである。アクティブラーニングとしては研修体験を踏まえて研修日誌をまとめ、発表させる。 |
| アクティブラーニングの類型 | ⑦ ⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 研修日誌、担当教員の定める課題、研修中の学習態度･意欲、プレゼンテーションなどから総合的に評価する。<br>学生へのフィードバックは、研修中や事前・事後学習の指導を通して適宜行う。 |
| 授業概要 | 担当教員の定めたテーマによって研修プログラムが設定される。プログラム内容の詳細については、別途配布されるプログラム概要を参照すること。<br>研修は旅行の形態をとるが、あくまで授業であることを理解し、責任を持って行動し、学修することが求められる。6 時間(3 回)以上の事前･事後学習と現地における研修（合計60時間以上）により構成される。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：担当教員の指示による。<br>参考書：担当教員の指示による。<br>指定図書：担当教員の指示による |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | ・研修プログラムのテーマを十分に理解して、プログラム選択を行うこと。<br>・事前・事後学習には必ず出席すること。<br>・団体行動であることに注意し、担当教員の指示に従うこと。他の学生の迷惑になる行為や、授業目的に逸脱するような行為は慎んでほしい。<br>・別途研修費を納めること。このうち、履修登録時に申請金として2万円を納める必要がある。なお、自己都合等<br>の理由により研修を辞退した場合、申請金は原則返金されないので注意して履修すること。<br>※研修中の体調管理には留意し、既往症がある場合には必ず事前に申し出ること。 |
| 授業計画 | 回 / テーマ / 授業の内容 / 予習・復習<br>1 / **別途指示する。** / / |

授業科目名称　：　国内観光研修D（九州・沖縄）（実践的教育科目）　授業コード：　01507

授業科目英文名称：　Training for Domestic Tourism D(Kyushu/Okinawa)

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 1 | 2 | 選必 |
| 担当教員 | | | |
| 国際観光学科教員 | | | |
| 展開方法 | 講義・実習 | | |
| ナンバリング | CA123 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 観光研修のテーマを理解し、テーマについて専門的な説明ができる。 | 研修日誌の内容 | 25% |
| 情報収集、分析力 | 研修先に関する基礎的知識を有し、興味を持って積極的に課題に取り組むことができる。 | 研修日誌の内容 | 10% |
| コミュニケーション力 | 研修を通して学んだ内容を、大学の授業で得た知識と結びつけて、わかりやすく説明することができる。 | 事前・事後学習と研修中の態度と行動 | 15% |
| 協働・課題解決力 | 研修先の観光に関わる問題点を見出し、その解決策を提案することができる。 | 研修日誌の内容 | 30% |
| 多様性理解力 | 研修先の観光地や観光施設等の多様な特徴について説明することができる。 | 研修日誌の内容 | 20% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本科目は、九州・沖縄を主な研修先とし、当該地域の観光地の視察・見学、観光施設の調査などの実践的な学びを通して、観光を総合的に学ぶことを目的とした実習型の授業である。大学内の授業により学んできた観光に関する知識について、実際に目で見て体感し、現場を知ることにより、理論と実践の有機的結合を図り、観光研究を充実向上させることがねらいである。アクティブラーニングとしては研修体験を踏まえて研修日誌をまとめ、発表させる。 |
| アクティブラーニングの類型 | ⑦ ⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 研修日誌、担当教員の定める課題、研修中の学習態度･意欲、プレゼンテーションなどから総合的に評価する。学生へのフィードバックは、研修中や事前・事後学習の指導を通して適宜行う。 |
| 授業概要 | 担当教員の定めたテーマによって研修プログラムが設定される。プログラム内容の詳細については、別途配布されるプログラム概要を参照すること。<br>研修は旅行の形態をとるが、あくまで授業であることを理解し、責任を持って行動し、学修することが求められる。6 時間(3 回)以上の事前･事後学習と現地における研修（合計60時間以上）により構成される。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：担当教員の指示による。<br>参考書：担当教員の指示による。<br>指定図書：担当教員の指示による |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | ・研修プログラムのテーマを十分に理解して、プログラム選択を行うこと。<br>・事前・事後学習には必ず出席すること。<br>・団体行動であることに注意し、担当教員の指示に従うこと。他の学生の迷惑になる行為や、授業目的に逸脱するような行為は慎んでほしい。<br>・別途研修費を納めること。このうち、履修登録時に申請金として2万円を納める必要がある。なお、自己都合等<br>の理由により研修を辞退した場合、申請金は原則返金されないので注意して履修すること。<br>※研修中の体調管理には留意し、既往症がある場合には必ず事前に申し出ること。 |
| 授業計画 | 回 / テーマ / 授業の内容 / 予習・復習<br>1 / **別途指示する。** / / |

授業科目名称　：海外観光研修A（アジア）（実践的教育科目）　授業コード：01508　01509　01510

授業科目英文名称：Training for Overseas Tourism A(Asia)

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 1 | 2 | 選必 |
| 担当教員 | | | |
| 国際観光学科教員 | | | |
| 展開方法 | 講義・実習 | | |
| ナンバリング | CA124 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 観光研修のテーマを理解し、テーマについて専門的な説明ができる。 | 研修日誌の内容 | 25% |
| 情報収集、分析力 | 研修先に関する基礎的知識を有し、興味を持って積極的に課題に取り組むことができる。また、グローバルな視点を持ち、研修先の文化を意欲的に学ぶことができる。 | 研修日誌の内容 | 10% |
| コミュニケーション力 | 研修を通して学んだ内容を、大学の授業で得た知識と結びつけて、わかりやすく説明することができる。 | 事前・事後学習と研修中の態度と行動 | 15% |
| 協働・課題解決力 | 研修先の観光に関わる問題点を見出し、その解決策を提案することができる。 | 研修日誌の内容 | 30% |
| 多様性理解力 | 研修先の観光地や観光施設等の多様な特徴について説明することができる。 | 研修日誌の内容 | 20% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本科目は、アジアを主な研修先とし、当該地域の観光地の視察・見学、観光施設の調査などの実践的な学びを通して、観光を総合的に学ぶことを目的とした実習型の授業である。大学内の授業により学んできた観光に関する知識について、実際に目で見て体感し、現場を知ることにより、理論と実践の有機的結合を図り、観光研究を充実向上させることがねらいである。アクティブラーニングとしては研修体験を踏まえて研修日誌をまとめ、発表させる。 |
| アクティブラーニングの類型 | ⑦ ⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 研修日誌、担当教員の定める課題、研修中の学習態度･意欲、プレゼンテーションなどから総合的に評価する。<br>学生へのフィードバックは、研修中や事前・事後学習の指導を通して適宜行う。 |
| 授業概要 | 担当教員の定めたテーマによって研修プログラムが設定される。プログラム内容の詳細については、別途配布されるプログラム概要を参照すること。<br>研修は旅行の形態をとるが、あくまで授業であることを理解し、責任を持って行動し、学修することが求められる。6 時間(3 回)以上の事前･事後学習と現地における研修（合計60時間以上）により構成される。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：担当教員の指示による。<br>参考書：担当教員の指示による。<br>指定図書：担当教員の指示による |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | ・研修プログラムのテーマを十分に理解して、プログラム選択を行うこと。<br>・事前・事後学習には必ず出席すること。<br>・団体行動であることに注意し、担当教員の指示に従うこと。他の学生の迷惑になる行為や、授業目的に逸脱するような行為は慎んでほしい。<br>・別途研修費を納めること。このうち、履修登録時に申請金として4万円を納める必要がある。なお、自己都合等<br>の理由により研修を辞退した場合、申請金は原則返金されないので注意して履修すること。<br>※研修中の体調管理には留意し、既往症がある場合には必ず事前に申し出ること。 |
| 授業計画 | 回 / テーマ / 授業の内容 / 予習・復習<br>1 / **別途指示する。** / / |

授業科目名称　：インターンシップA（実践的教育科目）　授業コード：01516

授業科目英文名称：Internship A

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 2 | 2 | 選必 |
| 担当教員 | | | |
| 国際観光学科教員 | | | |
| 展開方法 | 講義・実習 | | |
| ナンバリング | CA220 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 社会人として必要な幅広い教養的知識を有し、規律正しい態度で取り組むことができる。 | ・研修指導者の評価表◎<br>・事前・事後学習と研修中の態度と行動△ | 20%<br>10% |
| 情報収集、分析力 | | | |
| コミュニケーション力 | ・進捗状況の報告や課題の進め方についての相談、質問や意見などコミュニケーションを積極的にとることができる。<br>・研修先の業務内容や自身の目標の達成度などをわかりやすく説明することができる。 | ・研修指導者の評価表◎<br>・プレゼンテーション△ | 20%<br>10% |
| 協働・課題解決力 | ・研修先の業務に関わる基礎的な知識を有し、業務内容を的確に理解することができる。 | ・研修指導者の評価表◎<br>・研修日誌の内容○ | 20%<br>20% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本科目は、観光業界やその他の県内企業、地方自治体や公共団体などでの実践的な就業体験を行い、学内で学んだ理論と実践の有機的結合を図り、観光を総合的に学ぶことを目的とする。同時に、就業体験を通し、将来のキャリア形成に向けて、能動的に取り組むことがねらいである。 |
| アクティブラーニングの類型 | ④ 学修者個人やグループに課題解決を促す授業（PBL等）<br>⑦ ある体験を課し、その中で感じたことをもとに議論したり、発表させる授業<br>⑪ 既修事項をもとにした能動的な活動を行う授業 |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ポートフォリオ上の研修日誌および振り返りレポートの内容（20%）、研修先の研修指導者からの評価（60%）、研修中の学習態度（10%）、研修後のプレゼンテーション（10%）などから総合的に評価する。学生へのフィードバックは適宜行う。 |
| 授業概要 | 受け入れ企業、団体などでの「就業体験」と、「事前事後の学習」より構成される。企業等の選択については、別途配布される資料で確認し、履修時に希望を提出する。面接の後、研修先が決定され、実務実習は、夏季ないし春季休暇中に集中的に行われる。履修する学生は、アルバイト体験とは異なる「就業」の実習であることを理解し、責任を持って行動することが求められる。6 時間(3 回)以上の事前･事後学習と就業体験による実務実習（10日間以上を基準とする)により構成される。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。<br>※「履修上の注意事項」を熟読の上、履修登録を行うこと。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：担当教員、及びメンターの指示による。<br>参考書：『インターンシップの手引き』を熟読すること。<br>指定図書：担当教員、及びメンターの指示による。 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 実際の社会での経験を得ることを目的とした実習講義であることを十分に理解し、社会人としての言動・行動に十分留意して参加すること。<br>・研修先の企業の業務内容を十分に理解してから、研修に臨むこと。<br>・研修中の体調管理に留意すること。・事前学習には必ず出席すること。<br>・交通費、宿泊費、保険などは自己負担となる。<br>※研修中の体調管理には留意し、既往症がある場合には必ず事前に申し出ること。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **別途指示する。** | | |

授業科目名称　：地域連携活動ＩA（実践的教育科目）　　授業コード：01001　01002　01003　01004

授業科目英文名称：Community Involvement Activities ＩA

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 1 | 選必 |
| 担当教員 | | | |
| 国際観光学科教員 | | | |
| 展開方法 | 講義・実習 | | |
| ナンバリング | CA132 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 地域と連携しての活動を遂行するために、社会人として必要な基礎的知識を有し、興味・関心を持って討論・実践ができる。 | 観察法による評価 | 10% |
| 情報収集、分析力 | 地域と連携した活動を最新の事例を収集し、自らの分析・判断により、地域連携活動の特徴を指摘することができる。 | 観察法による評価 | 15% |
| コミュニケーション力 | 地域との連携活動において、自らの考えを表現することができる。 | 発表・レポート | 25% |
| 協働・課題解決力 | 地域を学び、課題を見出し、具体的に解決することができる。 | 観察法による評価 | 40% |
| 多様性理解力 | 市民の意見を聞き、それを理解し自らの意見をいう事ができる。 | 観察法による評価 | 10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 地域と連携した学外でのボランティア活動、イベント活動、まちづくり等、実践的な学びを通して社会人基礎力を培うことを目的とした科目である。大学内の授業で学んできたことを、地域との連携の中で実際に体験し、現場を知ることで、アクティブ・ラーニングを通じた理論と実践の有機的結合を図ることがねらいである。 |
| アクティブラーニングの類型 | ② ④ ⑥ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 担当教員の定める課題（発表・レポート）、事前学習・活動中・事後学習の態度・行動・意欲などから総合的に担当教員が評価する。学生へのフィードバックは、事前学習・活動中・事後学習の指導を通して適宜行う。 |
| 授業概要 | 担当教員の定めたテーマによって、活動内容が設定される。活動内容の詳細については、別途配布される活動概要を参照すること。佐世保市をはじめとする近隣地域におけるボランティア活動、イベント活動、まちづくり等の活動を積極的に行う。テーマによっては、AとBをセットで履修することが必要な場合もあるので、各担当教員の指示に従うこと。また、2年次配当科目「地域連携活動ⅡA」「地域連携活動ⅡB」を履修するための条件についても、各担当教員の指示に従うこと。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：担当教員の指示による。<br>参考書：担当教員の指示による。<br>指定図書：担当教員の指示による。 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | ・学外で活動することで、理論と実践の有機的結合を図り、社会人基礎力を高めてもらいたい。<br>・事前・事後学習には必ず出席すること。<br>・他の参加学生や地域の方の迷惑となる行為や、授業目的から逸脱するような行動は慎んでもらいたい。<br>※活動中の体調管理には留意し、既往症がある場合には必ず事前に申し出ること。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **別途指示する。** | | |

授業科目名称　：地域連携活動ＩＢ（実践的教育科目）　　授業コード：01005　01006　01007　01008

授業科目英文名称：Community Involvement Activities ＩB

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1 | 1 | 選必 |
| 担当教員 | | | |
| 国際観光学科教員 | | | |
| 展開方法 | 講義・実習 | | |
| ナンバリング | CA133 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 地域と連携しての活動を遂行するために、社会人として必要な基礎的知識を有し、興味・関心を持って討論・実践ができる。 | 観察法による評価 | 10% |
| 情報収集、分析力 | 地域と連携した活動を最新の事例を収集し、自らの分析・判断により、地域連携活動の特徴を指摘することができる。 | 観察法による評価 | 15% |
| コミュニケーション力 | 地域との連携活動において、自らの考えを表現することができる。 | 発表・レポート | 25% |
| 協働・課題解決力 | 地域を学び、課題を見出し、具体的に解決することができる。 | 観察法による評価 | 40% |
| 多様性理解力 | 市民の意見を聞き、それを理解し自らの意見をいう事ができる。 | 観察法による評価 | 10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 地域と連携した学外でのボランティア活動、イベント活動、まちづくり等、実践的な学びを通して社会人基礎力を培うことを目的とした科目である。大学内の授業で学んできたことを、地域との連携の中で実際に体験し、現場を知ることで、アクティブ・ラーニングを通じた理論と実践の有機的結合を図ることがねらいである。 |
| アクティブラーニングの類型 | ② ④ ⑥ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 担当教員の定める課題（発表・レポート）、事前学習・活動中・事後学習の態度・行動・意欲などから総合的に担当教員が評価する。学生へのフィードバックは、事前学習・活動中・事後学習の指導を通して適宜行う。 |
| 授業概要 | 担当教員の定めたテーマによって、活動内容が設定される。活動内容の詳細については、別途配布される活動概要を参照すること。佐世保市をはじめとする近隣地域におけるボランティア活動、イベント活動、まちづくり等の活動を積極的に行う。テーマによっては、AとBをセットで履修することが必要な場合もあるので、各担当教員の指示に従うこと。また、2年次配当科目「地域連携活動ⅡA」「地域連携活動ⅡB」を履修するための条件についても、各担当教員の指示に従うこと。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：担当教員の指示による。<br>参考書：担当教員の指示による。<br>指定図書：担当教員の指示による。 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | ・学外で活動することで、理論と実践の有機的結合を図り、社会人基礎力を高めてもらいたい。<br>・事前・事後学習には必ず出席すること。<br>・他の参加学生や地域の方の迷惑となる行為や、授業目的から逸脱するような行動は慎んでもらいたい。<br>※活動中の体調管理には留意し、既往症がある場合には必ず事前に申し出ること。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **別途指示する。** | | |

授業科目名称　：　地域連携活動ⅡA（実践的教育科目）　　授業コード：　01601　01602

授業科目英文名称：　Community Involvement Activities ⅡA

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 2 | 1 | 選必 |
| 担当教員 | | | |
| 国際観光学科教員 | | | |
| 展開方法 | 講義・実習 | | |
| ナンバリング | CA223 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 地域と連携しての活動を遂行するために、社会人として必要な基礎的知識を有し、興味・関心を持って討論・実践ができる。 | 観察法による評価 | 10% |
| 情報収集、分析力 | 地域と連携した活動を最新の事例を収集し、自らの分析・判断により、地域連携活動の特徴を指摘することができる。 | 観察法による評価 | 15% |
| コミュニケーション力 | 地域との連携活動において、自らの考えを表現することができる。 | 発表・レポート | 25% |
| 協働・課題解決力 | 地域を学び、課題を見出し、具体的に解決することができる。 | 観察法による評価 | 40% |
| 多様性理解力 | 市民の意見を聞き、それを理解し自らの意見をいう事ができる。 | 観察法による評価 | 10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 「地域連携活動ⅠA・ⅠB」では、地域と連携した学外でのボランティア活動、イベント活動、まちづくり等、実践的な学びを通して社会人基礎力を培った。そうした社会人基礎力を更に高めることが本科目の目的である。大学内の授業で学んできたことを、地域との連携の中で実際に体験し、現場を知ることで、アクティブ・ラーニングを通じた理論と実践の有機的結合を図ることがねらいである。よって、本授業に参加する学生は「地域連携活動ⅠA・ⅠB」を履修済みであることが前提となる。 |
| アクティブラーニングの類型 | ② ④ ⑥ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 担当教員の定める課題（発表・レポート）、事前学習・活動中・事後学習の態度・行動・意欲などから総合的に担当教員が評価する。学生へのフィードバックは、事前学習・活動中・事後学習の指導を通して適宜行う。 |
| 授業概要 | 担当教員の定めたテーマによって、活動内容が設定される。活動内容の詳細については、別途配布される活動概要を参照すること。佐世保市をはじめとする近隣地域におけるボランティア活動、イベント活動、まちづくり等の活動を積極的に行う。テーマによっては、AとBをセットで履修することが必要な場合もあるので、各担当教員の指示に従うこと。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：担当教員の指示による。<br>参考書：担当教員の指示による。<br>指定図書：担当教員の指示による。 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | ・学外で活動することで、理論と実践の有機的結合を図り、社会人基礎力を高めてもらいたい。<br>・受講者は、各フィールドの担当教員とよく協議したうえで、この科目の活動を立案・実施すること。<br>・事前・事後学習には必ず出席すること。<br>・他の参加学生や地域の方の迷惑となる行為や、授業目的から逸脱するような行動は慎んでもらいたい。<br>※活動中の体調管理には留意し、既往症がある場合には必ず事前に申し出ること。<br>※本科目を履修するための条件は、別途配布される活動概要に記載の各担当教員の指示に従うこと。 |
| 授業計画 | 回 / テーマ / 授業の内容 / 予習・復習<br>1 / **別途指示する。** / / |

授業科目名称　：　地域連携活動ⅡB（実践的教育科目）　　授業コード：　01603　01604

授業科目英文名称：　Community Involvement Activities ⅡB

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 2 | 1 | 選必 |
| 担当教員 | | | |
| 国際観光学科教員 | | | |
| 展開方法 | 講義・実習 | | |
| ナンバリング | CA224 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 地域と連携しての活動を遂行するために、社会人として必要な基礎的知識を有し、興味・関心を持って討論・実践ができる。 | 観察法による評価 | 10% |
| 情報収集、分析力 | 地域と連携した活動を最新の事例を収集し、自らの分析・判断により、地域連携活動の特徴を指摘することができる。 | 観察法による評価 | 15% |
| コミュニケーション力 | 地域との連携活動において、自らの考えを表現することができる。 | 発表・レポート | 25% |
| 協働・課題解決力 | 地域を学び、課題を見出し、具体的に解決することができる。 | 観察法による評価 | 40% |
| 多様性理解力 | 市民の意見を聞き、それを理解し自らの意見をいう事ができる。 | 観察法による評価 | 10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 「地域連携活動ⅠA・ⅠB」では、地域と連携した学外でのボランティア活動、イベント活動、まちづくり等、実践的な学びを通して社会人基礎力を培った。そうした社会人基礎力を更に高めることが本科目の目的である。大学内の授業で学んできたことを、地域との連携の中で実際に体験し、現場を知ることで、アクティブ・ラーニングを通じた理論と実践の有機的結合を図ることがねらいである。よって、本授業に参加する学生は「地域連携活動ⅠA・ⅠB」を履修済みであることが前提となる。 |
| アクティブラーニングの類型 | ② ④ ⑥ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 担当教員の定める課題（発表・レポート）、事前学習・活動中・事後学習の態度・行動・意欲などから総合的に担当教員が評価する。学生へのフィードバックは、事前学習・活動中・事後学習の指導を通して適宜行う。 |
| 授業概要 | 担当教員の定めたテーマによって、活動内容が設定される。活動内容の詳細については、別途配布される活動概要を参照すること。佐世保市をはじめとする近隣地域におけるボランティア活動、イベント活動、まちづくり等の活動を積極的に行う。テーマによっては、AとBをセットで履修することが必要な場合もあるので、各担当教員の指示に従うこと。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：担当教員の指示による。<br>参考書：担当教員の指示による。<br>指定図書：担当教員の指示による。 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | ・学外で活動することで、理論と実践の有機的結合を図り、社会人基礎力を高めてもらいたい。<br>・受講者は、各フィールドの担当教員とよく協議したうえで、この科目の活動を立案・実施すること。<br>・事前・事後学習には必ず出席すること。<br>・他の参加学生や地域の方の迷惑となる行為や、授業目的から逸脱するような行動は慎んでもらいたい。<br>※活動中の体調管理には留意し、既往症がある場合には必ず事前に申し出ること。<br>※本科目を履修するための条件は、別途配布される活動概要に記載の各担当教員の指示に従うこと。 |
| 授業計画 | 回 / テーマ / 授業の内容 / 予習・復習<br>1 / **別途指示する。** / / |

授業科目名称　：国内観光資源　　授業コード：14008

授業科目英文名称：Domestic Tourism Resources

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 森尾　真之（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CB102 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 都道府県ごとの観光地について説明できる。<br>観光資源をルートやジャンルで関係づけ、分類することができる。 | 定期試験◎ | 50% |
| 情報収集、分析力 | 観光ルートのプランニングができる。特定の観光資源について、説明ができる。自分が好きな観光地・観光資源について、その理由も含めて説明することができる | 定期試験◎<br>課題レポート○ | 20%<br>20% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | 資格取得についてその意義を理解し、学習計画に基づいた対策をおこなっている。 | 授業への取組△ | 10% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 主に「国内旅行業務取扱管理者」試験の受験者対象とする講義である。<br>試験科目の「国内旅行実務」における、国内観光地理に関する学習を行う。国家試験受験予定者は合格基準である60点が取れるレベルの知識向上を目指す。また最新の地域観光やツーリズムの情報に触れ、キーワードを具体的な映像を通して認識することで、各地域観光資源の可能性についての知識と理解を深め、観光業への関心を醸成する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ① 予習を課し、それをもとにした授業<br>⑩ 学期途中で課題をだし、レポートを纏めることによって能動的な学修を喚起する授業 |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 定期試験は旅行業務取扱管理者試験レベルを基本に出題、70%評価とする。<br>課題レポートは自身で選んだ観光資源について解説し、ポートフォリオからフィードバックとして評価し、合計で20%とする（20%）。授業への取り組みは、出席状況とレポートの内容を評価する（10%）。 |
| 授業概要 | 旅行実務の経験のある教員による、国家試験科目「国内観光資源」の観光地理の対策授業である。できるだけ多くの画像や動画を紹介し、教科書の観光地名とつなげることにより知識の定着を図る。また、コロナ後の観光業の回復に伴い外国人観光客が注目する人気のスポットなど地域の新しいトピックスを併せて紹介し、日本の国内ツーリズムに関する現状を学び、観光素材に対する関心を深める。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：「国内観光資源」（ＪＴＢ総合研究所）<br>参考書：「国内観光地理サブノート」（ＪＴＢ総合研究所）<br>指定図書：「街道をゆく 3 陸奥のみち、肥薩のみちほか」司馬遼太郎著（朝日文庫） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 国内旅行業務取扱管理者資格の国家試験を受験する学生は、次回の授業範囲の教科書をあらかじめ読むなどの予習と関連問題の反復による復習など、各自で積極的に取り組むことが重要である。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **講義ガイダンス** | 国内観光資源を学ぶ意義と講義概要。<br>国家試験の概要について。 | 予習/復習：教科書で学ぶ項目の確認 |
| 2 | **観光資源とツーリズム** | 観光資源の活用と日本の地域観光における取組を、ツーリズムマーケティングとともにその概要を理解する。 | 予習：自分の関心のあるツーリズムについて調べる<br>復習：日本のツーリズムについて整理して理解する。 |
| 3 | **テーマ別学習①** | 日本の世界遺産、ラムサール条約湿地について | 予習：教2部23、24<br>復習：所在地を地図で確認 |
| 4 | **テーマ別学習②** | 国立公園と自然観光資源<br>国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化 | 予習：教2部1-9,22<br>復習：所在地を地図で確認 |
| 5 | **テーマ別学習③** | 日本の歴史的文化観光施設<br>（温泉、城郭、神社、寺院、庭園、歴史的建造物、旧国名） | 予習：教2部10-13,25,32<br>復習：所在地を地図で確認 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 6 | **テーマ別学習④** | 祭り・年中行事、郷土料理<br>文化施設・文化財（美術館、博物館、文学館、記念館） | 予習：教2部19,28-30<br>復習：所在地を地図で確認 |
| | 7 | **テーマ別学習⑤** | 景観の優れた観光資産の保全・活用による観光地の魅力向上（重要伝統的建造物保存地区など） | 予習：国内パンフWEBで確認<br>復習：自分の興味と関連する場所を調べる |
| | 8 | **北海道地方** | 北海道地方の観光資源の学習を教科書およびビデオにて学習。 | 予習：教P2-24<br>復習：学習事項を地図で確認 |
| | 9 | **東北地方** | 東北地方の観光資源の学習を教科書およびビデオにて学習。 | 予習：<br>教P25p-44p P48-50,58-65<br>復習：学習事項を地図で確認 |
| | 10 | **関東・甲信越地方** | 関東・甲信越地方の観光資源の学習を教科書およびビデオにて学習。 | 予習：<br>教P25p-44p P48-50,58-65<br>復習：学習事項を地図で確認 |
| | 11 | **東海・北陸地方** | 東海・北陸地方の観光資源の学習を教科書およびビデオにて学習。 | 予習：教P45-47,51-57,66-77<br>復習：学習事項を地図で確認 |
| | 12 | **近畿地方** | 近畿地方の観光資源の学習を教科書およびビデオにて学習。 | 予習：教P78-96<br>復習：学習事項を地図で確認 |
| | 13 | **中国・四国地方** | 中国・四国地方の観光資源の学習を教科書およびビデオにて学習。 | 予習：教P97-118<br>復習：学習事項を地図で確認 |
| | 14 | **九州地方** | 九州地方の観光資源の学習を教科書およびビデオにて学習。 | 予習：教P119-140<br>復習：学習事項を地図で確認 |
| | 15 | **講義まとめ** | 講義のおさらい（観光コース作成問題など） | 予習：教科書全体通読<br>復習：配布レジュメ問題確認 |
| | 16 | **定期試験** | 筆記試験 | 授業を振り返り、<br>試験の準備をする。 |

授業科目名称　：宿泊業論　　授業コード：24606

授業科目英文名称：Hotel Industry

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2 | 2 | 選択必修 |
| 担当教員 | | | |
| 落合　和昭（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CB202 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 宿泊業の発展の歴史を振り返ることにより現在に至る過程を理解し、現在も多様化し続ける宿泊業界の構造、特性、更には今後の進化を展望するができる。 | 授業内確認ﾃｽﾄ<br>授業貢献 | 40%<br>20% |
| 情報収集、分析力 | 常に宿泊業に関心を持ち、新聞、雑誌、その他メディアにある関連記事・ニュースについて理解し、議論することができる。 | レポート | 20% |
| コミュニケーション力 | 積極的に授業に参加し、課題を掘り下げて考える習慣を持ち、自分の考えをクラスメートと共有することができる。 | 授業貢献 | 10% |
| 協働・課題解決力 | 授業中に適宜実施されるグループワークにおいて、グループにおける自分の役割を認識し、課題解決に向けた貢献をすることができる。 | 授業貢献 | 10% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 観光立国を目指す我が国の基本方針において、宿泊業は、旅行業、運輸業と共に将来の基幹産業として位置づけられる。本講座は、その宿泊業（主にホテル業）をその発展史から先端の事例まで、多方面から総合的に理解することをねらいとする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ② ④ ⑤ ⑥ ⑦ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 授業貢献　：４０％ 質問、発言などの回数、グループワーク、プレゼンテーションなどを観察法で評価。<br>確認ﾃｽﾄ　：４０％ 持ち込み禁止の論述式で、主として宿泊業の産業特性に対する理解度を問う。<br>レポート　：２０％ 論旨・形式要件、およびプレゼンテーションをもとに評価。採点後、全体の講評を行う。<br>尚、テスト、課題・レポートなどへのフィードバックは、授業中あるいはポートフォリオにおいて個別におこなう。 |
| 授業概要 | 担当教員のホテル運営に関する経験・知見による実践的な授業である。第1段階：宿泊業発展史を学ぶ / 第2段階：宿泊業の多様な形態を理解する / 第3段階：世界の宿泊業の現状を理解する / 第4段階：宿泊業における感染症収束後の在り方を考察する /第5段階：情報システムの進化と宿泊業の未来について考察する。また、授業中に適宜課題が示され、質疑応答やグループワーク等により理解を深める。授業の理解度はアンケートなどにより確認する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書　：特に指定しない。<br>参考書　：授業の中で適時指示する。<br>指定図書：「星野リゾートの教科書」中沢康彦（著） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | １．本講座を履修する学生は、「ホテル・ブライダルオペレーション」の履修が望ましい。２．将来ホテル業界で幹部として活躍したいと考えている学生は、「ホテルビジネス実務エキスパート」の履修を奨める。３．宿泊業に関する日々のニュース、図書館にあるホテル産業に関する定期刊行物などを通じて、最新の話題について理解する努力をする |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション** | 講義内容、講義の進め方、試験方法などを説明する。 | シラバスを読んでおく。 |
| 2 | **宿泊業の概要** | 我が国における宿泊業の実態<br>さまざまなホテルの業態 | ホテルと旅館の違いを調べ、列記しておく。 |
| 3 | **近代ホテル産業の発達史Ⅰ** | ヨーロッパ：セザール・リッツとエスコフィエが幕を開いた近代ホテルの歴史。 | ヨーロッパにあるホテルを１つ選択し、施設概要を調べておく。 |
| 4 | **近代ホテル産業の発達史Ⅱ** | アメリカ：スタットラー、ヒルトンによる巨大ホテルチェーンの発達史を学ぶ。 | スタットラーの革新性はどこにあったかを調べる |
| 5 | **近代ホテル産業の発達史Ⅲ** | 日本：１２０年にわたる帝国ホテルの歴史を通じて、我が国の近代ホテルの発達史を理解する。 | 現在の帝国ホテルの営業方針を調べ、書き出してみる。 |
| 6 | **グローバル・ホテルチェーンのビジネスモデルⅠ** | ホテルチェーン会社の基本的な仕組みを学ぶ。 | IHG（インターコンチネンタルホテルグループ）のホテルブランド名と特徴を調べる。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 7 | **グローバル・ホテルチェーンのビジネスモデルⅡ** | マネジメント契約・フランチャイズ契約の基本的な仕組みを学ぶ。 | フランチャイズ方式で事業展開している業態を５つ考えておく。 |
| | 8 | **グローバル・ホテルチェーンのビジネスモデルⅢ** | 世界の巨大ホテルチェーン各社の特徴を学ぶ。 | ヒルトンの持つホテルブランド名とその特徴を調べて列記する。 |
| | 9 | **ビジネスホテルチェーン** | 多様化し進化するビジネスホテルの仕組みと経営戦略を学ぶ。 | 「アッパービジネスホテル」の意味を調べておく |
| | 10 | **ホテル業の基本的な事業構造Ⅰ** | 労働集約型サービス産業、不動産業、製造業など、ホテル業の多面的な特性を学ぶ。 | ホテルの「不動産業」的側面とはなにか列記してみる。 |
| | 11 | **ホテル業の基本的な事業構造Ⅱ** | ホテルの収支構造について学ぶ。 | 「ユニフォームシステム」の意味をネットで調べておく。 |
| | 12 | **ホテル業の基本的な事業構造Ⅲ** | ホテル組織の各部門がお互いに緊密に連携することによって、初めてお客様は満足していただけるということを学ぶ。 | チェックインしたお客様が１泊して朝食後にチェックアウトした場合、接するスタッフの種類を考えておく。 |
| | 13 | **ホテル組織における人材開発** | ホテルにおける人材開発の実例を参考としながら、ホスピタリティの実践者である従業員の人材開発手法について学ぶ。 | 関連するウェブサイトから現状を把握しておく。 |
| | 14 | **総括** | これまでの講義内容を総括する。 | 過去の資料を参照して、自身の考えや疑問を整理しておく。 |
| | 15 | **随意試験** | 論述式筆記試験 | 試験の準備をする。 |

授業科目名称　：旅行業論　　授業コード：15605

授業科目英文名称：Travel Industry

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 森尾　真之（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CB216 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 旅行業の全体を理解し、これまでのビジネスモデルや現状の課題やトピックスについて批評することができる。また旅行業における商品、市場等の基礎知識や専門用語について説明できる。 | 講義内試験◎ | 50% |
| 情報収集、分析力 | 旅行業における業務の特性を理解できる。 | 課題レポート○ | 30% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | これからの旅行業における社会課題の解決に、どのような視点が必要かを考えることができる。 | 課題レポート○<br>授業の取組△ | 10%<br>10% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本講義では、これまでの旅行業の歩みや旅行業に関わる業務やその役割、関連法令、マーケットや旅行業界を取り巻く業界の動きなどを多面的に学び、あらゆる業種との親和性があるとされる旅行業について総合的に理解することを目標とする。特に大きく変わっていく業界の現状と、今後の旅行業界に求められる役割や、業界として求められる人材の能力やスキルについて理解し、自身のキャリアデザインの可能性について考えてほしい。 |
| アクティブラーニングの類型 | ① 予習を課し、それをもとにした授業<br>⑩ 学期途中で課題をだし、レポートを纏めることによって能動的な学修を喚起する授業 |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 講義内試験（50%）、課題・レポート（40%）、授業態度や課題提出状況の評価（10%）により総合的に評価する。課題レポートについては複数回実施し、内容については授業内で提示する。フィードバックはポートフォリオや講義中に適宜行う。講義内試験については旅行業の歩みや仕組み、ビジネスモデルの理解に加え、今後の旅行業界に関する展望についての記述など広範囲な出題対象となる |
| 授業概要 | 担当教員の旅行業での企画販売や法人営業の多様な実務経験と現役の実務家である外部講師の特別講義により多角的に学ぶ。<br>前半は本講義用のテキストやスライドや映像を中心に歴史や業界の現状について学び、後半は今後の旅行業務の中心となる法人営業（教育旅行、文化・スポーツ、ソリューション営業）や地域観光交流事業における新しいツーリズムに対する市場や受け入れについての全体像を重点的に学ぶ。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：特になし。本講義用のテキストを講義内で配布する。<br>参考書：『旅行業概論―旅行業のゆくえ』（同友館） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | これまで旅行業界は国際情勢の変化や感染症の流行などで大きな打撃を被り、個人旅行の世界ではOTA（オンライン旅行会社）の存在が大きい。しかし、その都度人々に笑顔と感動をもたらしてきたこれまでの旅行業の平和産業として果たしてきた役割は大きい。受講生においては、旅に関わる仕事のすばらしさを理解し、自由な発想で旅行業の門戸を叩く人材に期待する。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション** | ●講義内で学ぶ内容を理解する。①これまでの日本における旅行業の存在基盤とビジネスモデル②今後の経営軸となる法人営業③大きく環境が変化する旅行業の方向性<br>●担当教員の旅行業の経緯 | 復：講義における旅行業に関する学びを整理する。 |
| 2 | **旅行業の成り立ちとしくみ①** | 「なぜ日本の旅行業の規模は大きい」～独自の発展経緯世界と日本における近代旅行業の成り立ちの歴史を学ぶ。（日本における交通網と旅行業の発展、旅行市場の変化） | 復：講義資料を読んで、日本の旅行業が大きくなった経緯を整理する |
| 3 | **旅行業の成り立ちとしくみ②** | 「なぜ旅行業は必要」旅行ビジネスの成り立ちを学ぶ。<br>・旅行業の現状について（役割の機能の変化） | 復：対面の旅行業の存在は必要かどうかをOTAとの比較の中で考える。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 4 | **旅行業の成り立ちとしくみ③** | 「旅行業にはどんな仕事があるのか」<br>サービス業の特性から旅行会社ではどのようなバリューチェーンが構築されているかを理解する。 | 復：旅行業における主な用語や職種を理解する。 |
| 5 | **旅行業の成り立ちとしくみ④** | 「楽しく思い出に残る旅行にするためには」<br>旅程管理と品質面の保証を添乗員の仕事から考える。 | |
| 6 | **旅行業の成り立ちとしくみ⑤** | 「旅行の価格はどのように決定されているのか」<br>旅行商品の現状と意義。パッケージツアーの成り立ち、企画旅行と手配旅行の違い。旅行商品の利益構造（原価計算、格安ツアーのからくり。）について学ぶ。 | 復：旅行代金の計算方法について復習する。 |
| 7 | **旅行業の成り立ちとしくみ⑥** | 「安心して旅行をするための決まりとは」<br>旅行業法や約款の意味と、各社の法務対応（クレーム処理））について | 復：６大義務、三大責任について整理する。 |
| 8 | **これからの旅行商品①テーマ型商品** | 「旅行商品の企画に大切なことは何か」<br>消費者のニーズを考え、どのように感動をプロデュースするのか。<br>目的型旅行の「旅行による人生のアップデート」を、旅行商品の特性からそのポイントを考える。 | 復：テーマ型ツアーの観光商品を考える（課題） |
| 9 | **これからの旅行商品②AT・着地型** | 「地域における観光商品の開発に必要なことは」<br>着地における滞在型観光を実現するアドベンチャーツーリズム（AT）について学び、着地型旅行商品の概要とディスティネーションにおける観光メニュー、地域交流ビジネスとしてのイベントや商品開発について学ぶ（外部講師） | 予：課題を完成させる<br>復：アドベンチャーツーリズムを構成する要素について理解する。 |
| 10 | **法人営業①<br>（ソリューションビジネス）** | 「旅行業の未来を支える仕事」企業・社会活動に貢献する法人営業のスタンスとは。MICEなど旅行業の未来を支える仕事である法人営業の業務概要を学ぶ。社会や地域の課題に取り組むためのソリューション営業とは何か。（外部講師） | 復：法人営業の事業の概要を理解する。 |
| 11 | **法人営業①<br>（企業とのコラボレーション～B2B2C）** | 「付加価値をコーディネートする」異なる事業ドメインの企業や団体とのコラボレーションによる新たな価値づくりををおこなう旅行商品の企画やビジネスモデル、プロデューサーとしてのその役割と向き合い方について学ぶ（外部講師） | 復：高付加価値な旅行企画のために必要な要素は何かを考える。 |
| 12 | **法人営業②<br>（スポーツビジネス）** | 「夢と感動を旅行商品で実現する」旅行会社が取り扱うスポーツビジネスにおいて、「見る」「する」「支える」の３つの視点からその成り立ちや今後の市場、スポーツの経験がどのように旅行の仕事に生かせるのかを学ぶ（外部講師） | 復：スポーツビジネスの可能性を最大化する旅行の役割を考える。 |
| 13 | **法人営業④<br>（教育旅行・その他）** | 「社会へのまなざしを育む旅行とは」<br>さまざまな企業団体との契約事例から旅行会社に求められる役割を考える。特に市場規模の大きな教育旅行においては、学びの形の変化に伴い、行事としての修学旅行から教育的な意義のある探究的な授業との連続した学びが求められている。 | 復：学校教育における旅行業務が果たせる可能性について考える。 |
| 14 | **旅行業の働き方** | 「これからの旅行業の役割とその担い手とは」<br>平和産業である旅行業は、不安定な世の中における存在意義とは何か。これからの旅行業界において、どんな人材が求められるのか。旅行業界のこれからの可能性と求められる考え方・スキルを考える。 | 復：自分が考える旅行業における強みとは何か。 |
| 15 | **講義内試験** | 講義の資料から、記述を中心とする問題が出題される。 | 予：あらかじめ講義での資料を読み返す。 |

授業科目名称　：航空業論　　授業コード：42008

授業科目英文名称：Air Transportation Business

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 竹田　文雄（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CB209 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | ・航空事業・航空運送業界の現状とこれからの新たな事業展開についての理解と説明。<br>・航空便の運航以外の航空会社の事業についての理解と説明。 | ・随時試験<br>・随時試験 | 30%<br>30% |
| 情報収集、分析力 | ・FSCとLCCについての理解と説明。 | ・随時試験 | 20% |
| コミュニケーション力 | ・学内外での授業への積極的な参画、およびアクティブラーニングの実践。 | ・授業参画度 | 20% |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 航空事業の歴史を概観し、その発展と進化を学修する。航空事業の歴史、航空業の概要、911（ナインイレブン）のインパクト、LCC（ローコストキャリア）の定着による航空運送業界の新しい動き、FSC（フルサービスキャリア）の運営形態の変化、航空機を用いない新規事業の開拓等を講義する。<br>・航空運送業界の発展史を踏まえた上で、航空会社の運営、業務、サービスの変遷の実像を理解する。<br>・COVID-19収束後の航空会社の在り方、競合事業者の存在についても考察していく。 |
| アクティブラーニングの類型 | ②⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 随時試験２０点　（情報収集・分析力の達成度。ポートフォリオ小テスト。授業中に適宜実施予定。）<br>随時試験６０点　（専門力の達成度。ポートフォリオ小テスト。授業中に適宜実施予定。）<br>授業参画度２０点　（授業課題への取組み姿勢、質問・コメント等の有無とその回数。）<br>諸々のフィードバックは、ポートフォリオを用いて、または授業時間内に適宜実施していく。 |
| 授業概要 | 担当教員の旅行業実務経験と知見を踏まえた実践的授業である。戦後日本の航空業界の歴史を踏まえた上で、既存大手航空会社、地域発航空会社、およびLCCに代表される新規航空会社の現状を概観する。また顧客サービスの向上、収益の向上、そして安全運航の堅持の手法を学び、航空運送業の全体像の把握と理解を進める中で、航空運送業の今後の課題を考察していく。また航空関連事業への就活についてのアドバイスも適宜織り込んでいく。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は１８０分。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：特に定めない。<br>参考書：『第３版 最新航空事業論』井上泰日子 日本評論社<br>指定図書：『日本の航空産業』渋武容著 中公新書 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 資料（レジュメ）は、ポートフォリオに格納するので必要に応じて適宜参照すること。担当教員からの配布は行わない。また授業中に投影するスライドは、ポートフォリオには掲載しない。毎回の授業ではメモを取ることを習慣づけること。航空運送業界の競争を含めた内部環境を学ぶことにより、関連産業も含めた航空業界全体への興味や関心の向上を期待する。また実践的な学びとするべくトピックス解説等も適宜行いつつ授業を進めていく。なおCOVID-19収束以降の航空会社および航空運送業の役割も考察していく。<br>他の学生に迷惑をかけないように受講すること。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **はじめに、<br>航空事業とは** | ・授業の進め方のガイダンス。<br>・航空運送業の概観・特性等について。 | 予：シラバス読込み。<br>復：航空運送業についての再確認。 |
| 2 | **航空会社の各種業務内容** | ・航空会社内の各業務内容の把握。<br>・各業務が担う、それぞれの役割の理解。 | 予：航空会社の各部門の業務内容を考える。<br>複：各業務内容の再確認。 |
| 3 | **航空運送業の歴史（１）** | ・第二次世界大戦後の民間航空発展。<br>・航空自由化に至る航空運送業界の歴史。 | 予：シカゴ条約の概要を確認する。<br>復：２０世紀航空運送業の変遷を再確認。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 4 | **航空運送業の歴史（２）** | ・航空自由化への動きについて。 | 予：航空自由化の意味を考える。<br><br>複：オープンスカイと航空自由化の再確認。 |
| | 5 | **航空運送業の歴史（３）** | ・日本の航空業界の成長経緯について（１）。 | 予：JL/NH/BC/GK/MM/6J/7G/OCは何を示すか？<br><br>複：４５/４７体制の再確認。 |
| | 6 | **航空運送業の歴史（４）** | ・日本の航空業界の成長経緯について（２）。<br>・第３の航空会社、国内線・国際線の現状について。 | 予：第3の航空会社の意味を考える。<br><br>複：LCCまでの登場の時代背景を再確認。 |
| | 7 | **ＬＣＣの出現とその影響（１）** | ・LCC成立の時代背景について。<br>・LCCのビジネスモデルについて。 | 予：LCCとFSCのWEBサイトを確認する。<br><br>複：LCC/FSCの相違点は？ |
| | 8 | **ＬＣＣの出現とその影響（２）<br>９１１インパクト** | ・FSCの戦略の変遷について。<br>・911発生のインパクトについて。 | 予：FSCの対LCC戦略について考える。<br><br>複：FSCの対LCC戦略の変遷を再確認。 |
| | 9 | **航空会社のサービス向上の手法（１）** | ・航空会社の顧客獲得戦略について。<br>・マイレージ戦略について。<br>（ゲストスピーカー・実務家の招聘を予定。） | 予：マイレージの利便性を考える。<br><br>複：マイレージ戦略再確認 |
| | 10 | **航空会社のサービス向上の手法（２）** | ・航空会社の「ロイヤルティ（再利用意向）」「他者推奨意向」「顧客満足度」向上の為の手法について。<br>（ゲストスピーカー・実務家の招聘を予定。） | 予：サービスとは何か？を考える。<br><br>複：本日の要点の再確認。 |
| | 11 | **航空会社の路便戦略** | ・路線、便数、発着時間、運行機材等の決定手法について。 | 予：長崎空港発着各社の運航状況を確認する。<br><br>複：路便設定の再確認。 |
| | 12 | **鉄道事業との比較検討** | ・競合運輸機関についての考察。<br>（ゲストスピーカー・実務家の招聘を予定。） | 予：航空機以外の移動手段について考える。<br><br>複：本日の要点の再確認。 |
| | 13 | **航空会社の販売戦略（１）** | ・航空会社の販売、WEBシフトと利便性について。<br>・新たなサービス戦略、新規事業について。 | 予：航空会社のWEBサイトを再確認する。<br><br>複：販売手法の再確認。 |
| | 14 | **航空会社の販売戦略（２）** | ・航空会社の販売、収入の最大化に向けた手法について。（レベニューマネジメントなど） | 予：レベニューマネジメントの意味を調べる。<br><br>複：販売手法の再確認 |
| | 15 | **総復習と総括** | ・航空業界の”いま”と”これから”について。<br>・学修内容をあらためて概観する。 | 予：14週までの授業全体のレビュー。 |

授業科目名称　：国内旅行業務　　授業コード：11007

授業科目英文名称：Practical Affairs for Domestic Travel

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 森尾　真之（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CB101 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | （1）鉄道や航空、宿泊の運賃計算、料金計算ができる.<br>（2）バスやホテル、旅行商品の企画に対する知識、および旅行業法の条文を理解し、国家試験レベルの問題に正答できる。 | 定期試験◎ | 60% |
| 情報収集、分析力 | 国内旅行業務の現場で想定される諸問題に対して基本的な判断ができる。 | 定期試験◎ | 20% |
| コミュニケーション力 | 利用者の立場に立った旅程の作成ができる。 | 課題レポート○ | 10% |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | 国内旅行に関するさまざまな交通・宿泊機関の役割や業務内容についての理解と、旅行者の動向による旅行産業におけるさまざまな施策やサービスの変化について考えることができる。 | 授業への取り組み○ | 10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 主に「国内旅行業務取扱管理者」試験の受験者対象とする講義である。試験科目の「国内旅行実務」における交通機関の運賃料金に関する学習を行う。具体的にはＪＲ、国内航空、貸切バス、旅館、ホテルの運賃・料金に関する学習を行う。国家試験受験合格基準である60点が取れるレベルの知識向上を目指す。また観光産業の実態を知り、運賃・料金の成り立ちや国内旅行業務の背景、実務実態などを学び、基本的な知識を習得する事を目的とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ① 予習を課し、それをもとにした授業<br>⑩ 学期途中で課題をだし、レポートを纏めることによって能動的な学修を喚起する授業 |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 定期試験は旅行業務取扱管理者試験レベルを基本に出題し80%評価とする。課題レポートは、既習の要素を活用した旅行プランの作成や、旅行パンフレットで使用されている事例研究に関する課題を授業時に指示し、20%評価とする。<br>課題レポートはポートフォリオからのフィードバックとして適宜行う。 |
| 授業概要 | 担当教員の旅行業界における商品開発分野の実務経験に基づき、旅行商品企画や旅行日程のコンサルティング業務などに必要な知識を習得し、運賃規則や運賃の計算などの専門力を必要とする実践的な授業である。国家試験対策としては、教科書に記載されている試験頻出項目を中心に解説を行い、類似の練習問題を解くことで併せて復習とし、知識と理解の定着を図る。一部の講義においては確認の小テストを行うが、自己採点とし評価の対象にはしない。またこの授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：「国内運賃・料金」ＪＴＢ総合研究所<br>参考書：「JR時刻表」JRグループ<br>指定図書：「臨3311に乗れ」城山三郎著 集英社文庫 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 国内旅行業務取扱管理者資格の国家試験を受験する学生は、次回の授業範囲の教科書をあらかじめ読むなどの予習と関連問題の反復による復習など、各自での積極的な取り組みが重要である。また、雑誌やWEBの旅行特集記事やエッセイ、さまざまな交通機関を使った旅番組などを見て旅の楽しさを感じ、ひいては自身の予算内での旅行を計画、実施し、訪問した地域の人たちの交流などを体験することを期待する。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **講義ガイダンス** | 国内旅行実務を学ぶ意義と講義概要。 | 予習/復習：教科書で学ぶ項目の内容確認 |
| 2 | **ＪＲの旅客営業概要** | ＪＲの成り立ちや旅客営業規則、各鉄道会社別の路線及び概要について、 | 予習：教科書1部1章<br>復習：ＪＲ概要について |
| 3 | **交通機関と旅行業** | JR時刻表の見方・使い方と旅程提案のポイント<br>特企券について | 予習：時刻表の使い方をHPで調べる<br>復習：自分で作った旅程に基づいて、時刻表で最適な時刻の列車を調べる。 |
| 4 | **ＪＲ運賃①** | 運賃計算の基礎、乗車券の種類、年齢区分、基準運賃・割増運賃、割引運賃（往復、学生） | 予習：教科書1部2-3章<br>復習：運賃計算基礎 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 5 | **ＪＲ運賃②** | 途中下車、有効期間<br>特定都区市内運賃 | 予習：教科書1部4章1, 3-5<br>復習：料金計算等再確認 |
| | 6 | **ＪＲ運賃③** | 本州3社と3島会社にまたがる場合「境界駅」<br>運賃まとめ（問題） | 予習：教科書1部4章1, 3-5<br>復習：まとめ問題の再確認 |
| | 7 | **ＪＲ料金①** | 料金計算の基礎<br>新幹線特急料金について、新幹線内乗継 | 予習：教科書1部4章1, 3-5<br>復習：新幹線の路線および料金の種類について確認 |
| | 8 | **ＪＲ料金②** | 新幹線間の乗り継ぎ（特定特急料金）<br>新幹線と在来線の乗り継ぎに関する計算のきまり | 予習：教科書1部4章<br>復習：新幹線の乗り継ぎに関する整理 |
| | 9 | **ＪＲ乗車券類払い戻し** | 取消時期と払戻手数料、紛失、遅延などの取扱いについて | 予習：教科書1部5章<br>復習：券の有無と規則再確認 |
| | 10 | **ＪＲ団体乗車券** | 団体区分、割引、適用条件について（団体旅行業務と交通機関） | 予習：教科書1部7章<br>復習：団体運賃規則再確認 |
| | 11 | **貸切バス** | 事業の実態、運賃・料金、違約料について | 予習：教科書3部1章<br>復習：貸切バス運賃・料金・違約料再確認 |
| | 12 | **フェリー** | 事業の実態、運賃・料金、違約料について | 予習：教科書3部2章<br>復習：フェリー運賃・料金再確認 |
| | 13 | **国内航空** | 事業の実態、運賃・料金の種類<br>変更・取消・払い戻しについて | 予習：教科書2部<br>復習：運賃区分等再確認 |
| | 14 | **宿泊** | 事業の実態、概要、宿泊料金（超過料金） | 予習：教科書4部<br>復習：宿泊料金の仕組み等再確認 |
| | 15 | **講義まとめ** | ＪＲ以外の国家試験過去問解説、理解度チェック問題演習、定期試験について | 予習：教科書4部<br>復習：国家試験過去問の再確認 |
| | 16 | **定期試験** | 筆記試験 | 授業を振り返り、<br>試験の準備をする。 |

授業科目名称　：旅行業務エキスパートＩA　　授業コード：16001

授業科目英文名称：Travel Business Experts ＩA

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 城前　奈美、森尾　真之（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CB109 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 旅行業法、約款、国内旅行実務に関して国家試験である国内旅行業務取扱管理者試験の模擬試験を60%以上取得する。 | 国家試験の模擬試験 | 70% |
| 情報収集、分析力 | 国内旅行業務取扱管理者試験に関する情報を収集し、課題解決する力をつける。 | 小課題 | 30% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本講義は、「国内旅行業務取扱管理者」国家試験合格に向けた対策授業である。国家試験に係るいずれの科目も60点以上取得することを目指し、この国家試験に係る練習問題や過去問題を60%以上解けるようになることを目指す。「旅行業務エキスパートＩB」と同時履修すること。「旅行業法・約款」「国内観光資源」「国内旅行実務」の3科目を履修済み（もしくは履修中）であることを前提とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 各回の講義の最後に、小課題（練習問題や過去問題）を出題し、宿題とする。この小課題の答え合わせ（フィードバック）が、翌週の講義でなされ解説される。この小課題への取り組み状況や正答率を30%とする。最後に、国家試験の模擬試験を実施し、その正答率を評価する（70%）。 |
| 授業概要 | 国家試験の本番で60%以上取得するために、国家試験に係る練習問題や過去問題を解いていき、旅行業法や約款、国内旅行実務に関する理解の向上に努める。旅行業法と約款については、城前が担当し、国内運賃・料金や国内観光資源は森尾が担当する。担当教員の国内旅行事業実務経験と知見を活かした実践的科目である。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：『国内観光資源』『国内運賃・料金』『旅行業法及びこれに基づく命令』『旅行業約款、運送・宿泊約款』<br>いずれもJTB総合研究所<br>模擬試験問題『国内旅行業務取扱管理者』2回分 5,500円程度<br>参考書：『国内旅行業務取扱管理者・科目別速習問題集』『国内観光地理サブノート』ＪＴＢ総合研究所<br>指定図書：『旅行業法及びこれに基づく命令』JTB総合研究所 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 本授業は、国家試験を受験する学生のみ履修すること。「旅行業務エキスパートＩB」の同時履修を必須とする。<br>「旅行業法・約款」「国内観光資源」「国内旅行実務」の3科目を履修済み（もしくは履修中）であることを前提とする。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | **旅行業法①** | 第1条（旅行業法の目的）～第2条（旅行業の定義） | 予習：過去問集(1)を解く。<br>復習：誤った箇所を復習する。 | 城前 |
| 2 | **旅行業法②** | 第3条（登録）～第6条（登録拒否、変更） | 予習：過去問集(2)を解く。<br>復習：誤った箇所を復習する。 | 城前 |
| 3 | **旅行業法③** | 第7条（営業保証金）～第11条（旅行業務取扱管理者） | 予習：過去問集(3)を解く。<br>復習：誤った箇所を復習する。 | 城前 |
| 4 | **旅行業法④** | 第12条（料金の掲示、旅行業約款、取引条件の説明、書面の交付） | 予習：過去問集(4)を解く。<br>復習：誤った箇所を復習する。 | 城前 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 5 | **旅行業法⑤** | 第12条（外務員、広告、誇大広告の禁止） | 予習：過去問集(5)を解く。<br>復習：誤った箇所を復習する。 | 城前 |
| | 6 | **旅行業法⑥** | 第12条（標識、企画旅行の円滑な実施のための措置、旅程管理業務を行う者） | 予習：過去問集(6)を解く。<br>復習：誤った箇所を復習する。 | 城前 |
| | 7 | **旅行業法⑦** | 第13条（禁止行為）～第14条（企画旅行を実施する旅行業者の代理、旅行業者代理業者の旅行業務） | 予習：過去問集(7)を解く。<br>復習：誤った箇所を復習する。 | 城前 |
| | 8 | **国内観光資源①** | 日本の世界遺産、ラムサール条約湿地、国立公園と自然観光資源（湖沼、山岳、峡谷、高原、湿原） | 予習：該当範囲の教科書確認<br>復習：演習問題の復習 | 森尾 |
| | 9 | **国内観光資源②** | 日本の歴史的観光資源（祭り・年中行事、郷土料理、文化施設・文化財、重伝建） | 予習：該当範囲の教科書確認<br>復習：演習問題の復習 | 森尾 |
| | 10 | **国内運賃料金<br>＜JR①＞** | 運賃に関する演習問題 | 予習：該当範囲の教科書確認<br>復習：演習問題の復習 | 森尾 |
| | 11 | **国内運賃料金<br>＜JR②＞** | 乗車券類払戻に関する演習問題 | 予習：該当範囲の教科書確認<br>復習：演習問題の復習 | 森尾 |
| | 12 | **国内運賃料金<br>＜JR③＞** | 特急料金計算（料金計算の基礎、各新幹線特急料金、新幹線乗継）に関する重点ポイントの確認 | 予習：該当範囲の教科書確認<br>復習：演習問題の復習 | 森尾 |
| | 13 | **国内運賃料金<br>＜バス・フェリー＞** | バスに関する（一部フェリー）国家試験出題傾向と重点ポイントを理解する。 | 予習：該当範囲の教科書確認<br>復習：演習問題の復習 | 森尾 |
| | 14 | **国内運賃料金<br>＜航空・宿泊＞** | 航空運賃および宿泊料金に関する国家試験出題傾向と重点ポイントを理解する。 | 予習：該当範囲の教科書確認<br>復習：演習問題の復習 | 森尾 |
| | 15 | **国家試験の模擬試験** | 模擬試験を実施する。 | 予習：試験範囲を復習する。<br>復習：模擬試験の誤答を振り返り復習する。 | 城前・森尾 |

授業科目名称　：旅行業務エキスパートＩＢ　　授業コード：01513

授業科目英文名称：Travel Business Experts ＩB

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 1 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 城前　奈美、森尾　真之（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CB110 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 旅行業法、約款、国内旅行実務に関して国家試験である国内旅行業務取扱管理者試験の模擬試験を60%以上取得する。 | 模擬試験 | 80% |
| 情報収集、分析力 | 国内旅行業務取扱管理者試験に関して、自身の成績を認識し、弱点を克服するための情報を収集し、課題解決できる。 | 課題 | 20% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本講義は、「国内旅行業務取扱管理者」国家試験合格に向け、模擬試験を受験し、その上で、国家試験直前の対策授業を受講し、苦手科目を克服していく。国家試験のいずれの科目も60点以上取得することを目指す。<br>「旅行業務エキスパートＩA」「旅行業法・約款」「国内観光資源」「国内旅行実務」の3科目を履修済み（履修中）であることを前提とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 国家試験の模擬試験を2回実施し、国家試験合格に値する正答率であるかどうかを評価する（80%）。また、直前対策で実施する課題への取り組み状況や正答率を評価する（20%）。これら模擬試験や課題に関する答え合わせや解説（フィードバック）については、授業内でなされる。 |
| 授業概要 | ８月から９月初旬にかけて、国家試験の本番ですべての科目において60点以上取得するために、模擬試験を受験し、国家試験直前の対策授業に参加する。これらの授業を通して、自身の弱点を克服していく。旅行業法と約款については、城前が担当し、国内運賃・料金や国内観光資源は森尾が担当する。担当教員の国内旅行事業実務経験と知見を活かした実践的科目である。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：『国内観光資源』『国内運賃・料金』『旅行業法及びこれに基づく命令』『旅行業約款、運送・宿泊約款』<br>の４冊。いずれもJTB総合研究所<br>模擬試験問題『国内旅行業務取扱管理者』2回分 約5,500円程度<br>参考書：『国内旅行業務取扱管理者・科目別速習問題集』『国内観光地理サブノート』JTB総合研究所<br>指定図書：『旅行業法及びこれに基づく命令』JTB総合研究所 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 本授業は、国家試験を受験する学生のみ履修すること。「旅行業務エキスパートＩA」「旅行業法・約款」「国内観光資源」「国内旅行実務」の4科目を履修済み（もしくは履修中）であることを前提とする。<br>また、2回の模擬試験の結果が、単位取得を左右するので、しっかり試験範囲を復習し、模擬試験に臨むこと。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | **国家試験直前対策<br>旅行業法①** | 第1条（旅行業法の目的）～第12条（料金の掲示、旅行業約款、取引条件の説明、書面の交付） | 予習：旅行業法を復習する。<br>復習：弱点を復習する。 | 城前 |
| 2 | **国家試験直前対策<br>旅行業法②** | 第12条（外務員、広告、誇大広告の禁止、標識、企画旅行の円滑な実施のための措置、旅程管理業務を行う者）～第22条（旅行業協会） | 予習：旅行業法を復習する。<br>復習：弱点を復習する。 | 城前 |
| 3 | **国家試験直前対策<br>約款①** | 募集型企画旅行契約の部<br>第1章（総則）～第4章（契約の解除） | 予習：約款を復習する。<br>復習：弱点を復習する。 | 城前 |
| 4 | **国家試験直前対策<br>約款②** | 募集型企画旅行契約の部<br>第5章（団体・グループ契約）～第7章（責任） | 予習：約款を復習する。<br>復習：弱点を復習する。 | 城前 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 5 | **国家試験直前対策<br>約款③** | 募集型企画旅行契約の部<br>第7章 損害補償・特別補償・旅程保証 | 予習：約款を復習する。<br>復習：弱点を復習する。 | 城前 |
| 6 | **国家試験直前対策<br>約款④** | 受注型企画旅行契約の部、手配旅行契約の部、<br>旅行相談契約の部 | 予習：約款を復習する。<br>復習：弱点を復習する。 | 城前 |
| 7 | **国家試験直前対策<br>約款⑤** | 運送（フェリー・バス・国内航空）約款・宿泊約款 | 予習：約款を復習する。<br>復習：弱点を復習する。 | 城前 |
| 8 | **国家試験直前対策<br>試験範囲の強化点** | 模試で全体的にスコアが良くなかったテーマについて検証し、その部分の取り組みについて整理、解説を行う。 | 予習：教科書該当欄を復習<br>復習：問題を再度行う。 | 森尾 |
| 9 | **国家試験直前対策<br>国内観光資源①** | 国家試験の設問パターンにそったテーマ別学習と想定問題（観光資源の選択、世界遺産・国立公園） | 予習：教科書該当欄を復習する。<br>復習：問題を再度行う。 | 森尾 |
| 10 | **国家試験直前対策<br>国内観光資源②** | 国家試験の設問パターンにそったテーマ別学習と想定問題（モデルコース、組み合わせ） | 予習：教科書該当欄を復習する。<br>復習：問題を再度行う。 | 森尾 |
| 11 | **国家試験直前対策<br>国内運賃料金①** | 国家試験の設問パターンにそったテーマ別学習と想定問題（JR基礎、変更払戻し） | 予習：教科書該当欄を復習する。<br>復習：問題を再度行う。 | 森尾 |
| 12 | **国家試験直前対策<br>国内運賃料金②** | 国家試験の設問パターンにそったテーマ別学習と想定問題（特急料金） | 予習：教科書該当欄を復習する。<br>復習：問題を再度行う。 | 森尾 |
| 13 | **国家試験直前対策<br>国内運賃料金③** | 国家試験の設問パターンにそったテーマ別学習と想定問題（バス・フェリー） | 予習：教科書該当欄を復習する。<br>復習：問題を再度行う。 | 森尾 |
| 14 | **国家試験直前対策<br>国内運賃料金④** | 国家試験の設問パターンにそったテーマ別学習と想定問題（航空・宿泊） | 予習：教科書該当欄を復習する。<br>復習：問題を再度行う。 | 森尾 |
| 15 | **模擬試験** | 国家試験に準じた模擬試験（2時間）受験 | 予習：試験範囲を復習する。<br>復習：模擬試験の誤答を振り返り復習する。 | 城前・森尾 |

授業科目名称　：海外旅行実務　　授業コード：11610

授業科目英文名称：Practical Affairs for Overseas Travel

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| ※川口　祐子（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CB107 | | |
| 添付ファイル | | | |
| 過去の受験案内（令和6年度の総合旅行業務取扱管理者試験）.pdf | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 総合旅行業務取扱管理者試験の旅行実務と法令の問題を解けるだけの実力がある。 | ・定期試験<br>・課題<br>・授業態度 | 20%<br>20%<br>10% |
| 情報収集、分析力 | 過去問から総合旅行業務取扱管理者試験の出題傾向が予想できる。 | ・定期試験<br>・課題<br>・授業態度 | 10%<br>10%<br>10% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | 航空等の海外旅行実務や法令について説明可能なだけの知識を有することができる。 | ・定期試験<br>・課題 | 10%<br>10% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本講義は、総合旅行業務取扱管理者試験の受験を目指す学生のための授業である。旅行実務（時差・航空・鉄道・クルーズ・ホテル等）と法令の範囲をカバーする。過去問や練習問題を多く解いて総合旅行業務取扱管理者試験の傾向に慣れることを目標とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①⑧⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 定期試験(40%)・課題(40%)・授業態度(20%)により、総合的に評価する。フィードバックは授業中もしくはマナバで<br>行う。授業中に行う小テスト（復習テスト）の成績を課題の評価点とする。 授業出席率も加味する。 |
| 授業概要 | 総合旅行業務取扱管理者試験の海外旅行実務科目の内容を理解し、過去問や練習問題をこなす。授業範囲は旅行実務と法令の内容となるが、計算問題も多い。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書&指定図書：『旅行業実務シリーズ⑤出入国法令と実務 旅行実務』（株）JTB総合研究所<br>参考書：ユーキャンの国内・総合旅行業務取扱管理者 速習レッスン U-CAN （受験する人対象） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | この授業は、担当教員の旅行会社勤務及び国内・海外添乗員の経験と知見に基づく実践的な科目であり、総合旅行業務取扱管理者試験を受験する人が対象です。試験対策問題を解くことが授業の中心となります。試験は問題が多く、内容を理解していても時間が足りず涙をのむ人が少なくありません。時間内に解くには、ひたすら演習問題をこなして慣れるしかありません。JTB 総合研究所『出入国法令と実務 旅行実務』の内容が基本ですが、出題されやすい問題を整理しているのがU-CAN『ユーキャンの国内・総合旅行業務取扱管理者 速習レッスン』です。受験する人は参照されるといいでしょう。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **ガイダンス<br>都市・空港・航空会社コード・EU<br>・シェンゲン協定・ユーロ** | 総合旅行業務取扱管理者試験の概要を確認する。<br>日本に発着している世界の航空会社と世界の主たる都市・空港等・航空会社コード等について学ぶ。 | 総合旅行業務取扱管理者とは何か調べておく。コードとEUについて予習・復習を行う。 |
| 2 | **時差・フライト時間の計算** | 知っておくべき外国旅行事情について学ぶ。特に「時差」と航空機の「フライト時間」についてその概念と実際について理解を深める。 | 時差・フライト時間の計算について予習・復習を行う。 |
| 3 | **OAG時刻表・Minimum Connecting Times** | 前回学習したことについて、具体的に時刻表を使用して、所用時間や乗継時間を算出する。同ルートでも曜日によってノンストップの直行便があれば、途中寄港する便もある。 | OAG時刻表と最低乗継時間について予習・復習を行う。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 4 | **世界の鉄道** | ヨーロッパ、アメリカ、カナダ、オーストラリアの各鉄道の概要について。列車の等級と寝台車等の設備について。旅行者用の割引運賃について学ぶ。 | 世界の鉄道について予習・復習を行う。 |
| | 5 | **ヨーロッパ鉄道時刻表・海外旅行保険** | ヨーロッパ鉄道時刻表に記載されている記号等が指す意味を正確に読み取る。また海外旅行保険の重要性を知る。 | ヨーロッパ鉄道時刻表と海外旅行保険について予習・復習を行う。 |
| | 6 | **クルーズ・ホテル** | クルーズ・ホテルの種類とその特徴、等級、客室タイプ、料金建て等、クルーズ・ホテル関連用語を学ぶ。それらを通じて選択の基準がわかるようになる。 | クルーズ・ホテルについて予習・復習を行う。 |
| | 7 | **小テスト** | 時差、フライト時間の計算、OAG時刻表、Minimum Connecting Timesについて小テストを行う。 | 小テストのための準備をしてのぞむこと。計算が中心となる。 |
| | 8 | **日本人の出入国・外国人の出入国** | 日本の出国手続と入国手続に際しての審査・検疫・税関などでの規則や手順を学ぶ。 | 出入国について予習・復習を行う。 |
| | 9 | **帰国時の税関手続きと税額計算** | 日本人の入国時における旅具通関、携帯品等の免税・課税について基準表や簡易税率表等に則った正しい税額計算知識を得る。 | 帰国時の税関手続きと税額手続きについて予習・復習を行う。 |
| | 10 | **旅券法(1)** | 旅券の新規発給申請等について学習する。 | 旅券の新規発給申請等について予習・復習を行う。 |
| | 11 | **旅券法(2)** | 旅券の紛失・焼失の届出等について学習する。 | 旅券の紛失・焼失等について予習・復習を行う。 |
| | 12 | **過去問と練習問題(1)** | 航空関係の問題を中心に過去問と練習問題を行う。 | 航空関係について予習・復習を行う。 |
| | 13 | **過去問と練習問題(2)** | 鉄道・クルーズ・ホテルの問題を中心に過去問と練習問題を行う。 | 鉄道・クルーズ・ホテルについて予習・復習を行う。 |
| | 14 | **過去問と練習問題(3)** | 入国時・帰国時の問題を中心に過去問と練習問題を行う。 | 出入国について予習・復習を行う。 |
| | 15 | **過去問と練習問題(4)** | 旅券の問題を中心に過去問と練習問題を行う。 | 旅券について予習・復習を行う。 |
| | 16 | **定期試験** | 筆記試験（持込不可） | 定期試験の準備をする。 |

授業科目名称　：旅行業務エキスパートⅡA　　授業コード：11010

授業科目英文名称：Travel Business Experts ⅡA

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| ※川口　祐子（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CB223 | | |
| 添付ファイル | | | |
| 過去の受験案内（令和6年度の総合旅行業務取扱管理者試験）.pdf | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 総合旅行業務取扱管理者試験の国際航空運賃の問題を解けるだけの実力がある。 | ・試験<br>・課題<br>・授業態度 | 20%<br>20%<br>10% |
| 情報収集、分析力 | 過去問から、総合旅行業務取扱管理者試験の出題傾向が予想できる。 | ・試験<br>・課題<br>・授業態度 | 10%<br>10%<br>10% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | 航空等の海外旅行実務や法令について説明可能なだけの知識を有することができる。 | ・試験<br>・課題 | 10%<br>10% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本講義は、総合旅行業務取扱管理者試験の受験を目指す学生のための授業である。国際航空運賃について学習する。過去問や練習問題を多く解いて総合旅行業務取扱管理者試験の傾向に慣れることを目標とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①⑧⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 試験(40%)、課題(40%)、授業態度(20%)により、総合的に評価する。フィードバックは授業中もしくはマナバで行う。<br>課題のチェックは授業内で行う。 |
| 授業概要 | 総合旅行業務取扱管理者試験の国際航空運賃の内容を理解し、過去問や練習問題をこなす。計算問題が中心となる。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書&指定図書：『旅行業実務シリーズ⑥国際航空運賃 旅行業英語』（株）JTB総合研究所<br>『世界白地図』（株）JTB総合研究所<br>参考書：必要に応じて、授業内で紹介する。 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | この授業は、担当教員の旅行会社勤務及び国内・海外添乗員の経験と知見に基づく実践的な科目であり、総合旅行業務取扱管理者試験を受験する人が対象です。旅行業務エキスパートⅡBと同時に履修すること。試験対策問題を解くことが授業の中心となります。国際航空運賃は慣れるまでは大変な思いをするかもしれませんが、最も点数を稼ぎやすい分野です。ただし時間内に解くためには、ひたすら練習問題をこなし、慣れるしかありません。JTB総合研究所『国際航空運賃』の内容が基本ですが、出やすい問題を整理しているのがU-CAN『ユーキャンの国内・総合旅行業務取扱管理者 速習レッスン』です。受験する人は参照されるといいでしょう。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **ガイダンスと都市・空港・航空会社コードの復習、航空運賃の仕組み** | 航空運賃の仕組みについて学習する。 | 航空運賃の仕組みについて予習・復習を行う。 |
| 2 | **旅行形態と航空運賃の種類、HIPチェック** | 旅行形態と航空運賃の種類やHIPチェックについて学習する。 | 旅行形態と航空運賃の種類、HIPチェックについて予習・復習を行う。 |
| 3 | **NUCと割り増し料金の計算、マイレージ計算の特例** | NUCと割り増し料金の計算等を学習する。 | 割り増し運賃の仕組みについて予習・復習を行う。 |
| 4 | **キャリア運賃** | キャリア運賃表を見ながら、予約・発券、曜日運賃、最長旅行期間、乗り換え等の記述に慣れる。 | キャリア運賃表について予習・復習を行う。 |
| 5 | **電子タリフ、小児・幼児運賃** | 電子タリフの見方と小児・幼児運賃について。 | 電子タリフについて予習・復習を行う。 |
| 6 | **過去問と練習問題(1)** | 基本的な割り増し運賃を中心とした航空運賃計算問題を行う。 | 基本的割り増し運賃計算等の予習・復習を行う。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 7 | **過去問と練習問題(2)** | 基本的なキャリア運賃の航空運賃計算問題を行う。 | 基本的キャリア運賃の航空運賃計算の予習・復習を行う。 |
| | 8 | **過去問と練習問題(3)** | 基本的な結合運賃を判断する航空運賃計算問題を行う。 | 基本的結合運賃の航空運賃計算の予習・復習を行う。 |
| | 9 | **過去問と練習問題(4)** | 応用的な結合運賃を判断する航空運賃計算問題を行う。 | 応用的結合運賃の航空運賃計算の予習・復習を行う。 |
| | 10 | **過去問と練習問題(5)** | 高度な結合運賃を判断する航空運賃計算問題を行う。 | 高度な結合運賃の航空運賃計算の予習・復習を行う。 |
| | 11 | **過去問と練習問題(6)** | 複雑で高度な結合運賃を判断する航空運賃計算問題を行う。 | 複雑で高度な結合運賃の航空運賃計算の予習・復習を行う。 |
| | 12 | **過去問と練習問題(7)** | 令和6年度、令和5年度の航空運賃計算問題を行う。 | 1、2年前の過去問の予習・復習を行う。 |
| | 13 | **過去問と練習問題(8)** | 令和4年度、令和3年度の航空運賃計算問題を行う。 | 3、4年前の過去問の予習・復習を行う。 |
| | 14 | **過去問と練習問題(9)** | 令和2年度、令和元年度の航空運賃計算問題を行う。 | 5、6年前の過去問の予習・復習を行う。 |
| | 15 | **過去問と練習問題(10)** | 間違いやすい問題について整理する。 | 間違いやすい問題について予習・復習を行う。 |
| | 16 | **定期試験** | 筆記試験（持込不可） | 定期試験の準備を行う。 |

授業科目名称　：旅行業務エキスパートⅡB　　授業コード：01518

授業科目英文名称：Travel Business Experts ⅡB

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 2 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| ※川口　祐子（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CB224 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 総合旅行業務取扱管理者として、旅行業に関する知識を持つと共に、試験に合格できる能力を持つ。 | ・模擬試験の実力<br>・実践演習<br>・授業参画 | 30%<br>10%<br>5% |
| 情報収集、分析力 | 総合旅行業務取扱管理者試験の出題問題を分析できる。 | ・模擬試験の実力<br>・実践演習<br>・授業参画 | 20%<br>5%<br>5% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | 旅行業のプロとして寄与できる。 | ・模擬試験の実力<br>・実践演習 | 20%<br>5% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本講義は、総合旅行業務取扱管理者試験受験を目指す学生を対象とし、試験合格に向けてドリルをこなす。この授業の履修者は、国内旅行業務取扱管理者試験に合格（または科目合格）していることを条件とし、「海外旅行実務」「旅行業務エキスパートⅡA」（旧カリキュラム「海外旅行実務Ⅰ」「海外旅行実務Ⅱ」）を履修中および履修済みであること。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①⑧⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 模擬試験等による合格圏内の実力70%、実践演習20%、授業参画10%により、総合的に評価する。実践演習は授業内で解く演習問題の得点を加算する。期末試験や期末レポートは行わない。フィードバックは授業中に行う。 |
| 授業概要 | この授業は、担当教員の旅行会社勤務及び国内・海外添乗員の経験や知見に基づく実践的な科目であり、総合旅行業務取扱管理者資格試験のための授業です。対象試験科目は「海外旅行実務」です（国内合格者は約款が2度目になるので、わかっているものとして進めます）。ひたすら実践演習を行います。問題を解いて間違うのは構いませんが、一度間違った問題は次に間違わないように気をつけましょう。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とします。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書&指定図書：『2025年対策 旅行業務取扱管理者試験 標準トレーニング問題集 4海外旅行実務』<br>資格の大原 大原出版（株）<br>『海外観光地理サブノート』（株）JTB総合研究所<br>『JTB総合研究所模擬試験』（2024年度は）（株）JTB総合研究所 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 試験に向けて計画的に頑張りましょう。一般的に試験合格に230時間～280時間の学習は必要と言われています。間違えた場合は、できるまでやり直しましょう。2024年の受験日は10月第4日曜日でしたが、変更の可能性もあります。また、本番の試験前に実施されるJTB総合研究所主催の模擬試験（有料：2024年度は4900円）は出やすい問題が網羅されますので、必ず受験して下さい。試験の英語は英検2級～準1級相当です。英語力は付け焼刃がきかないので、日頃から英文に慣れ親しみましょう。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **ガイダンス** | 総合旅行業務取扱管理者資格試験についての説明 | 総合旅行業務取扱管理者資格試験について整理しておく。 |
| 2 | **演習1** | 海外旅行実務の時差・OAG・MCT・課税額等の計算問題 | 正確な計算のための規則を確認しておく。 |
| 3 | **演習2** | 海外観光資源（複合）、航空会社、都市・空港コードの傾向と対策問題 | 海外観光地理とコードについて把握しておく。 |
| 4 | **演習3** | 海外観光資源（アジア、中東、ヨーロッパ、北米・ハワイ、中南米、アフリカ、オセアニア）の問題 | 海外観光地理について復習し弱点を補強する。 |
| 5 | **演習4** | 出入国法令と英文読解の傾向と対策問題 | 出やすい法令や英文について検討する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 6 | **演習5** | 総合演習・弱点補強 | 5つの出題エリアのバランスを見直し、弱点分野を認識し補強する。 |
| | 7 | **試験6** | 令和2年度過去問 | 令和2年度の過去問を解き、苦手なところをチェックする。 |
| | 8 | **試験7** | 令和3年度過去問 | 令和3年度の過去問を解き、苦手なところをチェックする。 |
| | 9 | **試験8** | 令和4年度過去問 | 令和4年度の過去問を解き、苦手なところをチェックする。 |
| | 10 | **試験9** | 令和5年度過去問 | 令和5年度の過去問を解き、苦手なところをチェックする。 |
| | 11 | **試験10** | 令和6年度過去問 | 令和6年度の過去問を解き、苦手なところをチェックする。 |
| | 12 | **試験11** | 国際航空運賃の問題 | 運賃計算のルールを整理しておく。 |
| | 13 | **試験12** | JTB総合研究所模擬試験 | 出やすい問題を網羅した模試に参加する。 |
| | 14 | **試験13** | JTB総合研究所模擬試験の振り返り | 模試結果から自己課題を抽出し対策を練る。 |
| | 15 | **直前対策** | 試験前のまとめ 頻出事項の整理 | 時間配分や苦手分野への自己対策を再確認する。 |

授業科目名称　：海外観光資源A　　授業コード：21603

授業科目英文名称：Overseas Tourism Resources A

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1 | 2 | 選必 |
| 担当教員 | | | |
| 竹田　文雄（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CB106 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 対象国の観光資源について、その所在地、特色、観光的見どころ等を理解し、説明することができる。 | ・授業内随時試験 | 50% |
| 情報収集、分析力 | | | |
| コミュニケーション力 | 学内外での授業への積極的な参画、およびアクティブラーニングの実践ができる。 | ・授業参画度 | 20% |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | 主要観光資源の歴史的、文化的背景の多様性を理解し、説明することができる。 | ・授業内小課題 | 30% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 海外の国・地域への関心を高め、以降の国際観光資源の学修の基礎を固めることに主眼を置く。<br>・主に地理、観光、世界遺産を把握しながら、その地域の観光資源を理解する。<br>・総合旅行業務取扱管理者試験「海外観光資源」出題に対応する基本知識を学修する。<br>・対象地域は、主に南北アメリカとヨーロッパ（一部中近東を含む）とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ②⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 授業内小課題２０点　（授業の理解度及び課題解決力の達成度。ポートフォリオを使用して適宜実施。）<br>授業内随時試験６０点（授業の理解度。ポートフォリオを使用して適宜実施。）<br>授業参画度２０点　（授業課題への取組み姿勢、質問・コメント等の有無とその回数。）<br>諸々のフィードバックは、ポートフォリオおよび授業時間内に適宜実施していく。 |
| 授業概要 | 担当教員の海外旅行事業実務経験と知見を踏まえた実践的授業である。この授業は、①予習：教科書の事前読み込み、②授業時：各観光地解説とヴィジュアル資料使用による理解の深化、③復習：授業での説明ポイントを教科書で再確認、のサイクルにて学生が自発的に学修することで、確実な認識と理解を定着させることを主眼とする。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、１８０分。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：『旅行業実務シリーズ⑦ 海外旅行実務ー海外観光資源』ＪＴＢ総合研究所<br>参考書：授業中に適宜紹介。<br>指定図書：『ヨーロッパものしり紀行』くらしとグルメ編 紅山雪夫著 新潮文庫 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 受講に際しては、まずこれらの地域に興味を持ち、現地に行ってみたいと感じて欲しい。また日頃から世界地図を頭に描けるように世界の動向に注目していくことに期待する。総合旅行業務取扱管理者試験における海外観光資源対策は、知識の積み上げと関連事項との連想が必要である。よって予習と復習による知識の定着が不可欠といえる。<br>他の学生に迷惑をかけないように受講すること。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **授業の導入** | 授業の進め方のガイダンス。<br>海外観光資源を学ぶ際のポイントなどの総説。 | 予：海外観光資源、世界遺産などについて。 |
| 2 | **アメリカ合衆国（1）** | アメリカ合衆国東部および中部の観光資源とその特徴を概観する。 | 予：米国東部の観光資源、マウントラシュモア、世界を照らす自由について。 |
| 3 | **アメリカ合衆国（2）** | アメリカ合衆国西部およびハワイ州の観光資源とその特徴を概観する。 | 予：米国西部の観光資源、ラスベガス、マウナケア山について。 |
| 4 | **カナダ・メキシコ** | カナダ、メキシコの主たる観光資源とその特徴を概観する。 | 予：カナダ・メキシコの観光資源、ケベック、アステカ・マヤ文明について。 |
| 5 | **南米諸国** | 南米の代表的観光資源とその特徴を概観する。 | 予：ペルーの世界遺産、インカ文明について。 |
| 6 | **オランダ・ベルギー** | オランダ、ベルギーの観光資源とその特徴を概観する。 | 予：オランダの観光資源とフェルメール、ライクスミュージアムついて。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 7 | **北欧諸国** | ノルウェー、スウェーデン、デンマークとフィンランド、４カ国の観光資源とその特徴を概観する | 予：スカンディナヴィア諸国の観光資源とフィヨルド、スオミについて。 |
| | 8 | **英国** | 英国の観光資源とその特徴を概観する。 | 予：英国の観光資源と国を構成する４カントリーの特徴について。 |
| | 9 | **ドイツ** | ドイツの観光資源とその特徴を概観する。 | 予：ドイツの観光資源、ロマンチック街道とその３つの城壁都市について。 |
| | 10 | **スイス・オーストリア** | スイス、オーストリアの観光資源とその特徴を概観する。 | 予：両国の観光資源とユングフラウ三峰、グリンデルワルドについて。 |
| | 11 | **スペイン・ポルトガル** | スペイン、ポルトガルの観光資源とその特徴を概観する。 | 予：スペインとポルトガルの観光資源、バルセロナのガウディ建築について。 |
| | 12 | **ロシアと東ヨーロッパ諸国** | ロシア、チェコ、ポーランド、ハンガリー、バルト３国などの観光資源とその特徴を概観する。 | 予：各国観光資源とウラジオストック、カルロヴィ・ヴァリ、カレル橋について。 |
| | 13 | **ヨーロッパ文化関連** | ヨーロッパの美術、キリスト教、十字軍、世界遺産、世界の七不思議などを概観する。 | 予：ヨーロッパの美術館と著名な作品について。 |
| | 14 | **アラビア半島** | サウジアラビアおよび周辺国の観光資源とその特徴を概観する。 | 予：アラビア半島と主だった国々の位置の確認。 |
| | 15 | **総復習と全体総括** | 授業で取り上げた北米・中米・南米・欧州の国々についての総復習と全体総括。 | 予：１４週までの授業全体のレビュー。 |

授業科目名称　：海外観光資源B　　授業コード：31008

授業科目英文名称：Overseas Tourism Resources B

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| ※板垣　朝之（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CB206 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 対象国の観光資源について興味を持って学び、その所在地、歴史的背景、特色、観光的見どころ等を理解、説明することができる。 | ・小レポート<br>・期末課題 | 20%<br>20% |
| 情報収集、分析力 | 対象国、都市の歴史や文化に興味を持ち、現代アジア、オセアニア社会の諸相を相関づけて説明することができる。 | ・小レポート<br>・期末課題 | 20%<br>10% |
| コミュニケーション力 | 授業に参画し、アクテイブラーニングを積極的に実践することができる。 | ・授業参画度 | 10% |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | 主要観光資源の歴史的、文化的背景の関連性を「多様性」というキーワードで捉えて理解、説明することができる。 | ・小レポート<br>・期末課題 | 10%<br>10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | この講義では、対象となる国・地域に関する関心を高め、以降の国際観光資源学習への導入とすることを目的とし、総合旅行業務取扱管理者試験の受験を目指す学生が、この地域の観光資源に関する基礎的な知識の習得と試験に備える目標をも併せ持つ。従ってこの地域の国・地域の観光資源に興味を持つ学生の受講を歓迎する。対象とする地域は、アジア、オセアニア、南太平洋地域の諸国である。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①⑧⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 毎週の授業後にレスポンに授業へのコメント等を記入し提出し、全15週の内2回分を小レポートとして全体の50%評価とする。課題レポートはアジア/オセアニアの観光資源の活用実習を兼ねて期末に実施し40%評価とする。<br>この諸国・地域の観光資源に関し、常に興味、関心を持って授業に臨む事を参画度として10%評価し、これらを総合的に評価する。課題レポートのフィードバックは適宜ポートフォリオや授業時に行う。 |
| 授業概要 | 授業は①学生による予習（教科書の読み込み）、②授業時の解説とビジュアル資料による各観光資源理解の深化、③復習シートによる学習事項の再確認（復習）というパターンの繰り返しで進める。反復によって学習内容を再確認する事で学習内容の確実な把握、理解、定着に結び付ける。また担当教員の旅行業や海外駐在経験での知見を活かした内容を盛り込むと同時に可能な限りビジュエアル資料を使い、文字だけでの学習に変化を与えながら進めるので、まず地域に対する興味を持つこと、知識を深めることの楽しさも合わせて学んでほしい。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書＆指定図書：『海外観光資源』（株）JTB総合研究所（『海外観光資源Ａ』と共通で使用する）<br>教科書は年次の古いものでも構わないので、必ず準備すること。 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | この地域の観光資源は、歴史的・文化的に興味深く、また美しいものばかりである。総合旅行業務取扱管理者試験対策では知識の積み上げが求められるので、予習と復習の反復による知識の定着が不可欠であるが、受講にあたってはまずこの地域に興味を持ち、知識を得る事の楽しさを感じ、現地に行ってみたいと感じる事が学ぶ事の第一歩である。日常から常にこの地域の地図が頭に描けるよう現状の不確定な時代の世界の動向に注目しておく事も重要である。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **授業の進め方と地域に関する基本的理解** | 授業の進め方、準備すること、世界やこの地域を取り巻く環境について基本的理解を深める。 | 予：東南アジア・オセアニア地域がおかれた環境と現状の情報収集と教科書該当内容の確認<br>復：授業で学んだ内容の再確認 |
| 2 | **アジアの観光資源(1)<br>韓国の観光資源** | 韓国の観光資源とその特徴を概観する。 | 予：教科書の韓国観光資源の事前確認<br>復：復習シートの完成 |
| 3 | **アジアの観光資源(2)<br>台湾の観光資源** | 台湾の観光資源とその特徴を概観する。 | 予：教科書の台湾観光資源の事前確認<br>復：復習シートの完成 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 4 | **アジアの観光資源(3)**<br>**中国の観光資源①** | 中国都市部の観光資源とその特徴を概観する。 | 予：教科書の中国観光資源①都市部の事前確認<br>復：復習シートの完成 |
| | 5 | **アジアの観光資源(4)**<br>**中国の観光資源②** | 中国各地方の主な観光資源とその特徴を概観する。 | 予：教科書の中国観光資源②各地方の事前確認<br>復：復習シートの完成 |
| | 6 | **アジアの観光資源(5)**<br>**中国の観光資源③** | 中国諸地方の主な観光資源とその特徴を概観する。 | 予：教科書の中国観光資源③諸地方の事前確認<br>復：復習シートの完成予 |
| | 7 | **アジアの観光資源(6)**<br>**香港・マカオの観光資源** | 香港・マカオの観光資源とその特徴を概観する。 | 予：教科書の香港・マカオの観光資源の事前確認<br>復：復習シートの完成 |
| | 8 | **アジアの観光資源(7)**<br>**ヴェトナム・カンボジアの観光資源** | ヴェトナム・カンボジアの観光資源とその特徴を概観する。 | 予：教科書のヴェトナム・カンボジアの観光資源の事前確認<br>復：復習シートの完成 |
| | 9 | **アジアの観光資源(8)**<br>**タイの観光資源** | タイの観光資源とその特徴を概観する。 | 予：教科書のタイの観光資源の事前確認<br>復：復習シートの完成 |
| | 10 | **アジアの観光資源(9)**<br>**マレーシア・シンガポールの観光資源** | マレーシア・シンガポールの観光資源とその特徴を概観する。 | 予：教科書のマレーシア・シンガポールの観光資源の事前確認<br>復：復習シートの完成 |
| | 11 | **アジアの観光資源(10)**<br>**インドネシアの観光資源** | インドネシアの観光資源とその特徴を概観する。 | 予：教科書のインドネシアの観光資源の事前確認<br>復：復習シートの完成 |
| | 12 | **アジアの観光資源(11)**<br>**インド・ネパールの観光資源** | インド・ネパールの観光資源とその特徴を概観する。 | 予：教科書のインド・ネパールの観光資源の事前確認<br>復：復習シートの完成 |
| | 13 | **オセアニアの観光資源（1)**<br>**オーストラリアの観光資源** | オーストラリアの観光資源とその特徴を概観する。 | 予：教科書のオーストラリアの観光資源の事前確認<br>復：復習シートの完成 |
| | 14 | **オセアニアの観光資源（2)**<br>**ニュージランドと南太平洋諸国の観光資源①** | ニュジーランドと南太平洋諸国の観光資源とその特徴を概観する。 | 予：教科書のニュージーランドの観光資源の事前確認<br>復：復習シートの完成 |
| | 15 | **南太平洋諸国の観光資源②**<br>**全体のまとめ** | 南太平洋諸国・地域の観光資源とその特徴を概観する。<br>また授業全体のまとめを行う。 | 予：教科書の南太平洋諸国・地域の国観光資源の事前確認<br>復：復習シートの完成 |

授業科目名称　　：　ツアープランニング　　授業コード：　55603

授業科目英文名称：　Tour Planning

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 竹田　文雄（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CB219 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | | | |
| 情報収集、分析力 | ・ツアープランニングの各実務の概要を認識、理解して説明できる。<br>・いつ、なにを、どのセグメントに、どのような形で、どのような価格でツアー商品を造成するのか？　を考察できるようになる。 | ・授業内試験<br>・授業内小課題 | 30%<br>30% |
| コミュニケーション力 | 学内外での授業への積極的な参画、およびアクティブラーニングの実践ができる。 | ・授業参画度 | 20% |
| 協働・課題解決力 | 自分自身のアイデアをどの様に具現化できるか？　旅行商品素材の魅力をどの様に切り出して商品化すれば、お客さまに訴求できるのか？　について意見を発出できるようになる。 | ・授業内試験 | 20% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 2010年代中盤頃から、旅行業（旅行事業）をとりまく社会・市場・環境には急速な変化が見られ始め、従来型パッケージツアーはすべてDP（ダイナミックパッケージ）にシフトすると予見されていたが、COVID-19が収束しつつあるいま、旅行業はさらなる変化の時期を迎えることとなった。国内旅行では需要が回復しつつあり、従来型添乗員同行パッケージツアーも復活してきたが、海外旅行の需要の戻りは低調である。このような状況を踏まえた上で本講義では、さらなる変化の時期を迎える従来型パッケージツアーの生命線とも言える「周遊型旅程の構築」、すなわちツアープランニングの手法を学ぶことによって、学生の「考える力」を伸ばし「組み立てる感覚」を醸成していく。 |
| アクティブラーニングの類型 | ②⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 授業内試験６０点　（授業の理解度。ツアープラン２課題の完成度。）<br>授業内小課題２０点　（授業の理解度及び課題解決力の達成度。ポートフォリオを使用して適宜実施。）<br>授業参画度２０点　（授業課題への取組み姿勢。質疑等の有無とその回数。）<br>諸々のフィードバックは、ポートフォリオを用いて、または授業時間内に適宜実施していく。 |
| 授業概要 | 担当教員の旅行業実務経験と知見を踏まえての、旅行実務をトレースする授業である。ツアープランニング（旅行商品の企画・造成）に必要な基礎知識と、旅行商品が創出されるプロセスについて、海外旅行商品を例として実務の段取りを踏まえた講義の形式とする。そして履修学生自身が自身の卒業旅行をイメージしたツアープランの完成を到達目標と設定し、その完成度を評価の主軸とする。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は１８０分。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：特に定めない（レジュメをポートフォリオに掲載する）。<br>参考書：『旅行企画のつくりかた』 小林天心 虹有社<br>指定図書：『旅の賢人たちがつくったヨーロッパ旅行最強ナビ』 山田静 ＆ 久保田由希編 辰巳出版 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 資料（レジュメ）は、ポートフォリオに格納するので必要に応じて適宜参照すること。担当教員からの配布は行わない。また授業中に投影するスライドは、ポートフォリオには掲載しない。毎回の授業ではメモを取ることを習慣づけること。<br>なお上記の通り、ツアープランニング業務の各プロセス、施設素材・観光素材の選択手法、販路の差異・特性などを確認していく形式の講義であるため、旅行会社の実務に関心を持つ学生の受講を歓迎する。<br>他の学生に迷惑をかけないように受講すること。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **旅行商品の組成とプランニングの役割** | 授業の進め方のガイダンス。<br>ツアープランナーに求められるもの。 | 予：シラバス読込み。<br><br>復：ツアープランニングの基本事項についての再確認。 |
| 2 | **ツアープランニングの基礎知識（1）** | デスティネーションの「選択」と組み合わせについて。 | 予：目的地を選択する要素は何かを考える。<br><br>復：選択要素の再確認。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 3 | **ツアープランニングの基礎知識（2）** | デスティネーションと「素材」との組み合わせについて。 | 予：人気の出そうな旅行を考えて書き出す。<br><br>復：商品企画要点再確認。 |
| | 4 | **ツアープランニングの基礎知識（3）** | 素材選定と料金設定の調整について。<br>旅行素材の原価について。<br>旅行代金の設定手法について。 | 予：地上費・原価とは何かを考える。<br><br>復：コスト管理の重要性を再確認。 |
| | 5 | **旅行商品の構成要素（1）** | 旅行商品の素材（ホテル・運送機関など）の概要について。 | 予：旅行素材には何があるかを書き出す。<br><br>復：素材定義の再確認。 |
| | 6 | **旅行商品の構成要素（2）** | 旅行商品の素材（ホテル・運送機関など）の概要について。<br>（ゲストスピーカー・実務家の招聘を予定。） | 予：旅行素材の再確認。<br><br>復：ゲストスピーカーの講義内容についてのレポート作成。 |
| | 7 | **旅行商品の構成要素（3）** | ツアーコンダクター同行ツアーとノンエスコートツアーの違いについて。 | 予：ツアーコンダクターの役割を考えてくる。<br><br>復：役割の再確認。 |
| | 8 | **旅行商品の構成要素（4）** | 旅行商品の素材（観光・イベント）と関わる人（添乗員・ガイド）について。<br>（ゲストスピーカー・実務家の招聘を予定。） | 予：旅行素材の再確認。<br><br>復：ゲストスピーカーの講義内容についてのレポート作成。 |
| | 9 | **・レビュー<br>・ツアープランニング実践（1）** | ・前半第８回講義までのレビュー。<br>・ツアープラン作成についての全体的な概説。 | 予：いま行ってみたい場所をイメージする。<br><br>復：気づきの取りまとめ。 |
| | 10 | **ツアープランニング実践（2）** | ①ツアープランの作成「日本国内旅行・４日間編」。<br>ツアープラン作成概要の説明。 | 予：ツアープランの概要をイメージする。<br><br>復：ツアープランの概要を確定する。 |
| | 11 | **ツアープランニング実践（3）** | ①ツアープランの作成「日本国内旅行・４日間編」。<br>ツアープランの完成と提出。 | 予：ツアープランを作成する。<br><br>復：ツアープランを提出した際の気づきをまとめておく。 |
| | 12 | **旅行商品の販売について** | 旅行代理店による販売とその他の販売方法について。<br>WEBによる旅行商品販売の方法、WEB専売商品/ダイナミックパッケージ（DP）商品の特性とプランニングについて。 | 予：販売形態について考えてくる。<br>復：ＷＥＢ販売の特性の再確認。 |
| | 13 | **ツアープランニング実践（4）** | ①ツアープランの作成「日本国内旅行・４日間編」。<br>ツアープランについての講評。<br><br>②ツアープランの作成「日本発海外旅行・８日間編」。<br>ツアープラン作成概要の説明。 | 予：自身のツアープランをレビューする。<br><br>復：気づきの取りまとめ。 |
| | 14 | **ツアープランニング実践（5）** | ②ツアープランの作成「日本発海外旅行・８日間編」。<br>日程、移動手段、その他留意点の確認。 | 予：行程のイメージ出し。<br><br>復：作成資料のレビュー。 |
| | 15 | **ツアープランニング実践（6）** | ②ツアープランの作成「日本発海外旅行・８日間編」。ツアープランの完成と提出。<br><br>・全体総括。 | 予：14週までの授業全体のレビュー。 |

授業科目名称　：ホテル管理論　　授業コード：12610

授業科目英文名称：Hotel Management

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 井上　英也（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CB307 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | マーケティング、人事・労務管理、経理・財務管理というホテル経営の根幹業務について、第三者に対して論理的に説明し理解させることができる。 | 定期試験<br>授業貢献 | 40%<br>20% |
| 情報収集、分析力 | ホテルのみならず、ホテル業以外の幅広い産業分野のマーケティング、人事・労務管理、経理・財務管理についても情報を収集し、その話題に対し意見を述べることができる。 | レポート | 20% |
| コミュニケーション力 | 積極的に授業に参加し、課題を掘り下げて考える習慣を持ち、自分の考えをクラスメートと共有することができる。 | 授業貢献 | 10% |
| 協働・課題解決力 | ホテル運営、経営に関するプレゼンテーション（3～4名のチーム編成）で第三者の興味を喚起し、内容に対する共感を生むことができる | 授業貢献 | 10% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | ホテルを成功に導くための、マーケティング、人事・労務、経理・財務などの運営管理理論を学ぶ。<br>また、近隣のホテルを視察し、その理論がホテルの現場でどのように機能しているかを考察する。<br>競争の激しいホテル業界の先端の管理手法を学ぶことにより、様々な産業にも通じる知識が習得できる。 |
| アクティブラーニングの類型 | ②④⑤⑥⑦ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 授業貢献　：４０％ 質問、発言などの回数、グループワーク、プレゼンテーションなどを観察法で評価。<br>定期試験　：４０％ 持ち込み禁止の論述式で、主として宿泊業の産業特性に対する理解度を問う。<br>レポート　：２０％ 論旨・形式要件、およびプレゼンテーションをもとに評価。採点後、全体の講評を行う。<br>尚、テスト、課題・レポートなどへのフィードバックは、授業中あるいはManabaにおいて個別におこなう。 |
| 授業概要 | 担当教員のホテル運営に関する実務的な経験・知見による実践的な授業である。第1段階：「プロダクト（製品）・マーケティング」と「サービス・マーケティング」について理解する。/ 第2段階：ホテルの組織・人事労務管理の基本的な考え方を学ぶ。/ 第3段階：経理・財務管理について学ぶ。/第4段階：顧客・社員・業績・社会貢献の観点から永続する会社について考察する。/ 第5段階：ホテル視察をし、その結果をグループ別にプレゼンテーションする。manabaにより、適宜、理解度を確認する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書　：特に指定しない。<br>参考書　：授業の中で適時指示する。<br>指定図書：「ストラテジック・マインド」大前研一（著） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | ①インターン/アルバイトなどの就業体験から身近にある会社の管理手法に興味を持ち、改善策を考えてみる。<br>②「Hotel Management」および「ホテルビジネス英語」の履修により、ホテル運営に関する理解を深める。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション** | 講義の進め方、講義内容、試験の方法などを説明する。 | シラバスを読んでおく。 |
| 2 | **マーケティング①** | マーケティング全般の機能について学んだ上で、プロダクト（製品）・マーケティングとサービス・マーケティングの類似点、相違点について理解する。 | マーケティングの一般的な役割について調べておく。 |
| 3 | **マーケティング②** | ホテル業界でのブランド・マーケティングについて学ぶ。 | 大手ホテルチェーンにどのようなブランドがあるか調べておく。 |
| 4 | **マーケティング③** | ホテルの市場調査や自社のデータ分析（ＳＷＯＴ分析、競合分析、売上分析）の手法を学ぶ。 | ウェブサイトにある情報から、同一地域にあるホテル・旅館の比較をしてみる。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 5 | **マーケティング④** | 架空のホテルの宿泊プラン、レストランイベント、宣伝プランなどマーケティング戦略を策定することにより、理論と現実の融合方法を学ぶ。 | ホテルの商品プランをできるだけリストアップしておく。 |
| | 6 | **人事・労務管理①** | ホテルの組織と人事の役割について学ぶ。 | ホテル上場企業のＩＲリポートなどから組織図を調べておく。 |
| | 7 | **人事・労務管理②** | ホテルの人事制度の全体像を学び、日本と欧米の人事の仕組みの相違点を理解する。 | 外資系企業の人事の特徴について調べておく。 |
| | 8 | **人事・労務管理③** | 人事評価の基本と、ホテルのキャリア・パス（人材開発）について学ぶ。 | ホテルに就職したと仮定して、自分のキャリア・パスを考えてみる。 |
| | 9 | **経理・財務会計①** | 企業経営に必要不可欠な財務諸表のなかで最も重要な損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書（財務三表）の基本を学ぶ。 | 財務３表に関する宿題を解く |
| | 10 | **経理・財務会計②** | ホテルの予算管理（予算作成と執行管理）の手法を学ぶ。 | 授業内容を踏まえ、予算編成がなぜ必要であるかを考える |
| | 11 | **バランス・スコアカード** | ホテルの業績を正しく理解するための統合的な指標を学ぶ。 | バランス・スコアカードについて調べておく。 |
| | 12 | **ホテル施設インスペクションおよびプレゼンテーション①** | プレゼンテーションの基本を学ぶ | インスペクションのチェックリストを作成する |
| | 13 | **ホテル施設インスペクションおよびプレゼンテーション②** | ４～５名のチームを編成し、近隣ホテルの施設インスペクションを行う。 | 視察対象ホテルを事前調査しておく |
| | 14 | **ホテル施設インスペクションおよびプレゼンテーション③** | チームごとにパワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う。 | チーム構成員同士のチームワーク醸成を目指す |
| | 15 | **総括** | これまでのふり返り | 本講座のさらなる改善のための提案をまとめておく |

授業科目名称　：ホテル・ブライダルオペレーション　　授業コード：11613

授業科目英文名称：Hotel and Bridal Operations

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 落合　和昭（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CB228 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | ホテルの営業部門ごとの組織、サービス提供システム、収支構造の相違点と共通点に関心を持ち、各部門の専門用語を理解し説明することができる。 | 授業内確認ﾃｽﾄ<br>授業貢献 | 40%<br>20% |
| 情報収集、分析力 | 常にホテルに関心を持ち、新聞、雑誌、その他メディアにある関連記事・ニュースについて理解し、議論することができる。またホテル視察に積極的に参加し、ホテルの改善提案ができる。 | レポート | 20% |
| コミュニケーション力 | 積極的に授業に参加し、課題を掘り下げて考える習慣を持ち、自分の考えをクラスメートと共有することができる。 | 授業貢献 | 10% |
| 協働・課題解決力 | 授業中に適宜実施されるグループワークにおいて、グループにおける自分の役割を認識し、課題解決に向けた貢献をすることができる。 | 授業貢献 | 10% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | ①ホテルの営業部門（宿泊部門・レストラン部門・宴会部門・ウエディング部門）の組織、サービス、収支構造などを、担当教員および現役のホテルスタッフやハウスウエディング幹部からから学ぶ。<br>②ホテル内各部門間の相互補完関係について理解する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ② ④ ⑤ ⑥ ⑦ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 授業貢献　：４０％ 質問、発言などの回数、グループワーク、プレゼンテーションなどを観察法で評価。<br>確認ﾃｽﾄ　：４０％ 持ち込み自由の論述式で、ホテルやブライダルの産業特性に対する理解度を問う。<br>レポート　：２０％ 論旨・形式要件、およびプレゼンテーションをもとに評価。採点後、全体の講評を行う。<br>尚、テスト、課題・レポートなどへのフィードバックは、授業中あるいはポートフォリオにおいて個別におこなう。 |
| 授業概要 | 担当教員の実務的な経験・知見と現役の実務家である外部講師による実践的な授業である。原則として各部門、２～３回を1ユニットとして講義を行う。<br>【各ユニットの内容】<br>初回－担当教員が部門の全体像を解説する。１～３回－ホテルで活躍している現役ホテルスタッフから具体的な業務内容、サービスの方法やお客様との日常的なやり取りの実態について学ぶ。最終回－担当教員とホテルスタッフとの質疑応答。履修学生からの質問により内容を掘り下げて理解する。この授業の1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書　：特に指定しない。<br>参考書　：授業の中で適時指示する。<br>指定図書：「ホテルビジネス基礎編」一般社団法人日本ホテル教育センター（著） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | ① 外部講師（現役スタッフ）から多くの知識・情報を得るために、事前に質問事項を考えておく。<br>② 「宿泊業論」「ホテルビジネス実務エキスパート」も履修し、ホテルビジネスの全体像を理解する。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション** | 講義の概要、講義の進め方、試験の方法などについて説明する。 | シラバスを読んでおく。 |
| 2 | **ホテル全体把握** | ロビー、客室、レストラン、宴会場、チャペルなどを確認するとともに、新型コロナウィルス感染症対策の実態を確認する。 | ハウステンボス周辺ホテルの施設概要をホームページなどで調べてみる。 |
| 3 | **（担当教員）<br>宿泊部門の概要** | 宿泊部門は、一日２４時間、一年３６５日、宿泊客へサービスを提供するだけでなく、ホテル全体のコントロールタワーでもある。<br>また宿泊部門は部門利益率が最も高いため、この部門のオペレーション（運営）効率がホテルの利益率を左右するといっても過言ではない。ここでは主にフロント業務と客室管理業務について学ぶ。 | 「宿泊部門」の役割を考えておく。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 4 | **（外部講師・実務家）<br>フロントサービス・客室管理・宿泊販売** | 宿泊部門は、一日２４時間、一年３６５日、宿泊客へサービスを提供するだけでなく、ホテル全体のコントロールタワーでもある。<br>また宿泊部門は部門利益率が最も高いため、この部門のオペレーション（運営）効率がホテルの利益率を左右するといっても過言ではない。ここでは主にフロント業務と客室管理業務について学ぶ。 | ベルスタッフの仕事を調べ、箇条書きにする。 |
| | 5 | **（担当教員）<br>料飲部門の概要** | 料飲部門は宿泊部門と異なり、事前の予約なしで来られるお客様が多く、しかもその場でオーダーされる。そのためにお客様とのコミュニケーションにより期待に応えることがレストランの評価と業績を左右する。そのため、サービス部門と調理部門の緊密なコミュニケーションが欠かせない。また近隣のレストランとも競合するため、いつも厳しい競争にさらされている部門である。 ゲストとして利用する場合の、レストランに対する期待をまとめておく。 | ゲストとして利用する場合の、レストランに対する期待をまとめておく。 |
| | 6 | **（外部講師・実務家）<br>レストランサービス** | 料飲部門は宿泊部門と異なり、事前の予約なしで来られるお客様が多く、しかもその場でオーダーされる。そのためにお客様とのコミュニケーションにより期待に応えることがレストランの評価と業績を左右する。そのため、サービス部門と調理部門の緊密なコミュニケーションが欠かせない。 | ホテル内レストランと一般のレストランのサービスの違いを箇条書きにしてみる。 |
| | 7 | **（担当教員）<br>宴会部門の概要** | 宴会ビジネスは一件あたりの売上額が大きく、大部分のサービス要員は外部の配膳会から派遣されているため人件費のコントロールが容易である。このため一般的に部門利益率はレストラン部門に比べて高い。しかしながらホテルに対する主催者の要求レベルも高いため、宴会受注時から宴会終了時まで、ホテルのあらゆる部門によるサポート体制が不可欠である。 | 「宴会部門」に関連する書籍を読んでおく。 |
| | 8 | **（担当教員＋実務家）<br>宴会サービス・宴会販売** | 宴会ビジネスは一件あたりの売上額が大きく、大部分のサービス要員は外部の配膳会から派遣されているため人件費のコントロールが容易である。このため一般的に部門利益率はレストラン部門に比べて高い。しかしながらホテルに対する主催者の要求レベルも高いため、宴会受注時から宴会終了時まで、ホテルのあらゆる部門によるサポート体制が不可欠である。 | ホテルで行われる宴会の種類を考えて、箇条書きにする。 |
| | 9 | **ブライダル産業の概要理解** | ブライダル産業の発達史 ブライダル市場の広がり | 「ゼクシー」とはどんな情報雑誌であるか調べておく。 |
| | 10 | **ブライダルビジネスの基本およびマーケティング戦略Ⅰ** | ブライダル商品造成の仕組み（外部講師・実務家） | 披露宴にどんな外部企業がサポートしているか、調べて列記しておく。 |
| | 11 | **ブライダルビジネスの基本およびマーケティング戦略Ⅱ** | ウエディングプランナーの仕事（外部講師・実務家） | 授業内容を踏まえ、ウエディングプランナーの仕事を書き出してみる。 |
| | 12 | **ブライダルビジネスの基本およびマーケティング戦略Ⅲ** | 結婚式・披露宴のスタイルを学ぶ（外部講師・実務家） | 最近増加している「人前式」とはどんなものか、調べておく。<br>13 |
| | 13 | **ブライダルビジネスの基本およびマーケティング戦略Ⅳ** | マーケティング戦略 広告宣伝展開 婚礼セールス（外部講師・実務家） | ゼクシィを入手して、ホテルオークラの婚礼情報を調べておく。 |
| | 14 | **ハウスウエディングのビジネスモデル** | ホテル婚礼との違い（外部講師・実務家） | 「ﾊｰﾊﾞｰﾃﾗｽSasebo迎賓館」についてホームページなどで情報収集しておく。 |
| | 15 | **随時試験** | 論述式筆記試験。 | 試験の準備をする。 |

授業科目名称　：ホテルビジネス実務エキスパート　　授業コード：23008

授業科目英文名称：Hotel Operations Experts

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 落合　和昭（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CB227 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 宿泊部門・料飲部門・宴会部門・調理部門・ホテル基礎の各部門及び全体について、認定合格基準の80%以上獲得を基準とする。 | 定期試験（模試） | 70% |
| 情報収集、分析力 | ホテルビジネス実務検定のベーシック2級対象分野に関する情報を収集し、課題を解決する能力を身につける。 | 小課題 | 30% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本講義は、一般財団法人日本ホテル教育センター主催「ホテルビジネス実務検定試験」のベーシック2級認定に向けた対策授業である。20年以上の歴史を持つ当該検定は、平均受験者数4,500人と業界最大の認定試験として周知されている。本検定受験を通じて、当該検定の目標である①ホテルにおける実務知識の体系的な習得、②自己学習目標の設定と到達度の把握、を実現する。最終的には本検定に関わるいずれの科目も60%以上、全体で65%以上を取得することを目指し、関連講義と過去問題の理解習得に特化する。なお、本校での当該団体受験は原則として本講座受講者のみを対象とする（1級受験者を除く）。 |
| アクティブラーニングの類型 | ① ⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 各回の講義の最後に、小課題（練習問題や過去問題）を出題し、宿題とする。この小課題に対する答え合わせ（フィードバック）が、翌週の講義でなされ解説される。この小課題への取り組み状況や正答率を30%とする。最後に、当該試験の模擬試験を実施し、その正答率を評価する（70%）。なお本試験（団体受験）への参加（年2回予定）は原則として必須とするが、評価は模試のみ（正式な合否基準の8割程度）で行い、本試験の合否は問わない。 |
| 授業概要 | 当該検定において、合計65%以上を取得するために、練習問題や過去問題に取り組み、関連する知識の習得に努める。担当教員の実務経験に基づく解説を加えることで、過去問対策のみならずホテルの基礎知識習得にも有効となる実践的科目である。なお、この授業の1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書　：「ホテルビジネス基礎編」 一般財団法人日本ホテル教育センター<br>参考書　：「ホテル観光用語辞典」 一般財団法人日本ホテル教育センター<br>指定図書：「ホテルビジネス基礎編・管理編 練習過去問題集700選」一般財団法人日本ホテル教育センター |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 本授業は、当該認定試験を受験する学生は必ず履修すること。「宿泊業論」「ホテル・ブライダルオペレーション」の同時履修を強く推奨する。<br>ホテルビジネス実務検定のベーシック1級取得については、既に2級を認定された学生を対象として、専門演習やQ-LEARNシステムを通じて情報を提供し、団体受験を同時に行う。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション** | 講義の概要、講義の進め方、試験の方法などについて説明する。 | 予習：シラバスを読む。<br>復習：過去問題に回答する。 |
| 2 | **宿泊部門Ⅰ** | 第1節 宿泊部門の概要（商品特性・組織と役割）<br>（教科書P64～P67）（指定図書P15～P25） | ホテルに必須とされる宿泊部門から学習を開始する。<br>予習：教科書の該当箇所を読んで質問をまとめる。<br>復習：次回の過去問題を回答する。 |
| 3 | **宿泊部門Ⅱ** | 第2節 宿泊部門の実務（基本知識・担当業務）<br>（教科書P68～P90）（指定図書P15～P25） | ホテルに必須とされる宿泊部門から学習を開始する。<br>予習：教科書の該当箇所を読んで質問をまとめる。<br>復習：次回の過去問題を回答する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 4 | **4宿泊部門Ⅲ** | 宿泊部門のまとめ<br>（教科書P91～P92）（指定図書P15～P25） | 予習：過去問題の間違い箇所を確認する。<br>復習：過去問題を回答する。 |
| 5 | **料飲部門Ⅰ** | 第1節 料飲部門の概要（商品特性・業務分担）<br>（教科書P93～P99）（指定図書P26～P33） | 一般的なシティホテルでは最も配置人数の多い料飲系部門について学習する。<br>予習：教科書の該当箇所を読んで質問をまとめる。<br>復習：次回の過去問題を回答する。 |
| 6 | **料飲部門Ⅱ** | 第2節 料飲部門の実務（基本知識・業務分掌）<br>（教科書P100～P127）（指定図書P26～P33） | 一般的なシティホテルでは最も配置人数の多い料飲系部門について学習する。<br>予習：教科書の該当箇所を読んで質問をまとめる。<br>復習：次回の過去問題を回答する。 |
| 7 | **宴会部門Ⅰ** | 第1節 宴会部門の概要（商品特性・組織と役割）<br>（教科書P132～P136）（指定図書P34～P42） | 一般的なシティホテルでは最も配置人数の多い料飲系部門について学習する。<br>予習：教科書の該当箇所を読んで質問をまとめる。<br>復習：次回の過去問題を回答する。 |
| 8 | **宴会部門Ⅱ** | 第2節 宴会部門の実務（基本知識・担当業務）<br>（教科書P137～P157）（指定図書P34～P42） | 一般的なシティホテルでは最も配置人数の多い料飲系部門について学習する。<br>予習：教科書の該当箇所を読んで質問をまとめる。<br>復習：次回の過去問題を回答する。 |
| 9 | **調理部門Ⅰ** | 第1節 調理部門の概要（部門特性・組織）<br>（教科書P162～P166）（指定図書P43～P49） | 一般的なシティホテルでは最も配置人数の多い料飲系部門について学習する。<br>予習：教科書の該当箇所を読んで質問をまとめる。<br>復習：次回の過去問題を回答する。 |
| 10 | **調理部門Ⅱ** | 第2節 調理部門の実務（基本知識・西洋料理の担当）<br>（教科書P167～P188）（指定図書P43～P49） | 一般的なシティホテルでは最も配置人数の多い料飲系部門について学習する。<br>予習：教科書の該当箇所を読んで質問をまとめる。<br>復習：次回の過去問題を回答する。 |
| 11 | **料飲部門** | 料飲・宴会・調理部門のまとめ<br>（教科書P128～130・P158～P161・P189～191）（指定図書P26～P49）。 | 予習：過去問題の間違い箇所を確認する。<br>復習：過去問題を回答する |
| 12 | **ホテル基礎Ⅰ** | 第1節 観光産業の概要（世界動向・国内情勢）<br>（教科書P2～P21）（指定図書P4～P14） | 試験対策として、記憶力を必要とするホテル業の歴史や概要について最後に学ぶとともに、必須とされる基礎的な英会話について学習する。<br>予習：教科書の該当箇所を読んで質問をまとめる。英会話の文例を覚える。<br>復習：次回の過去問題を回答する。 |
| 13 | **ホテル基礎Ⅱ** | 第2節 ホテル産業の概要（定義・分類・組織）<br>（教科書P22～P28）（指定図書P4～P14） | 試験対策として、記憶力を必要とするホテル業の歴史や概要について最後に学ぶとともに、必須とされる基礎的な英会話について学習する。<br>予習：教科書の該当箇所を読んで質問をまとめる。英会話の文例を覚える。<br>復習：次回の過去問題を回答する。 |
| 14 | **ホテル基礎Ⅲ** | 第3節 実務者として必要な基礎知識（国際慣習等）<br>（教科書P29～P38）（指定図書P4～P14） | 試験対策として、記憶力を必要とするホテル業の歴史や概要について最後に学ぶとともに、必須とされる基礎的な英会話について学習する。<br>予習：教科書の該当箇所を読んで質問をまとめる。英会話の文例を覚える。<br>復習：次回の過去問題を回答する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 15 | **ホテル基礎Ⅳ・総括** | 第4節 ホテル英語の基礎・総括<br>（教科書P39～P60）（指定図書P4～P14）および全て | 試験対策として、記憶力を必要とするホテル業の歴史や概要について最後に学ぶとともに、必須とされる基礎的な英会話について学習する。<br>予習：教科書の該当箇所を読んで質問をまとめる。英会話の文例を覚える。<br>復習：次回の過去問題を回答する。 |
| | 16 | **定期試験（模試）** | 筆記試験 | 予習：筆記試験の準備 |

授業科目名称　：博物館教育論　　授業コード：01517

授業科目英文名称：Museum Education

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| ※中谷　大輔（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CB212 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 博物館教育の諸理論を駆使した教育プログラムを企画することにより、専門的な実務能力を習得することができる。 | 授業参加度・態度<br>課題レポート | 10%<br>10% |
| 情報収集、分析力 | PCやスマートフォンを使って情報を集約し、簡潔な資料を作成することで、課題を客観的に分析することができる。 | 授業参加度・態度<br>課題レポート | 20%<br>14% |
| コミュニケーション力 | 表情が見えない資料を通して他者とのコミュニケーションを図ることにより、実用性のある企画書を作成することができる。 | 課題レポート | 12% |
| 協働・課題解決力 | 他者が作成した資料に対する改善策の提案を通して、課題を設定し、解決に向けた批評をすることができる。 | 課題レポート | 12% |
| 多様性理解力 | 利用者の文化的な背景や身体的特徴に配慮した教育手法を学ぶことで、多文化共生社会における博物館の役割を説明することができる。 | 授業参加度・態度<br>課題レポート | 10%<br>12% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 博物館の教育機能に関する基礎的な能力を養うため、博物館教育の意義や理念を学び、実践に関する知識と方法を習得する。特に教育プログラムの企画及びプレゼンテーションに向けた情報収集と資料作成、第三者からの指摘への対応を通して、能動的に課題を解決する能力を養う。 |
| アクティブラーニングの類型 | ②、④、⑩、 ⑫ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 評価は、課題レポート60%、授業参加度・態度40%の配分で行なう。課題レポートは論理的でかつ独自の内容が含まれていることと実現性の高さを評価基準とする。なお、課題レポートに対するフィードバックを授業で行う。授業参加度・態度は発表や教員への質問の有無と聴講時及び課題レポート作成時の姿勢を評価基準とする。 |
| 授業概要 | 長崎市恐竜博物館と佐賀県立宇宙科学館において教育普及活動に従事してきた教員が、学芸員に必要な知識として、博物館教育の意義や諸理論、歴史を概説し、多様な先進事例について紹介する。また、学習プログラムやミュージアムグッズの企画、他者の学習プログラムへの改善策の提案等、実務経験上必要な能力を課題レポートで評価する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：特に指定しない。授業時の配布資料<br>参考書：青木豊・宇野光行編『博物館学史研究事典』雄山閣（2017）：博物館学全般の知識を補完する際に使用<br>大澤夏美『ミュージアムグッズのチカラ』国書刊行会（2021）：先行事例探索の際に使用<br>指定図書：柿崎博孝・宇野慶・高橋愛『博物館教育論』[改訂第2版]（2022） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 授業の中で学習プログラムやミュージアムグッズを企画してもらうことから、事前に先行事例を調べておくこと。また、博物館や図書館などの社会教育施設だけではなく、テーマパークや店舗等で行われるイベントやワークショップにも関心をもち、積極的に参加して、その経験を博物館の教育活動に応用してほしい。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **博物館教育の意義** | 講座のガイダンスと博物館教育の意義を解説する。なかでも、博物館での学びについて、諸理論等を通して理解を深める。 | 博物館教育の意義の予習 |
| 2 | **博物館教育の歴史** | 博物館の歴史を学び、現在の博物館の役割について考える。 | 第1回目の博物館教育の意義の復習と博物館教育の歴史の予習 |
| 3 | **博物館の種類と環境** | 博物館の種類と特徴について概説する。また、実例を通して、博物館ができるまでの過程を解説し、博物館の環境について考える。 | 第2回目の博物館教育の歴史の復習と博物館の種類と環境の予習。 |
| 4 | **教育プログラムの企画(1)** | 実例を通して、教育プログラムの作成方法を解説する。その後、関心のある博物館で実施したい教育プログラムについて企画する。 | 第3回目の博物館の種類と環境の復習と教育プログラムの予習。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 5 | **教育プログラムの企画(2)<br>（課題レポート第1回）** | 前回の講座で企画した教育プログラムを第三者が理解できる企画書を制作する。（課題レポートの提出） | 第4回目の教育プログラムの復習と関心がある博物館で行われている教育プログラムの予習 |
| | 6 | **展示の意義とICTの活用** | 多様な展示例とその効果について解説する。また、ICT活用のメリットとデメリットについて考える。 | 第5回目の教育プログラムの復習と関心がある博物館の展示の予習 |
| | 7 | **ミュージアムグッズの意義<br>（課題レポート第2回）** | 実例を紹介するとともに、ミュージアムグッズ製作の流れを解説する。講座後半では、各自でミュージアムグッズを企画する。（課題レポートの提出） | 第6回目の展示の意義とICTの活用の復習とミュージアムグッズの予習 |
| | 8 | **博物館の評価** | 博物館に対する評価と教育活動の検証及び改善に向けた取り組みについて学ぶ。 | 第7回目のミュージアムグッズの復習と博物館の評価の予習 |
| | 9 | **他者の教育プログラムへの改善策の提案(1)** | 第5回の講座で他者が作成した企画書（無記名）について改善策を提案する。なお、企画書の配布は教員がランダムで行う。 | 第8回目の博物館の評価の復習と自身の企画書の精査 |
| | 10 | **他者の教育プログラムへの改善策の提案(2)<br>（課題レポート第3回）** | 前回の講座で提案した改善案について、原案の作成者が理解できるように資料を作成する。なお、改善策の提案者の氏名は公表しない。（課題レポートの提出）。 | 第9回目の他者への改善策の復習及び自身の企画書の精査 |
| | 11 | **博学連携と人材育成** | 博学連携の先行事例を紹介するとともに、次世代の博物館に係る人材の育成について考える。 | 第10目の他者への改善策の復習のと博学連携と人材育成の予習 |
| | 12 | **地域振興とSDGs** | 博物館を介した地域振興について先進事例を紹介する。まだ、SDGsの達成に向けた博物館の役割について考える。 | 第11目の博学連携と人材育成の復習と地域振興とSDGsの予習 |
| | 13 | **多文化共生社会における博物館教育** | 先進事例を紹介するとともに、多文化共生社会における博物館の役割について考える。 | 第12目の地域振興とSDGsの復習と多文化共生社会の予習 |
| | 14 | **教育プログラムの改善(1)** | 他者から提案された教育プログラムの改善策について検討し、自身の企画書を精査する。 | 第13目の多文化共生社会の復習と自身の企画書の精査 |
| | 15 | **教育プログラムの改善(2)<br>（課題レポート第4回）** | 教育プログラムの企画書を仕上げる。また、講座全体を振り返り、博物館教育について考える。（課題レポートの提出） | 第14目の自身の企画書の精査と博物館教育の全体的な復習 |

授業科目名称　：旅行ビジネス英語　　授業コード：55004

授業科目英文名称：English for Travel Business

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3 | 2 | 選必 |
| 担当教員 | | | |
| 竹田　文雄（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | CD301 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 観光関連の専門的な英語表現や用語を適切に使うことができる。<br>Appropriate use of specialized English expressions and terminology related to tourism. | ・随時試験<br>ad hoc test | 60% |
| 情報収集、分析力 | | | |
| コミュニケーション力 | 旅行ビジネスの現場を模したケーススタディに積極的に取り組み、定型的な接客英語を使えるようになる。<br>Students will be able to use standardized customer service English by actively engaging in case studies that simulate the real world of the travel business. | ・授業参画度<br>Participation | 20% |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | 旅行ビジネスのそれぞれの現場を理解して、接客英語の様々なヴァリエーションを理解することができる。<br>Understand the various variants of customer service English by understanding each site of the travel business. | ・随時試験<br>ad hoc test | 20% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 旅行会社、ホテル、航空会社、空港会社、観光施設などの実際の現場にて「知っておいたほうが得する」知識や英語表現を、様々なパターンを通して学修していく。<br>１．旅行業や観光業において多用される英語表現や用語を習得する。<br>２．旅行会社、空港、ホテルなどの実際の現場に基づいた実践的な英語を習得する。<br>３．総合旅行業務取扱管理者試験も意識した応用も含める。<br>Students will learn “must-know” knowledge and English expressions in actual workplaces such as travel agencies, hotels, airlines, airport companies, tourist facilities, etc., through a variety of patterns.<br>1. To acquire English expressions and terminology frequently used in the travel and tourism industry.<br>2. To acquire practical English based on actual workplaces such as travel agencies, airports, and hotels.<br>3. Include application of English for the Comprehensive Travel Service Supervisor Examination. |
| アクティブラーニングの類型 | ②⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 随時試験５０点　（観光関連の英語表現への習熟度。ポートフォリオ小テスト。授業中に適宜実施。）<br>(Proficiency in tourism-related English expressions. Portfolio quiz. To be given in class as needed.)<br>随時試験３０点　（授業の理解度。ポートフォリオ小テスト。授業中に適宜実施。）<br>(Comprehension of the class. Portfolio quiz. Given in class as needed.)<br>授業参画度２０点（授業課題への取組み姿勢や協働姿勢の有無、質問やコメント等の有無とその回数等）<br>(e.g., whether or not the student is willing to work on class assignments and cooperate, whether or not he/she asks questions or makes comments, and the number of times he/she does so.)<br>諸々のフィードバックは、ポートフォリオを用いて、または授業時間内に適宜実施していく。<br>Feedback will be provided through the portfolio or during class time as appropriate. |
| 授業概要 | 担当教員の海外旅行事業実務経験と知見を踏まえた実践的授業である。①予習：教科書の読み込み、②授業中：教科書のシナリオを用いた知識の習得、ケーススタディの実践、③復習：説明ポイントを教科書で再確認、のサイクルでの自発的な学修を進めていく。なおこの授業は英会話の授業では無く、旅行実務に関連する英語を学び、理解して、使ってみることを目的とする授業である。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は１８０分。<br>This is a practical class based on the practical experience and knowledge of the instructor in the overseas travel business.The course will promote spontaneous learning in the following cycle: ① Preparation: reading the textbook, ② In-class: acquiring knowledge using scenarios from the textbook and practicing case studies, ③ Review: reconfirming explanatory points in the textbook. This class is not an English conversation class, but rather a class designed to learn, understand, and use English as it relates to travel practice. The standard out-of-class study time per class for this class is 180 minutes. |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：『English for Tourism professionals』藤田玲子著 センゲージラーニング株式会社<br>参考書：特に定めない。 |

| | |
|---|---|
| | 指定図書：『English for Tourism professionals』藤田玲子著 センゲージラーニング株式会社<br>推薦図書：『９０日間で世界のどこでも働ける人になる！』 白藤 香著 総合法令出版<br><br>Textbook: “English for Tourism professionals” by Reiko Fujita, Cengage Learning Co.<br>Reference books: Not specified.<br>Designated book: “English for Tourism professionals” by Reiko Fujita, Cengage Learning Co.<br>Recommended book: “Become a person who can work anywhere in the world in 90 days! Written by Kaoru Shirafuji, Sogo Law Publications, Inc. |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 授業前は教科書に従って必ず予習を行い、授業後には各回の重要事項やキーワードを復習することがポイント。また海外から発信されるニュース、例えば「地球温暖化に伴う海面上昇が特に冬のヴェネツィアにどのような影響をもたらすか」「カリフォルニア州の森林火災がナパバレーのワイン生産にもたらす重大な影響」等に日頃から関心を持つことに期待する。なお辞書(電子辞書可)を持参の上で授業に臨むことが望ましい。<br>他の学生に迷惑をかけないように留意しながら受講すること。<br>The key is to always prepare for class according to the textbook before class, and to review important information and key words for each session after class. I also expect them to take a daily interest in news from abroad, such as “how sea level rise due to global warming will affect Venice, especially in winter,” and “the serious impact of California forest fires on Napa Valley wine production. It is recommended that students bring a dictionary (electronic dictionaries are acceptable) to class. Students are expected to take the course while taking care not to disturb other students. |
| 授業計画 | |

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション**<br>**Unit１:**<br>**Recommending a tour** | 1.授業の進め方について。<br>2.旅行の相談を受ける。<br>※旅行会社店舗のカウンターにて。<br>1. How to proceed with the class.<br>2. Travel consultation.<br>*At the counter of a travel agency store. | 予：シラバスを読込む。<br>Read the syllabus.<br>復：Topic Reading-1&2 |
| 2 | **Unit２:**<br>**Taking a tour booking** | ツアーの予約を受ける。<br>※旅行会社店舗のカウンターにて。<br>Receive tour reservations.<br>*At the counter of a travel agency store. | 予：Unit２<br>復：Topic Reading-1&2 |
| 3 | **Unit３:**<br>**Escorting a tour** | ツアーを引率する。<br>※ツアーコンダクターの業務。<br>Leading tours.<br>*Tour conductor duties. | 予：Unit３<br>復：Topic Reading-1&2 |
| 4 | **Unit４:**<br>**Welcoming international tourists** | 海外からのお客さまをお迎えする。<br>※観光地でのガイド業務について。<br>Welcoming guests from abroad.<br>*Guiding services at tourist attractions. | 予：Unit４<br>復：Topic Reading-1&2 |
| 5 | **Unit 5:**<br>**Taking an airline reservation** | フライト予約の相談を受ける。<br>※航空会社の予約セクションにて。<br>Consultations for flight reservations.<br>*In the reservation section of the airline. | 予：Unit５<br>復：Topic Reading-1&2. |
| 6 | **Unit 6:**<br>**Giving flight information** | フライトやサービスについての問い合わせを受ける。<br>※航空会社の予約セクションにて。<br>Receive inquiries about flights and services.<br>*In the reservation section of the airline. | 予：Unit６<br>復：Topic Reading-1&2. |
| 7 | **Unit 7:**<br>**Helping Passengers check in** | チェックインするお客さまをお迎えする。<br>※空港のチェックインカウンターにて。<br>Welcoming customers checking in.<br>*At the check-in counter at the airport. | 予：Unit７<br>復：Topic Reading-1&2. |
| 8 | **Unit 8:**<br>**Working at the boarding gate** | 搭乗を開始させる。<br>※空港の搭乗ゲートにて。<br>Let the boarding process begin.<br>*At the boarding gate of the airport. | 予：Unit８<br>復：Topic Reading-1&2. |
| 9 | **Unit 9:**<br>**Offering in-flight services** | 機内でアテンドする。<br>※フライト中の機内にて。<br>理解度チェック小テスト（予定）。<br>Attend on board the plane.<br>*On board during the flight.<br>Comprehension check quiz (tentative). | 予：Unit９<br>復：Topic Reading-1&2. |
| 10 | **Unit 10:**<br>**Giving CIQ information** | 通関・入国管理・検疫<br>※フライト中の機内にて。<br>Customs clearance, immigration and quarantine<br>*On board during flight. | 予：Unit11<br>復：Topic Reading-1&2. |
| 11 | **Unit 11:**<br>**Taking a room reservation** | ホテルの予約を受ける。<br>※ホテルの予約セクションにて。<br>Receive hotel reservations.<br>*In the hotel reservation section. | 予：Unit12<br>復：Topic Reading-1&2. |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 12 | **Unit 12:**<br>**Welcoming guests** | お客さまをお迎えする。<br>※ホテルのフロントにて。<br>Welcoming guests.<br>*At the front desk of the hotel. | 予：Unit13<br>復：Topic Reading-1&2. |
| | 13 | **Unit 13:**<br>**Helping guests** | お客さまの相談に応対する。<br>※ホテルのコンシェルジェデスクにて。<br>Provide consultation to customers.<br>*At the hotel's concierge desk. | 予：Unit14<br>復：Topic Reading-1&2. |
| | 14 | **Unit 14:**<br>**Dealing with complaints** | お客さまの要望や苦情に応対する。<br>※ホテルではどのような応対を心がけているか。<br>Respond to customer requests and complaints.<br>What kind of response do you strive for at your hotel? | 予：Unit15<br>復：Topic Reading-1&2. |
| | 15 | **Unit 15:**<br>**Sending guests off**<br>**総復習と総括** | お客さまを見送る。<br>※お客さまのご出発の流れ。<br>総復習と総括。<br>Seeing off customers.<br>*Customer departure process.<br>General review and summary. | 予：14週までの授業全体のレビュー<br>Review of the entire class through 14 weeks |

授業科目名称　：キャリア開発Ⅱ　　授業コード：12009

授業科目英文名称：Career Development Ⅱ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 落合　和昭（実務経験のある教員）、裵　孝承 | | | |
| 展開方法 | 講義・演習 | | |
| ナンバリング | BA311 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | | | |
| 情報収集、分析力 | 情報収集、<br>分析力　授業で得た気づき、情報等を基に、自分自身の現状を踏まえて将来設計に落とし込むことができる。 | ・毎週の授業レポート<br>・課題レポート | 10%<br>20% |
| コミュニケーション力 | 自分の感じた事、考えを自分の言葉で分かり易く説明し、文章で表現することができる。 | ・毎週の授業レポート<br>・課題レポート<br>・授業参画度 | 10%<br>10%<br>10% |
| 協働・課題解決力 | ・自分自身のライフプランを意識し、目的に向かって積極的に行動を起こすことができる。<br>・希望就職先を具体化し、明確な目標意識を持って就職活動に邁進することができる。 | ・毎週の授業レポート<br>・課題レポート | 20%<br>20% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | ２年間の大学生活の中で培ってきた自分自身による「自分磨き」を踏まえ、大学卒業以降の自分のライフキャリア形成上の大きな関門となる就職に備え、就活に必要な実技・知識の習得や、必要なシミュレーション等を実践する事で、希望に沿った就職活動を行う事が出来る様になる事を目標とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ① ② ⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 毎週のリフレクションカードへの記入による定期レポートを提出し40%評価する。毎回必ず自分自身の気づき、気づきの行動への転換、行動の継続の実践状況を確認してほしい。課題レポートは現在時点での自分自身の人生設計を踏まえ、課題に関して①自分の感じたことや考えを、②自分の言葉で分かり易く説明できているか否かで50%評価する。その他授業への参画等を10%評価とし、総合的に評価する。課題レポートのフィードバックは適宜授業時に行う |
| 授業概要 | 担当教員の実務経験や知見に基づく実務的な講義や、外部講師、キャリアセンター職員がテーマに即した授業形式（講義形式、グループワーク、演習形式等）で行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書/参考書：特に定めない。必要資料は授業時に適宜配布する。<br>指定図書：『君たちはどう生きるか』 吉野源三郎著 岩波文庫 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 自分自身の一生をどのように過ごすのかを考えることは人類永遠の課題である。足元では社会人として、地域の善良な一市民として、求められる素養・教養を身に付けて大学を巣立って行く事を、自分自身の人生の中でどう位置付けるかという事を常に意識しつつ、残りの大学生活を送ってほしい。その中で就職は当面する自分自身の人生におけるキャリアパスの一つであるという意識を持って授業に臨んでもらいたい。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション（自身のライフプラン構築と就職活動に向けて）・情報の収集Ⅰ（マイナビの登録と活用）** | 授業への導入、この授業が目指すポイント、当年度就職活動の一般的なスケジュール解説、キャリアセンター利用方法等について学ぶ。インターンシップの情報収集ツールである、『マイナビ2027』の登録、活用法について学ぶ | 予：シラバスを読み込む<br>マイナビの利用を考える<br>復：自身のライフプランの再確認 | 落合・裵 |
| 2 | **情報の収集Ⅱ（リクナビ・Nナビの登録と活用）** | 情報収集の方法理解を深める。<br>リクナビ・Nナビの登録・活用方法について学ぶ<br>（実務家ゲストスピーカーによる講義） | 予：リクナビ・Nナビの利用を考える<br>復：WEBでの情報収集方法を再確認 | 落合・裵・ゲストスピーカー |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 3 | **社会人としての体験Ⅰ（インターンシップ&キャリア）** | 長崎県未来人材課のなかで行われているインターンシップについて情報を収集し、今後の就職活動に備える。（長崎県未来人材課講義） | 予：インターンシップの参加について考える<br>復：実際に参加したいインターンシップを探し始める | 落合・裵・ゲストスピーカー |
| 4 | **社会人としての体験Ⅱ（インターンシップ&キャリア）（学科分離）** | 就職活動における企業・業界研究の一環であるインターンシップ等において、規定の詳細・企業の探し方等の基礎知識を学ぶ。また、先輩の体験談動画を見てインターンシップ等に対する不安を解消する。（外部講師） | 予：インターンシップの参加について考える<br>復：実際に参加したいインターンシップを探し始める | 落合・裵・ゲストスピーカー |
| 5 | **自己表現Ⅰ（自己分析・履歴書/エントリーシートの書き方）** | 就職活動や進路を考える前に、「自身はどんなことをやってみたいか？」「自身の強み・特徴は何か？」を考え、就職活動における「仮の軸」をイメージする。（外部講師） | 予：過去にあった出来事を<br>思い出しておく<br>復：自分史作成をする | 落合・裵・ゲストスピーカー |
| 6 | **自己表現Ⅱ（自己分析・履歴書/エントリーシートの書き方）** | インターンシップ参加において、履歴書やエントリーシート提出が必要な場合がある。文章作成の基本・エントリーシートのよくある質問項目における回答の書き方を学ぶ。（外部講師） | 予：過去にあった出来事を<br>思い出しておく<br>復：自己PRの文章を作り始める | 落合・裵・ゲストスピーカー |
| 7 | **相手を知る（企業研究）（学科分離）** | 自分に合う企業とはどんな企業か？を考える際に必要な「企業研究」の方法を学ぶ。（外部講師） | 予：興味のある企業や業界を考える<br>復：具体的に興味のある企業を探し、比較をする | 落合・裵・ゲストスピーカー |
| 8 | **キャリア開発に必要な能力（NIUドリルの活用）** | NIUドリルを活用し、社会人として求められる基礎能力について考え、SPI（基礎能力）検査を実践して基礎能力の向上を図る。（外部講師） | SPI（基礎能力）について調べ、問題演習を行う。 | 落合・裵・ゲストスピーカー |
| 9 | **キャリア開発の基礎（労働法に関するワークルール）** | 働くことに必要なルールについて労働局より説明頂き『労働法』を学ぶ。（長崎労働局部長講義） | ワークルールの基本知識を学ぶ。 | 落合・裵・ゲストスピーカー |
| 10 | **キャリア開発の礼儀（ビジネスマナー）** | インターンシップや企業訪問、ビジネスの場面での実践的なマナーを身につける。（外部講師） | 就職活動で必要なマナーを身に着ける。 | 落合・裵・ゲストスピーカー |
| 11 | **先輩の話を聴く** | 社会人となった先輩の就活行動と、今何をしておくべきかのアドバイスを確認する。（外部講師） | 先輩の体験談を自分の中にどのように取り込むかを考える。 | 落合・裵・ゲストスピーカー |
| 12 | **働くイメージⅠ（学科分離）** | 自分が希望する業界を考え、いずれかの講義に参加する。 | 観光：社会人基礎力を計測し、それに対する対応を計画する。<br>福祉：講義内容について、自分なりのレポートを作成する。 | 落合・裵・ゲストスピーカー |
| 13 | **働くイメージⅡ（学科分離）** | 観光：マイナビ2027イベントに一つ以上参加する（ﾚﾎﾟｰﾄ有り）。<br>福祉：業界の現役社会人から就職活動や社会人として必要な事柄を学ぶ。（外部講師） | 各業界への具体的関心を高め就活に備える。 | 落合・裵・ゲストスピーカー |
| 14 | **①観光スタートアップセミナー<br>②福祉スタートアップセミナー<br>（学科分離）** | ①または②に参加することで、企業の話を対面で聴くことにより、社会人として必要な事柄を学ぶ。（日程変更の可能性有り） | 参加企業と面談し今後の進路を考える。 | 落合・裵・ゲストスピーカーまたは合説参加施設 |
| 15 | **キャリア開発Ⅱ振り返り（学科分離）** | キャリア開発Ⅱの授業振り返り（担当教員） | 全般的な授業評定 | 落合・裵 |

授業科目名称　：医学概論　　授業コード：53019

授業科目英文名称：Introduction to Medicine

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 大町いづみ（実務経験のある教員）、廣田昌彦（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | DA201 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | (1)健康および疾病を医学的に捉えることができる。<br>(2)人体の構造と機能について医学的に理解できる。<br>(3)医学に関する質問に対して自分の考えを整理して説明できる。 | ・定期試験<br>・授業内小テスト | 75%<br>5% |
| 情報収集、分析力 | | | |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | 健康の概念・疾病について理解が十分に得られ、現実に即した問題解決のための思考・判断により福祉的な支援の方法を説明できる。 | ・定期試験 | 10% |
| 多様性理解力 | 専門的知識を基盤として実際のあらゆる場面に即した対応ができる。 | ・定期試験 | 10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本授業では、レベルの高い福祉業務を遂行していくために必要な心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要を日常生活との関係をも踏まえて理解することを目標とする。この目標を達成するために、各ライフステージにおける心身の変化と様々な健康課題、健康・疾病の捉え方をもとに、人の心身機能・身体構造の理解の上にたった疾病と障害の成り立ち及び回復過程についての理解を深める。さらに、公衆衛生の観点から人々の健康課題に及ぼす要因を解決するための対策を理解する。専門力の獲得を中心に実際のあらゆる場面において得られた理解を適切に活用できるようにすることが目標である。介護福祉士養成課程においては、介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人体の構造や機能を理解する学習とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①②③⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 定期試験の成績を95%とし筆記試験を行う。随時授業中に課した課題を評価するために「授業内小テスト」(5%)を行い、その結果を本人に伝え、理解を徹底させる。その都度フィードバックを行い確認する。 |
| 授業概要 | 医学全般に実務経験を持つ医師および看護師が担当し、講義室での授業を主とする。あらかじめ各項目ごとに作成された資料をマナバにアップロードし、解説する。それぞれの講義の最後に理解度テストを行い、ポイントを理解させる。学生はできるだけ質問し双方向の授業とする。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：特に指定しない<br>参考書：特に指定しない<br>指定図書：「新・社会福祉士養成講座１人体の構造と機能及び疾病 第３版」、中央法規 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 次回授業のテーマについてはあらかじめ伝え、マナバにアップロードしているので自分なりに大まかに概要をつかんできてほしい。また事前学習の際に生じた疑問点や授業中の疑問点は、小さなことでも良いので必ず質問してほしい。また、マナバを活用し十分な復習を行って欲しい。医学関連の授業は専門的な語句も多く、やや難解と思われるが、学生諸君も意欲的に勉強して、必ず医学の幅広い知識を修得し、将来の様々な現場で役立ててほしい。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | **健康及び疾病の捉え方と各ライフステージにおける心身の変化と健康課題** | 健康及び疾病の概念の理解と各ライフステージにおける健康課題について学ぶ。国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方について学ぶ。 | 健康・疾病と健康課題についての予習、復習。 | 大町 |
| 2 | **身体構造と心身機能（からだのしくみの理解）―1** | 人体の解剖学と生理学について学ぶ。 | 人体の解剖学と生理学についての復習。各臓器・各器官の生理学的機能についての予習。 | 廣田 |
| 3 | **身体構造と心身機能（からだのしくみの理解）―2** | 各臓器・各器官の生理学的機能について学ぶ。 | 各臓器・各器官の生理学的機能についての復習。神経系疾患についての予習。 | 廣田 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4 | **疾病と障害の成り立ち及び回復過程―1** | 脳血管障害を含む神経系疾患について学ぶ。 | 神経系疾患についての復習。認知症についての予習。 | 廣田 |
| 5 | **疾病と障害の成り立ち及び回復過程―2** | 様々な原因による認知症について学ぶ。 | 認知症についての復習。循環器系・呼吸器系疾患についての予習。 | 大町 |
| 6 | **疾病と障害の成り立ち及び回復過程―3** | 循環器系・呼吸器系疾患について学ぶ。 | 循環器系・呼吸器系疾患についての復習。消化器系疾患についての予習。 | 廣田 |
| 7 | **疾病と障害の成り立ち及び回復過程―4** | 消化器系疾患について学ぶ。 | 消化器系疾患について復習。内分泌・代謝系疾患についての予習。 | 廣田 |
| 8 | **疾病と障害の成り立ち及び回復過程―5** | 生活習慣病を含む代謝・内分泌系疾患ついて学ぶ。 | 内分泌・代謝系疾患について復習。アレルギー・リウマチ膠原病疾患についての予習。 | 廣田 |
| 9 | **疾病と障害の成り立ち及び回復過程―6** | アレルギーの概念・主なリウマチ膠原病疾患について学ぶ。 | アレルギー・リウマチ膠原病疾患についての復習。感染症についての予習。 | 廣田 |
| 10 | **疾病と障害の成り立ち及び回復過程―7** | 感染症法・感染病原体の基礎知識・主な感染症について学ぶ。 | 感染症疾患についての復習。腎・泌尿器系疾患についての予習。 | 廣田 |
| 11 | **疾病と障害の成り立ち及び回復過程―8** | 腎・泌尿器系疾患について学ぶ。 | 腎・泌尿器系疾患についての復習。血液系疾患についての予習。 | 廣田 |
| 12 | **疾病と障害の成り立ち及び回復過程―9** | 血液系疾患について学ぶ。 | 血液系疾患についての復習。感覚器系及び骨格系疾患についての予習。 | 廣田 |
| 13 | **疾病と障害の成り立ち及び回復過程―10** | 感覚器系及び骨格系疾患について学ぶ。 | 感覚器系及び骨格系疾患についての復習。精神疾患等についての予習。 | 廣田 |
| 14 | **・精神疾患の障害の成り立ち及び回復過程<br>・精神疾患の診断・統計マニュアル(DSM)の概要・** | 精神疾患の診断・統計マニュアル（DSM-V）の概要、その他について学ぶ。 | 精神疾患・DSMについての復習。リハビリテーション・公衆衛生と保健医療との関係についての予習。 | 廣田 |
| 15 | **・リハビリテーションの概要<br>・公衆衛生と医療** | リハビリテーションの定義、対象、方法その他について学ぶ。公衆衛生からみた保健医療対策について学ぶ。 | リハビリテーション及び公衆衛生と保健医療との関係についての復習。 | 大町 |
| 16 | **定期試験** | | | |

授業科目名称　：介護基礎学Ⅰ　　授業コード：33047

授業科目英文名称：Foundations of Caregiving Ⅰ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 大町いづみ（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | DA103 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 基礎的な身体やこころのしくみを踏まえ、障害や疾病に起因する背景を説明できる。 | ・定期試験<br>・小テスト | 40%<br>10% |
| 情報収集、分析力 | 自分の身体に起こる様々な現象を気付き、その機序を調べ、考察できる。 | ・定期試験 | 10% |
| コミュニケーション力 | 人間の諸臓器の解剖・生理を理解し、それぞれの関連性を説明できる。 | ・定期試験<br>・授業への参加 | 10%<br>10% |
| 協働・課題解決力 | 人間の身体に起こる様々なトラブルについて、その機序を理解し、主な対処方法を説明できる。 | ・定期試験<br>・小テスト | 10%<br>10% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 専門職として介護福祉を展開する際には、科学的根拠に基づいて、今後予測しうる様々な状況を想定していく能力が必須である。その基礎として、人体の構造や心身機能に関して基本的事項を理解し、移動、睡眠、身じたくや入浴、清潔保持、食事、排泄、終末期等の介護行為に関して心身から両面とらえることができ、安全面での留意点や心理的配慮ができるようになる。<br>本講義では、介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とすることもねらいとしたい。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①③⑦⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・定期試験の成績を70%とし、筆記試験を行う。<br>・小テスト（20%）は、4回実施する予定である。授業内で説明した重要項目について理解度の確認を行う。<br>・授業への参加(10%)、授業内で行う個人作業やグループワークへの取り組みを総合的に評価する。<br>・小テストの解説及び質問に対するフィードバックは授業中に適宜行う。 |
| 授業概要 | 医療現場での実践経験を持つ教員が担当し、グループワークやディスカッション等を活用し、人間の日常生活の基本となる、移動、睡眠、身じたく、入浴、清潔保持、食事、排泄、終末期等に関連する介護技術の根拠となる知識についての理解を深められる授業を展開する。また、ポートフォリオやレスポン等を活用した双方向型の授業を取り入れていく。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書　：最新 介護福祉士養成講座11 『こころとからだのしくみ』中央法規出版 2022年<br>参考書　：適宜紹介する<br>指定図書：介護福祉士養成テキスト 『こころとからだのしくみ』 建帛社 2017年 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | ただ単に、介護技術を提供するだけでは、福祉専門職とはいえない。専門的知識や技術を用いて対象者の状況にあわせた介護を展開してくことが重要である。そのための根拠となる身体の構造や働きや認知機能などを学び、介護過程をはじめとする、福祉実践における支援の基礎をしっかりと身につけて欲しい。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | こころとからだのしくみⅠ<br>こころのしくみの理解①（人間の基本的欲求と尊厳） | 人間の健康について理解し、介護の基本となる基本的な構えについて学ぶ。 | 復：人間の基本的欲求についてまとめる<br>復：授業の内容をまとめる |
| 2 | こころとからだのしくみⅠ<br>こころのしくみの理解② | 人間の欲求や自己概念と尊厳に関して理解する。 | 予：人間の欲求について調べておく<br>復：授業の内容をまとめる |
| 3 | こころとからだのしくみⅠ<br>こころのしくみの理解③ | こころのしくみについて、脳の機能や認知機能など基本的な理解を深める。 | 予：P24～P32を熟読しておく<br>復：授業の内容をまとめる |
| 4 | こころとからだのしくみⅠ<br>こころのしくみの理解④ | 日常生活を送る上で重要な、学習・記憶、感情・動機づけ、適応などのこころのしくみについて理解を深める。 | 予：P28～P38を熟読しておく<br>復：授業の内容をまとめる |
| 5 | こころとからだのしくみⅠ<br>からだのしくみの理解① | 人体の構造と機能の基礎的な知識理解のため、内臓・骨格・筋肉等の名称やその特徴について学ぶ。 | 予：P42～P49を熟読しておく<br>復：授業の内容をまとめる |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 6 | こころとからだのしくみⅠ<br>からだのしくみの理解② | 人体の構造と機能の基礎的な知識理解のため、神経系・感覚器官等の名称やその特徴について学ぶ。 | 予：P50～P56を熟読しておく<br>復：授業の内容をまとめる |
| 7 | こころとからだのしくみⅠ<br>からだのしくみの理解③ | 人体の構造と機能の基礎的な知識理解のため、呼吸器・循環器等の名称やその特徴について学ぶ。 | 予： P56～P60を熟読しておく<br>復：授業の内容をまとめる |
| 8 | こころとからだのしくみⅠ<br>からだのしくみの理解④ | 人体の構造と機能の基礎的な知識理解のため、消化器・泌尿器等の名称やその特徴について学ぶ。 | 予：P60～P64を熟読しておく<br>復：授業の内容をまとめる |
| 9 | こころとからだのしくみⅠ<br>からだのしくみの理解⑤ | 人体の構造と機能の基礎的な知識理解のため、筋肉・関節等の名称やその特徴について学ぶ。 | 予：P65～P72を熟読しておく<br>復：授業の内容をまとめる |
| 10 | こころとからだのしくみⅡ<br>移動に関連したこころとからだのしくみ① | 人が移動する際の基本的な姿勢やボディーメカニクスを学ぶ。 | 予： P90～P97を熟読しておく<br>復：授業の内容をまとめておく |
| 11 | こころとからだのしくみⅡ<br>移動に関連したこころとからだのしくみ② | 移動に関連したこころのしくみとからだのしくみを理解し、自立した生活を送るために重要な要素を学ぶ。 | 予： P97～P104を熟読しておく<br>復：授業の内容をまとめる |
| 12 | こころとからだのしくみⅡ<br>移動に関連したこころとからだのしくみ③ | 意欲低下や骨折など心身の機能低下が移動に及ぼす影響を学ぶ。 | 予：P106～P111を熟読しておく<br>復：授業の内容をまとめる |
| 13 | こころとからだのしくみⅡ<br>移動に関連したこころとからだのしくみ④ | 高齢者や障害者の移動に関する能力について、専門職が観察すべき点について学ぶ。 | 予： P112～P115を熟読しておく<br>復：授業の内容をまとめておく |
| 14 | こころとからだのしくみⅡ<br>身じたくに関連したこころとからだのしくみ① | 基礎知識として、爪、毛髪、口腔等の構造と機能について学び、身じたく行為の生理的な意味や心理的な意味から、セルフケアについて考えていく。 | 予：自身の身じたくのこだわりについてまとめる<br>復：要点の整理を行う |
| 15 | こころとからだのしくみⅡ<br>身じたくに関連したこころとからだのしくみ② | 身じたくに関連して、生活行為としての身じたくについて理解を深める。 | 予：事前調べ<br>復：自分で身じたくができなくなる要因について調べる |
| 16 | 定期試験 | | |

授業科目名称　：介護基礎学Ⅱ　　授業コード：31621

授業科目英文名称：Foundations of Caregiving Ⅱ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 大町いづみ（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | DA104 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 基礎的な身体やこころのしくみを踏まえ、障害や疾病に起因する背景を説明できる。 | ・定期試験<br>・課題レポート | 20%<br>15% |
| 情報収集、分析力 | 自分の身体に起こる様々な現象に気付き、機序を調べ、考察できる。 | ・定期試験 | 10% |
| コミュニケーション力 | 人間の諸臓器の解剖・生理を理解し、それぞれの関連性を説明できる。 | ・定期試験<br>・課題レポート | 10%<br>15% |
| 協働・課題解決力 | 人間の身体に起こる様々なトラブルについて、その機序を理解し、主な対処方法を説明できる。 | ・定期試験 | 30% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 専門職として介護を展開する際には、科学的根拠に基づいて、今後予測しうる様々な状況を想定していく能力が必須である。その基礎として、人体の構造や心身機能に関して基本的事項を理解し、移動、睡眠、身じたくや入浴、清潔保持、食事、排泄、終末期等の介護行為に関して心身から両面とらえることができ、安全面での留意点や心理的配慮ができるようになる。<br>本講義では、介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。そして、本学のディプロマポリシーでも示されている専門知識・技術を修得し、課題解決を図ることができるようになることもねらいとしたい。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①③⑦⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・定期試験（70%）：筆記試験（持ち込み不可）を行う。<br>・課題レポート（30%）：ポートフォリオのアンケート機能を用いて実施する。実施後はポートフォリオや授業中にフィードバックする。別途課題は、授業内でテーマや体裁、文字数などを指示する。文字数不足および誤字・脱字、体裁が異なる場合などは減点の対象とする。 |
| 授業概要 | 人間の日常生活の基本となる、移動、睡眠、身じたく、入浴、清潔保持、食事、排泄、終末期等に関連する介護技術の根拠となる知識についての理解を深めていく。様々な機能障害や疾病等から来る生活の困難さに関し、医療現場での実践経験を有する教員が実践事例などを織り交ぜながら解説する。また、時折ディスカッション等も行いながら授業を展開する。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：介護福祉士養成講座編集委員会(2019)最新介護福祉士養成講座11『こころとからだのしくみ』<br>中央法規出版株式会社<br>参考書：適宜紹介する<br>指定図書：中央法規『最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ』 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | ただ単に、介護技術を提供するだけでは、専門職とはいえないと考えています。専門の知識や技術を用い対象者の状況にあった介護を展開してくことが重要です。そのため、必要な科学的根拠となる身体の構造や働き、精神的な関連などを学び、介護過程をはじめとする、介護全般の基礎をしっかりと身につけて欲しいです。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション**<br>**こころとからだのしくみⅡ**<br>**食事に関連したこころとからだのしくみ①** | 体をつくる栄養素、1日に必要な栄養量、水分量など、食べることの生理的意味について学ぶ。食欲・美味しさを感じる仕組みやのどが乾くしくみを理解する。 | 予：実家の雑煮の中身を調べる<br>復：要点整理 |
| 2 | **こころとからだのしくみⅡ**<br>**食事に関連したこころとからだのしくみ②** | 食物を口まで運ぶ時の視覚の情報、手の機能、姿勢と運動について学ぶ。 | 復：消化、吸収をまとめる |
| 3 | **こころとからだのしくみⅡ**<br>**食事に関連したこころとからだのしくみ③** | 嚥下障害、誤嚥のある人の食行動や、低血糖・高血糖、食欲不振、食事制限が必要な人の食行動など、食に関する機能低下や障害の原因、食事への影響を学ぶ。 | 復：糖尿病を有する人の食事の留意点、嚥下困難が及ぼす影響をまとめる |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 4 | **口腔清潔に関連したこころとからだのしくみ** | 口腔内を清潔に保つ意味、口腔ケアの定義と目的を学<br>ぶ。また、口腔ケアの留意点について理解する。 | 予：口腔の働きを調べる<br>復：要点整理 |
| | 5 | 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ① | 入浴・清潔保持に関連した身体機能のしくみと働きについて理解する。 | 予：皮膚の生理機能調べ<br>復：要点整理 |
| | 6 | 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ② | 心身の機能低下が食事に及ぼす影響に及び変化の気づきと対応について理解する。 | 予：虚弱高齢者の入浴のリスクを調べる<br>復：要点整理 |
| | 7 | 排泄に関連したこころとからだのしくみ① | 排泄の生理的な意味や、心理的な意味、便の生成や排便のしくみ、尿の生成や排尿のしくみを学ぶ。 | 予：排泄の機序調べ<br>復：要点整理 |
| | 8 | 排泄に関連したこころとからだのしくみ② | 尿や便の生成、排尿排便のしくみ、尿や便の性状や量、回数などを理解する。排泄機能の低下や障害の原因、心理面へ及ぼす影響を学ぶ。また、おむつの弊害等についても学ぶ。 | 予：正常な排便と排尿の量と回数を調べる<br>復：要点整理 |
| | 9 | 排泄に関連したこころとからだのしくみ③ | 機能の低下や障害が及ぼす排泄への影響として、排便の異常（便秘、下痢等）について学ぶ。 | 予：便秘と下痢の機序を調べる<br>復：要点整理 |
| | 10 | 排泄に関連したこころとからだのしくみ④ | 排尿の異常（頻尿、尿失禁など）について学ぶ。同時に、尿失禁に気づき把握するための観察ポイントや対応を学ぶ。また、変化への気づきと対応を重点に、医療機関や医療職との連携について学ぶ。 | 予：排尿障害の分類をまとめる<br>復：要点整理 |
| | 11 | 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ① | 睡眠に関連した身体機能のしくみと働きについて理解する。 | 予：レム睡眠とノンレム睡眠を調べる<br>復：要点整理 |
| | 12 | 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ② | 睡眠に関連する機能の低下や障害の原因、機能低下や障害が及ぼす睡眠への影響について理解する。<br>変化への気づきと対応、医療機関や医療職との連携を学ぶ。 | 予：睡眠障害がQOLに与える影響を調べる<br>復：要点整理 |
| | 13 | 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ① | 死の捉え方及び生物学的、法律的、臨床的な死を学ぶ。終末期から危篤という死に至る身体の機能低下の特徴を学び、死亡時のからだ、死後の身体的変化を学ぶ。 | 予：身近な人への死に直面した体験をまとめる<br>復：要点整理 |
| | 14 | 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ② | 死の受容の段階を学ぶ。本人だけの事ではなく、家族の「死」を受容する段階も学<br>ぶ。 | 予：家族の死の受容を調べる<br>復：尊厳死をまとめる |
| | 15 | 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ③ | 様々な苦痛の緩和のために行われる医療の実際と介護の連携を理解する。<br>死に至る身体的な変化や、死への不安や受容を踏まえた医療機関や医療職との連携のあり方について学ぶ。 | 予：死についての我が国の法的な対応を調べる<br>復：要点整理 |
| | 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：　地域福祉と包括的支援体制Ⅰ　　授業コード：　13615

授業科目英文名称：　Community Welfare and Comprehensive Support Systems Ⅰ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 韓榮芝（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | DA110 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 基礎的な地域福祉に関する用語を理解し、地域課題に積極に取り組むことができる。 | 定期試験<br>小テスト<br>課題レポート | 25%<br>10%<br>5% |
| 情報収集、分析力 | (1) 地域福祉の担い手のそれぞれの役割を整理できる。<br>(2) 国、都道府県、市町村行政や社協など福祉機関の情報を集め、既存資料の整理や新たな情報の獲得ができる。 | 課題レポート<br>小テスト<br>定期試験 | 15%<br>10%<br>25% |
| コミュニケーション力 | 地域福祉の歴史を踏まえ、現代地域社会の課題を把握し、様々な問題所在について考えることができ、地域福祉の現状と課題をテーマに合わせて表現できる。 | 授業への取組み事前調べシート | 10% |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | **地域福祉に関する基本的な考え方、展開、動向　、地域福祉における主体と対象、住民の主体形成の概念を理解する。地域福祉を推進するために、地域福祉ガバナンスと多機関協働の実施体制と担い手の役割と実情を事前調べやグループワークを通じて学び、　地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。　全ての人の人権と自己決定、及び地域における福祉の問題について考え、地域福祉の現場（特に中核都市である佐世保市など）で直面する課題に主体的・積極的に対処する基礎的な力（ディスカッションや発表を行うことによって課題解決力）を身につけることを目的とする。** |
| アクティブラーニングの類型 | ①②③⑧⑨⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 定期試験の成績を50%とし筆記試験を行う（択一式、記述問題など、50点のうち25点以上を取得すること）。小テストは20%とし、第6回目・10回目に15分程度の小テストを行う。課題レポートは20%、第8回目・11回目にそれまでの授業内容に関係する課題を問う。毎回の事前調べシートの欄に記入した内容、コメント・質疑応答も授業への参加意欲と理解度の評価対象とする。<br>また、ポートフォリオの課題、レポート、小テストなどのフィードバックを授業で行う。ポートフォリオで、課題などのフィードバックを行うので確認すること。なお、不適切な授業態度（教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯電話などの使用、居眠りなど）は、発覚した場合に減点の対象となる。 |
| 授業概要 | 地域福祉の基本的考え方と推進方法を知り、地域福祉に関わる国、都道府県及び市町村の役割、また国と地方自治体・社会福祉法人・社会福祉協議会との関係、住民組織、NPO・ボランティアなどの機関・団体の役割と機能、その現状・課題についてグループワークディスカッションなどを通じて学ぶ。また、福祉実践経験を持つ担当教員やゲストスピーカーによる講義内容についてポートフォリオで事前及び事後の学修を行う。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 最新・社会福祉士養成講座 6「地域福祉の理論と包括的支援体制」<br>参考書：必要に応じ指示する<br>指定図書：日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 最新・社会福祉士養成講座 6「地域福祉の理論と包括的支援体制」中央法規出版 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 指定教科書の次回授業予告箇所は必ず事前に一読して授業に臨むこと。<br>予習をしていれば多少難解でも授業は十分理解できるようになる。<br>また、講義を受けた後でその箇所を再読すれば、授業と復習とによって理解は確実なものとなる。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **地域福祉の考え方** | 地域社会とは何か、その概念と理念などを学ぶ。 | 地域問題とは何か、自分なりに考えてみる。1章1節の内容を読んでまとめておく。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2 | **地域福祉の動向①** | 地域社会の変化に伴う生活課題などについて知り得る。事前調べた内容を各グループで確かめ合う学修を行う。 | 1章1節を復習し、1章2節の内容を読んでまとめておく。 |
| 3 | **地域福祉の動向②** | 多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズとは何かについて学ぶ。 | 1章2節を復習し、1章3節の内容を読んでまとめておく。 |
| 4 | **地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題①** | 地域福祉の概念と範囲、及びその理念について学ぶ。<br>ソーシャルワーカーが社会的孤立や社会的排除の捉え方を理解する。 | 1章3節を復習し、1章4節の内容を読んでまとめておく。 |
| 5 | **地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題②** | 高齢者の介護領域で行われている地域包括ケアシステムについて、及び生活困窮者や子育てや障がい者領域の生活課題の実際を把握し理解する。 | 1章4節を復習し、2章1、2節の内容を読んでまとめておく。（小テストの準備） |
| 6 | **地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制①** | 小テストする。<br>包括的支援体制を構築するうえでの基本にある地域共生社会の考え方を学修し、法改正による重層的支援体制について理解する。 | 2章1、2節を復習し、2章3、4節の内容を読んでまとめておく。課題レポートの作成・提出を行う。 |
| 7 | **地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制②** | 包括的支援体制や重層的支援体制の実現に向けてのソーシャルワーカーの役割を理解する。 | 2章3、4節を復習し、2章5節の内容を読んでまとめておく。 |
| 8 | **フィールドワークとしての地域包括的支援体制（ソーシャルワーカーの役割）** | 佐世保市における地域包括ケアシステムの構築と発展・継続について事例から学ぶ。（ゲストスピーカー・実務家） | 第2章の復習。課題レポートの作成・提出を行う。<br>3章の1、2節の内容を読んでまとめておく。 |
| 9 | **地域福祉ガバナンスと多機関協働①** | ガバナンスの概念の意味と背景を理解する。相談支援や地域づくりにおいて、横断的連携や協働が求められる背景を理解する。 | 3章の1、2節を復習し、3、4節の内容の内容を読んでまとめておく。（小テストの準備） |
| 10 | **地域福祉ガバナンスと多機関協働②** | 小テストする。<br>地域福祉ガバナンスを進めるための協議の場の必要性及びそこにおけるソーシャルワーカーの役割を学ぶ。 | 3章3、4節を復習し、5節の内容を読んでまとめておく。 |
| 11 | **フィールドワークとしてのまちづくり（福祉以外の分野との機関協働の実際）** | まちづくりにおける福祉施設と福祉以外の分野との機関協働について事例から学ぶ。（ゲストスピーカー・実務家） | 課題レポートの作成し、4章1、2節の内容を読んでまとめておく。 |
| 12 | **地域福祉の基本的な考え方** | 地域福祉の概念と理論、その歴史と動向を学ぶ。 | 4章１、2節を復習し、4章3節の内容を読んでまとめておく。 |
| 13 | **地域福祉の推進主体①** | 地域福祉の推進主体と推進にかかわる主体（組織）についてその役割の実際を理解する。 | 4章3節を復習し、4章4節の内容を読んでまとめておく。 |
| 14 | **地域福祉の推進主体②** | 社会福祉法人の歴史と現状、地域福祉推進に果たす社会福祉法人の今後の役割と課題について学ぶ。 | 4章4節の内容を復習し、4章5節の内容を読んでまとめる。 |
| 15 | **地域福祉の推進主体③** | 民生委員・児童委員、保護司の歴史と現状、NPO法人やボランティアの歴史と現状について地域福祉推進に果たす今後の役割と課題について学ぶ。福祉教育の在り方について学ぶ。 | 4章5節を含め、全体内容を復習する。 |
| 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：認知症の理解Ⅰ　　授業コード：32022

授業科目英文名称：Dementia Ⅰ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 大町いづみ（実務経験のある教員）、※藤本武士（実務経験のある教員）、※福田康恵（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | DA111 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 福祉職として必要な認知症の知識を身につける。<br>認知症のケアの歴史や理念を含む、認知症を取り巻く社会的環境について理解することができる。 | 筆記試験<br>授業態度・取組 | 60%<br>10% |
| 情報収集、分析力 | 認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行うことができる。 | レポート課題 | 15% |
| コミュニケーション力 | 認知症の病態を理解し、利用者を安心・安全・安楽にできるコミュニケーション能力を修得することができる。 | レポート課題 | 5% |
| 協働・課題解決力 | 認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解することができる。周辺症状・中枢症状を理解し自分の考えを整理することができる。 | レポート課題 | 10% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を修得する。__<br>認知症の医学的・心理的側面を理解するとともに、認知症の原因となる疾病及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解する内容とする。<br>認知症の人の生活および家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえた認知症ケアの実践につながる内容とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①⑨⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 定期試験の成績を60%とし筆記試験（持ち込み不可）を行う。「レポート課題」（30%）は、随時授業中に課した課題を評価する。「授業態度・取組」（10%）は、授業に対する態度、熱意などを評価する。各教員が100点で評価し、授業回数で配分して最終評価を出す。なお、レポート課題に関しては、ポートフォリオや授業内でフィードバックを行う。 |
| 授業概要 | 医療現場で認知症の患者の診療にあたる医師、認知症看護認定看護師、看護業務と相談業務の経験をもつ教員が担当し、グループワーク等を交えながら現場実践を活かした学修を行う。認知症に関する基礎知識を学ぶ。認知症の医学的な病態、診断、最新の治療法から、認知症の原因となる病気や症状の特徴について学ぶ。認知症の人の現状や今後の推移、施策等とともに認知症ケアの変遷についても学んでいく。前半№1～10の10コマを藤本・福田、№11～15の5コマを大町が担当する。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編（2022） 最新 介護福祉士養成講座13 認知症の理解 中央法規<br>参考書：適宜紹介する<br>指定図書：介護福祉士養成講座編集委員会編（2022） 最新 介護福祉士養成講座13 認知症の理解 中央法規 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 認知症の人への対応やケアは、認知症の増悪、症状の改善に影響する。そのためにも、認知症を正しく理解し、その症状や行動について、認知症の人主体に考えていって欲しい。注意点：講義中の私語、携帯電話の使用は禁止とし他者に迷惑をかけないこと。また欠席の場合は事前連絡を行うこと。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | **認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解①** | 認知症とは何か、認知症の概念について学ぶ。 | 認知症の概念の復習。<br>次回テーマの予習。 | 大町 |
| 2 | **認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解②** | 認知症と間違えられやすい症状として、健忘、うつ病やせん妄について学ぶ。 | 健忘、うつ病、せん妄の復習。<br>認知症の診断の予習。 | 大町 |
| 3 | **認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解③** | 認知症の診断について学ぶ。 | 認知症の診断の復習。<br>主な疾患の予習。 | ※藤本 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 4 | **認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解④** | 認知症の原因となる主な病気として、アルツハイマー病、脳血管性疾患について、その症状の特徴を学ぶ。 | 認知症の原因疾患の復習。<br>その他の主な疾患の予習。 | ※藤本 |
| | 5 | **認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解⑤** | 認知症の原因となる主な病気として、レビー小体病、ピック病、その他の疾患とその症状の特徴について学ぶ。 | 認知症の原因疾患の復習。<br>次回テーマの予習。 | ※藤本 |
| | 6 | **認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解⑥** | 認知症の行動・心理症状の治療として、身体疾患の検討に関して学ぶ。 | 認知症の行動・心理症状の復習。<br>次回テーマの予習。 | ※藤本 |
| | 7 | **認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解⑦** | 認知症の行動・心理症状の治療として、向精神薬療法について学ぶ。 | 向精神療法の復習。<br>次回テーマの予習。 | ※藤本 |
| | 8 | **認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解⑧** | 認知症の評価スケールについて学ぶ。 | 評価スケールの復習。<br>認知症の予防の予習。 | ※藤本 |
| | 9 | **認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解⑨** | 認知症の予防としての生活習慣病の早期治療について学ぶ。 | 生活習慣病の早期治療の復習。<br>認知症の予防の予習。 | ※福田 |
| | 10 | **認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解⑩** | 認知症の予防として、運動、生活の改善について学ぶ。 | 認知症の予防についての復習。次回テーマの予習。 | ※福田 |
| | 11 | **認知症に伴う生活への影響と認知症ケア①** | 認知機能の変化が、本人の生活にどのような影響を及ぼすのかを学ぶ。 | 予習：教科書（指定頁）を読んでおく。<br>復習：認知症の生活への影響について整理する。 | ※福田 |
| | 12 | **認知症に伴う生活への影響と認知症ケア②** | 認知症の症状と環境との関係を学ぶ。 | 予習：認知症の基本症状を調べる。<br>復習：認知症の基本症状を整理する。 | 大町 |
| | 13 | **認知症に伴う生活への影響と認知症ケア③** | 認知症になってもこれまでの生活を続けるために必要な事柄を学ぶ。 | 予習：認知症の事例を調べる。<br>復習：事例を整理する。 | 大町 |
| | 14 | **認知症に伴う生活への影響と認知症ケア④** | 認知症による急激な環境の変化を和らげる支援を学ぶ。ユマニチュード、パーソンセンタードケアを学ぶ。 | 予習：ユマニチュード・パーソンセンタードケアについて調べる。<br>復習：ケア内容について整理する。 | 大町 |
| | 15 | **認知症に伴う生活への影響と認知症ケア⑤** | 認知症の人の生活および家族や社会との関りへの影響について学ぶ。<br>定期試験の説明を行う。 | 予習：教科書（指定頁）を読んでおく。<br>復習：定期試験に備える。 | 大町 |
| | 16 | **定期試験** | | | |

授業科目名称　：　認知症の理解Ⅱ　　授業コード：　54609

授業科目英文名称：　Dementia Ⅱ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 1 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 大町いづみ（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | DA112 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 脳の機能や高齢者の心理についての理解を深めることができる。<br>認知症に付随する身体症状や介護についての視点を身につけることができる。 | 筆記試験<br>授業態度・取組 | 50%<br>10% |
| 情報収集、分析力 | 認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行うことができる。<br>認知症や高齢者に関する医療や制度の理解を深めることができる。 | 授業態度・取組<br>授業内レポート | 5%<br>10% |
| コミュニケーション力 | 認知症の病態を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解することができる。<br>家族支援、インフォーマル等の地域資源を活かす視点を身につけることができる。 | 授業内レポート | 10% |
| 協働・課題解決力 | 認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援ができる。<br>認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制、多職種連携・協働による基礎的な支援について理解できる。 | 授業態度・取組<br>授業内レポート | 5%<br>10% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | **認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を生かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。 認知症に関する基礎的な知識を修得するとともに、認知症の人の生活、家族や社会との関りへの影響を理解し、その人の特性を踏まえた本人主体の認知症ケアの実践につながる内容とする。認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制、多職種連携・協働による基礎的な支援のための知識をグループワーク、ディスカッションを通して習得する学習とする。** |
| アクティブラーニングの類型 | ①⑥⑨⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 「定期試験」（50%）は筆記試験で行う。「授業内レポート」（30%）は、随時授業中に課した課題を評価する。<br>「授業態度・取組み」（20%）は、授業中の態度、意見、取組み等を評価し、ポートフォリオや授業内でフィードバックし、学生と共有し総合的に判断する。 |
| 授業概要 | 医療現場、訪問看護での経験を持つ教員(認知症サポーターオレンジメイト)が担当し、現場実践を活かした学修を行う。認知症（若年性の認知症も含む）の人に対する対応や支援、その家族に対する支援について学ぶ。認知症が及ぼす生活への影響、生活上の障害への対応についてグループで具体的に考えていく。さらに、今日の認知症を取り巻く様々な状況や課題を把握し、認知症の人とその家族を支える地域社会のあり方等についても学んでいく。なお、授業においては、グループワークによる議論やプレゼンテーションを行う。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：介護福祉士養成講座編集委員会編（2022） 最新 介護福祉士養成講座13 認知症の理解 中央法規<br>参考書：適宜紹介する<br>指定図書：介護福祉士養成講座編集委員会編（2022） 最新 介護福祉士養成講座13 認知症の理解 中央法規 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 専門職として認知症の人やその家族を支援することを常にイメージしながら授業に参加してほしい。認知症ケアの問題は、介護福祉士だけではなく、社会福祉士や精神保健福祉士にとっても最重要課題であると認識し、新聞やニュースで取り上げられる事柄に対して、常に関心を持つことを期待する。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **認知症の症状・特徴の再確認** | 認知症の疾患による特徴や、認知症の症状等、前期に学習したことを確認していく。 | 予習：シラバスを読み、本教科の内容を理解する。<br>復習：生活障害をADLを中心に整理する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2 | **認知症に伴う生活への影響と認知症ケア①** | 認知症の人の日常生活がスムーズに運ぶよう、認知症の人の特性を踏まえたアセスメントを学ぶ。家族や認知症の人の残存能力から、可能性も考えていく。 | 予習： BPSDの背景を考えてくる認知症の可能性について復習。 |
| 3 | **認知症に伴う生活への影響と認知症ケア②** | 認知症の人の日常生活がスムーズに運ぶよう、人間関係、居住環境など環境変化が認知症に与える影響について学び、生活環境も考慮したアセスメントを考えていく。 | 予習：本テーマの教科書を読む。<br>復習：認知症の生活環境についてと、アセスメントを整理する。 |
| 4 | **認知症に伴う生活への影響と認知症ケア③** | 食事に関して認知症の人が困難なこと、また食事での生活障害とその支援を考えていく。 | 予習：本テーマの教科書を読む。<br>復習：食事へのケア、排泄での問題を整理。 |
| 5 | **認知症に伴う生活への影響と認知症ケア④** | 排泄に関して認知症の人が困難なこと、また排泄での生活障害とその支援を考えていく。 | 予習：本テーマの教科書を読む。<br>復習：排泄ケア・入浴ケアについて整理する。 |
| 6 | **認知症に伴う生活への影響と認知症ケア⑤** | 入浴・睡眠に関して認知症の人が困難なこと、また入浴・睡眠での生活障害とその支援を考えていく。 | 予習：本テーマの教科書を読む。<br>復習：入浴・睡眠ケアについて整理する。 |
| 7 | **若年性認知症の理解** | 若年性認知症の人と家族が直面している状況、若年性認知症の人が置かれているライフステージの特徴を理解し、高齢者とは異なる問題や障害について学ぶ。<br>（ゲストスピーカー・実務家） | 予習：本テーマの教科書を読む。<br>復習：若年性認知症の問題や障害を整理する。 |
| 8 | **認知症の人への支援<br>ユマニチュードの実践** | 認知症の人への具体的な支援の実際について学ぶ。<br>（ゲストスピーカー・実務家） | 予習：本テーマについて調べておく。<br>復習：ユマニチュードの実践方法を整理する。 |
| 9 | **認知症予防への支援①** | 認知症予防のための具体的な支援方法について理解する。 | 予習：本テーマについて調べておく。<br>復習：認知症予防のための支援方法を整理する。 |
| 10 | **認知症予防への支援②<br>コグニサイズの実践** | 認知症予防への具体的な支援技術について理解する。 | 予習：本テーマについて調べておく。<br>復習：コグニサイズの実践方法を整理する。 |
| 11 | **家族への支援** | 家族の介護力の評価やレスパイトについて学び、地域のサポート体制の必要性を理解する。 | 予習：本テーマの教科書を読む。<br>復習：地域のサポート体制、近隣の状況。 |
| 12 | **認知症を取り巻く状況、連携と協働①** | 認知症に関する行政の方針や施策として、認知症高齢者支援対策の概要について学ぶ。<br>（ゲストスピーカー・実務家） | 予習：本テーマの教科書を読む。<br>復習：認知症高齢者支援対策について。 |
| 13 | **認知症を取り巻く状況、連携と協働②** | 地域包括支援センターの役割や機能を理解し、認知症高齢者とその家族への関わりや、小規模多機能型居宅介護やグループホームの役割や連携についても考える。 | 予習：本テーマの教科書を読む。<br>復習：認知症と地域の社会資源と、効果的活用の可能性を考える。 |
| 14 | **認知症を取り巻く状況、連携と協働③<br>小テスト** | 認知症の人が地域で生活を続けていけるような、コミュニティづくり、町づくりを考える。同時に、それを支える地域住民の理解と支援について学ぶ。 | 予習：本テーマの教科書を読む。復習：介護福祉士が果たす地域での役割についてまとめる。 |
| 15 | **まとめ** | 今後増加する認知症高齢者を始めとして、認知症の人の尊厳を守るケアについて考え、発表する。 | 予習：本テーマの教科書を読む。本テーマの予習。<br>復習：自身が抱える認知症ケアの課題を整理する。 |
| 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：障害の理解Ⅰ　　授業コード：23020

授業科目英文名称：Disabilities Ⅰ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 柳智盛（実務経験のある教員）、※田中千恵美（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | DB305 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 障害のある人の身体機能や心理の基礎を理解し、それを用いて説明ができる。 | ・定期試験 | 50% |
| 情報収集、分析力 | 障害者の生活や心理的特性についての諸問題及び取り組み方について調べ、それに対し指摘できる。 | ・定期試験<br>・課題レポート | 10%<br>10% |
| コミュニケーション力 | 障害のある人とのかかわり方や諸問題に対する支援について、ディスカッションを通して自分の考えを表現することができる。 | ・受講者の発表<br>・課題レポート | 10%<br>10% |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | 障害のある人の多様性を理解し、専門家として具体的にどのように接していくのかなどの支援を考えられる力を培うことができる。 | ・定期試験 | 10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 障害の概念や障害者福祉の基本理念を理解し、障害のある人を理解するため、障害のある人の身体機能や心理・社会的側面に関する基礎的知識を習得する。その基礎的知識から、障害のある人の地域での生活を目指すため日常生活に及ぼす影響を理解し、障害のある人の日常生活における体験を理解する。同時に、障害のある本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。以上を通して福祉・介護の専門的な知識と技術を理解できるようになることを目標とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ③⑤⑨⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・定期試験の評価は70%とし、2人の担当者ごとの授業内容について筆記試験を行い、評価の配分に示した通りに評価を行う。授業で提示される課題及び感想などに関する課題レポート（20%）と受講者の発表（10%）、定期試験と総合評価を行う。なお、発表・課題レポートについては、授業中又は「ポートフォリオ」を通して次回の授業までフィードバックする。<br>・定期試験は担当者によるが、基本的に選択式・穴埋め式・記述形式のいずれかで問う。設問に対してどの程度主体的かつ丁寧に自分の意見を述べることができるかを評価する。評価の配分は、田中担当：柳担当＝2：1とする。 |
| 授業概要 | 障害の基本的考え方の上に、障害のある人を理解するため、障害者の心理や身体機能に関する様々な障害（身体障害、精神障害、知的・発達障害、難病など）の種類や原因、特性を学んでいく。また、障害が及ぼす心理的影響やその支援については、講義形式とグループワークでのディスカッションを通して学んでいく。障害が日常生活に及ぼす影響を学び、その生活を考え、障害のある人、その家族への支援や、そこに携わる保健医療福祉職の連携と協働について、医療現場や役所で看護師・介護関連専門員の経験をもつ教員と心理臨床の現場での経験を持つ教員が担当し、現場実践を活かした学修を行う。<br>授業は基本的に講義形式で行い、1～10回の田中、11～15回の柳による担当分野を学ぶ。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：最新介護福祉士養成講座14（2019）『障害の理解』中央法規<br>参考書：授業の中で適宜紹介していくため準備は必要ない。<br>指定図書：最新介護福祉士養成講座14（2019）『障害の理解』中央法規 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 介護を学ぶ者として、障害のある人々の気持ちを理解することは重要なことである。障害者やその介護者を含めた生活支援を行うための根拠となる知識の修得だけでなく、障害のある人のことを具体的に考えて取り組むこと。遅刻・授業中の私語等学習態度が悪い者には厳しく対処する。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | **障害の基礎的理解** | 障害の捉え方について学ぶとともに、障害の理解がなぜ必要かを考える。 | 障害の基礎について復習し、障害者福祉について予習する。 | ※田中 |
| 2 | **障害者福祉の基本理念Ⅰ** | ノーマライゼーションやリハビリテーション、国際障害者年の理念について考える。 | 障害者福祉について復習し、視覚障害を予習する。 | ※田中 |
| 3 | **障害の医学的側面の基礎的理解①** | 視覚障害の種類と原因、特性について学ぶ。また、先天性と後天性の視覚障害の違いについて考える。 | 視覚障害を復習し、聴覚、言語機能障害を予習する。 | ※田中 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 4 | **障害の医学的側面の基礎的理解②** | 聴覚障害、言語機能障害の種類と原因、特性について学ぶ。 | 聴覚、言語機能障害を復習し、肢体不自由を予習する。 | ※田中 |
| | 5 | **障害の医学的側面の基礎的理解③** | 肢体不自由の種類と原因、特性について学ぶ。 | 肢体不自由を復習し、内部障害について予習する。 | ※田中 |
| | 6 | **障害の医学的側面の基礎的理解④** | 内部障害（心臓機能障害、じん臓機能障害、呼吸機能障害）の原因、特性について学ぶ。 | 心臓、じん臓、呼吸機能障害の復習と他の内部障害を予習する。 | ※田中 |
| | 7 | **障害の医学的側面の基礎的理解⑤** | 内部障害（ぼうこう直腸機能障害、小腸機能障害、免疫機能障害）の原因、特性について学ぶ。 | ぼうこう直腸、小腸、免疫機能障害を復習し、精神障害を予習する。 | ※田中 |
| | 8 | **障害の医学的側面の基礎的理解⑥** | 精神障害の種類と原因と特性について学ぶ。 | 精神障害を復習し、知的障害・発達障害を予習する。 | ※田中 |
| | 9 | **障害の医学的側面の基礎的理解⑦** | 知的障害・発達障害の種類と原因、特性について学び、両者の違いについて考える。 | 知的障害・発達障害を復習し、難病の予習をする。 | ※田中 |
| | 10 | **障害の医学的側面の基礎的理解⑧**<br>**まとめ** | ・難病の種類と原因と特性について学ぶ。また、重複障害について学ぶ。<br>・1回～10回の内容に関するまとめを行う。 | 難病の復習をし、障害と心理的影響を予習する。 | ※田中 |
| | 11 | **障害の心理的側面の基礎的理解①** | 障害が及ぼす心理的影響について学ぶ。 | 障害の影響を復習し、障害の種類と心理的特性・問題について予習する。 | 柳 |
| | 12 | **障害の心理的側面の基礎的理解②** | 障害の種類や程度は多様であるが、ここでは障害の種類と心理的特性、心理的問題について学ぶ。 | 障害の種類と心理的特性・問題を復習し、障害の受容について予習する。 | 柳 |
| | 13 | **障害の心理的側面の基礎的理解③** | 障害の受容について、家族にとっての受容も含めて学び、受容へ向けての支援を考える。 | 障害の受容を復習し、人が環境に適応することと障害者の社会参加について予習する。 | 柳 |
| | 14 | **障害の心理的側面の基礎的理解④** | 適応と適応機制について学ぶ。障害のある人の社会参加を阻むバリアについても考えていく。 | 人が環境に適応することの諸問題について復習し、障害が発達と日常生活へ及ぼす影響について予習する。 | 柳 |
| | 15 | **・障害の心理的側面の基礎的理解⑤**<br>**・まとめ** | ・先天性の身体障害や知的・発達障害児・者において障害が及ぼす発達や日常生活への影響を考える。<br>・11回～15回の内容に関するまとめを行う。 | 本授業の前期全体を振り返り、障害の理解について考える。 | 柳 |
| | 16 | **定期試験** | | | |

授業科目名称　：障害の理解Ⅱ　　授業コード：21607

授業科目英文名称：Disabilities Ⅱ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 柳智盛（実務経験のある教員）、※田中千恵美（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | DB306 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 障害のある人の身体機能や心理の基礎を理解し、それを用いて説明ができる。 | ・定期試験 | 50% |
| 情報収集、分析力 | 障害者の生活や心理的特性についての諸問題及び取り組み方について調べ、それに対し指摘できる。 | ・定期試験<br>・課題レポート | 10%<br>10% |
| コミュニケーション力 | 障害のある人とのかかわり方や諸問題に対する支援について、ディスカッションを通して自分の考えを表現することができる。 | ・受講者の発表<br>・課題レポート | 10%<br>10% |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | 障害のある人の多様性を理解し、専門家として具体的にどのように接していくのかなどの支援を考えられる力を培うことができる。 | ・定期試験 | 10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本授業は前期開講科目「障害の理解Ⅰ」を踏まえた科目である。引き続き障害の概念や障害者福祉の基本理念を理解し、障害のある人を理解するため、障害のある人の身体機能や心理・社会的側面に関する基礎的知識を習得する。その基礎的知識から、障害のある人の地域での生活を目指すため日常生活に及ぼす影響を理解し、障害のある人の日常生活における体験を理解する。同時に、障害のある本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。以上を通して福祉・介護の専門的な知識と技術を理解できるようになることを目標とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ③⑤⑨⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・定期試験の評価は70%とし、2人の担当者ごとの授業内容について筆記試験を行い、評価の配分に示した通りに評価を行う。授業で提示される課題及び感想などに関する課題レポート（20%）と受講者の発表（10%）、定期試験と総合評価を行う。なお、発表・課題レポートについては、授業中又は「ポートフォリオ」を通して次回の授業までフィードバックする。<br>・定期試験は担当者によるが、基本的に選択式・穴埋め式・記述形式のいずれかで問う。設問に対してどの程度主体的かつ丁寧に自分の意見を述べることができるかを評価する。評価の配分は、田中担当：柳担当＝2：1とする。 |
| 授業概要 | 障害の基本的考え方の上に、障害のある人を理解するため、障害者の心理や身体機能に関する様々な障害（身体障害、精神障害、知的・発達障害、難病など）の種類や原因、特性を学んでいく。また、障害が及ぼす心理的影響やその支援について講義形式とグループワークでのディスカッションを通して学んでいく。障害が日常生活に及ぼす影響を学び、その生活を考え、障害のある人、その家族への支援や、そこに携わる保健医療福祉職の連携と協働について、医療現場や役所で看護師・介護関連専門員の経験をもつ教員と心理臨床の現場での経験を持つ教員が担当し、現場実践を活かした学修を行う。<br>授業は基本的に講義形式で行い、1～5回の柳、6～15回の田中による担当分野を学ぶ。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：最新介護福祉士養成講座14（2019）『障害の理解』中央法規<br>参考書：系統看護学講座『解剖生理学』医学書院<br>＊参考書は田中担当分野にて使用するが、教員が適宜資料を配布するため必ず購入する必要はない。<br>指定図書：最新介護福祉士養成講座14（2019）『障害の理解』中央法規 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 介護を学ぶ者として、障害のある人々の気持ちを理解することは重要なことである。障害者やその介護者を含めた生活支援を行うための根拠となる知識の修得だけでなく、障害のある人のことを具体的に考えて取り組むこと。遅刻・授業中の私語等学習態度が悪い者には厳しく対処する。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | **発達障害児・者の理解** | 発達障害の特性とその対応について学び、日常生活支援やコミュニケーションについて考える。 | 予：発達障害の特性について事前に理解しておくこと。<br>復：発達障害児・者への対応を考える。 | 柳 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2 | **家族への支援①** | 先天性の障害のある人の家族の障害の受容とその過程での援助について学ぶ。 | 予：先天性障害のある人の受容について理解しておくこと。<br>復：障害受容について理解する。 | 柳 |
| 3 | **家族への支援②** | 家族の介護力の評価やレスパイト、支援について学び、家族への関わりについて考えていく。 | 予：家族の関わりの問題について調べておくこと。<br>復：家族支援について考える。 | 柳 |
| 4 | **連携と協働①** | 行政・関係機関、自立支援協議会との連携について学び、地域におけるサポート体制を考える。 | 予：連携の意義について考えておくこと。<br>復：連携と協働について考える。 | 柳 |
| 5 | **・連携と協働②**<br>**・まとめ** | ・保健医療職種や他の福祉職種との連携について、事例を通して学んでいく。<br>・1回～5回の内容に関するまとめを行う。 | 予：諸機関との連携のあり方についてまとめておくこと。<br>復：連携と協働について考える。 | 柳 |
| 6 | **障害者福祉とその基本理念Ⅱ** | 障害者福祉とその基本理念にについて学ぶ。 | 予：第1章を読む。<br>復：ノーマライゼーションについて考える。 | ※田中 |
| 7 | **障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援**<br>**精神障害のある人の介護①** | 精神機能障害がある人の基本的な介護の捉え方について学ぶ。 | 予：精神障害者に対するイメージについてまとめておくこと。<br>復：精神障害者の介護を考える。 | ※田中 |
| 8 | **障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援**<br>**精神障害のある人の介護②** | 薬物依存、統合失調症がある人の介護の捉え方について学ぶ。 | 予：統合失調症について調べておくこと。<br>復：精神障害者の介護を考える。 | ※田中 |
| 9 | **障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援**<br>**精神障害のある人の介護③** | 気分障害がある人の介護の捉え方について学ぶ。 | 予：気分障害について調べておくこと。<br>復：精神障害者の介護を考える。 | ※田中 |
| 10 | **障害を受けた人に対する介護の視点①** | ・障害を受けた人に対する介護の視点について学ぶ。<br>・自立支援へ向けた介護、障害を受けた人との生活を支える介護について学ぶ。 | 予：障害者総合支援法についてまとめておくこと。<br>復：障害者総合支援法を理解する。 | ※田中 |
| 11 | **障害を受けた人に対する介護の視点②** | ・障害を受けた人に対する介護の視点について学ぶ。<br>・障害者の就労支援について学ぶ。 | 予：障害者の就労を支援する施設を調べておくこと。<br>復：就労支援を理解する。 | ※田中 |
| 12 | **障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援**<br>**内部障害のある人の介護①** | 心臓、呼吸器機能障害がある人の介護の捉え方について学ぶ。 | 予：心臓と肺の役割についてまとめておくこと。<br>復：内部障害者の介護を考える。 | ※田中 |
| 13 | **障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援**<br>**内部障害のある人の介護②** | 腎臓、膀胱機能障害がある人の介護の捉え方について学ぶ。 | 予：腎臓と膀胱の役割について調べておくこと。<br>復：内部障害者の介護を考える。 | ※田中 |
| 14 | **障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援**<br>**内部障害のある人の介護③** | 直腸、小腸、免疫機能障害がある人の介護の捉え方について学ぶ。 | 予：小腸と大腸の役割について調べておくこと。<br>復：内部障害者の介護を考える。 | ※田中 |
| 15 | **・コミュニケーションを通しての障害の理解と支援**<br>**・まとめ** | ・コミュニケーションを通しての障害の理解と支援について学ぶ。<br>・6回～15回の内容に関するまとめを行う。 | 予：発語の機序について調べておくこと。<br>復：障害の理解と支援について考える。 | ※田中 |
| | **定期試験** | | | |

授業科目名称　：ソーシャルワークの理論と方法（共通）Ⅰ　授業コード：54009

授業科目英文名称：Social Work Theory and Methods (Common) I

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 山下彦（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | DB207 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | ソーシャルワークに関する理論及び方法について説明できる。<br>ソーシャルワークに関する基礎的な用語・概念を理解できる。 | 定期試験<br>作問課題 | 20%<br>30% |
| 情報収集、分析力 | ソーシャルワークに関する基礎的な用語・概念を整理できる。 | 定期試験 | 20% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | ソーシャルワークに関する事例に取り組むことができる。 | 定期試験 | 10% |
| 多様性理解力 | ソーシャルワークの対象となる人と環境について説明できる。 | 定期試験 | 20% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 福祉人材に求められる専門力の向上を中心に取り組み、ソーシャルワークにおいて求められる各種理論及び方法に関する基礎的な知識の習得を目指す。<br>具体的には、人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、ケアマネジメントを含むソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ、コンサルテーションとも関連づけてソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解するともに、集団を活用した支援（グループワーク等）について学ぶことをねらいとする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①④⑤⑦⑨⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 定期試験（70%）では、ソーシャルワークに関する知識の習得度を評価する。毎回の作問課題（30%）では、学んだ用語・概念の理解度を国家試験形式で取り組む。必要に応じて、ポートフォリオ上と授業内でフィードバックを行う。<br>なお、不適切な授業態度（教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯電話等の使用、居眠り等）は、発覚した場合に減点の対象となる。 |
| 授業概要 | 社会福祉士資格を有する教員が担当し、現場経験を活かし、SW理論を実践と結びつけて理解できるよう学修を行う。<br>基本的には講義形式で授業を進めるが、理解を深めるためのグループワークとレスポンを使った社会福祉士国家試験の過去問題も頻繁に取り入れる。人と環境との交互作用から出発し、各種実践モデルとアプローチ、グループワーク（集団を活用した支援）、スーパービジョンとコンサルテーションについて学ぶ。「ソーシャルワークとは何か」という根本的な問いを常に意識し、教員の病院勤務及び社会福祉協議会としての実務経験を基に、ソーシャルワーク特有の人間観と援助観を身につける。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：（一社）日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新・社会福祉士養成講座〈12〉ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』中央法規出版<br>参考書： 仲村優一監修：日本ソーシャルワーカー協会（1999）『ソーシャルワーク倫理ハンドブック』中央法規<br>指定図書：相澤譲治他（2006）『スーパービジョンの方法』相川書房 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 社会福祉士国家試験受験資格の指定科目であるため、国家試験を意識すること。講義を軸にしながら、予習・復習の一環として教科書を事前・事後に確認し、専門書を読む習慣を身につけるなど、抽象度及び専門性の高い内容に対する理解を深められるように努力すること。<br>なお、本科目専用のノートはもちろん、聞き慣れない専門用語について自分にとって分かりやすい言葉で記入する単語帳を導入することを強く勧める。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション**<br>**人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク①** | 科目全体の説明を経て、ソーシャルワークにおけるシステム論と生態学理論について学ぶ。<br>作問課題① | 予習：教科書10-21頁<br>復習：学修目標に関する疑問点の整理 |
| 2 | **人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク②** | バイオ・サイコ・ソーシャルモデルについて学ぶ。<br>作問課題② | 予習：教科書22-27頁<br>復習：SWモデルに関する疑問点の整理 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 3 | 人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク③ | ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークへの応用について学ぶ。<br>作問課題③ | 予習：教科書28-34頁<br>復習：SWのレベルに関する疑問点の整理 |
| 4 | ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ① | 治療・生活・ストレングスモデルとその関係について学ぶ。<br>作問課題④ | 予習：教科書123-124頁<br>復習：ストレングスモデル等に関する疑問点の整理 |
| 5 | ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ② | 心理社会的アプローチと機能的アプローチについて学ぶ。<br>作問課題⑤ | 予習：教科書128-133頁<br>復習：機能的アプローチ等についての疑問点の整理 |
| 6 | ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③ | 問題解決アプローチと課題中心アプローチについて学ぶ。<br>作問課題⑥ | 予習：教科書134-138頁<br>復習：課題中心アプローチ等についての振り返り |
| 7 | ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ④ | 危機介入アプローチと実存主義アプローチとについて学ぶ。<br>作問課題⑦ | 予習：教科書150頁<br>復習：危機介入アプローチ等に関する疑問点の整理 |
| 8 | ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ⑤ | 行動変容アプローチと認知アプローチについて学ぶ。<br>作問課題⑧ | 予習：教科書142-149頁<br>復習：認知アプローチ等についての疑問点の整理 |
| 9 | ケアマネジメント | ケアマネジメントの概要、過程、特徴について学ぶ。<br>作問課題⑨ | 予習：教科書240-255頁<br>復習：ケアマネジメントに関する疑問点の整理 |
| 10 | ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ⑥ | エンパワメント・アプローチについて学ぶ。<br>作問課題⑩ | 予習：教科書156頁<br>復習：エンパワメントに関する疑問点の整理 |
| 11 | ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ⑦ | ナラティヴ・アプローチと解決思考アプローチについて学ぶ。<br>作問課題⑪ | 予習：教科書160-170頁<br>復習：実践モデルとアプローチの整理 |
| 12 | ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ⑧ | ソーシャルワークの実践モデルとアプローチに関する過去問題を解く。<br>過去問題演習・作問課題⑫ | 予習：過去問題の回答<br>復習： 過去問題を再度読み返す |
| 13 | 集団を活用した支援① | ソーシャルワーカーがファシリテーターを務めるグループワークについて学ぶ。<br>作問課題⑬ | 予習：教科書256-267頁<br>復習：ファシリテーターの意味について整理する |
| 14 | 集団を活用した支援② | セルフヘルプグループ等について学ぶ。<br>作問課題⑭ | 予習：教科書268-279頁<br>復習： セルフヘルプに関する疑問点の整理 |
| 15 | スーパービジョンとコンサルテーション<br>まとめ | スーパービジョンとコンサルテーションの基礎とその違いについて学び、全体まとめを行う。<br>作問課題⑮ | 予習：教科書340-345頁<br>復習：定期試験の準備 |
| 16 | 定期試験 | | |

授業科目名称　：ソーシャルワークの理論と方法（共通）Ⅱ　授業コード：15606

授業科目英文名称：Social Work Theory and Methods (Common) II

| | | | |
|---|---|---|---|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 2 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 山下彦（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | DB208 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | ソーシャルワークに関する専門用語ならびにソーシャルワーク過程について説明できる。 | 定期試験 | 60% |
| 情報収集、分析力 | 事例を、エコマップやジェノグラムを用いて表現できる。 | 小テスト | 15% |
| コミュニケーション力 | 利用者主体の支援計画のためのアセスメントについて説明できる。 | 授業内課題 | 5% |
| 協働・課題解決力 | 事例検討等をする際に、主体的に個人またはグループでの活動に参加できる。 | 授業内課題 | 15% |
| 多様性理解力 | 授業・グループディスカッションを通じて、考え方の多様性を理解するとともに、それを受け入れることができる。 | 授業態度 | 5% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | この授業は、人間尊重とホスピタリティの醸成を図ることを基軸に据え、学士課程カリキュラムに沿って専門的知識・技能を習得し、それらを国際社会、及び社会生活における様々な課題に適用して解決を図ることができるよう、次の2点をねらいとする。①ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。②コミュニティワークの概要とその展開について理解する。<br>またソーシャルワークの記録とそれに係る知識・技術について学ぶ。ソーシャルワーク実習の履修を予定する学生にとっては、ソーシャルワーク演習やその他の科目とともに実習における相談支援のかかわりや支援計画作成の理論的基礎を理解することが必要となる。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①④⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 定期試験（60%）：筆記試験の形式にて行い、持ち込みは不可とする。出題形式は、概ね社会福祉士国家試験と同様とする。<br>授業態度（5%）：普段の授業中の態度、授業内課題やグループディスカッションの取り組み具合をもって評価する。<br>小テスト（15%）：5・10・15コマに復習を目的に行う。出題形式については、授業中に情報提供を行う。<br>授業内課題（20%）：随時、ポートフォリオや配布資料を基に実施する。形式等については、授業中に情報提供を行う。<br>フィードバック：小テストや授業内課題は、授業中に評価・解説する方法を用いてフィードバックしていく。 |
| 授業概要 | この授業では、ソーシャルワークの過程について展開を系統立てて学ぶとともにコミュニティワーク、ソーシャルワークの記録について知識を深める。教科書及び配布資料を用い、講義を中心とするが、学生が相互に説明をしたり、意見を交換したりするような個人またはグループでの活動を取り入れる。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新・社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座・12 ソーシャルワークの理論と方法〔共通科目〕』中央法規<br>参考書：空閑活人（2009）『ソーシャルワーク入門』ミネルヴァ書房 （専門用語理解に活用）<br>指定図書：木下大生、藤田孝典（2015）『知りたい！ソーシャルワーカーの仕事（岩波ブックレット）』岩波書店 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 適宜、実際の事例、新聞記事、社会福祉士国家試験問題（過去問）などを通して授業を進めていくので、教科書で学修した内容をさらに深めて理解してもらいたい。<br>講義は教科書の朗読を指名して行うことがあるため、読めない漢字にはふりがなをつけておくなど予習は必ず行っておくこと。大学での講義であるので、大切なものは自分で判断して、教科書に記載している内容も含めてノートに書く（メモを取る）習慣を身につけること。復習としては、知識の定着を兼ねてノート整理に努めること。 |
| 授業計画 | |

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション** | オリエンテーション。科目の目標、進め方、テーマを理解する。「ソーシャルワーク」とは何か考え、学ぶ。 | 予習：はじめにを読む。<br>復習：知識を定着させる。（ノート整理） |
| 2 | **ソーシャルワークの過程(1)** | ソーシャルワークの展開過程の流れについて学ぶ。<br>ケースの発見について学ぶ。 | 予習：1章6節、2章1節を読む。<br>復習：知識を定着させる。（ノート整理） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 3 | ソーシャルワークの過程(2)<br>受理面接(インテーク) | 受理面接(インテーク)の意義、目的、方法、留意点について学ぶ。「クライエントになる」ことを考え、学ぶ。 | 予習：2章2節を読む。<br>復習：知識を定着させる。（ノート整理） |
| | 4 | ソーシャルワークの過程(3)<br>受理面接(インテーク) | 問題把握、ニーズについて考え、学ぶ。相談援助における契約を学ぶ。 | 予習：2章2節を読む。<br>復習：知識を定着させる。（ノート整理） |
| | 5 | ソーシャルワークの過程(4)<br>事前評価(アセスメント) | 事前評価(アセスメント)の意義、目的、方法、留意点について学ぶ。 | 予習：3章1・2節を読む。<br>復習：知識を定着させる。（ノート整理） |
| | 6 | ソーシャルワークの過程(5)<br>事前評価(アセスメント) | アセスメントの視点、活用される技術を学ぶ。 | 予習：3章2・3節を読む。<br>復習：知識を定着させる。（ノート整理） |
| | 7 | ソーシャルワークの過程(6)<br>支援計画（プランニング） | 支援計画（プランニング）の意義、目的、方法、留意点などについて学ぶ。支援標的、目的設定について考える。 | 予習：4章を読む。<br>復習：知識を定着させる。（ノート整理） |
| | 8 | ソーシャルワークの過程(7)<br>支援計画（プランニング） | 介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者総合支援法によるサービス利用計画について学ぶ。 | 予習：4章を読む。<br>復習：知識を定着させる。（ノート整理） |
| | 9 | ソーシャルワークの過程(8)<br>支援の実施、介入 | 介入(インターベンション)の視点、活用される技術を学ぶ。 | 予習：5章を読む。<br>復習：知識を定着させる。（ノート整理） |
| | 10 | ソーシャルワークの過程(9)<br>経過観察（モニタリング） | 支援の実施、経過観察(モニタリング)、再アセスメント、効果測定について学ぶ。 | 予習：5章2節を読む。<br>復習：知識を定着させる。（ノート整理） |
| | 11 | ソーシャルワークの過程(10)<br>支援の終結と事後評価 | 支援の終結と事後評価の目的、方法、留意点について学ぶ。 | 予習：5章3節を読む。<br>復習：知識を定着させる。（ノート整理） |
| | 12 | コミュニティワーク（1） | コミュニティワークの意義と目的について学ぶ。 | 予習：12章1節を読む。<br>復習：知識を定着させる。（ノート整理） |
| | 13 | コミュニティワーク（2） | コミュニティワークの展開について学ぶ。 | 予習：第12章2・3節を読む。<br>復習：知識を定着させる。（ノート整理） |
| | 14 | ソーシャルワークの記録 | 記録の意義と必要性、技術、記録の保存について学ぶ。 | 予習：第9章を読む。<br>復習：知識を定着させる。（ノート整理） |
| | 15 | まとめ | ソーシャルワーク過程と各過程の意義、目的、方法、留意点を理解する。 | 予習：ノートを見て全体を振り返る。<br>復習：SWの過程や関わる専門用語を復習する。 |
| | 16 | 定期試験 | | |

授業科目名称　：保健医療と福祉　　授業コード：23622

授業科目英文名称：Healthcare and Welfare

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 韓榮芝（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | DC202 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 保健医療領域における制度・政策、倫理、多職種連携、業務指針、在宅医療、終末期ケア、認知症ケア及び災害現場での支援等、社会福祉士としての専門性を発揮できる知識を獲得できる。 | 定期試験 | 70% |
| 情報収集、分析力 | | | |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | 患者の多様性や自己決定の尊重の意味について、療養生活の支援事例を通して理解できる。また、他職種の役割を理解し、多職種連携・協働の方法、形態について理解できる。 | 作問課題 | 30% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本講義における授業のねらいは、①ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解できる、②保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解できる、③保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解できる、④保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解できることである。<br>保健医療領域における、社会福祉士としての業務について体系的に知り、チーム医療の実務に関する知識を獲得できる。また、患者の尊厳を護るための視点を養うこと、精神疾患も含めた患者の療養生活におけるニーズに対して、社会福祉、精神保健福祉の視点から援助するための「知識と技術と職業倫理」について知ることができる。将来、MSWを目指す学生にとっての職業選択に役立てることができる。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①②⑥⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 予習として事前に指示したテキストの頁を読み、受講後に復習を行う。講義のなかで学修確認のための作問を課し、その内容を紹介し、学生の共有知識とする授業内フィードバックを行う。この作問課題で30点の評価を行う。定期試験は筆記試験・持込不可、70点満点で評価する。講義ノートをできるだけ作成すること 。ノートの内容は、「授業中の話のメモ、ポートフォリオに掲げたパワーポイントの内容、及び自習内容等」を記すこと。 |
| 授業概要 | 福祉実践経験を持つ担当教員が担当し、理論を臨床と結びつけて理解できるよう学修を行う。<br>講義の進め方はテキストを軸として行う。また、MSW史として昭和の歩み等について臨床経験を交えた講話から学修を行う。授業で用いた資料はポートフォリオのコンテンツに掲載する。講義の中で、ワークカードを用いて行うディスカッションの機会を通じて理解を深める。また、講義内容の講話を学生はノートに記録する。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：(一社)日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2023）『最新社会福祉士養成講座 保健医療と福祉』中央法規<br>参考書：中島裕他 編著（2022）『保健医療と福祉』ミネルヴァ書房<br>指定図書：(一社)日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2023）『最新社会福祉士養成講座 保健医療と福祉』中央法規 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | テキストを事前に読み予習を行うこと。復習時は講義内容について調べなおし、ポイントを整理して理解を深めること。紹介した文献を図書館等で読んでおくこと。そのためにも、板書や講義ではノートを取り整理しておくこと。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **保健医療の動向（1）** | 保健医療の構成要素、対応課題、生活習慣病の増加等の疾病構造の変化を理解できる。<br>作問課題① | 感染症や生活習慣病等の疾病構造に関する配布資料を復習し理解する。52p～ |
| 2 | **保健医療の動向（2）** | 在宅医療のしくみについて理解できる。<br>作問課題② | 予：訪問看護を調べる。<br>復：在宅医療を体系的にノートにまとめる。62p～ |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 3 | 保健医療の動向（3） | 依存症対応や虐待防止をはじめとした、保健医療における福祉的課題について理解できる。<br>作問課題③ | 予：依存症を調べる。<br>復：認知症、自殺企図についてまとめる。 74p～ |
| | 4 | 保健医療に係る政策・制度・サービスの概要（1） | 医療費の自己負担、高額療養費制度、労災保険、特定疾患等の医療保険制度の概要について理解できる。<br>作問課題④ | 予：診療報酬を調べる。<br>復：国民医療費等について統計をまとめる。86p～ |
| | 5 | 保健医療に係る政策・制度・サービスの概要（2） | 病床の類型と内容を理解する。ナショナルセンターをはじめ政策医療について体系的に理解できる。<br>作問課題⑤ | 予：特定機能病院を調べる。<br>復：政策医療体系をノートに整理する。95p～ |
| | 6 | 保健医療に係る政策・制度・サービスの概要（3） | 保健所の役割、医療計画の内容と策定手順、薬剤耐性対策等について理解できる。<br>作問課題⑥ | 予：医療計画を調べる。<br>復：保健所の法的根拠等をノートにまとめる。87p～ |
| | 7 | 保健医療に係る倫理（1） | 医療ソーシャルワーカーの役割の変遷について、患者の権利擁護の視点から理解できる。<br>作問課題⑦ | 予：治療の説明責任を調べる。<br>復：MSWの発祥についてノートにまとめる。34p～ |
| | 8 | 保健医療に係る倫理（2） | インフォームド・コンセント、医療倫理の4原則、高度生殖医療等の倫理的課題について理解できる。倫理綱領と価値について理解できる。<br>作問課題⑧ | 予：倫理綱領を読む。<br>復：行動規範も合わせて理解する。37p～ |
| | 9 | 保健医療に係る倫理（3） | 出生前診断、臓器移植、尊厳死の意味を理解し、そのための症例について事例検討して理解できる。<br>作問課題⑨ | 予：臓器移植を調べる。<br>復：出生前診断の記事から課題を抽出し整理する。43p |
| | 10 | 保健医療領域における専門職の役割と連携（1） | 保健医療領域における専門職について理解できる。<br>作問課題⑩ | 予：医師法、保助看法を読む。<br>復：チーム医療と他職種の専門性を整理する。129p |
| | 11 | 保健医療領域における専門職の役割と連携（2） | IPW、他職種連携など社会福祉士の役割について理解できる。精神疾患患者への支援事例を通して、病診連携、地域移行連携について理解できる。<br>作問課題⑪ | 予：患者主体の医療の実現方法を調べる。復：精神科患者支援をまとめる。141p |
| | 12 | 保健医療領域における専門職の役割と連携（3） | 地域包括ケアシステムの概要を知り、地域医療連携、クリティカルパス、患者主体医療の実現及びパフォーマンスの最適化について理解できる。<br>作問課題⑫ | 予：医療連携パスを調べる。<br>復：ケアシステムにおける役割をまとめる。133p～ |
| | 13 | 保健医療領域における支援の実際（1） | 医療ソーシャルワーカーの業務指針の歴史的経緯と役割及び、医療福祉の歴史を辿り、業務の範囲を理解できる。<br>作問課題⑬ | 予：MSW業務指針を読む。<br>復：行動規範について項目ごとにまとめる。162p～ |
| | 14 | 保健医療領域における支援の実際（2） | 入退院時の支援、災害被災者への支援、DMATの活動におけるチーム支援等について理解できる。<br>作問課題⑭ | 予：被災者支援を調べる。<br>復：支援アプローチを事例で検討する。217p～ |
| | 15 | 保健医療領域における支援の実際（3） | ヘルシンキ宣言、尊厳死、ヒポクラテスの誓い、ナイチンゲール誓詞、電子カルテについてついて理解できる。<br>作問課題⑮ | 予：各専門職の医療哲学を調べる。<br>復：事例集を読む36p、175p～ |
| | 16 | 定期試験 | | |

授業科目名称　：ソーシャルワーク実習（社会）Ⅰ（実践的教育科目）　授業コード：02501　02502　02503　02504

授業科目英文名称：Social Work Field Practicum (Social Work) I

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 2 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 野田健、韓榮芝、中村尚生、山下彦 | | | |
| 展開方法 | 実習 | | |
| ナンバリング | DC206 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | | | |
| 情報収集、分析力 | | | |
| コミュニケーション力 | (1) クライエント等と人間関係を形成するための基本的なコミュニケーションをとることができる<br>(2) クライエント等との援助関係を形成することができる | 実習先の評価<br>実習先の評価 | 10%<br>10% |
| 協働・課題解決力 | (8) 実習施設・機関等の各職種の機能と役割を説明することができる<br>(9) 実習施設・機関等と関係する社会資源の機能と役割を説明することができる<br>(12) 地域社会における実習施設・機関等の役割を説明することができる<br>(15) 実習施設・機関等の経営理念や戦略を分析に基づいて説明することができる<br>(16) 実習施設・機関等の法的根拠、財政、運営方法等を説明することができる<br>(18) 実習施設・機関等の規則等について説明することができる | 実習先の評価<br>実習先の評価<br>実習先の評価<br>実習先の評価<br>実習先の評価<br>実習先の評価 | 10%<br>10%<br>10%<br>10%<br>10%<br>10% |
| 多様性理解力 | (4) 地域アセスメントを実施し、地域の課題や問題解決に向けた目標を設定することができる<br>(17) 実習施設・機関等における社会福祉士の倫理に基づいた実践及びジレンマの解決を適切に行うことができる<br>(※ 上記の（ ）の番号は、評価ガイドラインの達成目標の番号を意味する) | 実習先の評価<br>実習先の評価 | 10%<br>10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | この科目では、本学ディプロマポリシーに掲げられている「人間尊重」を基軸に据えつつ、「ソーシャルワーク実習（社会）Ⅱ」と合わせて、以下の5点を授業のねらいとする。<br>①ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。<br>②支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。<br>③生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。<br>④施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。<br>⑤総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ⑦⑫ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 「ソーシャルワーク実習 評価表」に則り実習先の施設・機関が評価を行い、それに基づいて担当教員が最終評価を行う。また、実習中に巡回指導等を通してスーパービジョンを行い、学習成果のフィードバックをしていく。<br>なお、実習期間中に遅刻や無断欠勤があったり、「実習ノート（日誌）」の提出がなされない場合は、実習の中断や中止もあり得るので注意をすること。 |
| 授業概要 | この科目は、8～10月の間の8日間（60時間以上）、社会福祉の「現場」に実際に身を置く実践的学修である。次年度に履修する「ソーシャルワーク実習（社会）Ⅱ」と合わせて、「社会福祉士養成施設及び介護福祉士養成施設の設置及び運営に係る指針」に示された下記10項目を学ぶため、配属施設・機関が定めた実習プログラムに沿って実習を行う。現場の実習指導者は実践に3年以上従事し、実習指導者講習会を受講した者が担当する。<br>①利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成<br>②利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成<br>③利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価<br>④利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価<br>⑤多職種連携及びチームアプローチの実践的理解<br>⑥当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域への働きかけ<br>⑦地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解<br>⑧施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む）<br>⑨社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解 |

| | |
|---|---|
| | ⑩ソーシャルワーク実践に求められる、アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションの実践的理解<br>なお、この科目を履修するには、『履修の手引き』のとおり本学独自の「実習履修要件」が課せられている。履修にあたってはその要件をクリアしているか否かを必ず確認する必要がある。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、90分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書・指定図書：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新 社会福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習［社会専門］』中央法規<br>参考書：小六法編集委員会『福祉小六法』みらい |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | この実習は、現場に一定期間身をおき、その中で指導を受けながら、自身が将来社会福祉専門職（社会福祉士）になるにふさわしいか否かを考えさせられる場である。実習体験が実りあるものとなるかどうかを決めるのは、実習生個々人の態度と取り組みである。事前・事後学習をしっかりと行うことが望まれる。各自の研鑽に期待する。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1～15 | **概ね1週目** | ・利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成<br>・職場のミッションや援助方針の理解<br>・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの運営管理の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む。）<br>・全職種の役割とそれらからの「利用者理解」の把握と専門職同士の相互理解<br>・多職種連携及びチームアプローチの実践的理解、カンファレンスへの参加<br>・当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ等 | 実習ノート（日誌）に記録を付ける。その他は実習先の指示に従うこと。 |
| 16～30 | **概ね2週目** | ・利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成<br>・社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解<br>・利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価<br>・社会福祉士の担当する業務全般（書類管理、電話対応、見学受入れ・説明、各種事務等）、社会福祉士の業務への同席・同行・説明、タイム・スタディ 等 | 実習ノート（日誌）に記録を付ける。その他は実習先の指示に従うこと。 |
| | **上記のスケジュールはおおよその指針である。** | | |

授業科目名称　：ソーシャルワーク実習（社会）Ⅱ（実践的教育科目）　授業コード：02506　02507　02508　02509　02510

授業科目英文名称：Social Work Field Practicum (Social Work) II

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 3 | 4 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 野田健、大畠啓、梅野潤子、中村尚生、山下彦 | | | |
| 展開方法 | 実習 | | |
| ナンバリング | DC305 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | | | |
| 情報収集、分析力 | | | |
| コミュニケーション力 | (13) 地域住民や団体、施設、機関等に働きかける<br>(19) アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション等の技術について目的、方法、留意点について説明することができる | 実習先の評価<br>実習先の評価 | 8.3%<br>8.3% |
| 協働・課題解決力 | (5) 各種計画の様式を使用して計画を作成・策定及び実施することができる<br>(6) 各種計画の実施をモニタリングおよび評価することができる<br>(9) 実習施設・機関等と関係する社会資源の機能と役割を説明することができる<br>(10) 地域住民、関係者、関係機関等と連携・協働することができる<br>(11) 各種会議を企画・運営することができる<br>(14) 地域における分野横断的・業種横断的な社会資源について説明し、問題解決への活用や新たな開発を検討することができる | 実習先の評価<br>実習先の評価<br>実習先の評価<br>実習先の評価<br>実習先の評価<br>実習先の評価 | 8.3%<br>8.3%<br>8.3%<br>8.3%<br>8.3%<br>8.3% |
| 多様性理解力 | (3) クライエント、グループ、地域住民等のアセスメントを実施し、ニーズを明確にすることができる<br>(4) 地域アセスメントを実施し、地域の課題や問題解決に向けた目標を設定することができる<br>(7) クライエントおよび多様な人々の権利擁護ならびにエンパワメントを含む実践を行い、評価することができる<br>(17) 実習施設・機関等における社会福祉士の倫理に基づいた実践及びジレンマの解決を適切に行うことができる<br>（※ 上記の（ ）の番号は、評価ガイドラインの達成目標の番号を意味する） | 実習先の評価<br>実習先の評価<br>実習先の評価<br>実習先の評価 | 8.3%<br>8.3%<br>8.3%<br>8.3% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | この科目では、本学ディプロマポリシーに掲げられている「人間尊重」を基軸に据えつつ、「ソーシャルワーク実習（社会）Ⅱ」と合わせて、以下の5点を授業のねらいとする。<br>①ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。<br>②支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。<br>③生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。<br>④施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。<br>⑤総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ⑦⑫ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 「ソーシャルワーク実習 評価表」に則り実習先の施設・機関が評価を行い、それに基づいて担当教員が最終評価を行う。また、実習中に巡回指導等を通してスーパービジョンを行い、学習成果のフィードバックをしていく。<br>なお、実習期間中に遅刻や無断欠勤があったり、「実習ノート（日誌）」の提出がなされない場合は、実習の中断や中止もあり得るので注意をすること。 |
| 授業概要 | この科目は、8～10月の間の23日間（180時間以上）、社会福祉の「現場」に実際に身を置く実践的学修である。前年度に単位修得した「ソーシャルワーク実習（社会）Ⅰ」と合わせて、「社会福祉士養成施設及び介護福祉士養成施設の設置及び運営に係る指針」に示された下記10項目を学ぶため、配属施設・機関が定めた実習プログラムに沿って実習を行う。現場の実習指導者は実践に3年以上従事し、実習指導者講習会を受講した者が担当する。<br>①利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成<br>②利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成<br>③利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価<br>④利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価<br>⑤多職種連携及びチームアプローチの実践的理解<br>⑥当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域への働きかけ<br>⑦地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解 |

| | |
|---|---|
| | ⑧施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む）<br>⑨社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解<br>⑩ソーシャルワーク実践に求められる、アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションの実践的理解<br>なお、この科目を履修するには、『履修の手引き』のとおり本学独自の「実習履修要件」が課せられている。履修にあたってはその要件をクリアしているか否かを必ず確認する必要がある。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、90分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書・指定図書：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新 社会福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習［社会専門］』中央法規<br>参考書：小六法編集委員会『福祉小六法』みらい（法律を適時確認するために活用） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | この実習は、現場に一定期間身をおき、その中で指導を受けながら、自身が将来社会福祉専門職（社会福祉士）になるにふさわしいか否かを考えさせられる場である。実習体験が実りあるものとなるかどうかを決めるのは、実習生個々人の態度と取り組みである。事前・事後学習をしっかりと行うことが望まれる。各自の研鑽に期待する。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1～22 | **概ね1週目** | ・利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成<br>・職場のミッションや援助方針の理解、施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの運営管理の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む。）<br>・全職種の役割とそれらからの「利用者理解」の把握と専門職同士の相互理解、多職種連携及びチームアプローチの実践的理解、カンファレンスへの参加 等 | 実習ノート（日誌）に記録を付ける。その他は実習先の指示に従うこと。 |
| 23～45 | **概ね2週目** | ・利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成<br>・社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解<br>・生活相談員・専門員・〇〇福祉司等の担当する業務全般（ケアワーク、修理、書類管理、電話対応、見学受入れ・説明、各種事務等）の理解、社会福祉士の業務への同席・同行・説明、タイム・スタディ 等<br>・地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解、実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ 等 | 実習ノート（日誌）に記録を付ける。その他は実習先の指示に従うこと。 |
| 46～90 | **概ね3～4週目** | ・利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及びモニタリング・評価、非制度的資源の開発・調整<br>・相談面接、説明、契約への同席、家族・職場・学校等との連絡調整<br>・利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価（苦情処理、財産管理、第三者評価）<br>・多職種連携及びチームアプローチの実践的理解（アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション）<br>・事業計画や地域福祉計画への参画・政策立案、代弁・ソーシャルアクション<br>・運営管理、職員研修、記録、事例研究、専門職団体活動、自己研鑽 等 | 実習ノート（日誌）に記録を付ける。その他は実習先の指示に従うこと。 |
| | **上記のスケジュールはおおよその指針である。** | | |

授業科目名称　：発達と老化の理解Ⅰ　　授業コード：22023

授業科目英文名称：Development and the Aging Ⅰ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| ※田中千恵美（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | DD302 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 人間の成長・発達から老化における心理・身体的変化の特徴に関して説明できる。 | ・定期試験<br>・レポート | 60%<br>5% |
| 情報収集、分析力 | 専門的情報を収集し、その情報を正しく分析できる。 | ・定期試験<br>・レポート | 10%<br>5% |
| コミュニケーション力 | 人間の成長・発達から老化における心理・身体的変化を理解し、多職種と協働して支援ができる。 | ・レポート | 5% |
| 協働・課題解決力 | 人間の発達と老化に関しての理解が十分に得られ、現実に即した問題解決のための思考・判断により福祉的な支援の方法を説明できる。 | ・定期試験<br>・レポート | 10%<br>5% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 介護実践に必要な知識として、「発達と老化の理解」では、誕生から死に至るまでの人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。専門力の獲得を中心に協働・課題解決力および多様性解決力の獲得を目指して、実務経験のある教員による講義により、福祉・介護の専門的な知識と技術を理解できるようになることを目標とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①②③⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 「定期試験」の成績を80%とし筆記試験を行う。定期試験は、授業中の説明した内容、教科書及びプリントの中から出題し、基本的な知識が定着しているかどうかを評価する。「レポート」は20%とし、随時授業中に課した課題を評価する。各教員が100点満点で評価し、授業回数の配分で最終評価とする。その都度フィードバックを行い確認する。 |
| 授業概要 | 医療現場や役所で看護師・介護関連専門員の経験をもつ教員が担当し、現場実践を活かした学修を行う。<br>人間の成長・発達の基礎的知識と、高齢者理解のため、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的事項を解説し、それにより起こってくる日常生活での心身機能の変化を学んでいく。授業内ではグループワークやディスカッションを行いながら理解を深めていく。次回の授業の課題・予習内容の指示及び資料等の共有は、ポートフォリオを通して行う。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：最新・介護福祉士養成講座１２『発達と老化の理解』 中央法規<br>参考書：『ぜんぶわかる 人体解剖図』成美堂出版<br>指定図書：介護福祉士国家試験 受験ワークブック２０２４上 中央法規 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 講義ではプリント等も配布するが、教科書には目を通しておくこと。<br>福祉の対象者である高齢者が、どのような人生を歩んできたのかに関心を持ち、高齢者の日常生活を具体的に知ってもらいたい。また、社会的に起きた出来事などについても関心を持ち、新聞などにも関心を持っておくこと。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **人間の成長と発達の基礎的理解<br>子どもの特徴** | 人間の成長と発達の基本的な考え方について学ぶ。 | 自分が持っている子供のイメージについてまとめおく |
| 2 | **小児と家族の諸統計** | 子どもを取り巻く環境と現状（人口構造、出生と家族、小児の死亡など）を理解し、今後の課題について考察を深めることができる。 | 子どもを取り巻く統計について調べておく |
| 3 | **子どもの成長、発達の基本的な特徴を理解することができる①** | 発達と成長、発達の領域、知的機能、情緒・社会性、発達の原理と特徴について学ぶ。 | 発達と成長のちがいについて調べておく |
| 4 | **子どもの成長、発達の基本的な特徴を理解することができる②** | 成長の評価、身体のバランス、歯・骨の発達、発達の評価について学ぶ。 | 成長の評価の様々な方法について調べておく |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 5 | **子どもの成長、発達の基本的な特徴を理解することができる③** | 発達段階別の子供の栄養の特徴、新生児について学ぶ。 | 母乳と人工乳のそれぞれの長所と短所についてまとめておく |
| | 6 | **子どもの成長、発達の基本的な特徴を理解することができる④** | 新生児、乳幼児の特徴と援助の実際を学ぶ。 | 自分の住んでいる市町村の母親学級の概要について調べる |
| | 7 | **子どもの成長、発達の基本的な特徴を理解することができる⑤** | 発達段階別の子供の栄養の特徴、乳児、幼児、学童について学ぶ。 | 小学校などで実施されているお弁当の日の取り組みについて調べる |
| | 8 | **子どもの成長、発達の基本的な特徴を理解することができる⑥** | 発達段階別の子供の栄養の特徴、思春期、青年期、家族の特徴について学ぶ。 | 自分が思春期を迎え、身体の特徴が変わっていく時期の心理についてまとめる |
| | 9 | **生涯発達の各段階の課題について理解し、考察を深めることができる①** | 発達課題、人格の発達、思考の発達について学ぶ。 | 人生各期における発達課題についてまとめる |
| | 10 | **生涯発達の各段階の課題について理解し、考察を深めることができる②** | 発達過程での問題点、まとめ。 | 発達過程に遅れがある児に対する対応について調べる |
| | 11 | **老化に伴うこころとからだの変化と生活①** | 老化に伴う精神的機能の変化と、それが及ぼす日常生活への影響について学ぶ。 | 老化と精神的機能について復習する |
| | 12 | **老化に伴うこころとからだの変化と生活②** | 身体的機能の変化として、視覚、聴覚、味覚、嗅覚、皮膚感覚について学ぶ。それが及ぼす日常生活への影響を考えていく。 | 感覚器の変化について復習する<br>身体的機能の変化の予習 |
| | 13 | **老化に伴うこころとからだの変化と生活③** | 認知機能の変化として、注意、反応時間、記憶、言語について学ぶ。それが及ぼす日常生活への影響を考えていく。 | 認知機能の変化について復習する<br>知的機能の変化の予習 |
| | 14 | **老化に伴うこころとからだの変化と生活④** | 知的機能の変化として、知能の構造、知能の変化に及ぼす要因について学ぶ。 | 知的機能の変化について復習する<br>心身変化の特徴の予習 |
| | 15 | **老化に伴うこころとからだの変化と生活⑤** | 老化に伴う心身変化の特徴として、防衛反応、回復力、適応力について学ぶ。 | 老化に伴う心身変化について復習する |
| | 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：発達と老化の理解Ⅱ　　授業コード：55605

授業科目英文名称：Development and the Aging Ⅱ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 大町いづみ（実務経験のある教員）、※白川美佳（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | DD303 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 健康寿命・介護予防のために、高齢者の日常生活支援での留意点について理解することができる。<br>介護・医学関連の用語に対して正確に説明することができる。 | 定期試験<br>課題レポート | 50%<br>10% |
| 情報収集、分析力 | 高齢者に多くみられる基礎的な疾患と生活への影響と予防について説明できる。 | 定期試験<br>プレゼンテーション | 10%<br>5% |
| コミュニケーション力 | 他者と協力してプレゼンテーションの作成と発表ができる。 | 課題レポート | 10% |
| 協働・課題解決力 | 健康寿命・介護予防のために、高齢者の日常生活支援での留意点を考えることができる。 | 定期試験<br>プレゼンテーション | 5%<br>10% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 「発達と老化の理解Ⅰ」に続き、人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどを通して、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を修得する学習とする。<br>本科目においては主に老化に伴う身体的・精神的・社会的な変化や、高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を理解する内容とする。この学習を通して、専門的知識・技術を修得し、それらを様々な課題に適用して解決を図ることができることをねらいとする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①②③⑥⑨⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 「定期試験」（65%）の成績を60点以上とし筆記試験（持ち込み不可）を行う。定期試験の内容は、授業中に説明した内容、教科書及び配布資料の中から出題し、基本的な知識が定着しているかどうかを評価する。「課題レポート」は（20%）、随時授業中に課した課題をポートフォリオ上にてフィードバックを行い評価する。「プレゼンテーション」(15%)はグループでPPを作成しプレゼンすることで評価する。各教員が100点満点で評価し、授業回数の配分で最終評価とする。 |
| 授業概要 | 医療現場で看護師の資格をもつ教員が担当し、現場実践を活かした学修を行う。<br>人間の成長・発達の基礎的知識と、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識に基づき、高齢者に多い疾病や身体の不調、日常生活での留意点等を学ぶ。また、高齢者に起こってくる心身機能の変化が、日常生活に及ぼしている影響を学び、その対応法について、グループワークやプレゼンテーションを行い理解を深める。№1～5の5コマを白川、№6～15の10コマを大町が担当する。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：介護福祉士養成講座編集委員会（2019）最新・介護福祉士養成講座12『発達と老化の理解』中央法規出版株式会社<br>参考書：適宜紹介する<br>指定図書：介護福祉士養成講座編集委員会（2019）最新・介護福祉士養成講座12『発達と老化の理解』中央法規出版株式会社 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 福祉の対象者である高齢者が、どのような人生を歩んできたのかに関心を持ち、高齢者の日常生活を具体的に知ってもらいたい。そこから、高齢になっても社会参加や自己実現が可能となる福祉職の対応へ繋げて欲しい。<br>注意点：講義中の私語、携帯電話の使用は禁止とし他者に迷惑をかけないこと。また欠席の場合は事前連絡を行うこと。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | **高齢者と健康①** | 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点として、高血圧、心不全、狭心症、心筋梗塞、不整脈について学ぶ。 | 循環器疾患について復習する。<br>呼吸器疾患について予習する。 | ※白川 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 2 | **高齢者と健康②** | 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点として、肺炎、気管支喘息、COPDについて学ぶ。 | 呼吸器疾患について復習する。<br>脳血管障害等について予習する。 | ※白川 |
| | 3 | **高齢者と健康③** | 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点として、脳血管障害、認知症、パーキンソン病について学ぶ。 | 中枢神経疾患について復習する。<br>代謝性疾患などについて予習する。 | ※白川 |
| | 4 | **高齢者と健康④** | 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点として、糖尿病、脂質異常症、痛風、消化性潰瘍、肝炎について学ぶ。 | 代謝性疾患について復習する。<br>その他の老人性疾患などについて予習する。 | ※白川 |
| | 5 | **高齢者と健康⑤** | 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点として、骨粗鬆症、関節リウマチ、変形性関節症について学ぶ。 | 運動器疾患について復習する。<br>次回の予習を行う。 | ※白川 |
| | 6 | **人間の発達の基礎的理解<br>老年期の特徴と発達課題①** | 老年期の定義について学ぶ。人体の解剖（骨・筋）を整理する。 | 予習：高齢者の定義を調べる。<br>復習：人体の解剖を整理する。 | 大町 |
| | 7 | **人間の発達の基礎的理解<br>老年期の特徴と発達課題②** | 老化について学ぶ。人体の解剖(血液の流れ)を整理する。 | 予習：老化の特徴を調べる。<br>復習：人体の解剖を整理する。 | 大町 |
| | 8 | **人間の発達の基礎的理解<br>老年期の特徴と発達課題③** | 老年期の発達段階について学ぶ。心不全、虚血性心疾患をもつひとの関わりと注意点を学ぶ。 | 予習：心不全、虚血性心疾患を調べる。<br>復習：疾患に伴うケアの方法を整理する。 | 大町 |
| | 9 | **人間の発達の基礎的理解<br>老年期の特徴と発達課題④** | 老年期をめぐる今日的課題について学ぶ。脳血管疾患をもつひとの関わりと注意点を学ぶ。 | 予習：脳血管疾患を調べる。<br>復習：疾患に伴うケアの方法を整理する。 | 大町 |
| | 10 | **老化に伴うこころとからだの変化と生活①** | 老化に伴う身体的な変化と生活への影響について学ぶ。呼吸器疾患を持つひとの関わりと注意点を学ぶ。 | 予習：呼吸器疾患を調べる。<br>復習：疾患に伴うケアの方法を整理する。 | 大町 |
| | 11 | **老化に伴うこころとからだの変化と生活②** | 老化に伴う心理的な変化と生活への影響について学ぶ。内分泌、代謝性疾患を持つひとの関わりと注意点を学ぶ。 | 予習：内分泌、代謝性疾患を調べる。<br>復習：疾患に伴うケアの方法を整理する。 | 大町 |
| | 12 | **老化に伴うこころとからだの変化と生活③** | 老化に伴う社会的な変化と生活への影響について学ぶ。骨粗鬆症、リウマチ、変形性関節症の利用者との関わりと注意点を学ぶ。 | 予習：骨粗鬆症、リウマチ、変形性関節症を調べる。<br>復習：予防のための生活上の留意点を整理する。 | 大町 |
| | 13 | **高齢者の心理** | 老化や障害を受容する高齢者の気持ちについて学ぶ。身近な人との別れを受けとめる高齢者の気持ちや、死別が生活にもたらす影響や意味を考える。 | 予習：老々介護、孤独死ついて調べる。<br>復習：高齢者のグリーフケアについて整理する。 | 大町 |
| | 14 | **高齢者と健康** | 高齢者の病気や体調変化への対応、疾病予防や健康維持のために、保健医療職との連携について学び、グループワーク・プレゼンを実施する。 | 予習：高齢者と保健医療職の連携について調べる。<br>復習：多職種連携を整理する。 | 大町 |
| | 15 | **高齢者への日常生活支援と社会参加** | 高齢者の病気や体調変化への対応、疾病予防や健康維持のために、保健医療職との連携について学び、グループワーク・プレゼンを実施する。 | 復習：高齢者の状況、支援のあり方を調べる。<br>教科書や配布資料、ノートを確認し定期試験に備える。 | 大町 |
| | 16 | **定期試験** | | | |

授業科目名称　：精神障害リハビリテーション論　　授業コード：54010

授業科目英文名称：Mental Disorder Rehabilitation Theory

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 丸山貴志（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | DE301 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 精神科リハビリテーションに関する用語の内容を正確に説明することができる。 | 定期試験 | 60% |
| 情報収集、分析力 | 課題の解決のために、専門知識を関係づけることができる。 | 課題レポート | 5% |
| コミュニケーション力 | 授業内で自分の意見を適切に伝えることができる。 | ディスカッション内容 | 8% |
| 協働・課題解決力 | 精神科リハビリテーションサービスの実施機関・施設と関連事業について、グループで報告することができる。 | グループ発表 | 12% |
| 多様性理解力 | 精神科リハビリテーションにおける重要概念を理解し、精神科リハビリテーションの構成について正確に説明することができる。 | 課題レポート | 15% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | この授業のねらいは、以下の3つを援助場面で活用できることにある。<br>①精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割についての理解<br>②精神障害リハビリテーションプログラムの知識<br>③精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連についての理解<br>また、ディプロマポリシーにある社会の課題に対する思考力、判断力、表現力を活用し、主体的に問題解決を行う力を養成するために、授業は、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションによって展開する。そのなかで、学生が精神科ソーシャルワークの知識・技術を、自分の言葉で説明し、他者が理解できる表現の仕方について、具体的に学ぶことも重視する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①⑤⑥⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 定期試験（60%）は、精神科リハビリテーションに関する用語の内容を正確に説明することができるかを評価する。課題レポート（20%）は、精神科リハビリテーションにおける重要概念を理解し、精神科リハビリテーションの構成について正確に説明することができる。また、課題の解決のために、専門知識を関係づけることができているかを評価する。さらに、精神科リハビリテーションに関するサービスについてのグループ発表12%、ディスカッション内容8%で評価する。すべての提出物は、次回の授業内およびポートフォリオにてフィードバックを行う。 |
| 授業概要 | 精神科リハビリテーションにおける基本的枠組み、構成、プロセスと展開などについて概説する。授業では、ディスカッションやグループワークを活用しながら、授業内容の理解を深める。担当教員は、精神保健福祉士として医療機関の精神科で医療相談、ソーシャルワーク等、精神科リハビリテーションの実務経験があり、その経験に基づき授業を展開する。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分である。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：最新・精神保健福祉士養成講座・3「精神障害リハビリテーション論」 中央法規<br>参考書：適宜指定する<br>指定図書：最新・精神保健福祉士養成講座・3「精神障害リハビリテーション論」 中央法規 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | ①授業内で、次回までの予習・復習を提示する。指定された内容を実施してくること。<br>②出席は最低限のルールとする。<br>③授業内での居眠りや私語、携帯電話の無断使用などは厳禁とする。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション**<br>**精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則①** | 授業の進め方について説明する。<br>精神障害リハビリテーションの理念、定義について学ぶ。 | 予習：教科書第2章第1節を読む。<br>復習：配布資料を読む。 |
| 2 | **精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則②** | 精神障害リハビリテーションの医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションについて学ぶ。 | 予習：教科書第2章第2節を読む。<br>復習：配布資料で授業を振り返る。 |
| 3 | **精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則③** | 精神障害リハビリテーションの基本原則について学ぶ。 | 予習：教科書第2章第3節を読む。<br>復習：基本原則をまとめる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 4 | 精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則④ | 精神障害リハビリテーションとソーシャルワークとの関係について学ぶ。障害とニーズ、個人への介入、環境への介入について学ぶ。 | 予習：教科書第1章第1節を読む。<br>復習：配布資料で授業を振り返る。 |
| 5 | 精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則⑤ | 地域及びリカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義について学ぶ。リカバリー概念、ストレングスモデルについて学ぶ。 | 予習：教科書第2章第4節を読む。<br>復習：福祉サービスの変遷をまとめる。 |
| 6 | 精神障害リハビリテーションの構成及び展開① | 精神障害リハビリテーションの対象について学ぶ。 | 予習：教科書第3章第1節を読む。<br>復習：配布資料で授業を振り返る。 |
| 7 | 精神障害リハビリテーションの構成及び展開② | 精神障害リハビリテーションのプロセスについて学ぶ。インテーク、アセスメント、プランニング等の流れについて学ぶ。 | 予習：教科書第3章第3節を読む。<br>復習：プロセスをまとめる。 |
| 8 | 精神障害リハビリテーションの構成及び展開③ | 精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割について学ぶ。 | 予習：教科書第1章第2節を読む。<br>復習：配布資料で授業を振り返る。 |
| 9 | 精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関① | 医学的リハビリテーションプログラムについて学ぶ。 | 予習：教科書第4章第1節を読む。<br>復習：配布資料で授業を振り返る。 |
| 10 | 精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関② | 職業的リハビリテーションプログラムについて学ぶ。 | 予習：教科書第4章第2節を読む。<br>復習：配布資料で授業を振り返る。 |
| 11 | 精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関③ | 社会的リハビリテーションプログラムについて学ぶ。 | 予習：教科書第4章第3節を読む。<br>復習：配布資料で授業を振り返る。 |
| 12 | 精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関④ | 教育的リハビリテーションプログラムについて学ぶ。 | 予習：教科書第4章第4節を読む。<br>復習：配布資料で授業を振り返る。 |
| 13 | 精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関⑤ | 家族支援プログラムについて学ぶ。 | 予習：教科書第4章第5節を読む。<br>復習：家族支援プログラムをまとめる。 |
| 14 | 精神障害リハビリテーションの動向と実際 | 精神障害当事者や家族を主体としたリハビリテーションについて学ぶ。ピアサポータ、家族による家族支援等について学ぶ。 | 予習：教科書第4章第4節を読む。<br>復習：配布資料で授業を振り返る。 |
| 15 | まとめ | 全体を振り返り、精神障害者リハビリテーションについて学びを深める。 | 定期試験に向けた準備と復習を行う。 |
| 16 | 定期試験 | | |

授業科目名称　：ソーシャルワークの理論と方法（精神）Ⅰ　授業コード：41021

授業科目英文名称：Social Work Theory and Methods (Mental Health) I

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 丸山貴志（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | DE302 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 精神保健福祉士の専門性と倫理について、説明することができる。 | 定期試験 | 60% |
| 情報収集、分析力 | | | |
| コミュニケーション力 | 授業内で自分の意見を適切に伝えることができる。 | ディスカッション内容 | 10% |
| 協働・課題解決力 | ストレングスに基づく個別支援計画をたてることができる。 | 個別支援計画 | 15% |
| 多様性理解力 | 事例について、情報を収集・分析し、ケアマネジメントに基づくプランを正確に説明することができる。 | 課題レポート | 15% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | この授業の目的は、精神障害者福祉の理念と精神障害者の人権、精神保健福祉の歴史と理念、精神科ソーシャルワークの歴史について学び、精神障害者が地域で主体的に生活するための具体的実践の方法を知り行うことができるようになることを目的とし、次の3点を授業のねらいに据えている。<br>① 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。② 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。③ 精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。<br>また、ディプロマポリシーにある社会の課題に対する思考力、判断力、表現力を活用し、主体的に問題解決を行う力を養成するために、授業は、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションによって展開する。そのなかで、学生が精神科ソーシャルワークの知識・技術を、自分の言葉で説明し、他者が理解できる表現の仕方について具体的に学ぶことも重視する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①⑤⑥⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 定期試験は60%で、精神保健福祉士の専門性と倫理について、正確に説明することができるかを評価する。課題レポート15%では、事例を分析し、支援の方法について説明することができているかを評価する。課題レポートは、授業内で提示し、ポートフォリオにて提出する。さらに、個別支援計画の作成15%、ディスカッション内容10%で評価する。すべての提出物は、次回の授業内およびポートフォリオにてフィードバックを行う。 |
| 授業概要 | 精神保健福祉士の理念と意義、支援の展開過程、他職種連携についての学びなどについて概説する。授業では、学生には意見を求めたり、議論してもらったり、またグループワークを活用しながら、授業内容の理解を深める。受講生は、ソーシャルワーク実習（精神）において、個別支援計画を立てることとなっており、自分が支援計画を立ててもらう立場になることを通じて、ケアマネジメントのあり方について検討していく。担当教員は、精神保健福祉士として医療機関の精神科で医療相談やソーシャルワークなどで実務経験があり、その経験に基づき授業を展開する。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：最新・精神保健福祉士養成講座「ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）』中央法規<br>参考書：授業内で指示する。<br>指定図書：最新・精神保健福祉士養成講座「ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）』中央法規 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | ①授業内で、次回までの予習・復習を提示する。指定された内容を実施してくること。<br>②出席は最低限のルールとする。<br>③授業内での居眠りや私語、携帯電話の無断使用などは厳禁とする。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション<br>ソーシャルワークの構成要素** | 授業の概要、進め方、評価等を確認する。<br>ソーシャルワークの構成要素について学ぶ | 予習：教科書第1章第1節を読む。<br>復習：配布資料を読む。 |
| 2 | **精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要①** | ソーシャルワークの展開過程について学ぶ | 予習：教科書第1章第2節を読む。<br>復習：展開過程をまとめる。 |
| 3 | **精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要②** | 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの基本的視点について学ぶ | 予習：教科書第1章第3節を読む。<br>復習：配布資料を読む。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 4 | 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程① | アウトリーチについて学ぶ | 予習：教科書第2章第6節を読む。<br>復習：アウトリーチについてまとめる。 |
| | 5 | 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程② | インテーク、アセスメントについて学ぶ | 予習：教科書第2章第2節第3節を読む。<br>復習：配布資料を読む。 |
| | 6 | 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程③ | 援助関係の形成技法について学ぶ | 予習：教科書第2章第1節を読む。<br>復習：配布資料を読む。 |
| | 7 | 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程④ | 面接技術とその応用について学ぶ | 予習：教科書第2章第4節を読む。<br>復習：面接の構造についてまとめる。 |
| | 8 | 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑤ | 支援の展開について理解する（人、環境へのアプローチ） | 予習：教科書第2章第7節を読む。<br>復習：配布資料を読む。 |
| | 9 | 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑥ | 支援の展開について理解する（ケアマネジメント） | 予習：教科書第2章第8節を読む。<br>復習：配布資料を読む。 |
| | 10 | 精神保健福祉分野における家族支援の実際① | 精神障害者家族の課題について学ぶ | 予習：教科書第3章第1節を読む。<br>復習：配布資料を読む。 |
| | 11 | 精神保健福祉分野における家族支援の実際② | 家族理解の変遷について学ぶ | 予習：教科書第3章第2節を読む。<br>復習：家族の自助グループについてまとめる。 |
| | 12 | 精神保健福祉分野における家族支援の実際③ | 家族支援の方法について学ぶ | 予習：教科書第3章第3節を読む。<br>復習：配布資料を読む。 |
| | 13 | 多職種連携・多機関連携① | 連携の意義と目的について学ぶ | 予習：教科書第6章第1節を読む。<br>復習：配布資料を読む。 |
| | 14 | 多職種連携・多機関連携② | 多職種連携・多機関連携の留意点 | 予習：教科書第6章第2節を読む。<br>復習：連携についてまとめる |
| | 15 | まとめ | 全体を振り返り、学びを深める | 定期試験に向けた準備と復習を行う。 |
| | 16 | 定期試験 | | |

授業科目名称　：ソーシャルワークの理論と方法（精神）Ⅱ　授業コード：52620

授業科目英文名称：Social Work Theory and Methods (Mental Health) II

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 足立孝子（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | DE303 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 精神保健福祉士の専門性と倫理について説明することができる。 | 定期試験 | 50% |
| 情報収集、分析力 | 精神障害者の歴史と動向に関する資料から、現場における課題について適切に指摘することができる。 | 課題レポート | 15% |
| コミュニケーション力 | 授業内で自分の意見を積極的に伝えることができる。 | グループ発表 | 5% |
| 協働・課題解決力 | 精神障害者の人権について、グループでディスカッションすることができる。 | ディスカッション内容 | 15% |
| 多様性理解力 | 精神科ソーシャルワークのアプローチについて説明することができる。 | 課題レポート | 15% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | この授業の目的は、精神障害者福祉の理念と精神障害者の人権、精神保健福祉の歴史と理念、精神科ソーシャルワークの歴史について学び、精神障害者が地域で主体的に生活するための具体的実践の方法を知り行うことができるようになることを目的とし、次の3点を授業のねらいに据えている。<br>① 精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。② 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。③ 精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。<br>また、ディプロマポリシーにある社会の課題に対する思考力、判断力、表現力を活用し、主体的に問題解決を行う力を養成するために、授業は、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションによって展開する。そのなかで、学生が精神科ソーシャルワークの知識・技術を、自分の言葉で説明し、他者が理解できる表現の仕方について具体的に学ぶことも重視する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①⑤⑥⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 定期試験は50%で、精神保健福祉士の専門性と倫理について、自らの意見を正確に説明することができるかを評価する。課題レポート30%では、精神保健福祉の歴史、および精神科医療の課題について説明することができているかを評価する。レポート課題は、授業内で提示し、ポートフォリオにて提出する。さらに、グループ発表5%、ディスカッション内容15%で評価する。すべての提出物は、次回の授業内およびポートフォリオにてフィードバックを行う。 |
| 授業概要 | 精神障害者福祉の理念と精神障害者の人権、精神保健福祉の歴史と理念、精神科ソーシャルワークの歴史などについて概説する。授業では、学生には意見を求めたり、議論してもらったり、またグループワークを活用しながら、授業内容の理解を深める。また、精神保健福祉法や障害者総合支援法の復習も適宜行う。担当教員は、精神保健福祉士として精神科病院でカウンセリングや医療相談、ソーシャルワークなどで精神科ソーシャルワークの実務経験があり、その経験に基づき授業を展開する。レスポン等を活用し、学生のコメントに対しは、適宜対応する。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：最新・精神保健福祉士養成講座「ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）』中央法規<br>参考書：授業内で指示する。<br>指定図書：授業内で指示する。 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 授業内で、次回までの予習・復習を提示する。指定された内容を実施してくること。<br>精神障害者の現状を踏まえ、支援のあり方やソーシャルアクションについて考えてほしい。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション** | 授業の概要、進め方、評価等を確認する。ソーシャルワークの理論と方法（精神）Ⅰの授業を振り返る | 復習：配布資料を読んで授業を振り返る。 |
| 2 | **ソーシャルアドミニストレーションの展開方法①** | ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義について学ぶ | 予習：教科書第7章第1節を読む。<br>復習：配布資料を再読する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 3 | ソーシャルアドミニストレーションの展開方法② | 組織と精神保健福祉士の関連性について学ぶ | 予習：教科書第7章第2節を読む。<br>復習：配布資料を再読する。 |
| 4 | ソーシャルアドミニストレーションの展開方法③ | 組織介入・組織改善の実践モデルについて学ぶ | 予習：実践モデルについて調べる。<br>復習：実践モデルをまとめる。 |
| 5 | ソーシャルアドミニストレーションの展開方法④ | 組織運営管理の実際について学ぶ | 予習：教科書第7章第3節を読む。<br>復習：展開過程をまとめる。 |
| 6 | コミュニティワーク① | 精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義について学ぶ | 予習：教科書第4章第1節を読む。<br>復習：配布資料を再読する。 |
| 7 | コミュニティワーク② | 地域における精神保健福祉の向上について学ぶ | 予習：教科書第4章第2節を読む。<br>復習：配布資料を再読する。 |
| 8 | 個別支援からソーシャルアクションへの展開① | 基本的視点について学ぶ | 予習：教科書第5章第1節を読む。<br>復習：配布資料を再読する。 |
| 9 | 個別支援からソーシャルアクションへの展開② | 個別支援から地域における体制整備について学ぶ | 予習：教科書第5章第2節1、2、3を読む。<br>復習：配布資料を再読する。 |
| 10 | 個別支援からソーシャルアクションへの展開③ | 個別支援から地域における体制整備について学ぶ。地域包括ケアシステムについて学ぶ | 予習：教科書第5章第2節4を読む。<br>復習：配布資料を再読する。 |
| 11 | 個別支援からソーシャルアクションへの展開④ | 政策提言・政策展開について学ぶ | 予習：教科書第5章第3節を読む。<br>復習：配布資料を再読する。 |
| 12 | 個別支援からソーシャルアクションへの展開⑤ | 精神障害者の地域移行・地域定着に関わる展開について学ぶ | 予習：教科書第5章第4節を読む。<br>復習：ソーシャルアクションへの展開をまとめる。 |
| 13 | 関連分野における精神保健福祉士の実践展開① | 学校・教育分野・産業分野における精神保健福祉士について学ぶ | 予習：教科書第8章第1節第2節を読む。<br>復習：配布資料を再読する。 |
| 14 | 関連分野における精神保健福祉士の実践展開② | 司法分野・災害分野における精神保健福祉士について学ぶ | 予習：教科書第8章第3節第4節を読む。<br>復習：配布資料を再読する。 |
| 15 | まとめ | 全体を振り返り、学びを深める | 定期試験に向けた準備と復習を行う。 |
| 16 | 定期試験 | | |

授業科目名称　：生活支援技術ⅡB　　授業コード：12613

授業科目英文名称：Skills for Lifestyle Support ⅡB

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2 | 1 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 大町いづみ（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 演習 | | |
| ナンバリング | DD206 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 高齢者を支援する専門職の役割を理解し、ICFの視点を生活に活かすことができる。 | 定期試験<br>単元別小テスト<br>実技チェック | 30%<br>5%<br>15% |
| 情報収集、分析力 | ICFの視点でアセスメントすることができる。 | 課題レポート | 10% |
| コミュニケーション力 | 利用者を安心・安全にできるコミュニケーション能力を修得することができる。 | 定期試験<br>実技チェック | 10%<br>10% |
| 協働・課題解決力 | 介護を必要とする利用者を理解し、安心できる介護や生活を実現できる為の方法について考えることができる。<br>利用者の状況・状態にあったバイタルチェックを実践することができる。 | グループワーク<br>ディスカッション<br>授業態度・参加度 | 5%<br>5%<br>10% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本演習では、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を修得する学習とする。どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識についてプレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどを通して修得する学習とする。この演習を通して、専門的知識・技術を修得し、それらを様々な課題に適用して解決できることをねらいとする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①②③⑦⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 「定期試験」（40%）は、合格基準を60点以上とし筆記試験（持ち込み不可）を行う。「実技チェック」（25%）は、バイタルサインの実技試験を評価する。「単元別小テスト」（5%）は、8回目に実施する。<br>「課題レポート」（10%）は、介護実習室で演習に取り組んだ際の「生活支援技術演習レポート様式」を用いて作成し、ポートフォリオ上にてフィードバックを行い学生と共有する。<br>「グループワーク、ディスカッション、授業態度や参加度」（20%）は、授業中の態度、熱意、グループワークやディスカッション等で評価する。 |
| 授業概要 | 長年医療や保健の現場で看護師と助産師としての経験を持つ教員が担当し現場実践を活かした学修を行う。生活支援とは何かを学び、生活支援技術の基礎として、利用者のアセスメントのためにICFを理解する。さらに演習科目であるため、介護実習室において、演習（バイタルサイン・観察）を実施する。基本的な用語の理解や原理・原則の理解も必要なため、講義中にグループワークやディスカッション、ポートフォリオで課題等のフィードバックを取り入れる。また、知識の確認と技術の修得を判断するための実技テストも行う。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」介護福祉士養成講座編集委員会中央法規（2022）<br>最新・介護福祉士養成講座11『こころとからだのしくみ』介護福祉士養成講座編集委員会中央法規（2022）<br>参考書：適宜紹介する<br>指定図書：上記に同じ |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 利用者が送っている生活を理解するために、まずは自分自身が日頃どのような生活を送っているのかを意識的に考えて欲しい。また、一つ一つの行動は様々な動作が組み合わさっていることも意識すること。<br>バイタルサインや観察項目について実技テストを実施するので、授業の予習・復習として、それらを体験した上で授業に臨まれることを期待する。<br>注意点：欠席の場合は事前連絡を行うこと。バイタルサインの実技チェックの合格が介護実習の要件である。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **生活支援技術のねらいと目的<br>観察の技法①** | 本科目についての概要と評価方法の説明、基本的な用語（観察、バイタルサイン等）の基礎知識について学ぶ。 | 予習：シラバスを読み、本教科の内容を理解する。<br>復習：バイタルサインを復習する。 |
| 2 | **観察の技法②** | バイタルサインの測定を行う（脈拍、呼吸、体温、血圧、意識）。 | 予習：基準値を調べる。<br>復習：演習した項目を振り返り、レポートを作成する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 3 | **観察の技法③** | バイタルサインの測定を行う（脈拍、呼吸、体温、血圧、意識）。 | 予習：バイタルサインの測定法を調べる。<br>復習：演習した項目を振り返り、レポートを作成する。 |
| | 4 | **生活支援の理解①** | 生活支援技術の意味について学ぶ。 | 予習：教科書（指定頁）を読んでおく。<br>復習：生活支援技術を整理する。 |
| | 5 | **生活支援の理解②** | 介護の専門性について学ぶ。 | 予習：教科書（指定頁）を読んでおく。<br>復習：介護の専門性を説明できる。 |
| | 6 | **ICFに基づく生活支援の理解①** | ICFとは何か、概要や活用について学ぶ。 | 予習：ICFの概念を調べる。<br>復習：ICFの活用について発言できるようにする。 |
| | 7 | **ICFに基づく生活支援の理解②** | ICFの概念に基づく情報収集項目とアセスメントからその人への生活支援へつなぐための活用について学ぶ。 | 予習：ICF環境因子項目について調べる。<br>復習：各概念のアセスメントに基づく生活支援の重要性を理解する。 |
| | 8 | **ICFに基づく生活支援の理解③** | ICFの視点に基づくアセスメント、ICFを活用した生活支援について学ぶ。<br>バイタルサインの小テストを実施 | 予習：ICFを理解する。<br>復習：介護のアセスメントや生活支援を理解する。 |
| | 9 | **観察の技法④** | 酸素チューブ、尿道カテーテル、移送について学ぶ。 | 予習：教科書（指定頁）を読んでおく。<br>復習：介護上の観察ポイントについて理解する。 |
| | 10 | **人生の最終段階における介護①** | 人生の最終段階にある本人と家族をケアするために経過に沿った支援とチームケアの実践について学ぶ。 | 予習：人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインについて調べる。<br>復習：実践プロセスについて理解する。 |
| | 11 | **人生の最終段階における介護②** | 症状緩和(痛み、呼吸困難、倦怠感、口喝)の技術について学ぶ。 | 予習：人生の最終段階における介護の方法を調べる。<br>復習：症状緩和の方法を理解する。 |
| | 12 | **実技チェック①** | バイタルサインの実技試験を行う（脈拍、呼吸、体温、血圧、意識）。 | 予習：測定法をイメージする。<br>復習：実技練習をする。 |
| | 13 | **実技チェック②** | バイタルサインの実技試験を行う（脈拍、呼吸、体温、血圧、意識）。 | 予習：測定法をイメージする。<br>復習：実技のレポートを作成する。 |
| | 14 | **観察の技法 実技チェック** | バイタルサインについての実技チェックを行い、チェック後のフィードバックを行う。 | 予習：実技チェック自己評価表を作成する。<br>復習：実技の再確認を行う。 |
| | 15 | **まとめ** | これまで学んできた、生活（生活形成、生活経営・管理、生活支援等）、ICF、アセスメント、バイタルサインについての理解を深める。 | 復習：教科書・これまでに配布したプリントを確認し定期試験に備える。 |
| | 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：加齢と障害に関する理解　　授業コード：23624

授業科目英文名称：Understanding Aging and Disability

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 柳智盛（実務経験のある教員）、※田中千恵美（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | DF301 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 高齢者や障害者の尊厳を守る個別ケアの基本を理解し、それを用いて説明ができる。 | ・定期試験 | 40% |
| 情報収集、分析力 | 高齢者や障害者の生活や心理的特性についての諸問題及び取り組み方について調べ、それに対し指摘できる。 | ・定期試験<br>・課題レポート | 10%<br>10% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | 高齢者や障害者に対する諸問題の解決に向けて、専門家の立場から自らの考えを述べることができる。 | ・定期試験<br>・課題レポート | 10%<br>10% |
| 多様性理解力 | 高齢者や障害者の多様性を理解し、専門家として具体的にどのように接していくのかなどの支援を考えられる力を培うことができる。 | ・定期試験<br>・課題レポート | 10%<br>10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 教育職員免許状（高校・福祉）の取得に必要な科目である。人の誕生から死に至るまでの心身の発達や、成長・成熟・生理的変化について理解する。また、老化に伴う心身の変化やそれらが日常生活に及ぼす影響、高齢者の気持ち、高齢期の健康、認知症及び障害について深く理解し、高齢者・障害者の人格と尊厳を守る個別ケアの基本を理解する。こうした理解を経て、福祉の基礎的な知識と技術を理解することのできる人材を育成する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ③⑤⑨⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・定期試験の評価は70%とし、2人の担当者ごとの授業内容について筆記試験を行い、評価の配分に示した通りに評価を行う。課題レポートは、毎回の授業終了時に提示される課題及び感想の内容を30%とし評価した上で、定期試験と総合評価を行う。なお、課題レポートについては、授業中又は「ポートフォリオ」を通して次回の授業でフィードバックする。<br>・定期試験は担当者によるが、基本的に選択式・穴埋め式・記述形式のいずれかで問う。設問に対してどの程度主体的かつ丁寧に自分の意見を述べることができるかを評価する。<br>・評価の配分は、柳担当（8回）と田中担当（7回）の担当コマ数の配分に合わせて評価をする。 |
| 授業概要 | 人間の成長と発達の基礎的理解を基盤に、老年期の発達と成長、高齢者の心理・健康・日常生活支援、及び障害の基礎や捉え方、その日常生活について医療現場で医師の経験を持つ教員と心理臨床の現場での経験を持つ教員が担当し、現場実践を活かした学修を行う。基本的に講義形式で行うが、授業内容によっては質問応答のディスカッション形式のワークの体験を取り入れていく。<br>授業の担当者は、1～8回を柳、9～15回を田中が担当する。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：特に指定しない。<br>参考書：授業の中で適宜紹介していくため準備は必要ない。<br>指定図書：新・介護福祉士養成講座『発達と老化の理解』及び『障害の理解』中央法規 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 将来介護を学ぶ学生を教える教員を目指す者として、高齢者や障害のある人々の気持ちを理解することは重要なことである。高齢者・障害者やその介護者を含めた生活支援を行うための根拠となる知識の習得だけでなく、ハンディキャップのある人のことを具体的に考えて取り組むこと。遅刻・授業中の私語等学習態度については厳しく対処する。 |
| 授業計画 | |

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | **人間の成長と発達、発達段階と発達課題** | 人間の発達における各発達段階理論や、段階ごとの課題について学ぶ。 | 予：発達段階、発達課題とは何かを調べておくこと。<br>復：発達理論を覚える。 | 柳 |
| 2 | **老年期の定義、老化とは、老年期の発達課題** | 特に発達段階における老年期について、その定義や発達課題について学ぶ。 | 予：老年期の特徴を調べておくこと。<br>復：老年期の特徴を理解する。 | 柳 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 3 | **高齢者の生活ニーズ** | 人口の少子高齢化と家族形態の変化を理解し、老化によって生じる生活ニーズについて学ぶ。 | 予：高齢者の生活ニーズについて調べておく。<br>復：社会の変化を理解する。 | 柳 |
| 4 | **高齢者の心の問題、要介護による高齢者の心理** | 高齢者にはどのような心の問題が起こるのか、また要介護者の心理について学ぶ。 | 予：高齢者の心の諸問題について調べておくこと。<br>復：高齢者心理を理解する。 | 柳 |
| 5 | **高齢者の心理の理解①<br>－欲求と適応機制－** | 人間の欲求と適応機制を理解し、高齢者及び障害者の適応について考える。 | 予：適応機制について理解しておくこと。<br>復：高齢者の適応を理解する。 | 柳 |
| 6 | **高齢者の心理の理解②<br>－知能と記憶－** | 人間の知能と記憶を理解し、高齢者及び障害者と関連付けて考える。 | 予：知能・記憶について理解しておくこと。<br>復：高齢者・障害者との関連性を理解する。 | 柳 |
| 7 | **知的障害、発達障害に対する理解** | 知的障害、発達障害の基礎的な各側面と心理的特徴について理解する。 | 予：知的障害、発達障害の概要を調べておくこと。<br>復：各障害の心理的特徴を理解する。 | 柳 |
| 8 | **・加齢と障害の関連性<br>・まとめ** | ・加齢に伴う生じる様々な変化と障害との関連性について考える。<br>・1回～8回分の内容のまとめを行う。 | 予：加齢と障害の関連性について理解する。<br>復：8回の授業を振り返る。 | 柳 |
| 9 | **老化に伴う身体的・精神的機能の変化と日常生活への影響(1)** | 老化が及ぼす身体機能の変化や、精神的な変化について学び、老化が日常生活に及ぼす様々な影響を理解する。 | 予：老化による身体・精神機能の変化を調べておくこと。<br>復：老化による日常生活の変化について理解する。 | ※田中 |
| 10 | **老化に伴う身体的・精神的機能の変化と日常生活への影響(2)** | 老化が及ぼす身体機能の変化や、精神的な変化について学び、老化が日常生活に及ぼす様々な影響を理解する。 | 予：老化による身体・精神機能の変化を調べておくこと。<br>復：老化による日常生活の変化について理解する。 | ※田中 |
| 11 | **認知症の基礎的理解** | 認知症の疫学、原因、診断法、最近の治療法について理解する。 | 予：認知症の基本的な事項について調べておくこと。<br>復：認知症の基本知識を覚える。 | ※田中 |
| 12 | **認知症に伴う心身の変化について** | 認知症による身体的変化や精神的変化について学び、日常生活上の様々な問題点を理解する。 | 予：認知症による身体・精神の変化について調べておくこと。<br>復：認知症による日常生活の問題を理解する。 | ※田中 |
| 13 | **障害に対する基礎的理解(1)** | 老化に伴う障害、多くの内部機能障害についてその基本的考え方を理解する。 | 予：内部機能障害の基礎的事柄について調べておくこと。<br>復：障害の基礎知識を覚える。 | ※田中 |
| 14 | **障害に対する基礎的理解(2)** | 老化に伴う障害、多くの内部機能障害についてその基本的考え方を理解する。 | 予：内部機能障害の基礎的事柄について調べておくこと。<br>復：障害の基礎知識を覚える。 | ※田中 |
| 15 | **・各種障害に対する理解<br>・まとめ** | ・障害、特に内部機能障害に対して、その病態、症状、対処法について学ぶ。<br>・9回～15回分の内容のまとめを行う。 | 予：内部障害の対処法について調べておくこと。<br>復：講義全体を振り返る。 | ※田中 |
| 16 | **定期試験** | | | |

授業科目名称　：食教育論（実践的教育科目）　　授業コード：13020

授業科目英文名称：Dietary Edfication

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 髙江洲　有沙（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | IA105 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 生涯にわたる食育の重要性を理解し、特に子どもの食育に関わる管理栄養士の役割と関連させて考えることができる。 | ・定期試験 | 55% |
| 情報収集、分析力 | 身近な健康・栄養・食生活に関する情報を収集・分析し、問題となる食行動や生活を指摘できる。 | ・定期試験<br>・課題レポート | 10%<br>15% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | 自分のみならず他者における健康・栄養・食生活に関する問題や課題に関心を持ち、解決に向けた方策を考えることができる。 | ・授業態度 | 10% |
| 多様性理解力 | 自分が育った食文化や環境と多様な地域に暮らす人々の食文化や環境の違いを、歴史や暮らしの背景から理解を深めることが出来る。 | ・定期試験<br>・課題レポート | 5%<br>5% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 食育は、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものであることを、子どもを取り巻く環境や食生活の現状から理解するとともに、栄養、食の安心・安全、食行動、食文化などの様々な領域における食育を講義やグループワークやディスカッションを通して学修する。そのうえで家庭や幼稚園、学校などにおける子どもの頃から始める食育の重要性と管理栄養士の役割を理解することを目的とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①②③⑤⑥ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・定期試験の成績を70%とし、筆記試験及び穴埋め式の試験で行う。課題レポートの成績を20%とし、それまでの授業内容に関係する課題を問い、授業の中でフィードバックを行う。授業態度の成績は10%とし、グループディスカッションやグループワーク、他者との協働力・積極性等並びに携帯電話やスマートフォンの禁止等の授業のマナーを守ることを含む。<br>・定期試験及び課題レポートでは、食育の必要性や広範囲にわたる食育の内容を理解できたか、「食」における試験について解決方法を考えることができたかを評価する。課題レポートはポートフォリオを活用し、ディスカッションやグループワークの授業理解度は、授業内での発言や適宜レスポンを活用する。 |
| 授業概要 | 「食育基本法」「第4次食育推進基本計画」及び「食生活指針」から学修する。その際には教員の教育現場での実務経験を踏まえ、学校給食を中心とした食育の取り組みや具体的な事例紹介を行うことで、より実践的な理解へ導く。また、「食」に関するニュースや自身の食体験を振り返り、多様な地域における食の現状を交えながら授業を展開していく。授業では、グループワークやディスカッションを取り入れ、教科書以外に必要に応じてプリントやパワーポイント、ビデオ映像等を用いて行う。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：「八訂 食品成分表」 香川明夫監修 女子栄養大学出版部<br>参考書：「食生活指針の解説」一般社団法人 全国栄養士養成施設協会<br>指定図書：「食生活指針の解説」一般社団法人 全国栄養士養成施設協会 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 日ごろから「食」に関するニュースに興味を持って、積極的に新聞や書籍などで情報取集する習慣を身につけること、「なぜ食育が必要なのか」を考えながら、自身だけでなく多様な人々や地域の食に関する問題にも意識を持つことを期待する。<br>また、授業中の私語、携帯電話、スマートフォン、メール等は厳禁である。無許可での途中退出は不可とする。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **食育について** | 「食育基本法」の策定された背景を知り、わが国における食育の位置づけを知る | 予）食品成分表（資料編）「食育基本法」<br>復）第4次食育推進基本計画の概要 |
| 2 | **国民の食生活の現状と課題** | 「国民健康・栄養調査」の結果から国民の健康状態と食生活の課題について考える | 予）食生活指針の解説第3章「国民の食生活の現状と課題」<br>復）食生活の課題 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 3 | **ライフステージ別食育①** | 妊娠期及び乳幼児期の食の役割 | 予）食生活指針の解説P14-15<br>復）乳幼児期の食の役割 |
| | 4 | **ライフステージ別食育②** | 学童期の食の役割 | 予・復）学童期の特性と食の役割について理解しておく |
| | 5 | **学校給食の役割** | わが国の学校給食の制度と歴史<br>学校給食を活用した食育、栄養教諭制度 | 予）食品成分表（資料編）「子どもの栄養」<br>復）学校給食制度と食育 |
| | 6 | **食育の取り組み** | 学校給食を活用した食育や地域の食育、さらに諸外国の食について、グループディスカッションを通して知る（課題レポート） | 予）各自興味のある国や地域の食について事前に調べておく<br>復）課題レポート |
| | 7 | **食生活指針①** | 1.食事を楽しみましょう<br>2.1日の食事のリズムから、健やかな生活リズムを | 予）食生活指針の解説-指針3<br>復）運動と食事 |
| | 8 | **食生活指針②** | 3.適度な運動とバランスのよい食事で、適正体重の維持を | 予）食生活指針の解説-指針3<br>復）運動と食事 |
| | 9 | **食生活指針③** | 4.主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを<br>5.ごはんなどの穀類をしっかりと | 予）食生活指針の解説-指針4と5<br>復）食事バランスガイド |
| | 10 | **食生活指針④** | 6.野菜、果物、牛乳・乳製品、豆類、魚なども組み合わせて<br>7.食塩は控えめに、脂質は質と量を考えて | 予）食生活指針の解説-指針6と7<br>復）食品と栄養素 |
| | 11 | **食生活指針⑤** | 8.日本の食文化や地域の産物を活かし、郷土の味の伝承を（和食、郷土料理） | 予）食生活指針の解説-指針8<br>復）和食や郷土料理 |
| | 12 | **食生活指針⑥** | 8.日本の食文化や地域の産物を活かし、郷土の味の伝承を（行事食） | 予）食生活指針の解説-指針7と指針8<br>復）日本の行事食 |
| | 13 | **食生活指針⑦** | 9.食料資源を大切に、無駄や廃棄の少ない食生活を | 予）食生活指針の解説-指針8<br>復）フードロスと環境問題 |
| | 14 | **食生活指針⑧** | 食生活指針1～9を通して、自らができる持続可能な行動についてグループワーク（課題レポート） | 予）食生活指針の解説-指針1から9まで<br>復）グループワークの振り返り |
| | 15 | **食生活指針⑨・まとめ** | 10.「食」に関する理解を深め、食生活を見直してみましょう<br>食教育についてのまとめ | 予）食生活指針の解説-指針10<br>復）食生活指針の解説、授業のまとめ |
| | 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：臨床心理学（実践的教育科目）　　授業コード：41619

授業科目英文名称：Clinical Psychology

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 中村　尚生（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | IA306 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 心理的な問題や心理アセスメント、心理療法などの臨床心理学の基礎的な知識を説明できる。<br>食に関する問題（摂食障害など）について具体的にイメージし、その症状を説明できる。 | 定期試験<br>小レポート | 30%<br>10% |
| 情報収集、分析力 | 心理学の知識や視点を踏まえて自己分析し、自分自身や他者を多角的に捉えることができる。 | 授業態度 | 10% |
| コミュニケーション力 | 心理学で学んだ知識を踏まえ、自身の考えを表現できる。<br>ペアワークやグループワークに主体的に参加し、自身の考えを表現できる。 | 定期試験<br>授業態度 | 10%<br>10% |
| 協働・課題解決力 | 食に関する問題に対する対処方法・留意点について説明できる。<br>ペアワークやグループディスカッションにおいて、互いの立場を尊重し、協同できる。 | 小レポート<br>授業態度 | 10%<br>10% |
| 多様性理解力 | 様々な立場や考えの違いがあることを理解、尊重した言動や振る舞いができる。 | 授業態度 | 10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 臨床心理学とは、心理的な問題や不適応行動などの援助、回復、予防、その研究を目的とする心理学の一分野である。この授業では、心理的な問題や心理アセスメント、心理療法などの臨床心理学の基礎的な知識について学ぶ。人のこころの問題について、グループワークやペアワーク、ディスカッション、心理検査の体験、ロールプレイ等を通した実践的な学習を通して、自己理解や他者理解を深め、職場で役立つコミュニケーション能力を磨き、ディプロマポリシーの到達に向け、豊かな人間性を身につけることを目標とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ②⑤⑦⑨⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 評価は、定期試験40%、小レポート20%、授業態度40%の配分で行う。定期試験は、選択形式と記述形式で問う。選択形式では、授業で扱った臨床心理学に関する基本的な知識についてどの程度理解できているかを評価する。記述形式では、設問に対してどの程度主体的かつ丁寧に自分の意見を述べることができるかを評価する。小レポートは、授業中に実施するレポートの内容を評価し、次回の授業でフィードバックを行う。授業態度については、毎回の授業終了時の小テスト及びコメントカードの内容ならびに授業中の課題への取り組み方、発言内容等を評価する。なお、小テスト及びコメントカードの内容については、次回の授業内にてフィードバックを行う。 |
| 授業概要 | 臨床心理学、精神障がい、神経発達症、来談者中心療法、精神分析、認知行動療法、心理アセスメント等のテーマについて、基本的にパワーポイントで作成した資料を中心に授業を行う。受講人数やテーマに応じて、自己理解を深めるための心理検査の体験、相談・助言のためのコミュニケーション技術を身につけるためのペアワークやグループワーク、ディスカッション、ロールプレイなど、参加型の授業方法も取り入れる。なお、担当教員は公認心理師、臨床心理士の資格保有者であり、実務経験を活かして授業を展開する。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：特に指定しない。適宜資料を配布する。<br>参考書：適宜提示する。<br>指定図書：藤田哲也監修・串崎真志編著「絶対役立つ臨床心理学 カウンセラーを目指さないあなたにも」ミネルヴァ書房 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 日頃から心の問題に関心を持ち、授業で扱うトピックについて予習・復習を行うことを期待する。また、積極的な関心を持って授業に臨み、特に参加型の授業においては積極的な発言・参加を期待する。授業中の私語や理由のない遅刻等、態度の悪い者には厳しく対処する。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **臨床心理学とは何か** | 心理学における心のとらえ方と、臨床心理学の範囲・領域について理解する。 | 臨床心理学、心などのキーワードについて予習し、授業内容を復習する。 |
| 2 | **臨床心理学の対象①** | 統合失調症、抑うつ障害、双極性障害（躁うつ）、不安障害、強迫性障害、人格障害などの精神障がいについて学ぶ。 | 授業で扱う精神障がいについて予習し、授業資料の内容を復習する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 3 | **臨床心理学の対象②** | 自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症、などの神経発達症について学ぶ。 | 授業で扱う神経発達症について予習し、授業資料の内容を復習する。 |
| | 4 | **臨床心理学の対象③** | 外傷後ストレス障害、睡眠障害、引きこもり、不登校などの心が影響して起こる様々な問題について学ぶ。 | 授業で扱う心の問題について予習し、授業資料の内容を復習する。 |
| | 5 | **臨床心理学の対象④** | 摂食障害などの食が関連する心の問題について学ぶ。 | 摂食障害について予習しておく。授業の内容を踏まえて、小レポートを作成する。 |
| | 6 | **臨床心理学の対象⑤**<br>**心理アセスメント①** | 認知症について学ぶ。<br>知能検査、発達検査を中心に心理アセスメントの方法について学ぶ。 | 認知症・心理検査について予習し、授業資料の内容を復習する。 |
| | 7 | **心理アセスメント②** | エゴグラムなどの性格検査を中心に心理アセスメントの方法について学ぶ。実際に心理検査を体験し、結果を自己分析する。 | 自身の性格について予め考え、心理検査の結果を自己分析することを復習とする。 |
| | 8 | **心理アセスメント③** | ロールシャッハテスト、バウムテストなどの投影法を用いた性格検査を中心に心理アセスメントの方法について学ぶ。 | 投影法について予習し、授業資料の内容を復習する。 |
| | 9 | **心理療法①** | 精神分析を中心とした心理療法について学ぶ。 | 精神分析について予習し、授業資料の内容を復習する。 |
| | 10 | **心理療法②** | 来談者中心療法を中心とした心理療法について学ぶ。 | 来談者中心療法について予習し、授業資料の内容を復習する。 |
| | 11 | **心理療法③** | 認知行動療法を中心とした心理療法について学ぶ。 | 認知行動療法について予習し、授業資料の内容を復習する。 |
| | 12 | **心理療法④** | 遊戯療法や芸術療法、家族療法などの、様々な心理療法について学ぶ。 | 心理療法全般について予習し、授業資料の内容を復習する。 |
| | 13 | **事例と臨床①** | 摂食障害について学び、事例と対応について検討する。 | 摂食障害について予習し、検討内容について復習する。 |
| | 14 | **事例と臨床②** | 複数事例からテーマを選び、事例への対応についてグループディスカッションを行う。 | 予習として事例検討に必要な基礎知識を整理し、検討内容について復習する。 |
| | 15 | **セルフコントロール** | セルフコントロールやストレスケアの方法について体験的に学修する。 | セルフコントロールの方法について予習し、授業内容を復習する。 |
| | 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：国際栄養論（実践的教育科目）　　授業コード：53624

授業科目英文名称：Nutritional Problems in the International Health

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 髙江洲　有沙（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | IA307 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | エビデンスに基づいた健康・栄養の情報を伝えることができ、諸外国における栄養問題の課題と取り組みについて総合的に考えることができる。 | ・定期試験<br>・課題レポート | 5%<br>5% |
| 情報収集、分析力 | 諸外国の文化的背景と食生活に関連した情報を収集し、健康について総合的に分析することができる。 | ・課題レポート | 10% |
| コミュニケーション力 | グループワークやディスカッションを通して、自ら発言するだけでなく、他者への発言を促すファシリテーターの意味を理解し、コミュニケーション力を身に付けることができる。 | ・授業態度、授業への参加度 | 10% |
| 協働・課題解決力 | グループワークやディスカッションを通して自ら日本と諸外国の解決すべき栄養課題を導き出し、説明することができる。 | ・授業態度、授業への参加度 | 5% |
| 多様性理解力 | 国際的な視点で問題意識を持ち、諸外国の健康・食・栄養課題とその取り組みについて理解できる。 | ・定期試験<br>・課題レポート | 55%<br>10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 世界には様々な食習慣や食文化を持つ国や地域、民族が存在している。これからの管理栄養士は、国際的な食糧の動向や健康・栄養問題を知り、食の多様化を理解するためには地球規模で健康・食・栄養の問題を考え、課題に取り組む姿勢や行動力が求められる。本授業では、グループディスカッションやグループワークを取り入れて、自文化の理解と共に多角的な視野で健康・食・栄養に関する問題を発見し、課題解決するために必要な知識やスキル、姿勢を修得する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ②③④⑤⑦⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・定期試験(60%)は、国際協力に必要な知識やスキルについて穴埋め式と自身の考えを問う筆記式にて行う。課題レポート(25%)は第5回、第13回、第14回に、グループワーク及びディスカッションの内容に関する課題を指示する。<br>・グループワーク及びディスカッションにて授業態度や参加度(15%)を、課題に沿った理論を踏まえた上での発言や自身の考えを伝えること、さらに、他者へ発言を促すことができているか、理論性や理解度を評価する。<br>・課題レポートはポートフォリオを活用し、内容のフィードバックは授業中に行う。 |
| 授業概要 | わが国には、様々な国や地域の人々が生活をしており、食に関する指導を行う際は、対象者を十分に理解した上で指導を行うことが求められるため、諸外国の食文化や食習慣、生活などを理解しておくことが必須である。教員の国際協力の実務経験を生かして、具体的な事例を紹介し、持続可能な開発目標（SDGs）に基づいたわが国と諸外国の健康・食・栄養に関する取り組みや諸外国の歴史・食文化・習慣について学修する。授業では、配付プリントとパワーポイント、グループワーク及びディスカッション、ビデオ映像等を用いて行う。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：特に指定はしない。授業中、適宜資料を配付する。<br>参考書：「実践グローバルヘルス-現場における実践力向上をめざして-」日本国際保健医療学会編 杏林書院、「国際栄養学-グローバルな栄養課題とその対策-」村山伸子他編著 建帛社<br>指定図書：「実践グローバルヘルス-現場における実践力向上をめざして-」日本国際保健医療学会編 杏林書院、「食からの異文化理解-テーマ研究と実践-」河合利光編著 時潮社 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 諸外国の健康や栄養、食文化に関するニュースの情報収集を意識的に行い、日本と諸外国の違いや共通する部分について考え、視野を広げていくことを期待する。また、世界で起きている健康・栄養の問題を自分事化する意識をもって授業に取り組んでいただきたい。授業中の私語、スマートフォン、携帯電話、メール等の使用は厳禁である。また、特別な事情を除き無許可での途中退出は不可とする。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション**<br>**日本の食文化の歴史** | ・国際栄養論の概説並びに受講生に望むこと、受講上の注意点<br>・日本の食文化や諸外国の食について | 予・復）行ったことのある国や地域、行ってみたい国や地域の食を調べる |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 2 | **世界の国や地域の多様性** | 「世界がもし100人の村だったら」ゲームを通して世界の人々の分布や多様性を知る（グループワーク）<br>（※テーマは受講人数によって変更することもある。） | 予）なし<br>復）世界人口や民族を理解する |
| | 3 | **食料と環境問題** | 世界の食料事情と環境問題（水と汚染、農業等） | 予）食料と食糧の違いや近年の環境問題について<br>復）食料と環境問題 |
| | 4 | **国際機関と日本の役割** | 国際機関の役割と日本のODA<br>（主に医療・保健分野に関連する機関） | 予）栄養に係わる国際機関を調べる<br>復）国際機関とODA |
| | 5 | **世界の健康・栄養問題について** | 世界の健康・栄養問題を把握し、解決に向けての取組みをグループディスカッション（課題レポート） | 予）どのような健康・栄養問題があるのか調べる<br>復）課題レポート |
| | 6 | **世界の栄養問題①** | 国際的な栄養に関する政策と施策（MDGs） | 予）日本の栄養に関する政策<br>復）国際的な栄養課題に対する取組み |
| | 7 | **世界の栄養問題②** | 主要な栄養問題とその原因（途上国、先進諸国） | 予）栄養問題には何かあるのか考えておく<br>復）栄養問題の解決に向けて取り組みこと |
| | 8 | **世界の健康・栄養状態** | 世界の健康・栄養状態を判断するための指標やデータについて知る | 予）栄養状態を把握するために必要と思われる知識<br>復）低栄養や貧困の指標を理解する |
| | 9 | **各国の栄養政策** | 諸外国の食生活指針やフードガイドなどを知り、各国が抱えている栄養課題を学ぶ | 予）日本の食生活指針<br>復）諸外国の食生活指針 |
| | 10 | **各国の栄養政策とNCDs** | 諸外国のNCDs対策について知る<br>（大洋州における取組事例等） | 予）日本の生活習慣病について<br>復）NCDsの基本的な内容 |
| | 11 | **食の異文化理解①** | 諸外国の食文化や郷土料理、宗教食について知る<br>（ゲストスピーカー・管理栄養士）<br>（事後レポート） | 予・復）諸外国・地域の食材や調理法を事前に調べ、食文化や食品などの特徴を理解する |
| | 12 | **食の異文化理解②** | 諸外国の食文化や宗教食、国際協力について知る<br>（ゲストスピーカー・NPO法人）<br>（事後レポート） | 予・復）諸外国の食文化や国際協力を調べ、食文化や宗教などの特徴を理解する |
| | 13 | **多様性理解のために必要な技法** | ファシリテーターの体験を通して多様性を理解する上で必要な知識や技法をグループディスカッションで学ぶ（課題レポート） | 予）2回目の多様性について復習しておく<br>復）課題レポート |
| | 14 | **持続可能な開発目標（SDGs）** | 健康・栄養に関する項目について事例を紹介しながら学び、各自で持続可能な開発目標に関する行動目標について考え、グループワークを行う（課題レポート） | 予）SDGsについて事前学習<br>復）SDGsの各自の行動目標を考えて行動に移すことができる。 |
| | 15 | **まとめ** | 諸外国の栄養士制度<br>授業の振り返りとまとめ | 予・復）世界の国々の栄養問題解決に向けての取り組みを考える |
| | 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：健康栄養入門（実践的教育科目）　　授業コード：31015

授業科目英文名称：Introduction to Health and Nutrition

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 松尾嘉代子※、熊井まどか、林　俊介※、山口　留美※、藤井　俊輔、小田　和人、川野　香織※、髙江洲　有沙※（※実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | IA108 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 管理栄養士と関連職種との関わりを理解し、社会が要請する管理栄養士の役割を関連させて考えることができる。 | ・課題レポート | 35% |
| 情報収集、分析力 | 健康の維持・増進、疾病の予防・治療、福祉・介護における栄養管理に必要な情報を理解し、それぞれの課題を説明できる。 | ・課題レポート | 15% |
| コミュニケーション力 | 自分や身近な人達の食生活を振り返ることを通して、他者の食生活を把握するために必要なコミュニケーション力を理解できる。 | ・受講態度<br>・課題レポート | 5%<br>10% |
| 協働・課題解決力 | グループワークを通して日本の健康課題を身近なものとして討議することができ、協働の重要性や課題解決力の必要性を理解できる。 | ・受講態度<br>・課題レポート | 5%<br>10% |
| 多様性理解力 | 管理栄養士の業務と役割を理解し、説明できる。<br>管理栄養士の歴史的背景を理解し、その必要性を説明できる。 | ・課題レポート | 20% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 栄養学の歴史を学び、社会における管理栄養士の使命や役割および活動分野の理解を通じて、管理栄養士を目指す気持ちを育む。併せて、管理栄養士として広い視野を持って活躍するために、各地域の食文化や生活習慣、経済及び栄養施策や制度等について、ディスカッションやグループワークを通して理解する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ②③⑤⑥ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 講義が主になるが、受講態度10%、課題レポートの成績90%で評価する。<br>・受講態度は、事前学習(予習)、事後学習(復習)をすることとともに、私語の抑止、私用での携帯電話等使用禁止、教室内での飲食禁止等の授業のマナーを守ることを含む。無断の途中退室は認めない。<br>・課題レポートの内容は、担当教員ごとに授業内で指示する。そのレポートでは、担当教員の授業内容をどの程度理解できたか等について評価し、フィードバックをする。（レポートは、ポートフォリオを活用したり、授業の理解についてはレスポンを用いたりする。） |
| 授業概要 | これから管理栄養士を目指す者にとって、管理栄養士の任務や求められる知識・技術、活躍の場などについて、病院や保健所、企業、行政機関での実務経験のある教員が分かりやすく説明し、今後、目指すべき管理栄養士像に対して具体的なイメージを持ち、進むべき進路を考える機会となるような内容の講義を行う。さらに、スポーツ栄養について公認スポーツ栄養士による講話を通して理解を深めたり、在学生による体験談を通して在学中の学習方法を学んだり、ゲストスピーカーによる講話から管理栄養士業務の実際を学ぶ。後半は、各種調査等の結果から地域の健康状況を把握し、管理栄養士としての視点や考え方など、グループワークを通して理解する。必要に応じてプリント配付、映像(パワーポイントなど)を使用する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：随時、資料を配布する。<br>参考書：「導入教育－信頼される専門職となるために－」（医歯薬出版）<br>指定図書：本学図書館の栄養関連の蔵書 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 本科目は「管理栄養士」を理解し、健康と栄養の重要性を認識するための基本を示したものであるので、自分の目的意識を持って、管理栄養士の役割、栄養・健康について積極的に興味・関心を持ち、自らより高度なやりがいを見出し、将来の自分の進路について考えられるよう、期待する。<br>また、予習・復習については、予め伝える次回の授業内容について、自分で調べて大まかな把握をしておくこと。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | **管理栄養士とは？** | 管理栄養士とはどのような資格なのか、管理栄養士が登場した時代背景について考えるとともに、法令に定められた管理栄養士の役割と業務について、関係法規を基に考える。 | 管理栄養士について、どのような資格なのかを調べて予習し、講義を通して理解を深める。 | 松尾嘉代子 |
| 2 | **管理栄養士の使命** | 管理栄養士の職業倫理を理解し、自覚する。 | 職業倫理とは何なのか予習し、講義を通して理解を深める。 | 熊井まどか |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 3 | **関連職種との関わり①** | 医療現場で働く管理栄養士の仕事について理解する。（課題レポート） | 医療現場での管理栄養士業務について予習し、講義を通して理解を深める。 | 山口留美 |
| 4 | **関連職種との関わり②** | 医療現場（特に在宅医療）に関わる管理栄養士の仕事について理解する。（課題レポート） | 在宅医療での管理栄養士業務について予習し、講義を通して理解を深める。 | 林俊介 |
| 5 | **関連職種との関わり③** | スポーツ栄養に関する基礎知識を理解し、管理栄養士の仕事を考える。 | スポーツ栄養に関する基礎知識を予習し、講義を通して理解を深める。 | 小田和人 |
| 6 | **関連職種との関わり④** | 研究・教育機関における管理栄養士の仕事について理解する。（課題レポート） | 研究・教育機関の管理栄養士の業務を予習し、講義を通して理解を深める。 | 藤井俊輔 |
| 7 | **関連職種との関わり⑤** | 行政における管理栄養士の仕事（災害時対応を含む）と、協働する職種について理解する。（課題レポート） | 自身の災害時の備えや災害時の管理栄養士の業務を予習し、講義を通して理解を深める。 | 川野香織 |
| 8 | **関連職種との関わり⑥** | 海外派遣と教育現場での管理栄養士の仕事と、協働する職種について理解する。（課題レポート） | 各職域で働く管理栄養士の業務を予習し、講義を通して理解を深める。 | 髙江洲有沙 |
| 9 | **関連職種との関わり⑦** | スポーツ栄養の実際について理解し、管理栄養士の役割について理解する。（ゲストスピーカー）（課題レポート） | スポーツ栄養に管理栄養士の役割について予習し、講義を通して理解を深める。 | 小田和人 |
| 10 | **関連職種との関わり⑧** | 管理栄養士が、生涯を通じて多方面で活躍できる職種であることについて事例を基に理解する。（ゲストスピーカー・実務家）（課題レポート） | 多方面で管理栄養士が活躍するために必要な技術や知識について予習し講義を通して理解を深める。 | 松尾嘉代子 |
| 11 | **卒業生から学ぶ** | 本学在学生、卒業生の体験談を通して、これからの学生生活を送るうえで必要な学習方法や就活に向けて基礎知識を身につける。（ゲストスピーカー・卒業生）（課題レポート） | 本学卒業生の進路や在学中の履修科目等を予習し、講義を通して理解を深める。 | 松尾嘉代子 |
| 12 | **地域における健康課題について考える①** | 自分の食生活を振り返るとともに、どのような食事が理想的なのかを考え、実践する契機とする。また、現在、地域が抱える健康課題を栄養に関する問題から考える。 | 各種栄養調査の結果を予習し、授業を通して現在の地域の健康問題について理解する。 | 松尾嘉代子 |
| 13 | **地域における健康課題について考える②** | 前回の授業内容を踏まえ、地域の健康課題について自分たちが考える解決策のグループワークを行い、全体で共有する。 | 地域の健康課題について、授業を通してその解決方法について理解する。 | 松尾嘉代子<br>川野香織 |
| 14 | **地域における健康課題について考える③** | 前回のグループワークの内容をもとに、自分が目指すべき管理栄養士像をイメージし、今後の学修目標について整理する。（課題レポート） | 管理栄養士とはどうあるべきかについて考え、具体的なイメージを持つ。 | 松尾嘉代子<br>川野香織 |
| 15 | **まとめ** | 管理栄養士の可能性と期待されるものとは？（課題レポート） | 全ての講義内容を振り返り、自分が目指す管理栄養士像について考える。 | 松尾嘉代子 |

授業科目名称　：臨床医学入門Ⅰ（実践的教育科目）　授業コード：51011

授業科目英文名称：Introduction to Clinical Medicine Ⅰ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 廣田　昌彦（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | IA219 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 様々な疾病・病態について、その知識を体系的に理解して説明できる。修得した臨床医学に関する専門知識を、分かりやすく明確に伝えることができる。 | ・定期試験<br>・中間テスト | 65%<br>15% |
| 情報収集、分析力 | 臨床医学に関して必要な情報を、信頼できる情報源から効率よく収集することができる。臨床医学に関する情報を様々な角度から批判的に検討することができる。 | ・定期試験<br>・中間テスト | 5%<br>5% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | 臨床医学に関する課題を的確に把握し、他の人と協力して、課題解決に向けた方策を立案し、着実に実行できる。 | ・授業態度<br>・授業への参加度 | 5%<br>5% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 管理栄養士による栄養指導は、健康管理、疾病の予防・治療において必要不可欠である。特に管理栄養士が医療チームの一員として活動するためには、医学の基本的知識を修得しておくことが重要である。本科目では、臨床的に頻度の多い一般的な疾患や生活習慣病などの「食」との関連が深い疾患について、その成因、病態、治療などの基本的事項を理解し、説明できることを目標としている。 |
| アクティブラーニングの類型 | ① ② ③ ⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 評価点は、定期試験の結果を70%とし、12回目に実施する中間テストの結果を20%として算定する。授業態度・授業への参加度は、授業中の態度、取り組み、関心・意欲、質問等に対する返答で、10%として評価する。中間テストについては、授業において解説し、フィードバックする。 |
| 授業概要 | 外科医としての臨床経験に基づき、本科目では、生活習慣病を含む一般的な疾患について、臓器・機能別（循環器系、消化器系、呼吸器系、代謝・内分泌系、造血器系、その他）に分類し、各々の解剖・生理、疾患の成因、病態、診断・治療、予防法の基本的事項に関する授業を行う。また、授業中に多くの質問を投げかけ、これに対するディスカッションをする時間をとっている。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学習時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：栄養科学シリーズNEXT「臨床医学入門」第2版 武田英二、河田光博（編）講談社<br>参考書：適宜紹介する。<br>指定図書：栄養科学シリーズNEXT「臨床医学入門」第2版 武田英二、河田光博（編）講談社 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 管理栄養士は、健康の維持・増進に栄養面から寄与するのみならず、疾病の予防・治療にも医療チームの一員として活動するように位置づけられている。したがって、一般的な栄養に関する知識・技能のみならず、医学・医療に関した実践的な幅広い知識を身に着け、応用できるように努力されることを期待する。このためには、学内だけの学修にとどまらず、自宅や社会の中においても、常に新しい医学的な情報に接するようにしてほしい。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **からだと臨床医学** | 臨床医学について、身体を構成する化合物、栄養素の代謝、遺伝子と病気 | 予習：教科書p1～13<br>復習：臨床医学についてのまとめ |
| 2 | **病気はどのようにして起こるか** | 病気の起こるメカニズム | 予習：教科書p14～22<br>復習：病気の成因についてのまとめ |
| 3 | **病気はどのようにして診断し、治療するのか** | 病気の成り立ち、臨床での診断、臨床での治療法 | 予習：教科書p24～33<br>復習：病気の診断、治療についてのまとめ |
| 4 | **脳の疾患** | 脳疾患（脳血管障害・認知症・脳腫瘍・脳炎・脳症・BSE・パーキンソン病、その他）、精神疾患（うつ病・統合失調症・摂食障害・アルコール依存症・薬物依存症） | 予習：教科書p34～44<br>復習：脳疾患、精神疾患についてのまとめ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 5 | **目・耳・鼻・口、のどの疾患** | 白内障・緑内障・網膜疾患、中耳・副鼻腔疾患、虫歯・歯周病、口内炎・舌炎・舌がん・扁桃炎 | 予習：教科書p45～52<br>復習：眼科、耳鼻咽喉科的疾患についてのまとめ |
| 6 | **胸部の疾患** | 呼吸器疾患（気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患・肺炎・肺結核・肺がん）、心疾患（狭心症・心筋梗塞・心不全）、食道疾患（食道がん） | 予習：教科書p53～62<br>復習：呼吸器、心臓、食道疾患についてのまとめ |
| 7 | **腹部の疾患(1)** | 胃炎・消化性潰瘍（胃・十二指腸）胃がん・炎症性腸疾患（クローン病・潰瘍性大腸炎・胃食道逆流症・タンパク漏出性胃腸症・吸収不良症候群・過敏性腸症候群・便秘・腸閉塞（イレウス）・大腸がん・直腸がん・痔核 | 予習：教科書p64～72<br>復習：消化管疾患についてのまとめ |
| 8 | **腹部の疾患(2)** | 肝・胆疾患（肝炎・脂肪肝・肝硬変・肝不全・肝がん・胆のう炎・胆石症）・膵疾患（膵がん・膵炎） | 予習：教科書p73～79<br>復習：肝・胆・膵疾患についてのまとめ |
| 9 | **腹部の疾患(3)** | 慢性腎臓病（CKD）、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全と透析療法、腎・尿路結石、腎盂腎炎、膀胱炎、腎がん、膀胱がん | 予習：教科書p80～92<br>復習：腎疾患、泌尿器疾患についてのまとめ |
| 10 | **全身の疾患(1)** | 糖尿病、脂質異常症、肥満症、高尿酸血症・痛風 | 予習：教科書p93～102<br>復習：代謝性疾患についてのまとめ |
| 11 | **全身の疾患(2)** | 先天性代謝異常症 内分泌疾患 | 予習：教科書p103～109<br>復習：代謝性疾患、内分泌疾患についてのまとめ |
| 12 | **全身の疾患(3)** | 血管疾患（動脈硬化・高血圧）、血液疾患（貧血・白血病・血小板減少症・血友病）、中間テスト | 予習：教科書p110～118<br>復習：血管、血液疾患についてのまとめ |
| 13 | **全身の疾患(4)** | 中間テストのフィードバック、免疫疾患｛アレルギー疾患、免疫不全、自己免疫疾患（リウマチ・膠原病）｝、その他（敗血症・多臓器不全） | 予習：教科書p119～123<br>復習：免疫疾患についてのまとめ |
| 14 | **全身の疾患(5)** | 骨疾患（運動器の外傷・骨粗しょう症・骨軟化症・くる病・椎間板ヘルニア・変形性関節症）、筋疾患（進行性筋ジストロフィー）、皮膚疾患（じょく創・ヘルペスウィルス感染症） | 予習：教科書p124～130<br>復習：骨・筋・皮膚疾患についてのまとめ |
| 15 | **女性・男性の疾患** | 乳腺疾患（乳腺症・乳がん）、子宮・卵巣疾患（子宮筋腫・子宮内膜症・子宮がん）、卵巣疾患（卵巣のう腫・その他）、更年期障害、前立腺疾患（前立腺肥大症・前立腺がん） | 予習：教科書p131～140<br>復習：女性、男性の疾患についてのまとめ |
| 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：臨床医学入門Ⅱ（実践的教育科目）　　授業コード：33637

授業科目英文名称：Introduction to Clinical Medicine Ⅱ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 廣田　昌彦（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | IA220 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 様々な疾患に対する専門的知識を体系的に理解し、その知識を臨床の場面で臨機応変に活用することができる。 | ・定期試験<br>・中間テスト | 65%<br>15% |
| 情報収集、分析力 | 臨床医学に関する情報を収集するためのツールやメディアの特性について理解し、必要な情報を効率的に収集することができる。 | ・定期試験<br>・中間テスト | 5%<br>5% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | 臨床医学に関する課題を的確に把握し、他の人と協力して、課題解決に向けた方策を立案し、着実に実行できる。 | ・授業態度<br>・授業への参加度 | 5%<br>5% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本科目では、管理栄養士に必要な各種の疾病の病態、診断法、治療法の基礎的事項、及び重要な疾患について、その診断法、治療法、予防法を学習する。さらに、治療法では、現在行われている最新の医療を含めて幅広く解説する。この授業により、臨床医学の基礎と専門の知識を身に付けることが目標である。 |
| アクティブラーニングの類型 | ① ② ③ ⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 評価点は、定期試験の結果を70%とし、12回目に実施する中間テストの結果を20%として算定する。授業態度・授業への参加度は、授業中の態度、取り組み、関心・意欲、質問等に対する返答で、10%として評価する。中間テストについては、授業において解説し、フィードバックする。 |
| 授業概要 | 外科医としての臨床経験に基づき、本授業は、各項目に要点を整理したプリントを配布し、解説を加える。実際の医療の場面に即した、パワーポイント、ビデオなどの視聴覚教材を使用する。臨床医学的な検査法などについては、一部実習の形で行う。授業中に多くの質問をし、その答えについて、個人、全体でディスカッションをする時間をとっている。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書： 特に指定しない。授業ごとにプリントを配布する。<br>参考書： 栄養科学シリーズNEXT「臨床医学入門」第2版 武田英二、河田光博、編. 講談社（東京）<br>指定図書：栄養科学シリーズNEXT「臨床医学入門」第2版 武田英二、河田光博、編. 講談社（東京） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 本授業は、主に栄養学との関連が深い内科的な疾患を多く取り上げて学修する。あらかじめ伝えた次回の授業の内容について、自分で調べて大まかな把握をしておくこと。この分野の診断や治療法は、日進月歩であり、授業外でも、常に社会に目を開き、新聞、ニュース、その他から新しい情報を収集するようにして欲しい。授業で学修した医学的な知識を実際の臨床の場で的確に応用出来るように研鑽を積まれるよう期待する。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **総論・疾患診断・治療の概要** | 1 一般的な診察法（問診、聴診、打診、脈拍など）<br>2 主な症候（頭痛、腹痛、発熱など）<br>3 一般的検査法(検尿、血液・生化学、心電図など)<br>4 一般的な治療 | 一般的な診察法、検査法、治療法についての復習<br>悪性腫瘍の予習 |
| 2 | **悪性腫瘍** | 悪性腫瘍の成因・病態・診断・治療の概要 | 悪性腫瘍の診断・治療についての復習<br>代謝性疾患の予習 |
| 3 | **代謝性疾患** | 特に糖尿病について、成因、診断、治療法(食事療法を中心に)の概要 | 糖尿病の食事療法についての復習<br>内分泌疾患の予習 |
| 4 | **内分泌疾患** | 内分泌疾患(特に甲状腺、下垂体疾患)の成因・病態・診断・治療の概要 | 内分泌疾患についての復習<br>免疫・アレルギー疾患の予習 |
| 5 | **免疫と生体防御** | 免疫・アレルギー疾患の成因・病態・診断・治療の概要 | 免疫・アレルギー疾患についての復習<br>腎・尿路系疾患の予習 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 6 | **腎・尿路疾患** | 1 体液・電解質の異常について<br>2 腎・尿路疾患(腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全)の成因・病態・診断・治療の概要 | 体液・電解質の異常、腎・尿路疾患の復習<br>消化器疾患の予習 |
| 7 | **消化管疾患** | 消化管疾患の成因・病態・診断・治療の概要 | 消化管疾患の病態・食事療法についての復習<br>肝胆膵疾患の予習 |
| 8 | **肝胆膵疾患** | 肝胆膵疾患の成因・病態・診断・治療の概要 | 肝胆膵疾患の病態・食事療法についての復習<br>循環器疾患の予習 |
| 9 | **循環器疾患** | 1 循環障害<br>2 循環器疾患（特に虚血性心疾患）の成因・病態・診断・治療の概要 | 循環器疾患の病態・診断・治療についての復習<br>神経・精神疾患の予習 |
| 10 | **神経・精神疾患、生殖器疾患** | 1 感覚器・神経疾患の病態・診断・治療の概要<br>2 摂食障害の成因・病態・診断・治療の概要<br>3 精神疾患の成因・病態・診断・治療の概要 | 神経・精神疾患についての復習<br>呼吸器疾患の予習 |
| 11 | **呼吸器疾患** | 呼吸器疾患(特に気管支、肺の気質的・機能的疾患)の成因・病態・診断・治療の概要 | 呼吸器疾患についての復習<br>血液疾患の予習 |
| 12 | **血液疾患、中間テスト** | 血液疾患(特に各種の貧血、白血病、血液凝固･線溶異常症などの）成因・病態・診断・治療の概要 | 血液疾患の病態･診断についての復習<br>運動器疾患の予習 |
| 13 | **運動器(筋骨格)疾患** | 中間テストのフィードバック、運動器(筋骨格)疾患(特に骨粗鬆症、骨折、関節の疾患など)の成因・病態・診断・治療の概要 | 運動器(筋骨格)疾患の診断･治療についての復習<br>感染症の予習 |
| 14 | **感染症** | 1 感染症の基礎知識（感染症法、感染経路など）<br>2 細菌感染症(特に結核、MRSA、腸管出血性大腸菌感染症などの）成因・病態・診断・治療の概要<br>3 ウイルス性感染症の成因・病態・診断・治療の概要 | 感染症の病態、感染予防についての復習<br>救急医療の予習 |
| 15 | **救急医療** | 一次救急(AEDを含めたBLS)、二次救急、三次救急のシステム、制度の概要 | 救急医療、AED使用法についての復習 |
| 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：微生物学（実践的教育科目）　　授業コード：43023

授業科目英文名称：Microbiology

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 1 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| ※野村　秀一（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | IA121 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 微生物に対する基礎的な知識を修得し、微生物とヒトとの関係を総括的に説明することができる。 | ・定期試験 | 40% |
| 情報収集、分析力 | 感染症の発症の原因となる多くの微生物について、それぞれの微生物の特性について、自分自身で探求し、理解することができる。 | ・定期試験<br>・課題レポート | 20%<br>10% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | 微生物が関連する事柄に関心や疑問を持ち、それらを解決するために自主学習ができ、さらに質問や助言を求めることができる。 | ・定期試験<br>・課題レポート | 20%<br>10% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 微生物はヒトの生活環境中に生存しており、ヒトの生活と密接に関わっている。その中で、ヒトに感染症を引き起こす微生物を病原微生物という。本授業では、病原微生物の特性（分類、性状、病原性、伝播）、感染症の発症機序、感染症に対する免疫機構、予防法、薬物治療法などの基礎知識を修得して、微生物とヒトとの関係を理解することである。 |
| アクティブラーニングの類型 | ① ⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 定期試験：80%、課題レポート：20%の割合で評価する。<br>定期試験は、微生物の特性等、感染症の発生機序、感染症に対する免疫機構、感染症の予防法、薬物療法についての基礎知識を修得したかを評価する。出題様式は、記述式、正誤修正式、択一式である。<br>課題レポートは、講義内容に関係する課題を課し、理論性・独自性を評価し、講義の中でフィードバックする。<br>定期試験、課題レポートでの誤字、脱字、判読不能な文字での記述は減点対象とする。 |
| 授業概要 | 指定する教科書と配布資料及びパワーポイント等を使用し、微生物の基礎知識及び微生物とヒトとの関係、感染症の発症メカニズム等を講義形式で、判りやすく解説する。さらに講義中に適宜課題レポートを課す。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分である。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：系統看護学講座 微生物学（疾病のなりたちと回復の促進④）（医学書院）<br>参考書：戸田新細菌学（医学書院）、感染症とアレルギー（同文書院）、感染と生体防御（建帛社）<br>指定図書：系統看護学講座 微生物学（疾病のなりたちと回復の促進④）（医学書院） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 微生物学は高校の生物の基礎知識を必要とするので、生物の復習を各自で行うこと。<br>微生物学は後期に学ぶ「食品衛生学」をはじめとする基礎科目との関係が深いので、自主的に予習・復習を行うこと。<br>日常生活の中で起こる微生物による「感染症」に関心を持って生活し、学んだ知識を活用すること。<br>授業中の私語、居眠り、携帯電話・スマホ等の使用は厳禁、厳しく対応する。<br>授業中の無許可での退室は不可とする。<br>授業を受けて理解できなかったことなどは、積極的に質問を行い、さらに自主的に学修すること。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **微生物学とは** | 微生物学の歴史、微生物の種類と特徴 | 教科書のp4～20を読んでおく。微生物とは何かを具体的になる様に復習する。 |
| 2 | **微生物の種類と特徴 ①** | 細菌の分類、細菌の構造、細菌の増殖、細菌の代謝 | 教科書のp21～30を読んでおく。細菌の構造、増殖と代謝について復習する。 |
| 3 | **微生物の種類と特徴 ②** | 細菌の遺伝、細菌の病原性 | 教科書のp31～33、76～85を読んでおく。細菌の遺伝、病原性について復習する。 |
| 4 | **微生物の種類と特徴 ③** | 真菌の生態、構造、病原性、代謝、原虫の特性、構造 | 教科書のp40～53、86～88を読んでおく。真菌と原虫構造等の特性を復習する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 5 | **微生物の種類と特徴 ④** | ウイルスの特性、構造、増殖、病原性、プリオン | 教科書のp56～66、89～96を読んでおく。ウイルスの構造、病原性を復習する。 |
| | 6 | **常在細菌叢 ①** | 常在細菌叢の種類、人体での分布、機能 | 教科書のp34～38を読んでおく。常在細菌叢の種類と機能を復習する。 |
| | 7 | **常在細菌叢 ②** | 常在細菌叢と生体との関係、腸内細菌叢 | 配布資料を読んでおく常在細菌叢と人体の関係と腸内細菌叢の働きを復習する。 |
| | 8 | **感染と発病 ①** | 感染様式、感染源、、宿主、病原体 | 教科書のp70～75を読んでおく。感染の成立、感染の経過、感染源を復習する。 |
| | 9 | **感染と発病 ②** | 病原性、、感染経路、症状 | 教科書のp127～132、134～141を読んでおく。感染性、感染経路、症状を復習する |
| | 10 | **感染症の種類** | 新興・再興感染症、感染症法、院内感染、市中感染 | 教科書のp198～211を読んでおく。新興・再興感染症、院内・市中感染を復習する。 |
| | 11 | **感染症の予防と治療 ①** | 免疫機構、自然免疫、非特異的免疫 | 教科書のp98～107を読んでおく。自然免疫、獲得免疫の機構を復習する。 |
| | 12 | **感染症の予防と治療 ②** | 獲得免疫、非特異的免疫、予防接種 | 教科書のp107～127を読んでおく。感染症対策法、感染の予防法を復習する。 |
| | 13 | **感染症の予防と治療 ③** | バイオハザード、滅菌と消毒、消毒薬、診断 | 教科書のp144～168を読んでおく。滅菌と消毒、消毒薬、診断法を復習する。 |
| | 14 | **感染症の予防と治療 ④** | 化学療法、化学療法薬、薬剤耐性 | 教科書p170～196を読んでおく。化学療法、化学療法薬、薬剤耐性を復習する。 |
| | 15 | **主な病原微生物** | 病原性を有する細菌、真菌、原虫、ウイルス | 教科書p216～360を読んでおく。主な細菌、真菌・原虫、ウイルスとそれによる感染症を復習する。 |
| | 16 | **定期試験** | | |
| | | **※授業の進捗状況により内容を変更することがある。** | | |

授業科目名称　：応用栄養学Ⅰ（実践的教育科目）　　授業コード：21015

授業科目英文名称：Applied Nutrition Ⅰ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 松尾　嘉代子（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | IB242 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 日本人の食事摂取基準を理解し、活用できる。<br>食事摂取量の把握ついて理解し、対象者の栄養素等摂取量の適切な評価方法を説明できる。<br>栄養管理の概念について理解し、栄養アセスメントの目的と方法が説明できる。 | 定期試験<br>小テスト<br>レポート | 45%<br>10%<br>10% |
| 情報収集、分析力 | 適切な栄養評価方法を選択し、対象者の栄養状態をアセスメントできる。 | 定期試験<br>レポート | 25%<br>10% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 栄養管理プロセスについて学習し、その遂行に必要な食事摂取基準の活用法を修得する。特に、栄養管理の概念、様々な栄養環境への適応、栄養状態の評価・判定、科学的な根拠に基づいた栄養素必要量の求め方と日本人の食事摂取基準について理解し、対象者を適切にアセスメントできるよう、必要な知識を修得することを目標とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①②③⑨⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 小テスト10%、レポート20%、定期試験（筆記式及び穴埋め式）70%で評価する。<br>・予習・復習を行ったうえで授業に臨んでいるかを、毎回授業開始時の小テストで評価する。小テストは、授業においてフィードバックし、以後の学習に活用できるようにする。<br>・レポートは第7回目と14回目の授業の際に出題するが、授業の進捗状況に合わせて課題を出す。その内容はこれまでの授業を理解しているかについて記述するものとし、提出及びフィードバックにはポートフォリオを活用する。<br>・定期試験は、日本人の食事摂取基準、食事摂取量と食行動・食環境の把握、栄養管理プロセスについて理解し、説明できるかを評価する。 |
| 授業概要 | ・講義形式で行い、必要に応じて資料を配布する。<br>・教科書に準じて授業を行い、栄養管理の概念、栄養アセスメント、食事摂取基準の意義、食事摂取基準策定及び活用の基礎理論、エネルギー・栄養素別の食事摂取基準について説明する。<br>・保健所や病院での実務経験を活かし、授業内の知識を実践的に活用する場面等について分かりやすく説明する。<br>・授業の理解度は「レスポン」を用いて毎回確認し、学生からの質問については次の授業の中でフィードバックする。<br>・この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：①健康・栄養科学シリーズ「応用栄養学－改訂第8版－」南江堂 ②「日本人の食事摂取基準2025年版」第一出版<br>参考書：「栄養士・管理栄養士必携2024年版」第一出版<br>指定図書：健康・栄養科学シリーズ「応用栄養学－改訂第8版－」南江堂、「日本人の食事摂取基準2025年版」第一出版 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 本科目では、管理栄養士の専門的な知識や技術について学修するため、授業内容は管理栄養士の業務と直結するものである。そのため、日常生活の中から常に栄養に関する考え方や栄養的な評価に関する手法等に興味を持ち、各自疑問に思うことを積極的に質問できる態度で授業に臨むことを期待する。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **食事摂取基準の基礎的理解①** | 食事摂取基準の意義 | 教科書①第2章A、教科書②Ⅰ総論1.策定方針を予習。食事摂取基準の目的を説明できるように復習する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 2 | **食事摂取基準の基礎的理解②** | 食事摂取基準の基礎的理解 | 教科書①第2章B、教科書②Ⅰ総論2.策定の基本的事項、3.策定の留意事項を予習。食事摂取基準の各指標について説明できるように復習する。 |
| | 3 | **食事摂取基準の基礎的理解③** | 食事摂取基準活用の基礎理論 | 教科書①第2章C、教科書②Ⅰ総論4.活用に関する基本的事項、5.今後の課題を予習。食事摂取基準の活用について説明できるよう復習する。 |
| | 4 | **食事摂取基準の基礎的理解④** | エネルギー | 教科書①第2章D-1、②Ⅱ各論1-1エネルギーを予習。エネルギーの設定根拠を説明できるよう復習する。 |
| | 5 | **食事摂取基準の基礎的理解⑤** | たんぱく質 | 教科書①第2章D-2、②Ⅱ各論1-2たんぱく質を予習。たんぱく質の設定根拠を説明できるよう復習する。 |
| | 6 | **食事摂取基準の基礎的理解⑥** | 脂質 | 教科書①第2章D-3、②Ⅱ各論1-3脂質を予習。脂質の設定根拠を説明できるように復習する。 |
| | 7 | **食事摂取基準の基礎的理解⑦** | 炭水化物<br>エネルギー産生栄養素バランス | 教科書①第2章D-4,5、②Ⅱ各論1-4炭水化物、1-5エネルギー産生栄養素バランスを予習。炭水化物、エネルギー産生栄養素バランスの設定根拠を復習する。 |
| | 8 | **食事摂取基準の基礎的理解⑧** | ビタミン（脂溶性ビタミン） | 教科書②Ⅱ各論1-6ビタミン(1)脂溶性ビタミンを予習。脂溶性ビタミンの設定根拠を説明できるよう復習する。 |
| | 9 | **食事摂取基準の基礎的理解⑨** | ビタミン（水溶性ビタミン） | 教科書②Ⅱ各論1-6ビタミン(2)水溶性ビタミンを予習。水溶性ビタミンの設定根拠を説明できるよう復習する。 |
| | 10 | **食事摂取基準の基礎的理解⑩** | ミネラル（多量ミネラル） | 教科書②Ⅱ各論1-7ミネラル(1)多量ミネラルを予習。多量ミネラルの設定根拠を説明できるよう復習する。 |
| | 11 | **食事摂取基準の基礎的理解⑪** | ミネラル（微量ミネラル）<br>水 | 教科書②Ⅱ各論1-7ミネラル(2)微量ミネラルを予習。微量ミネラルの設定根拠及び水の必要量について説明できるよう復習する。 |
| | 12 | **栄養ケア・マネジメント①** | 栄養ケア・マネジメントの概念 | 教科書①第1章Aを予習。栄養ケア・マネジメントの概念を説明できるよう復習する。 |
| | 13 | **栄養ケア・マネジメント②** | 栄養スクリーニング・栄養アセスメント | 教科書①第1章Bを予習。栄養スクリーニング・栄養アセスメントについて説明できるよう復習する。 |
| | 14 | **栄養ケア・マネジメント③** | 栄養ケア計画の実施、モニタリング | 教科書①第1章Cを予習。栄養ケアの計画、モニタリングについて説明できるよう復習する。 |
| | 15 | **栄養ケア・マネジメント④** | 栄養ケアの評価、フィードバック | 教科書①第1章Dを予習。各種評価について説明できるよう復習する。 |
| | 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：応用栄養学Ⅱ（実践的教育科目）　　授業コード：13619

授業科目英文名称：Applied Nutrition Ⅱ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 松尾　嘉代子（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | IB343 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 各ライフステージ（妊娠期～小児期）の身体的特徴を理解できる。<br>各ライフステージの栄養評価に必要な方法について説明できる。 | ・定期試験<br>・小テスト<br>・レポート | 40%<br>10%<br>10% |
| 情報収集、分析力 | 各ライフステージの課題を理解した上で、適切な栄養介入ができる。<br>各ライフステージに適した食生活について説明できる。 | ・定期試験<br>・レポート | 20%<br>10% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | 各ライフステージの栄養管理を通して、多様な食生活があることを理解できる。 | ・定期試験 | 10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 応用栄養学Ⅰで修得した知識を活かし、生体の生理的、栄養的な特徴をライフステージ別に理解する。各ライフステージ（妊娠期・授乳期、新生児期・乳児期、小児期）における生活環境、食生活や栄養素等摂取の特徴を理解し、それに基づく栄養管理を修得することを目標とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①②③⑨⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 小テスト10%、レポート20%、定期試験（筆記式及び穴埋め式）70%で評価する。<br>・予習・復習を行ったうえで授業に臨んでいるかを、毎回授業開始時の小テストで評価する。小テストは、授業においてフィードバックし、以後の学習に活用できるようにする。<br>・レポートは第7回目と14回目の授業の際に出題するが、授業の進捗に合わせて課題を出す。その内容はこれまでの授業を理解しているかについて記述するものとし、提出及びフィードバックにはポートフォリオを活用する。<br>・定期試験は、各ライフステージにおける生活環境、食生活や栄養素等摂取の特徴を理解し、それに基づく栄養管理について説明できるかを評価する。 |
| 授業概要 | ・講義形式で行い、必要に応じて資料を配布する。<br>・教科書に準じて授業を行い、各ライフステージ（妊娠期～小児期）における生活環境、食生活や栄養素等摂取の特徴、それに基づく栄養管理の特徴について説明する。<br>・担当教員の保健所や病院での実務経験を活かし、習得した知識の具体的な活用方法等を分かりやすく説明する。<br>・授業の理解度は「レスポン」を用いて毎回確認し、学生からの質問については次の授業の中でフィードバックする。<br>・この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：①健康・栄養科学シリーズ「応用栄養学－改訂第8版－」南江堂<br>②「改訂7版 臨床栄養ディクショナリー（日本人の食事摂取基準(2025年版)対応）」MCメディカ出版<br>参考書：「日本人の食事摂取基準2025年版」第一出版、「栄養士・管理栄養士必携」第一出版<br>指定図書：健康・栄養科学シリーズ「応用栄養学－改訂第8版－」南江堂、「日本人の食事摂取基準2025年版」第一出版 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 本科目では、管理栄養士の専門的な知識や技術について学修するため、授業内容は管理栄養士の業務と直結するものである。そのため、日常生活の中から常に栄養に関する考え方や栄養的な評価に関する手法等に興味を持ち、各自疑問に思うことを積極的に質問できる態度で授業に臨むことを期待する。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **成長・発達、加齢**<br>**ライフサイクル** | ライフサイクルチェーンの栄養とDOHaD<br>胎児期と出産後の成長・発達<br>加齢、老化とエンド・オブ・ライフ<br>ライフステージにおける食生活の状況と健康・栄養の課題 | 教科書①第3章A～Eを予習。成長・発達、加齢のライフサイクルについて説明できるよう復習する。 |
| 2 | **妊娠期・授乳期①** | 妊娠<br>産褥<br>栄養アセスメントと栄養ケア | 教科書①第4章妊娠期A～Cを予習。妊娠期の母体変化について説明できるよう復習する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 3 | **妊娠期・授乳期②** | 栄養と病態・疾患<br>栄養ケアのあり方 | 教科書①第4章妊娠期D～Eを予習。妊娠期の栄養ケアについて復習する。教科書②妊娠期の栄養を復習する。 |
| 4 | **妊娠期・授乳期③** | 授乳女性の生理的特徴<br>栄養アセスメント | 教科書①第4章授乳期A～Bを予習。授乳の生理的機序について説明できるよう復習する。 |
| 5 | **妊娠期・授乳期④** | 授乳期の栄養と病態・疾患<br>栄養ケアのあり方 | 教科書①第4章授乳期C～Dを予習。授乳期の栄養ケアについて説明できるよう復習する。 |
| 6 | **新生児期・乳児期①** | 新生児、乳児の生理的特徴 | 教科書①第5章Aを予習。乳児期の発育について説明できるよう復習する。 |
| 7 | **新生児期・乳児期②** | 栄養アセスメントと栄養ケア | 教科書①第5章Bを予習。乳児期の栄養ケアについて説明できるよう復習する。教科書②乳児期の栄養を復習する。 |
| 8 | **新生児期・乳児期③** | 授乳期の栄養補給法 | 教科書①第5章Cを予習。母乳・人工乳の特徴について説明できるよう復習する。<br>教科書②乳児期の栄養を復習する。 |
| 9 | **新生児期・乳児期④** | 乳児期の食事摂取基準 | 教科書①第5章Dを予習。離乳食の進め方について説明できるよう復習する。<br>教科書②乳児期の栄養を復習する。 |
| 10 | **幼児期①** | 幼児期の成長<br>幼児期の発達 | 教科書①第6章A～Bを予習。<br>幼児期の成長と発達について説明できるよう復習する。 |
| 11 | **幼児期②** | 栄養状態の変化<br>栄養アセスメント | 教科書①第6章C～Dを予習。<br>幼児期の栄養アセスメントににについて復習する。 |
| 12 | **幼児期③** | 栄養と病態・疾患・生活習慣<br>栄養ケアのあり方 | 教科書①第6章E～Fを予習。幼児期の生活習慣や病態の特徴について復習する。 |
| 13 | **学童期、思春期①** | 学童期、思春期の生理的特徴 | 教科書①第7章Aを予習。学童期、思春期の生理的特徴について復習する。 |
| 14 | **学童期、思春期②** | 成長期の栄養アセスメントと栄養ケア | 教科書①第7章Bを予習。成長期の栄養問題について説明できるよう復習する。 |
| 15 | **学童期、思春期③** | 学童期、思春期の食事摂取基準と学校給食 | 教科書①第7章Cを予習。学校給食について復習する。<br>教科書②食物アレルギーを復習する。 |
| 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：応用栄養学Ⅲ（実践的教育科目）　　授業コード：23022

授業科目英文名称：Applied Nutrition Ⅲ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 松尾　嘉代子（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | IB344 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 成人期・高齢期の身体的特徴と栄養管理について理解できる。<br>運動時の身体特性と栄養管理について理解できる。<br>ストレス条件下における身体特性と栄養管理について理解できる。<br>特殊環境条件下における身体特性と栄養管理について理解できる。 | ・定期試験<br>・小テスト<br>・レポート | 40%<br>10%<br>10% |
| 情報収集、分析力 | 症例・事例に基づく栄養管理について説明できる。 | ・定期試験<br>・レポート | 20%<br>10% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | 様々な条件下の栄養管理を通して、栄養管理の多様性を理解できる。 | ・定期試験 | 10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 応用栄養学Ⅰ・Ⅱで修得した知識を活かし、成人期・高齢期のライフステージ及び特殊環境下における生理的変化と栄養管理について理解する。運動時及び特殊な温度、気圧、重力環境下における生体機能の変化や、運動時における生活環境、食生活や栄養素等摂取の特徴を理解し、それに基づく栄養管理を修得することを目標とする。また、近年、管理栄養士に求められる災害時の栄養管理についても知識を修得する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①②③⑨⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 小テスト10%、レポート20%、定期試験（筆記式及び穴埋め式）70%で評価する。<br>・予習・復習を行ったうえで授業に臨んでいるかを、毎回授業開始時の小テストで評価する。小テストは、授業においてフィードバックし、以後の学習に活用できるようにする。<br>・レポートは第7回目と14回目の授業の際に出題するが、授業の進捗に合わせて課題を出す。その内容はこれまでの授業を理解しているかについて記述するものとし、提出及びフィードバックにはポートフォリオを活用する。<br>・定期試験は、成人期・高齢期のライフステージ、運動時及び特殊な温度、気圧、重力環境下における生体機能の変化を理解し、それに基づく栄養管理について説明できるか、災害時の栄養管理について理解できているかを評価する。 |
| 授業概要 | ・講義形式で行い、必要に応じて資料を配布する。<br>・教科書に準じて授業を行い、成人期・高齢期のライフステージ、運動時及び特殊な温度、気圧、重力環境下における生体機能の変化や、それに基づく栄養管理の特徴、災害時における栄養管理の重要性について説明する。<br>・担当教員の保健所や病院での実務経験を活かし、習得した知識の具体的な活用方法等を分かりやすく説明する。<br>・授業の理解度は「レスポン」を用いて毎回確認し、学生からの質問については次の授業の中でフィードバックする。<br>・この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：①健康・栄養科学シリーズ「応用栄養学－改訂第7版－」南江堂<br>②「改訂6版 臨床栄養ディクショナリー（日本人の食事摂取基準(2020年版)対応）」MCメディカ出版<br>参考書：「日本人の食事摂取基準2025年版」第一出版、「栄養士・管理栄養士必携2024年版」第一出版<br>指定図書：健康・栄養科学シリーズ「応用栄養学－改訂第7版－」南江堂、「日本人の食事摂取基準2025年版」第一出版 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 本科目では、管理栄養士の専門的な知識や技術について学修するため、授業内容は管理栄養士の業務と直結するものである。そのため、日常生活の中から常に栄養に関する考え方や栄養的な評価に関する手法等に興味を持ち、各自疑問に思うことを積極的に質問できる態度で授業に臨むことを期待する。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **成人期①** | 成人期の身体的および社会的特性<br>成人期の食事摂取基準の特徴 | 教科書①第8章A～Bを予習。成人期の特徴を説明できるよう復習する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 2 | **成人期②** | 栄養と疾患、病態 | 教科書①第8章Cを予習。<br>成人期の疾患、病態の特徴について復習する。 |
| | 3 | **成人期③** | 栄養アセスメント<br>栄養およびその他の生活習慣のケアのあり方 | 教科書①第8章D～Eを予習。成人期の栄養アセスメントについて復習する。 |
| | 4 | **高齢期①** | 高齢期の特徴<br>高齢者の生理的特徴<br>高齢者の精神的変化 | 教科書①第9章A～Cを予習。高齢期の生理的特徴について説明できるよう復習する。 |
| | 5 | **高齢期②** | 高齢期の栄養アセスメント<br>高齢者の疾患と栄養ケア | 教科書①第9章D～Eを予習。高齢期の栄養アセスメント、教科書②高齢者の栄養を復習。 |
| | 6 | **高齢期③** | 身体的特徴に配慮した栄養ケア<br>介護予防・合併症予防のための栄養ケア | 教科書①第9章F～Gを予習。高齢者の栄養ケアについて説明できるよう復習する。 |
| | 7 | **運動・スポーツと栄養①** | 運動時の生理的特徴とエネルギー代謝 | 教科書①第10章Aを予習。<br>運動時の生理的特徴について説明できるよう復習する。 |
| | 8 | **運動・スポーツと栄養②** | 運動と栄養ケア<br>・運動の健康に対する影響<br>・健康づくりのための身体活動・運動ガイド | 教科書①第10章B-1,2を予習。運動と栄養ケアについて説明できるよう復習する。 |
| | 9 | **運動・スポーツと栄養③** | 運動と栄養ケア<br>・運動時の食事摂取基準<br>・炭水化物とたんぱく質の摂取<br>・水分・電解質補給 | 教科書①第10章B-3～5を予習。運動時の食事摂取基準について復習する。 |
| | 10 | **運動・スポーツと栄養④** | 運動と栄養ケア<br>・スポーツ貧血・食事内容と摂取のタイミング<br>・ウエイトコントロールと運動・栄養<br>・栄養補助食品の利用 | 教科書①第10章B-6～9を予習。運動時の栄養ケアについて具体的に説明できるよう復習する。 |
| | 11 | **環境と栄養①** | 環境変化に対する生体の応答とホメオスタシス | 教科書①第11章Aを予習。<br>環境変化におけるホメオスタシス調節について復習する。 |
| | 12 | **環境と栄養②** | ストレス応答と栄養 | 教科書①第11章Bを予習。<br>ストレス応答と栄養の関係を説明できるよう復習する。 |
| | 13 | **環境と栄養③** | 特殊環境と栄養<br>・高温・低温環境と栄養 | 教科書①第11章C-1を予習。温度変化と栄養の関係を説明できるよう復習する。 |
| | 14 | **環境と栄養④** | 特殊環境と栄養<br>・高圧・低圧環境と栄養<br>・無重力環境と栄養 | 教科書①第11章C-2,3を予習。気圧変化と栄養の関係を説明できるよう復習する。 |
| | 15 | **環境と栄養⑤** | 特殊環境と栄養<br>・災害時の栄養 | 教科書①第11章C-4を予習。災害時の管理栄養士業務について復習する。 |
| | 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：応用栄養学実習（実践的教育科目）　授業コード：44615

授業科目英文名称：Applied Nutrition Practice

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3 | 1 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 松尾　嘉代子（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 実習 | | |
| ナンバリング | IB345 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 個別のデータから栄養状況を評価し適切な栄養介入ができる。<br>ライフステージごとの特徴を理解し、それに応じた栄養管理や献立作成ができる。 | ・定期試験<br>・レポート | 20%<br>20% |
| 情報収集、分析力 | 栄養評価に必要な方法を理解し、それらを活用して適切な栄養診断ができる。 | ・定期試験<br>・レポート | 20%<br>10% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | 与えられた課題に対して、グループメンバーと協力して、解決に向けた取り組みができる。 | ・実習態度<br>・レポート | 10%<br>5% |
| 多様性理解力 | 様々な事例の栄養管理を通して、栄養管理の多様性を理解できる。 | ・定期試験<br>・レポート | 10%<br>5% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 応用栄養学は、管理栄養士として必要な栄養管理の基本的な考えを修得する専門分野であるため、栄養管理の一連の流れを修得し専門性に応じた適切な手技の修得につながる基本を身につける必要がある。<br>この実習では、栄養アセスメントの基本的な手技の修得を目指すとともに、応用栄養学Ⅱで学んだライフステージ別の栄養管理の実践として、対象者の課題に応じた食事計画・調理と評価までの一連の栄養管理能力の修得を目指すことを目標とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①④⑥⑦⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・定期試験による評価を50%とする。応用栄養学で学修した食事摂取基準やライフステージにおける栄養管理を基礎とした栄養管理について活用できるかを筆記試験で行う。<br>・レポートによる評価を40%とする。レポートは、栄養アセスメントに関する課題やライフステージごとの栄養管理に応じた献立作成など、各回の実習内容に沿ったテーマで作成する。また、実習内容に対する考察は、ポートフォリオ等で提出する。（提出方法は各回ごとに指示する。）<br>・授業態度による評価は10%とする。授業態度は、実習に臨む態度や班員とのディスカッションなど、積極的な態度で取り組んでいるかを評価する。 |
| 授業概要 | ・実習は、実技や調理実習など、基本的に数名のグループでの作業が中心となる。グループは実習の内容ごとに再編し、どのようなメンバーとでも協力して実習を行えることを目指す。<br>・担当教員の保健所や病院での実務経験を活かし習得した知識の具体的な活用方法等について分かりやすく説明する。<br>・実習の理解度は実習内容ごとにポートフォリオ等に提出する考察で確認し、その内容については次の実習の中でフィードバックする。<br>・この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：『スタンダード人間栄養学 これからの応用栄養学演習・実習（第2版）―栄養ケアプランと食事計画・供食―』朝倉書店<br>参考書：健康・栄養科学シリーズ「応用栄養学－改訂第7版－」南江堂、<br>「日本人の食事摂取基準2025年版」第一出版、「栄養士・管理栄養士必携」第一出版、<br>「改訂6版 臨床栄養ディクショナリー（日本人の食事摂取基準(2020年版)対応）」MCメディカ出版<br>指定図書：『スタンダード人間栄養学 これからの応用栄養学演習・実習（第2版）―栄養ケアプランと食事計画・供食―』朝倉書店 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 本科目では、管理栄養士の専門的な知識や技術について学修するため、授業内容は管理栄養士の業務と直結するものである。そのため、日常生活の中から常に栄養に関する考え方や栄養的な評価に関する手法等に興味を持ち、各自疑問に思うことを積極的に質問できる態度で授業に臨むことを期待する。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **栄養アセスメント①** | 栄養アセスメントの手法（各種身体計測の実施）〔レポート〕 | 教科書「第1章 栄養ケア・マネジメント（身体計測）」について予習。身体計測の各種方法とそれを用いたアセスメントを復習する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2 | **栄養アセスメント②** | エネルギー消費量の推定 〔レポート〕 | 生活時間調査法について予習。生活活動記録から身体活動レベルをアセスメントする方法を復習する。 |
| 3 | **ライフステージごとの栄養管理①** | 妊娠期における栄養アセスメント | 教科書「第4章 妊娠期の栄養管理の実際」を予習。妊娠期における栄養アセスメントができるように復習する。 |
| 4 | **ライフステージごとの栄養管理②** | 妊娠期における栄養管理・献立作成① | 教科書「第4章 妊娠期の栄養管理の実際」を予習。妊娠期における栄養管理ができるように復習する。 |
| 5 | **ライフステージごとの栄養管理③** | 妊娠期における栄養管理・献立作成② 〔レポート〕 | 教科書「第4章 妊娠期の栄養管理の実際」を予習。妊娠期における栄養アセスメントに基づいた献立作成ができるように復習する。 |
| 6 | **ライフステージごとの栄養管理④** | 幼児期における栄養アセスメント | 教科書「第7章 幼児期の栄養管理の実際」を予習。幼児期における栄養アセスメントができるように復習する。 |
| 7 | **ライフステージごとの栄養管理⑤** | 幼児期における栄養管理・献立作成① | 教科書「第7章 幼児期の栄養管理の実際」を予習。幼児期における栄養管理ができるように復習する。 |
| 8 | **ライフステージごとの栄養管理⑥** | 幼児期における栄養管理・献立作成② 〔レポート〕 | 教科書「第7章 幼児期の栄養管理の実際」を予習。幼児期における栄養アセスメントに基づいた献立作成ができるように復習する。 |
| 9 | **ライフステージごとの栄養管理⑦** | 思春期における栄養アセスメント | 教科書「第9章 思春期の栄養管理の実際」を予習。思春期における栄養アセスメントができるように復習する。 |
| 10 | **ライフステージごとの栄養管理⑧** | 思春期における栄養管理・献立作成 〔レポート〕 | 教科書「第9章 思春期の栄養管理の実際」を予習。思春期における栄養アセスメントに基づいた献立作成ができるように復習する。 |
| 11 | **ライフステージに応じた献立作成と実践①** | 妊娠期に応じた調理実習 〔レポート〕 | 妊娠期「第4章 妊娠期の栄養管理の実際」<br>、妊娠期の食事計画について予習する。妊娠期に応じた食品選択と献立作成ができるように復習する。 |
| 12 | **ライフステージに応じた献立作成と実践②** | 離乳食（初期）の調理実習と調乳 〔レポート〕 | 教科書「第6章 乳児期の栄養管理の実際」、新生児・乳児期の食事計画について予習する。離乳初期に応じた食品選択と調理ができるように復習する。 |
| 13 | **ライフステージに応じた献立作成と実践③** | 離乳食（中期～後期）の調理実習 〔レポート〕 | 教科書「第6章 乳児期の栄養管理の実際」、新生児・乳児期の食事計画について予習する。離乳中期～後期に応じた食品選択と調理ができるように復習する。 |
| 14 | **ライフステージに応じた献立作成と実践④** | 食物アレルギー（3大アレルゲン除去）の調理実習 〔レポート〕 | 教科書「第7章 幼児期の栄養管理の実際」食物アレルギーについて予習する。食物アレルギーに応じた食品選択と3大アレルゲン除去の献立作成ができるように復習する。 |
| 15 | **ライフステージに応じた献立作成と実践⑤** | 幼児期に応じた調理実習 〔レポート〕 | 教科書「第7章 幼児期の栄養管理の実際」幼児期の食事計画について予習する。幼児期の応じた食品選択と献立作成ができるように復習する。 |
| 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：栄養教育論Ⅰ（実践的教育科目）　　授業コード：14624

授業科目英文名称：Argument of Nutritional Education Ⅰ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 髙江洲　有沙（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | IB250 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 栄養教育の目的や対象者の行動変容に必要な知識や理論を説明できる。 | ・定期試験<br>・小テスト | 50%<br>10% |
| 情報収集、分析力 | 対象者の情報から課題を明確にし、栄養教育に必要な理論や技法を選択することができる。 | ・定期試験<br>・課題レポート | 10%<br>10% |
| コミュニケーション力 | 対象者の自己決定や行動変容を促す支援方法を栄養カウンセリングに基づいて理解し、コミュニケーションの重要性を説明できる。 | ・定期試験 | 10% |
| 協働・課題解決力 | 栄養教育の内容が時代背景に応じて変化することを理解し、現代の健康問題について栄養教育の観点から適切な解決策を提案できる思考力を持つことができる。 | ・定期試験 | 10% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 健康の維持・増進、生活習慣病等の発症予防のための栄養教育の定義と目的を理解し、栄養教育を行うための理論を学修する。具体的には、対象者の栄養状態の維持や改善に向けては、栄養教育によって対象者の行動変容を促すことが重要であり、その際に必要な行動科学理論や栄養カウンセリング、栄養教育マネジメントを理解し、栄養教育へ応用できる基礎知識を修得する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①②③⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・定期試験（80%）は筆記式とし、栄養教育の目的や行動科学理論、カウンセリングの手法、栄養教育マネジメントを理解できているかを評価する。また、予習・復習を行ったうえで授業に臨んでいるか（受講態度）を、毎回の授業開始時に小テスト（10%）で評価し、課題レポート（10%）は第9回に課し、行動科学理論を実際の栄養教育に結び付けて理解できているかを評価する。<br>・小テストや課題レポートはポートフォリオ、授業の理解度はレスポンを活用し、それぞれの授業内でフィードバックをする。 |
| 授業概要 | ・栄養教育の定義や目的をはじめ、個人および集団を対象とした栄養教育に必要な基礎知識を学修する。基礎知識の主な内容は、食行動の変容を促すために必要な行動科学理論や栄養カウンセリング、栄養教育マネジメントサイクルとする。また、本科目を踏まえ、栄養教育論Ⅱではライフステージ別の具体的な栄養教育を学修する。<br>・教員の学校や医療機関での実務経験から具体的な事例を取り入れ、より実践的な理解へ導く。<br>・授業は、教科書に準じて行い、必要に応じてプリントやパワーポイント、動画を使用する。<br>・この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：サクセス管理栄養士・栄養士養成講座「栄養教育論」 第一出版<br>参考書：資料を適宜配布する。<br>指定図書：サクセス管理栄養士・栄養士養成講座「栄養教育論」 第一出版 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 講義を通じて、自分の生活環境において関連する事項を抽出しながら、栄養教育が身近なものであることを理解し、管理栄養士・栄養士としての使命感、倫理観、職業観などが培われることを期待する。<br>また、授業中の私語、スマートフォン、携帯電話、メールなどは厳禁である。無許可での途中退出は不可とする。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **栄養教育の概念** | 栄養教育の目的・目標<br>栄養教育の対象と機会 | 予）教科書序章該当箇所<br>復）特に栄養教育の目的・目標 |
| 2 | **栄養教育のための理論的基礎<br>行動科学の理論とモデル①** | 刺激-反応理論 | 予）教科書第1章該当箇所<br>復）行動科学理論のポイント |
| 3 | **行動科学の理論とモデル②** | ヘルスビリーフモデル<br>トランスセオレティカルモデル | 予）教科書第1章該当箇所<br>復）行動科学理論のポイント |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 4 | **行動科学の理論とモデル③** | 計画的行動理論<br>社会的認知理論 | 予）教科書第1章該当箇所<br>復）行動科学理論のポイント |
| | 5 | **行動科学の理論とモデル④** | ソーシャルサポート<br>コミュニティオーガニゼーション | 予）教科書第1章該当箇所<br>復）行動科学理論のポイント |
| | 6 | **行動科学の理論とモデル⑤** | イノベーション普及理論<br>ヘルスリテラシー | 予）教科書第1章該当箇所<br>復）行動科学理論のポイント |
| | 7 | **栄養カウンセリング①** | 行動カウンセリング<br>カウンセリングの基礎的技法 | 予）教科書第1章該当箇所<br>復）カウンセリングの基本的技法 |
| | 8 | **栄養カウンセリング②** | 認知行動療法<br>動機づけ面接 | 予）教科書第1章該当箇所<br>復）認知行動療法、動機づけ面接 |
| | 9 | **行動変容技法と概念** | 刺激統制法、反応妨害・拮抗、行動置換、オペラント強化、認知再構成、意思決定バランス、目標宣言・行動契約、セルフモニタリング、自己効力感、ストレスマネジメント、ソーシャルスキルトレーニング、ナッジ（課題レポート） | 予）教科書第1章該当箇所<br>復）行動変容技法 |
| | 10 | **組織づくり・地域づくりへの展開** | セルフヘルプグループ、グループダイナミクス、エンパワメント、ソーシャルキャピタル | 予）教科書第1章該当箇所<br>復）組織・地域づくりへの展開 |
| | 11 | **栄養教育マネジメント<br>栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル** | プリシード・プロシードモデル<br>ソーシャルマーケティング<br>生態学的モデル | 予）教科書第2章該当箇所<br>復）栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル |
| | 12 | **健康・食物摂取に影響を及ぼす要因のアセスメント** | アセスメントの種類と方法<br>個人要因のアセスメント<br>環境要因のアセスメント | 予）教科書第2章該当箇所<br>復）アセスメントの必要性と種類 |
| | 13 | **栄養教育の目標設定** | 目標設定の方法<br>実施目標、学習目標、行動目標、環境目標、結果目標 | 予）教科書第2章該当箇所<br>復）栄養教育の目標設定の意義と目標の種類 |
| | 14 | **栄養教育計画立案①** | 学習者の決定、期間・時期・頻度・時間の設定、場所の選択と設定、実施者の決定とトレーニング、教材の選択と作成 | 予）教科書第2章該当箇所<br>復）計画立案に必要な項目 |
| | 15 | **栄養教育計画立案②** | 学習形態の選択 | 予）教科書第2章該当箇所<br>復）学習形態や学習教材 |
| | 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：栄養教育論Ⅱ（実践的教育科目）　　授業コード：45015

授業科目英文名称：Argument of Nutritional Education Ⅱ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 髙江洲　有沙（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | IB251 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | ・ライフステージの特徴を踏まえた栄養教育の展開を説明できる。<br>・食環境づくりの必要性を説明できる。 | ・定期試験<br>・小テスト<br>・課題レポート | 30%<br>5%<br>5% |
| 情報収集、分析力 | ・栄養教育を行う上での情報を収集・整理し、問題点を明確にすることができる。 | ・定期試験<br>・小テスト | 15%<br>5% |
| コミュニケーション力 | ・対象者の状況に応じた栄養教育の知識や技術、手法について説明できる。 | ・定期試験<br>・小テスト | 15%<br>5% |
| 協働・課題解決力 | ・栄養教育マネジメントの目的・意義および一連の過程について説明できる。 | ・定期試験 | 10% |
| 多様性理解力 | ・ライフステージ別に身体的・精神的特徴、社会的背景や食生活の実態と問題点について理解を深める。 | ・定期試験 | 10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 栄養教育論Ⅰで学修した内容を基に、ライフステージ別の特徴を理解し、対象者に応じた栄養教育を展開できる知識や技術を修得する。また、個人が取り組もうとするその食行動が実践しやすい食環境づくりへの理解を深め、健康寿命の延伸及び生活の質（QOL）の向上を目指した望ましい食生活への支援に向けて、総合的にマネジメントできる知識や技術、手法を修得する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①②③⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・定期試験（80%）は筆記式とし、栄養教育のマネジメントやライフステージ別栄養教育の要点、食環境づくりを理解できているかを評価する。また、予習・復習を行ったうえで授業に臨んでいるか（受講態度）は、毎回の授業時に小テスト（15%）で評価し、課題レポート（5%）は第4回に課し、出産経験者へのインタビューや乳幼児期の栄養教育に必要な情報を収集・整理し、対象者に応じた栄養教育の展開を理解できているかを評価する。<br>・小テストや課題レポートはポートフォリオ、授業の理解度はレスポンを活用し、それぞれの授業内でフィードバックをする。 |
| 授業概要 | ・栄養教育論Ⅰの学修内容を踏まえ、ライフステージ別の身体的・精神的特徴、社会的背景や食生活の実態と問題点への理解を深め、対象者に応じた栄養教育に展開する際に必要な知識や技術、手法について学修する。また、栄養教育を実践的に展開するために必要な食環境づくり、栄養教育マネジメントを学修する。<br>・教員の学校や医療機関での実務経験から具体的な事例を取り入れ、より実践的な理解へ導く。<br>・授業は、教科書に準じて行い、必要に応じてプリントやパワーポイント、動画を使用する。<br>・この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：サクセス管理栄養士・栄養士養成講座「栄養教育論」,第一出版<br>参考書：資料を適宜配布する。<br>指定図書：サクセス管理栄養士・栄養士養成講座「栄養教育論」,第一出版、「改訂マスター栄養教育論実習」,建帛社 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 栄養教育論Ⅰに続き、望ましい食生活を実現可能なものにするための基本概念及びその理論と技術・手法を学ぶにあたり、管理栄養士・栄養士として栄養教育に携わる者は、まず、自身の健康や食に関心を持ち、「自己管理能力」を高めることが必要である。この授業を通じて、自己の食生活や生活習慣を省みる態度を身に付けることを期待する。<br>また、授業中の私語、スマートフォン、携帯電話、メールなどは厳禁である。無許可での途中退出は不可とする。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **栄養教育マネジメント<br>栄養教育のプログラムの実施** | モニタリング<br>実施記録・報告 | 予）栄養教育論Ⅰと教科書第2章該当箇所<br>復）モニタリング・実施記録 |
| 2 | **栄養教育の評価①** | 評価指標と評価基準の設定<br>企画評価、経過評価、影響評価、結果評価 | 予）教科書第2章該当箇所<br>復）栄養教育の評価 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 3 | **栄養教育の評価②** | 形成的評価、総括的評価、経済評価、総合評価 | 予）教科書第2章該当箇所<br>復）評価の種類 |
| | 4 | **ライフステージ別栄養教育の展開①** | 妊娠・授乳期の栄養教育①<br>特徴と留意点<br>身近な出産経験者への聞き取り（課題レポート） | 予）教科書第3章該当箇所<br>復）身近な出産経験者に話を聞き、レポート作成して理解を深める |
| | 5 | **ライフステージ別栄養教育の展開②** | 妊娠・授乳期の栄養教育②<br>栄養教育のポイント<br>妊産婦のための食事バランスガイド | 予）教科書第3章該当箇所<br>復）妊産婦に対する栄養教育の重要性 |
| | 6 | **ライフステージ別栄養教育の展開③** | 乳児期の栄養教育①<br>特徴と留意事項 | 予）教科書第3章該当箇所<br>復）乳児期の特徴と留意事項 |
| | 7 | **ライフステージ別栄養教育の展開④** | 乳児期の栄養教育②<br>栄養教育のポイント<br>離乳・授乳の支援ガイド | 予）教科書第3章該当箇所<br>復）離乳食の進め方と口腔機能の発達 |
| | 8 | **ライフステージ別栄養教育の展開⑤** | 幼児期の栄養教育<br>特徴と留意事項<br>栄養教育のポイント | 予）教科書第3章該当箇所<br>復）教科書やガイドラインで特徴と留意事項を理解 |
| | 9 | **ライフステージ別栄養教育の展開⑥** | 学童期・思春期の栄養教育<br>特徴と留意事項<br>生活習慣・食生活上の問題と栄養教育 | 予）教科書第3章該当箇所<br>復）学童期と思春期の現状 |
| | 10 | **ライフステージ別栄養教育の展開⑦** | 学校教育・学校給食と栄養教育<br>家庭・地域における食育 | 予）教科書第3章該当箇所<br>復）学校給食と栄養教諭の役割 |
| | 11 | **ライフステージ別栄養教育の展開⑧** | 成人期の栄養教育①<br>特徴と留意事項 | 予）教科書第3章該当箇所<br>復）成人期の栄養教育 |
| | 12 | **ライフステージ別栄養教育の展開⑨** | 成人期の栄養教育②<br>特定健康診査・特定保健指導<br>職域における栄養教育 | 予）教科書第3章該当箇所<br>復）特定健康診査・特定保健指導制度 |
| | 13 | **ライフステージ別栄養教育の展開⑩** | 高齢期の栄養教育①<br>特徴と留意事項 | 予）教科書第3章該当箇所<br>復）高齢者の特徴を整理 |
| | 14 | **ライフステージ別栄養教育の展開⑪** | 高齢期の栄養教育②<br>栄養教育のポイント | 予）教科書第3章該当箇所<br>復）高齢者の特徴と栄養教育のポイント |
| | 15 | **傷病者および障がい者の栄養教育** | 傷病者および障がい者の栄養教育<br>特徴と留意事項<br>栄養教育のポイント | 予）教科書第3章該当箇所<br>復）障がい者、傷病者の特徴 |
| | 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：栄養教育論Ⅲ（実践的教育科目）　授業コード：32025

授業科目英文名称：Argument of Nutritional Education Ⅲ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 林　俊介（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | IB352 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 様々な栄養教育の場面に応じた栄養教育の方法、また個人と集団および発達段階と場に応じた栄養教育において栄養指導の効果を高める適切な方法、媒体などを選択し、計画を立案することができる。 | ・授業態度・授業への参加度<br>・課題レポート<br>・定期試験 | 10%<br>10%<br>20% |
| 情報収集、分析力 | 様々な栄養教育の場面において多様な対象者に対する栄養教育のための情報収集、分析を行い、評価し、課題を考えることができる。問題解決のための栄養教育に関する計画を立案することができる。 | ・定期試験<br>・課題レポート | 10%<br>5% |
| コミュニケーション力 | 様々な対象者及びチーム医療で協働する多職種に対し的確にコミュニケーションを取り、適切な栄養教育に関わる実践ができる。 | ・定期試験<br>・受講者の発表 | 5%<br>10% |
| 協働・課題解決力 | 栄養教育に関わる種々の職種について理解し、それぞれの役割を踏まえた組織運営を計画することができる。チーム医療の中での管理栄養士の役割を知り、それらについて提案できる。 | ・定期試験<br>・課題レポート | 10%<br>5% |
| 多様性理解力 | 多様な対象者(患者など)に対し、様々な疾患の病態や治療、食事療法を理解し、またライフステージや身体状況、食生活、地域性などを深く考慮し、その予防・治療のための栄養教育を考えることができる。 | ・定期試験 | 15% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本科目は様々な病態の対象者に対する栄養教育、栄養指導を学ぶものである。栄養教育論Ⅰ・Ⅱで学修した行動科学の理論やカウンセリング技法また臨床的な栄養管理に基づいて様々な栄養教育の場、対象者のそれぞれの特性や地域性に応じた必要とされる栄養教育・栄養指導方法を選択、栄養教育プログラムの計画立案ができるようになることを目標とする。適時、授業内でディスカッション、ロールプレイングを行い、理解を深め、受講者のより効果的な学修活動を展開し、知識の定着を図る。栄養教育に関わる多様な職種の関係者や家族などの協力者との連携を図り、より効果的な対象者に対する支援ができる組織づくりのためのマネージメント能力を修得する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ① ② ③ ④ ⑤ ⑦ ⑩ ⑪ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・定期試験の成績を60%とし筆記試験を行う。課題レポートは、9回目にそれまでの授業内容に関係する課題を問う。<br>・定期試験及び課題レポートは、それぞれの疾患の概要と標準的な治療の基本的事項を理解しているか、また栄養管理、食事療法に基づき、栄養教育の実践について理論的に説明が出来ているかを評価する。授業態度・授業への参加度は、リフレクションカードやディスカッション、授業中の態度、取組み、発表、ロールプレイング、関心・意欲、質問等に対する返答で評価し、課題レポートと合わせ、ポートフォリオや授業の中でフィードバックを行う。 |
| 授業概要 | 医療機関勤務での栄養管理や栄養指導業務の実務経験を活かし、種々の対象者の特性に合わせ望ましい指導教育内容・方法を 自ら考えて導き出すことが出来るよう講義の中で様々な症例に対して栄養指導の企画、立案、ロールプレイを行う。同じ疾患でも多岐に渡る対象者の特徴を理解し、必要とされる栄養食事指導ができるよう学修を進めていく。また授業では、教科書以外に必要に応じてプリント、パワーポイント、ビデオ映像、関連資料(医薬品や栄養剤、治療用特殊食品、補助食品)等を用いて行う。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：健康・栄養科学シリーズ 臨床栄養学 中村丁次他編集(南江堂)<br>参考書：その都度指示する。<br>指定図書：健康・栄養科学シリーズ 臨床栄養学 中村丁次他編集(南江堂) |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 管理栄養士として、指導対象者に合わせた適切な栄養教育・指導を行うには医学的、栄養学的な知識とマネージメント能力だけでは十分ではなく、社会的な常識やコミュニケーション能力も必要である。これまでの科目の学修をふり返り、授業毎にポートフォリオを確認し、指示した各回の学修内容の予習・復習に取り組むこと。また、授業中の私語、スマートフォン等の不必要な使用は、厳禁である。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **傷病者の栄養教育(1)** | 病院・医療機関等における栄養教育<br>(傷病者のための臨床栄養教育 患者教育 チーム医療 多職種連携 診療報酬 治療食) | 医療における関係法規を予習。医療現場での栄養教育について復習。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 2 | **傷病者の栄養教育(2)** | 臨床栄養管理のための栄養教育<br>(食事療法 個人・集団指導 ベッドサイドでの栄養指導 調理教室 在宅医療 在宅訪問栄養食事指導) | ヘルスプロモーション、生活の質(QOL)について予習。臨床での栄養教育について復習。 |
| | 3 | **障がい者の栄養教育(1)** | 障がい者、障がい児等<br>(身体・精神・内部障がい 視覚障害 福祉制度 ノーマライゼーション リハビリテーション 障がい者の日常生活 食生活 健康管理 障がい者スポーツ パラスポーツ パラリンピック) | 障がいと障がい者について予習。障がい者への栄養教育について復習。 |
| | 4 | **障がい者の栄養教育(2)** | 障がい者、障がい児等<br>(身体・精神・内部障がい 視覚障害 福祉制度 ノーマライゼーション リハビリテーション 障がい者の日常生活 食生活 健康管理 障がい者スポーツ パラスポーツ パラリンピック) | 障がいと障がい者について予習。障がい者への栄養教育について復習。 |
| | 5 | **精神疾患(心身症)の栄養教育** | アルコール依存症、摂食障害等<br>(断酒会 患者会 食事管理 小児の摂食障害 ボディイメージ 患者・家族への支援 社会復帰) | 心身症の治療と栄養管理について予習。心身症の栄養教育について復習。 |
| | 6 | **代謝性疾患の栄養教育** | 肥満症、糖尿病、高尿酸血症、痛風<br>(国民健康・栄養調査 血糖コントロール メタボリックシンドローム 間食 飲酒 生活習慣の改善)<br>ロールプレイング | 生活習慣病の治療と栄養管理について予習。生活習慣病の栄養教育について復習。 |
| | 7 | **小児疾患の栄養教育** | 小児肥満、小児糖尿病等<br>(小児メタボリックシンドローム 学校生活 1型糖尿病 サマーキャンプ 保護者との関係作り) | 小児疾患の治療と栄養管理について予習。小児疾患の栄養教育について復習。 |
| | 8 | **循環器疾患の栄養教育(1)** | 高血圧症、動脈硬化症、脂質異常症、虚血性心疾患、脳血管疾患等<br>(減塩食 血圧管理 減塩調味料 脂質コントロール 合併症 後遺症) ロールプレイング<br>・長崎県、佐世保市や学修者の出身地の疾患の罹患状況など地域の特性を知り、栄養教育に活かす。 | 生活習慣病の治療と栄養管理について予習。生活習慣病の栄養教育について復習。 |
| | 9 | **循環器疾患の栄養教育(2)** | 高血圧症、動脈硬化症、脂質異常症、虚血性心疾患、脳血管疾患等<br>(減塩食 血圧管理 減塩調味料 脂質コントロール 合併症 後遺症) ロールプレイング<br>・長崎県、佐世保市や学修者の出身地の疾患の罹患状況など地域の特性を知り、栄養教育に活かす。<br>＊課題レポート | 生活習慣病の治療と栄養管理について予習。生活習慣病の栄養教育について復習。 |
| | 10 | **腎疾患の栄養教育(1)** | 腎疾患(慢性腎不全保存期・透析期)、糖尿病性腎症<br>(慢性腎臓病(CKD) GFR 尿毒症 糖尿病透析予防 治療用特殊食品 低たんぱく食 透析食)<br>ロールプレイング | 腎疾患の治療と栄養管理について予習。腎疾患の栄養教育について復習。 |
| | 11 | **腎疾患の栄養教育(2)** | 腎疾患(慢性腎不全保存期・透析期)、糖尿病性腎症<br>(慢性腎臓病(CKD) GFR 尿毒症 糖尿病透析予防 治療用特殊食品 低たんぱく食 透析食)<br>ロールプレイング | 腎疾患の治療と栄養管理について予習。腎疾患の栄養教育について復習。 |
| | 12 | **消化器疾患の栄養教育(1)** | 炎症性腸疾患(IBS)、消化性潰瘍等<br>(アドヒアランス 成分栄養剤 腸炎 胃十二指腸潰瘍 潰瘍性大腸炎・クローン病) | 消化器疾患の治療と栄養管理について予習。消化器疾患の栄養教育について復習。 |
| | 13 | **消化器疾患の栄養教育(2)** | 肝・胆・膵疾患<br>(肝炎 脂肪肝 肝硬変 成分栄養剤 分岐鎖アミノ酸 BCAA アルコール性肝障害 膵炎) | 消化器疾患の治療と栄養管理について予習。消化器疾患の栄養教育について復習。 |
| | 14 | **血液疾患の栄養教育** | 貧血等<br>(鉄欠乏性貧血 妊娠貧血 葉酸 ヘム鉄・非ヘム鉄 鉄強化食 サプリメント 鉄剤) ロールプレイング | 貧血の治療と栄養管理について予習。貧血の栄養教育について復習。 |
| | 15 | **骨・関節疾患の栄養教育** | 骨粗鬆症、骨軟化症等<br>(骨折 骨形成・吸収 骨・ミネラル代謝 成長期・閉経期・高齢期 カルシウム・リン ビタミンD ビタミンK 食事療法) ロールプレイング | 骨疾患の治療と栄養管理について予習。骨疾患の栄養教育について復習。 |
| | 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：栄養教育論実習Ⅰ（実践的教育科目）　授業コード：24018

授業科目英文名称：Nutritional Education Practice Ⅰ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3 | 1 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 髙江洲　有沙（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 実習 | | |
| ナンバリング | IB353 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | ・修得した知識を応用し、対象者の課題と食および環境との関連を説明することができる。 | ・定期試験 | 30% |
| 情報収集、分析力 | ・対象者の課題を明らかにし、重点を絞った栄養教育を組み立てることができる。<br>・与えられた課題を読み取る力をつけることができる。 | ・定期試験 | 30% |
| コミュニケーション力 | ・ライフステージ別の特徴を踏まえた栄養教育を平易な表現でプレゼンテーションができる。 | ・プレゼンテーション<br>・ロールプレイ | 10%<br>5% |
| 協働・課題解決力 | ・与えられた課題に対し、グループメンバーで協働し、解決に向けた取り組みができる。その際、自らの考えを述べることができる。 | ・プレゼンテーション<br>・授業態度 | 15%<br>10% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 栄養教育論Ⅰ・Ⅱで修得した知識を基に、様々なライフステージの対象者（個人や集団）に応じた栄養教育を行うことができる技術や手法を修得する。具体的には、対象者のアセスメントから抽出した課題を基に栄養教育計画・学習指導案を立案の上、効果的な栄養教育を展開することができる実践力を、模擬栄養教育を通して修得する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ②③④⑥⑪ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・定期試験による評価(60%)は、実習内で学修した栄養教育論や臨床栄養管理学・公衆栄養学等を基礎とした内容を筆記式で行う。プレゼンテーション（模擬集団栄養教育）の評価（25%）およびロールプレイ（模擬個別栄養教育）の評価（5%）は、対象者のアセスメント結果および自らの考えやグループの意見を反映させた課題解決が望める栄養教育であるか、対象者にとって平易で理解しやすいかを評価する。なお、プレゼンテーションおよびロールプレイの評価は、模擬栄養教育終了後の事後レポートと併せて評価を行う。授業態度（10%）は、実習へ臨む態度、グループでの取り組み姿勢やメンバーとの協力態度等で評価する。<br>・資料やレポートの提出はポートフォリオを活用し、授業内でフィードバックする。 |
| 授業概要 | ・ライフステージ別の対象（集団および個別）を想定し、模擬栄養教育を行うことを主とした授業である。その際、<br>適切な栄養教育計画を立案し、それを基に作成した教育媒体を活用したプレゼンテーションや、個別栄養教育に必要な栄養カウンセリング技法を活用したロールプレイを通して学修する。<br>・テーマによって3～6名のグループで模擬栄養教育の準備から実践までを行う。模擬栄養教育実施後は、全員でディスカッションを行い、教育内容等を評価し合う。<br>・担当教員の学校や医療機関等での実務経験から現場をイメージした具体的なアドバイスを行い、より実践的な技術の修得へ導く<br>・授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：「改訂 マスター栄養教育論実習」,建帛社<br>参考書：日本栄養士会編「管理栄養士・栄養士必携」,第一出版、サクセス管理栄養士・栄養士養成講座「栄養教育論」,第一出版<br>指定図書：「改訂 マスター栄養教育論実習」,建帛社 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | ・栄養教育の実施においては、対象者との信頼関係が不可欠であり、その際には栄養カウンセリング技法の活用が求められるため、それらを日ごろの生活から意識し、多くの人とコミュニケーションを図る中で実践することを求める。<br>・授業中の私語、携帯電話、メール等は厳禁、無許可での途中退出は不可とする。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **栄養教育のための基本（栄養アセスメント）(1－1)** | 栄養教育に必要なアセスメント（栄養素等摂取量の把握） | 栄養アセスメントの種類を予習する。食事調査に必要な標準的な食品の重量等を復習する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 2 | **栄養教育のための基本<br>(栄養アセスメント)<br>(1－2)** | 栄養教育に必要なアセスメント（栄養素等摂取量の把握とその他必要な情報の収集）および課題の抽出 | 栄養摂取量等から課題抽出する流れを予習する。流れのポイントを復習する。 |
| | 3 | **栄養教育のための基本<br>(栄養アセスメント)<br>(1－3)** | アセスメント結果と抽出した課題、改善策の提案（プレゼンテーション）（事後レポート） | 効果的なプレゼンテーション技術を予習する。教員や学生からの評価内容を基に振り返る。 |
| | 4 | **対象者別栄養教育<br>(2－1)<br>(集団教育)** | 妊娠期 集団栄養教育に向けた計画の立案 | 妊娠期の特徴や問題点、マネジメント計画を予習する。妊娠期の特徴を復習する。 |
| | 5 | **対象者別栄養教育<br>(2－2)<br>(集団教育)** | 妊娠期 集団栄養教育に向けた計画に基づく栄養教育の準備（教育媒体等作成） | 妊婦への模擬栄養教育のポイントを予習する。教育媒体作成のポイントを復習する。 |
| | 6 | **対象者別栄養教育<br>(2－3)<br>(集団教育)** | 妊娠期 集団栄養教育の実施<br>（栄養教育のプレゼンテーション）<br>（事後レポート） | 妊婦への効果的なプレゼンテーションに向けて予習する。教員や学生からの評価内容を基に振り返る。 |
| | 7 | **対象者別栄養教育<br>(2－4)<br>(個別教育)** | 個別栄養教育に必要なカウンセリング技法<br>妊娠期 個別栄養教育の実施<br>（ロールプレイ）（事後レポート） | 妊娠期の個人が有する問題の解決に向けた栄養教育を予習する。個別教育のポイントを復習する。 |
| | 8 | **対象者別栄養教育<br>(3－1)<br>(集団教育)** | 離乳期・幼児期<br>集団栄養教育に向けた計画の立案 | 離乳期・幼児期に関連する特徴や問題点を復習し、栄養教育計画を予習する。授乳期の栄養教育のポイントを復習する。 |
| | 9 | **対象者別栄養教育<br>(3－2)<br>(集団教育)** | 離乳期・幼児期の集団栄養教育の準備（教育媒体作成等） | 離乳期・幼児期の特徴や問題点解決のための教育方法を予習する。各期のポイントを復習する。 |
| | 10 | **対象者別栄養教育<br>(3－3)<br>(集団教育)** | 離乳期・幼児期の集団栄養教育の準備（教育媒体作成、リハーサル等） | 離乳期・幼児期への分かりやすいプレゼンテーションに向けて予習する。幼児期の栄養教育のポイントを復習する。 |
| | 11 | **対象者別栄養教育<br>(3－4)<br>(集団教育)** | 離乳期・幼児期の集団栄養教育の実施<br>（栄養教育のプレゼンテーション）<br>（事後レポート） | 乳児期・幼児期へ効果的なプレゼンテーションに向けて予習する。教員・学生等からの評価内容を基に振り返る。 |
| | 12 | **対象者別栄養教育<br>(3－5)<br>(個別教育)** | 離乳期・幼児期 個別栄養教育の実施<br>（ロールプレイ）（事後レポート） | 離乳期・幼児期の個人が有する問題の解決に向けた個別教育の方法を予習する。個別教育のポイントを復習する。 |
| | 13 | **対象者別栄養教育<br>(4－1)<br>(集団教育)** | 高齢期 栄養教育に向けた計画の立案 | 高齢期の特質から問題点の抽出、マネジメント計画を予習する。問題解決のための教育計画を復習する。 |
| | 14 | **対象者別栄養教育<br>(4－2)<br>(集団教育)** | 高齢期 栄養教育に向けて計画基づく教育の準備（教育媒体等作成） | 高齢期の問題点を絞り、問題となる課題に関連した教育計画を予習する。効果的な栄養教育を復習する。 |
| | 15 | **対象者別栄養教育<br>(4－3)<br>(集団教育)** | 高齢期 集団栄養教育の実施<br>（栄養教育のプレゼンテーション）<br>（事後レポート） | 高齢者への効果的なプレゼンテーションに向けて予習する。教員や学生等からの評価内容を基に振り返る。 |
| | 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：栄養教育論実習Ⅱ（実践的教育科目）　授業コード：22621

授業科目英文名称：Nutritional Education Practice Ⅱ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3 | 1 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 髙江洲　有沙（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 実習 | | |
| ナンバリング | IB354 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | ・対象者をとりまく環境と病態との関連性を明らかにし、一次予防の必要性を説明することができる。 | ・定期試験 | 30% |
| 情報収集、分析力 | ・対象者の食行動の問題点を把握し、その解決に向けた教育内容の計画の立案ができる。 | ・定期試験 | 30% |
| コミュニケーション力 | ・高度な知識を平易な言葉で表現し、カウンセリング技法を用いて適切な食生活実践に向けて行動変容に導くための栄養教育ができる。 | ・ロールプレイ | 15% |
| 協働・課題解決力 | ・管理栄養士になることを自覚し、栄養教育・指導を行うことに意欲的に取り組むことができる。 | ・授業態度<br>・プレゼンテーション | 10%<br>15% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 栄養教育論実習Ⅰに引き続き、様々なライフステージの対象者に応じた栄養教育を行うことができる技術や手法を修得する。個人栄養教育では、自身で立案したプログラムのロールプレイを通し、繰り返し行うことで実践的な能力を修得する。さらに、栄養教育マネジメントで用いるプリシード・プロシードモデルを用いて、集団を対象としたアセスメントから、計画、実施、評価までのプログラムを立案し、食環境づくりの事業企画を行う一連の流れを理解し、実践的に展開できる能力を修得する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ②③④⑥⑪ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・定期試験（60%）は、実習内で学修した栄養教育論や公衆栄養学等を基礎とした内容や栄養教育計画の立案、栄養教育に必要なポイントを理解しているかを筆記試験で行う。ロールプレイ（模擬個別栄養教育7回）の評価（15%）は、対象者のアセスメント結果を反映させた課題解決が望める栄養教育であるか、行動科学理論やモデル、カウンセリング技法を活用されているか、対象者にとって平易で理解しやすいか評価する。プレゼンテーション（集団栄養教育）の評価（15%）は、課題に合致しているか、聞き手にとって平易で理解しやすいか等を評価する。なお、プレゼンテーションおよびロールプレイの評価は、模擬栄養教育終了後の事後レポートと併せて評価を行う。授業態度（10%）は、実習へ臨む態度、グループでの取り組む姿勢や班員との協力態度等で評価する。<br>・資料やレポートの提出はポートフォリオを活用し、授業内でフィードバックする。 |
| 授業概要 | ・集団および個別を対象に想定し、問題解決に向けてカウンセリング技法や行動科学理論に則った模擬栄養教育を行うことを主とした授業内容である。<br>・テーマによって3～6名のグループを基本とし、模擬栄養教育やプレゼンテーションを行う。実施後は、全員でディスカッションを行い、内容等を評価し合う。<br>・担当教員の学校や行政機関等での実務経験から現場をイメージした具体的なアドバイスを行い、より実践的な技術の修得へ導く。<br>・授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：「改訂 マスター栄養教育論実習」,建帛社<br>参考書：日本栄養士会編「管理栄養士・栄養士必携」,第一出版、サクセス管理栄養士・栄養士養成講座「栄養教育論」,第一出版<br>指定図書：「改訂 マスター栄養教育論実習」,建帛社 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | ・栄養教育の実施においては、対象者との信頼関係が不可欠であり、その際には栄養カウンセリング技法の活用が求められるため、それらを日ごろの生活から意識し、多くの人とコミュニケーションを図る中で実践することを求める。<br>・授業中の私語、携帯電話、メール等は厳禁、無許可での途中退出は不可とする。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **個別栄養教育**<br>**（1－1）** | 特定保健指導 初回面接の実施①<br>SOAP形式による記録 | 特定保健指導およびその対象の特徴を踏まえた栄養教育が行えるよう予習する。栄養カウンセリングとSOAP形式による記録を復習する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2 | **個別栄養教育**<br>**(1－2)** | 特定保健指導 初回面接の実施①<br>SOAP形式による記録<br>（初回面接のロールプレイ）<br>（事後レポート） | 行動科学理論を踏まえた栄養教育が行えるよう予習する。栄養カウンセリングとSOAP形式による記録を復習する。 |
| 3 | **個別栄養教育**<br>**(1－3)** | 特定保健指導 初回面接の実施②<br>SOAP形式による記録<br>（初回面接のロールプレイ）<br>（事後レポート） | 行動科学理論を踏まえた栄養教育が行えるよう予習する。栄養カウンセリングとSOAP形式による記録を復習する。 |
| 4 | **個別栄養教育**<br>**(1－4)** | 特定保健指導 初回面接の実施③<br>SOAP形式による記録<br>（初回面接のロールプレイ）<br>（事後レポート） | 行動科学理論を踏まえた栄養教育が行えるよう予習する。栄養カウンセリングとSOAP形式による記録を復習する。 |
| 5 | **個別栄養教育**<br>**(1－5)** | 特定保健指導 最終面接の実施④<br>SOAP形式による記録<br>（最終面接のロールプレイ）<br>（事後レポート） | 行動科学理論を踏まえた栄養教育が行えるよう予習する。最終面接の方法や栄養カウンセリングとSOAP形式による記録を復習する。 |
| 6 | **個別栄養教育**<br>**(2－1)** | 動機づけ面接法を採用した栄養教育①<br>糖尿病患者への栄養教育の実施（事例1）<br>（ロールプレイ） | 動機づけ面接を活用した栄養教育の方法を予習する。糖尿病患者の気持ちを理解した動機づけ面接を復習する。 |
| 7 | **個別栄養教育**<br>**(2－2)** | 動機づけ面接法を採用した栄養教育②<br>糖尿病患者や肥満児への栄養教育の実施（事例2）（ロールプレイ）（事後レポート） | 動機づけ面接を活用した栄養教育の方法を予習する。糖尿病患者や肥満児の保護者の気持ちを理解した動機づけ面接を復習する。 |
| 8 | **個別栄養教育**<br>**(3－1)** | 高齢者の在宅訪問における栄養教育の実施<br>（ロールプレイ）（事後レポート） | 高齢期の特徴をふまえた在宅訪問における栄養教育の方法を予習する。高齢期の在宅訪問における栄養カウンセリングを復習する。 |
| 9 | **集団栄養教育**<br>**(4－1)** | プリシード・プロシードモデルを用いて、学童期・思春期の現状把握と課題抽出 | 学童期・思春期に関する特徴や問題点を復習し、プリシード・プロシードモデルを予習・復習する。 |
| 10 | **集団栄養教育**<br>**(4－2)** | 学童期・思春期の現状から課題解決に向けた食環境づくりに関する集団栄養教育の事業計画書作成 | 学童期・思春期に関する特徴や問題点、食環境づくりについて予習する。各期の栄養教育のポイントを復習する。 |
| 11 | **集団栄養教育**<br>**(4－3)** | 集団栄養教育の準備<br>（教育媒体作成等） | 学童期・思春期へ分かりやすいプレゼンテーションに向けて予習する。各期に栄養教育のポイントを復習する。 |
| 12 | **集団栄養教育**<br>**(4－4)** | 集団栄養教育の準備<br>（教育媒体作成、リハーサル等） | 学童期・思春期へ分かりやすいプレゼンテーションに向けて予習する。各期に栄養教育のポイントを復習する。 |
| 13 | **集団栄養教育**<br>**(4－5)** | 学童期・思春期への集団栄養教育実施<br>（栄養教育のプレゼンテーション）<br>（事後レポート） | 学童期・思春期へ効果的なプレゼンテーションに向けて予習する。教員・学生等からの評価内容を基に振り返る。 |
| 14 | **健康危機管理**<br>**(5－1)** | 災害時における備蓄食の検討①<br>（病院における災害時用献立の作成） | 災害時における給食施設の備蓄食を予習する。災害時の献立を考える際のポイントを復習する。 |
| 15 | **健康危機管理**<br>**(5－2)** | 災害時における備蓄食の検討②<br>（病院における災害時用献立のプレゼンテーション）（事後レポート） | 災害時における給食施設の備品を予習する。教員・学生からの評価を基に復習する。 |
| 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：臨床栄養管理学Ⅰ（実践的教育科目）　授業コード：23625

授業科目英文名称：Clinical Nutrition Management Ⅰ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 山口　留美（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | IB260 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 医療や福祉における傷病者の栄養管理に必要な基礎的知識や技術に関して考えを述べることができる。 | 定期試験<br>課題レポート | 30%<br>5% |
| 情報収集、分析力 | 栄養ケア・マネジメントの定義と構造を理解し、傷病者個々人に必要な各種データを抽出し活用することができる。 | 定期試験 | 30% |
| コミュニケーション力 | 医療や福祉における傷病者の栄養管理に必要な基礎的知識や技術に関して考えを述べることができる。 | 授業態度と授業への参加度 | 5% |
| 協働・課題解決力 | 臨床栄養管理における栄養ケア・マネジメントシステムと具体的実践方法を関係づけ自らの考えを述べることができる。 | 課題レポート | 5% |
| 多様性理解力 | 様々なライフステージや環境に応じ、柔軟に栄養管理や食事療法の考え方を持つことができる。 | 定期試験<br>授業態度と授業への参加度 | 10%<br>15% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 臨床栄養管理学Ⅰにおいては、栄養ケア・マネジメントを実施するための基礎知識を習得し理解を深めることを目的とする。そのためにアクティブ・ラーニングを取り入れ、手技・手法を学び、チーム医療における管理栄養士の役割を理解するとともに、他の医療スタッフの役割についても理解を深める。 |
| アクティブラーニングの類型 | ②、③、⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 定期試験の成績を70%として筆記試験を実施する。課題レポートの評価は10%とし、管理栄養士としての必要知識を学ぶ。また、課題のフィードバックは15回目までの授業で行う。定期試験は栄養ケア・マネジメントを正しく理解し理論的に説明ができるかを評価する。課題レポートに関しては根拠を示し理論的に記載しているかを評価する。授業態度・授業への参加は20%として評価し、授業における討論への参加度合いなどを評価する。 |
| 授業概要 | 臨床栄養学テキストを使用し講義形式で授業を行う。また実際の臨床現場における実務経験をもとに、具体的例を挙げ栄養ケア・マネジメントとは何か、管理栄養士に必要なこと、チーム医療の中で求められていることは何かなどを考え理解出来るよう授業を行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：健康・栄養科学シリーズ 臨床栄養学（改訂第3版） 中村丁次 他編集（南江堂）<br>指定図書：健康・栄養科学シリーズ 臨床栄養学（改訂第3版） 中村丁次 他編集（南江堂） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 講義には積極的に参加して学修すること。また、教科書の次回の授業内容を予習して指定した教科書を事前に読みノートにまとめておくこと。学修した内容を復習すること。授業中での私語、携帯電話、メール等の不必要な使用は厳禁である。また出席を毎回確認するため、体調不良で欠席しないよう日頃から健康管理を行なうようにすること。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **臨床栄養学の基礎** | 臨床栄養学の意義と目的（疾患と栄養・医療と介護制度の基本・医療と臨床栄養・福祉と介護と臨床栄養） | 臨床栄養学の意義と目的について予習。<br>臨床栄養学の基礎について復習する。 |
| 2 | **チーム医療** | チーム医療（各種チーム医療の実際・管理栄養士の役割・栄養サポートチーム・褥瘡対策チーム・多職種連携） | チーム医療について予習。<br>チーム医療について復習。 |
| 3 | **栄養ケア・マネジメント** | 栄養ケア・マネジメント（栄養ケア・マネジメントの定義・栄養ケア・マネジメントの構造、診療報酬・介護保険制度・栄養情報提供書・クリニカルパス） | 栄養ケア・マネジメントについて予習。<br>栄養ケア・マネジメントについて復習。 |
| 4 | **傷病者の<br>栄養アセスメント(1)** | 傷病者の栄養アセスメントの意義と目的（臨床診査・臨床検査） | 栄養アセスメントについて予習。<br>栄養アセスメントについて復習。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 5 | **傷病者の<br>栄養アセスメント(2)** | 傷病者の栄養アセスメント（身体計測・食事調査・栄養必要量の算定） | 栄養必要量算定について予習。<br>栄養必要算定について復習。 |
| 6 | **栄養ケア計画と実施** | 栄養ケア計画作成と実施方法について | 栄養ケア計画について予習。<br>栄養ケア計画と実施について復習。 |
| 7 | **栄養・食事療法、栄養補給の方法（1)** | 食事療法栄養補給の方法（経口栄養補給法） | 経口栄養補給について予習。<br>経口栄養補給法について復習する。 |
| 8 | **栄養・食事療法、栄養補給の方法（2)** | 食事療法栄養補給の方法（経腸栄養補給法・静脈栄養補給法） | 経腸・静脈栄養について予習。<br>経腸・静脈栄養補給について復習。 |
| 9 | **傷病者の栄養教育** | 栄養教育の意義と教育技術について<br>課題レポート | 傷病者の栄養教育について予習。<br>傷病者の栄養教育について復習。 |
| 10 | **モニタリングと評価** | モニタリングとアウトカム・マネジメントについて | モニタリングと評価について予習。<br>モニタリングと評価について復習。 |
| 11 | **栄養ケアの記録** | POSとPOMRの作成について | 栄養ケア記録について予習。<br>栄養ケアの記録について復習。 |
| 12 | **栄養管理プロセス** | 栄養管理プロセスの実践について | 栄養管理プロセスについて予習。<br>栄養管理プロセスについて復習。 |
| 13 | **薬と栄養、食物の相互関係** | 栄養と薬、食物の相互関係（薬により起こる栄養および代謝異常）について | 栄養と薬、食物の相互関係について予習。栄養と薬、食物の相互関係について復習。 |
| 14 | **栄養障害** | 栄養障害について | 栄養障害について予習。<br>栄養障害について復習。 |
| 15 | **後期まとめ** | 後期授業の復習 | 後期授業全体を通しての復習。 |
| 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：臨床栄養管理学Ⅱ（実践的教育科目）　授業コード：51613

授業科目英文名称：Clinical Nutrition Management Ⅱ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 林　俊介（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | IB261 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 様々な疾患・病態に対し、その疾患の概要(定義・原因・疾病構造・社会的背景・地域性など)を正しく理解し、その病気の持つ社会的意味を我が国の食生活の変遷と現状、食文化との関わりから説明できる。 | ・授業態度・授業への参加度<br>・課題レポート<br>・定期試験 | 10%<br>10%<br>25% |
| 情報収集、分析力 | 各種疾患における診断基準や治療ガイドラインを理解し、標準的な治療方法を説明できる。それぞれの疾患に対する栄養管理の知識を用いて食生活の改善、生活習慣改善について説明できる。 | ・定期試験<br>・課題レポート | 20%<br>10% |
| コミュニケーション力 | 栄養療法を行う上で、各疾患でコントロールが必要とされる栄養素について、その機能と代謝を説明できる。それを食品、料理のレベルで説明できる。チーム医療の中で、それを提案、討議できる。 | ・定期試験 | 5% |
| 協働・課題解決力 | 疾患の治療のために患者の様々なデータ、情報等から患者の病態を把握し、問題点を考えることができる。チーム医療の中での管理栄養士の役割を知り、それらについて専門職の立場で提案できる。 | ・定期試験 | 10% |
| 多様性理解力 | 対象者の疾患や病態だけでなく、ライフステージや身体状況、食生活、地域性などを深く理解し、栄養管理や食事療法、栄養教育を通して病状の改善、生活の質(QOL)の向上について考えることができる。 | ・定期試験 | 10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本科目は、疾病構造の理解と各疾病治療ガイドラインに基づいた標準的な治療および栄養療法を学修する。それぞれの疾患に合わせた傷病者の治療のための適切な薬物・運動・食事療法、手術、また生活習慣の改善などの学修を深めていく。適時、授業内でディスカッションを行い、理解を深め、受講者のより効果的な学修活動を展開し、知識の定着を図る。そして、チーム医療の中で関連職種と連携し、適切な栄養療法等を実践できる知識・技能を身につける。 |
| アクティブラーニングの類型 | ② ③ ⑦ ⑩ ⑪ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・定期試験の成績を70%とし筆記試験を行う。課題レポートは、9回目にそれまでの授業内容に関係する課題を問う。<br>・定期試験及び課題レポートは、それぞれの疾患の概要と標準的な治療の基本的事項を理解しているか、また栄養管理、食事療法の実践について理論的に説明が出来ているかを評価する。授業態度・授業への参加度は、リフレクションカードやディスカッション、授業中の態度、取組み、関心・意欲、質問等に対する返答で評価し、課題レポートと合わせ、ポートフォリオや授業の中でフィードバックを行う。 |
| 授業概要 | 医療機関勤務での給食管理、栄養教育(栄養指導)、栄養管理等の業務経験を活かし、様々な疾患に対する病態の理解から治療、栄養管理、食事療法の基本を実践的な授業展開により学修する。授業では、教科書以外に必要に応じてプリント、パワーポイント、映像、関連資料(栄養剤、治療用特殊食品)等を用いて行う。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：健康・栄養科学シリーズ 臨床栄養学 中村丁次他編集(南江堂)<br>参考書：食品成分表、日本人の食事摂取基準(2025年版)、各種疾患に対する診療ガイドライン<br>指定図書：健康・栄養科学シリーズ 臨床栄養学 中村丁次他編集(南江堂) |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 本科目は今後臨床栄養分野の専門科目の学修の導入となるものである。また、これまで学修してきた基礎科目を基に学んで行く。各科目で学修した知識を繋げて理解することが大切で、それにより深い理解が出来る様になる。そして、発展的に学修を積み重ねていくためにもこれまで学修してきた内容をしっかり復習して、各回の単元、テーマに沿って予習をして臨むようにすること。ポートフォリオを活用し、指示した各回の学修内容の予習・復習に取り組むこと。授業を通じて実際の症例を数多く学修し、様々な疾患に対して正しい知識と認識を身につけ、そして、学びの質を高めるように取り組むこと。また、授業中の私語、スマートフォン等の不必要な使用は、厳禁である。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **代謝性疾患(1)** | 脂質異常症(高脂血症)、動脈硬化性疾患(脂質代謝 油脂の質と量のコントロール メタボリックシンドローム 動脈硬化 ガイドライン) | メタボリックシンドロームの概要を予習。脂質異常症について復習。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 2 | **代謝性疾患(2)** | 糖尿病とその合併症<br>(血糖コントロール 血糖値測定 食事療法 体重管理 インスリン療法 食品交換表) | 糖尿病の概要を予習。糖尿病の治療について復習。 |
| | 3 | **代謝性疾患(3)** | 高尿酸血症・痛風<br>(プリン体 痛風発作 生活習慣病 生活指導 食事療法 薬物療法) | 高尿酸血症・痛風の概要を予習。高尿酸血症・痛風の治療について復習。 |
| | 4 | **循環器疾患(1)** | 高血圧症<br>(食塩摂取量 減塩 血圧管理 仮面高血圧 白衣高血圧 早朝高血圧 生活習慣改善 ガイドライン) | 高血圧症の概要について予習。高血圧症の治療と栄養管理について復習。 |
| | 5 | **循環器疾患(2)** | 動脈硬化症<br>(粥状硬化 プラーク 動脈硬化性疾患 ガイドライン) | 動脈硬化症の概要について予習。動脈硬化症の治療と栄養管理について復習。 |
| | 6 | **循環器疾患(3)** | 虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)・うっ血性心不全<br>(生活習慣 血圧 食塩摂取 薬物療法 体循環・肺循環 浮腫) | 心疾患の概要について予習。心疾患の治療と栄養管理について復習。 |
| | 7 | **循環器疾患(4)**<br>**感覚器・神経の疾患** | 脳血管障害、脳卒中・脳梗塞、くも膜下出血<br>(脳血栓・塞栓 後遺症 麻痺 嚥下障害 低栄養 リハビリテーション栄養 多職種連携) | 脳血管障害の概要について予習。脳血管疾患の治療と栄養管理について復習。 |
| | 8 | **消化器疾患(1)** | 口内炎・舌炎、胃・食道逆流症、胃・十二指腸潰瘍、蛋白漏出性胃腸症<br>(炎症 ヘリコバクター・ピロリ 低アルブミン血症 浮腫 セルフチェックシート) | 消化管の構造と機能、炎症について予習。消化管の炎症性疾患に対する治療について復習。 |
| | 9 | **消化器疾患(2)** | 炎症性腸疾患(IBS)(クローン病・潰瘍性大腸炎)<br>(成分栄養剤 回復食 粥食 軟菜食)<br>＊課題レポート | 炎症性腸疾患の概要を予習。治療と栄養管理について復習。 |
| | 10 | **消化器疾患(3)** | 過敏性腸症候群・便秘・下痢<br>(ストレス 排便コントロール 食物繊維) | 便秘・下痢の概要を予習。治療と栄養管理について復習。 |
| | 11 | **消化器疾患(4)** | 肝炎(急性・慢性)・劇症肝炎・脂肪肝・アルコール性肝障害<br>(肝炎ウイルス 鉄制限食 飲酒 肝がん) | 肝臓の構造と機能について予習。肝疾患の治療と栄養管理について復習。 |
| | 12 | **消化器疾患(5)** | 肝硬変(代償期・非代償期)<br>(肝不全 臓器移植 分岐鎖アミノ酸 アミノ酸インバランス アミノ酸成分表 フィッシャー比 成分栄養剤 夜食療法)<br>・長崎県、佐世保市や学修者の出身地の疾患の罹患状況など地域の現状を知る。 | 肝硬変の概要について予習。肝硬変の治療と栄養管理について復習。 |
| | 13 | **消化器疾患(6)** | 胆石症・胆嚢炎・膵炎(急性・慢性)<br>(肥満 胆石 アルコール 脂質コントロール食) | 肥満と消化器の構造について予習。胆膵疾患の治療と栄養管理について復習。 |
| | 14 | **精神疾患(1)**<br>**摂食障害** | 神経性やせ症(拒食症)、神経性過食症(過食症)、過食性障害 (やせ願望 ダイエット 異常な食行動 カウンセリング 認知行動療法 チーム医療) | 摂食障害の概要について予習。摂食障害の治療と栄養管理について復習。 |
| | 15 | **精神疾患(2)**<br>**依存症** | アルコール依存症<br>(急性・慢性アルコール中毒 離脱症状 断酒・減酒 患者会 社会復帰 アルコール健康障害対策基本法) | 依存症の概要について予習。依存症の治療と栄養管理について復習。 |
| | 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：臨床栄養管理学Ⅲ（実践的教育科目）　授業コード：55009

授業科目英文名称：Clinical Nutrition Management Ⅲ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 林　俊介（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | IB362 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 様々な疾患・病態に対し、その疾患の概要(定義・原因・疾病構造・社会的背景・地域性など)を正しく理解し、その病気の持つ社会的意味を我が国の食生活の変遷と現状、食文化との関わりから説明できる。 | ・授業態度・授業への参加度<br>・課題レポート<br>・定期試験 | 10%<br>10%<br>25% |
| 情報収集、分析力 | 各種疾患における診断基準や治療ガイドラインを理解し、標準的な治療方法を説明できる。それぞれの疾患に対する栄養管理の知識を用いて食生活の改善、生活習慣改善について説明できる。 | ・定期試験<br>・課題レポート | 20%<br>10% |
| コミュニケーション力 | 栄養療法を行う上で、各疾患でコントロールが必要とされる栄養素について、その機能と代謝を説明できる。それを食品、料理、食生活のレベルで説明できる。チーム医療の中で、それを提案、討議できる。 | ・定期試験 | 5% |
| 協働・課題解決力 | 疾患の治療のために患者の様々なデータ、情報等から患者の病態を把握し、問題点や栄養ケアを考えることができる。チーム医療の中での管理栄養士の役割を知り、それらについて提案できる。 | ・定期試験 | 10% |
| 多様性理解力 | 対象者の疾患や病態だけでなく、ライフステージや身体状況、食生活、地域性などを深く理解し、栄養管理や食事療法、栄養教育を通して病状の改善、生活の質(QOL)の向上について考えることができる。 | ・定期試験 | 10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本科目は、疾病構造の理解と各疾病治療ガイドラインに基づいた標準的な治療および栄養療法を学修する。それぞれの疾患に合わせた傷病者の治療のための適切な薬物・運動・食事療法、手術、また生活習慣の改善などの理解を深めていく。適時、授業内でディスカッションを行い、理解を深め、受講者のより効果的な学修活動を展開し、知識の定着を図る。そして、栄養管理の専門職種としてチーム医療の中で関連職種との連携を図り、適切な栄養療法を実施するための栄養評価、栄養教育など患者(対象者)が効果的な治療・療養を続けて行けるよう実践的な栄養ケア・マネジメント能力を身につける。 |
| アクティブラーニングの類型 | ② ③ ⑦ ⑩ ⑪ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・定期試験の成績を70%とし筆記試験を行う。課題レポートは、9回目にそれまでの授業内容に関係する課題を問う。<br>・定期試験及び課題レポートは、それぞれの疾患の概要と標準的な治療の基本的事項を理解しているか、また栄養管理、食事療法の実践について理論的に説明が出来ているかを評価する。授業態度・授業への参加度は、リフレクションカードやディスカッション、授業中の態度、取組み、関心・意欲、質問等に対する返答で評価し、課題レポートと合わせ、ポートフォリオや授業の中でフィードバックを行う。 |
| 授業概要 | 医療機関勤務での給食管理、栄養教育(栄養指導)、栄養管理等の業務経験を活かし、様々な疾患に対する病態の理解から治療、栄養管理、食事療法の基本を実践的な授業展開により学修する。授業では、教科書以外に必要に応じてプリント、パワーポイント、映像、関連資料(栄養剤、治療用特殊食品)等を用いて行う。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：健康・栄養科学シリーズ 臨床栄養学 中村丁次他編集(南江堂)<br>参考書：食品成分表、日本人の食事摂取基準(2025年版)、各種疾患に対する診療ガイドライン<br>指定図書：健康・栄養科学シリーズ 臨床栄養学 中村丁次他編集(南江堂) |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 本科目は、これまで学修してきた科目を基に学んで行く。今後の他の専門科目を学ぶ上でベースとなるものである。各科目で学修した知識を繋げて理解することが大切で、それにより深い理解が出来る様になる。そして、発展的に学修を積み重ねていくためにもこれまで学修してきた内容をしっかり復習して、各回の単元、テーマに沿って予習をして臨むようにすること。また、ポートフォリオを活用して、指示した各回の学修内容の予習・復習に取り組むこと。授業を通じて実際の症例を数多く学修し、様々な疾患に対して正しい知識と認識を身につけ、そして、学びの質を高めるように取り組むこと。また、授業中の私語、スマートフォン等の不必要な使用は、厳禁である。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **腎・尿路・泌尿器疾患(1)** | 急性・慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群(腎臓の構造・機能 溶連菌 尿検査 慢性腎臓病に対する食事療法基準2014年版) | 腎臓の構造と機能について予習。腎炎の治療と栄養管理について復習。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2 | **腎・尿路・泌尿器疾患(2)** | 急性・慢性腎不全<br>(慢性腎臓病(CKD) GFR CKDの重症度分類 蓄尿 尿毒症 低たんぱく食) | 腎不全の概要を予習。腎不全の治療と栄養管理について復習。 |
| 3 | **腎・尿路・泌尿器疾患(3)** | 糖尿病性腎症、糖尿病性腎臓病(DKD)<br>(糖尿病合併症 糖尿病性腎症病期分類 チーム医療 糖尿病透析予防指導管理料) | 糖尿病合併症について予習。糖尿病性腎症の治療と栄養管理について復習。 |
| 4 | **腎・尿路・泌尿器疾患(4)** | 血液浄化療法(血液透析、腹膜透析)<br>(透析導入期・維持期 尿毒症 ダイアライザー 透析食 生活指導 腎移植)<br>・長崎県、佐世保市や学修者の出身地の疾患の罹患状況など地域の現状を知る。 | 末期腎不全の概要を予習。末期腎不全の治療と栄養管理について復習。 |
| 5 | **呼吸器疾患** | 慢性閉塞性肺疾患(COPD)、気管支喘息、気管支炎、肺炎、肺結核<br>(呼吸商 酸塩基平衡 喫煙 在宅酸素療法(HOT) 結核菌 結核予防) | 呼吸器疾患の概要を予習。COPD、肺結核の治療と栄養管理について復習。 |
| 6 | **血液系の疾患(1)** | 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血<br>(造血 造血幹細胞 ヘム鉄・非ヘム鉄 葉酸 ビタミンB12 食事療法) | 貧血の概要を予習。貧血の治療と栄養管理について復習。 |
| 7 | **血液系の疾患(2)** | 白血病(急性・慢性)<br>(造血幹細胞移植(骨髄移植) 骨髄バンク 抗がん剤治療 無菌室 無菌食 社会復帰) | 白血病の概要を予習。白血病の治療と栄養管理について復習。 |
| 8 | **感染症(1)** | 食中毒(細菌性、ウイルス性、その他)、感染性胃腸炎(急性腸炎)<br>(急性脳症 回復食 O-157 ベロ毒素 ノロウイルス サルモネラ菌 アニサキス フグ毒 下痢・嘔吐) | 感染症の概要を予習。感染症の治療と栄養管理について復習。 |
| 9 | **感染症(2)** | 医療関連感染(HAI)、院内感染<br>(インフルエンザ 感染予防 集団感染 肺結核 BCG HIV感染症 ロタウイルス MRSA)<br>＊課題レポート | 感染症の概要を予習。感染症の治療と栄養管理について復習。 |
| 10 | **免疫・アレルギー疾患(1)** | 食物アレルギー<br>(除去食 代替食品 経口食物負荷試験 経口免疫療法 食物アレルギー対応食品 学校給食 アナフィラキシーショック 交差抗原 エピペン 食品表示 ヒスタミン) | 免疫機能について予習。食物アレルギーの治療と栄養管理について復習。 |
| 11 | **免疫・アレルギー疾患(2)** | 膠原病、自己免疫疾患、後天性免疫不全症候群<br>(全身性エリテマトーデス エイズ) | 自己免疫疾患、免疫不全症の概要を予習。免疫疾患の治療について復習。 |
| 12 | **筋骨格疾患(1)** | 骨粗鬆症、骨軟化症・くる病<br>(骨代謝 骨芽・破骨細胞 骨吸収・骨形成 骨量 骨密度 エストロゲン 副甲状腺ホルモン(PTH) ビタミンD カルシウム・リン 骨・ミネラル代謝異常) | 骨代謝と骨疾患の概要を予習。骨疾患の治療と栄養管理について復習。 |
| 13 | **筋骨格疾患(2)** | 骨粗鬆症、骨軟化症・くる病<br>(骨代謝 骨芽・破骨細胞 骨吸収・骨形成 骨量 骨密度 エストロゲン 副甲状腺ホルモン(PTH) ビタミンD カルシウム・リン 骨・ミネラル代謝異常) | 骨代謝と骨疾患の概要を予習。骨疾患の治療と栄養管理について復習。 |
| 14 | **内分泌疾患(1)** | 甲状腺機能亢進症・低下症<br>(バセドウ病 橋本病 甲状腺ホルモン ヨウ素(I) ヨード制限食 アイソトープ治療 原発事故) | 内分泌疾患の概要を予習。内分泌疾患の治療と栄養管理について復習。 |
| 15 | **内分泌疾患(2)** | クッシング症候群、原発性アルドステロン症<br>(副腎 副腎皮質ホルモン) | 内分泌疾患の概要を予習。内分泌疾患の治療と栄養管理について復習。 |
| 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：臨床栄養管理学Ⅳ（実践的教育科目）　授業コード：53022

授業科目英文名称：Clinical Nutrition Management Ⅳ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 山口　留美（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | IB363 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 臨床栄養管理の具体的実践方法をチーム医療の中で提案することができる。栄養ケア・マネジメントを疾病別に実践することができる。疾患ごとに症例検討ができる。 | 定期試験<br>小テスト | 40%<br>5% |
| 情報収集、分析力 | 栄養ケア・マネジメントの定義と構造を理解し、疾患ごとに必要な各種データを抽出し活用することができる。 | 定期試験<br>課題レポート | 25%<br>10% |
| コミュニケーション力 | 栄養ケア・マネジメントの定義と構造を理解し、栄養ケア・マネジメントシステムによる疾患ごとの栄養管理の特徴やその方法について説明することができる。 | 授業態度・授業への参加度 | 5% |
| 協働・課題解決力 | 栄養ケア・マネジメントシステムを活用し、疾患ごとにチーム医療の中で提案することができる。 | 小テスト | 5% |
| 多様性理解力 | 様々なライフステージや環境に応じ、柔軟に栄養管理や食事療法の考え方を持つことができ、ベッドサイドにおいても即対応ができる。 | 授業態度・授業への参加度 | 10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 臨床栄養管理学Ⅳでは、管理栄養士として栄養ケア・マネジメントを疾患別に実践するための知識や技術を習得することを目的とする。またチーム医療における管理栄養士の役割や、他職種との連携について理解を深め、ベッドサイドにおいて学び得た知識をどう生かすことができるか等、グループディスカッション等を取り入れ、より実践的に習得することとする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ②、③、⑤、⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 定期試験の成績を65%として筆記試験を実施する。定期試験は栄養ケア・マネジメントを正しく理解し実施できるか、疾患ごとの栄養管理のポイントを把握できているかを評価する。<br>課題レポートに関しては、根拠を示し理論的に記載しているかを評価し、評価は10%とする。また小テストの評価は10%として、次回の授業内容にフィードバックを行う。授業態度・授業への参加の評価は15%として、授業における討論への参加度合いなどを評価する。 |
| 授業概要 | 臨床栄養学テキストを使用し講義形式で授業を行う。臨床での実務経験をもとに、より実践的な内容で栄養ケア・マネジメントをとらえることができるよう、必要な教材等を使用する。またグループディスカッションを取り入れ、様々な意見や考え方を学ぶ。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：健康・栄養科学シリーズ 臨床栄養学（改訂第3版） 中村丁次 他編集（南江堂）<br>臨床栄養ディクショナリー （改訂6版） 伊藤孝仁 監修 他編著（メディカ出版）<br>指定図書：健康・栄養科学シリーズ 臨床栄養学（改訂第3版） 中村丁次 他編集（南江堂） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 医療に関する出来事に興味を持ち、新聞やニュースの情報に関心を持って生活すること。講義には積極的に参加して学修することを期待する。教科書の次回の授業内容を予習して指定した教科書を事前に読みノートにまとめておくこと。学修した内容を復習すること。出席を毎回確認する。授業中での私語、携帯電話、メール等の不必要な使用は厳禁である。体調不良で欠席しないよう日頃から健康管理を行なうこと。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **内分泌疾患、<br>感覚器・神経疾患** | 内分泌疾患、神経疾患の栄養管理<br>小テスト | 内分泌疾患の栄養管理について予習。<br>内分泌疾患の栄養管理について復習。 |
| 2 | **摂食障害、精神疾患** | 神経性食思不振症、神経性大食症、アルコール依存症の栄養管理<br>小テスト | 摂食障害等の栄養管理について予習。<br>摂食障害等の栄養管理について復習。 |
| 3 | **呼吸器疾患** | 肺・気管支疾患の栄養管理<br>小テスト | 呼吸器疾患の栄養管理について予習。<br>呼吸器疾患の栄養管理について復習。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 4 | **血液系の疾患** | 貧血の種類とその栄養管理<br>小テスト | 血液系疾患の栄養管理について予習。<br>血液系疾患の栄養管理について復習。 |
| | 5 | **筋・骨格系疾患** | 筋・骨格系疾患の栄養管理<br>小テスト | 筋・骨格系疾患の栄養管理について予習。筋・骨格系疾患の栄養管理について復習。 |
| | 6 | **免疫・アレルギー疾患** | 免疫・アレルギー疾患、自己免疫疾患の栄養管理<br>小テスト | 免疫・アレルギー疾患の栄養管理について予習。<br>免疫・アレルギー疾患の栄養管理について復習。 |
| | 7 | **がん、緩和ケア** | 各臓器がんの栄養管理と緩和ケアについて<br>小テスト | がん、緩和ケアの栄養管理について予習。がん、緩和ケアの栄養管理について復習。 |
| | 8 | **術前・術後** | 術前・術後の栄養管理<br>消化管疾患の術前・術後の栄養管理<br>小テスト | 術前・術後の栄養管理について予習。<br>術前・術後の栄養管理について復習。 |
| | 9 | **クリティカル・ケア** | クリティカル・ケアの概要と栄養管理<br>小テスト | クリティカル・ケアの栄養管理について予習。<br>クリティカル・ケアの栄養管理について復習。 |
| | 10 | **摂食機能障害** | 摂食機能障害の疾患の概要と栄養管理<br>小テスト | 摂食機能障害の栄養管理について予習。<br>摂食機能障害の栄養管理について復習。 |
| | 11 | **身体・知的障害** | 身体・知的障害の栄養管理<br>課題レポート | 身体・知的障害の栄養管理について予習。身体・知的障害の栄養管理について復習。 |
| | 12 | **乳幼児・小児疾患** | 周期嘔吐症、小児肥満、糖尿病の栄養管理<br>小テスト | 乳幼児・小児疾患の栄養管理について予習。<br>乳幼児・小児疾患の栄養管理について復習。 |
| | 13 | **妊産婦・授乳婦の疾患・病態** | 妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群、更年期疾患の栄養管理<br>小テスト | 妊産婦・授乳婦の栄養管理について予習。<br>妊産婦・授乳婦の栄養管理について復習。 |
| | 14 | **老年症候群** | 老年症候群の栄養管理<br>小テスト | 老年症候群の栄養管理について予習。<br>老年症候群の栄養管理について復習。 |
| | 15 | **感染症** | 感染症（食中毒）の栄養管理<br>課題レポートのフィードバック | 感染症の栄養管理について予習。<br>感染症の栄養管理について復習。 |
| | 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：臨床栄養管理実習（実践的教育科目）　授業コード：54614

授業科目英文名称：Clinical Nutrition Management Practice

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3 | 1 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 山口　留美（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 実習 | | |
| ナンバリング | IB364 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 病態別および疾病の合併に合わせて栄養評価データと傷病者の状態を関係づけ、栄養学的問題と栄養補給方法の説明と傷病者への具体的な指導・説明が出来る。 | 授業態度<br>小テスト | 35%<br>5% |
| 情報収集、分析力 | 病態別および疾病の合併に合わせて栄養ケア・マネジメントの方法を類別することが出来る。 | 課題レポート | 15% |
| コミュニケーション力 | 臨床・福祉・介護分野における栄養管理活動の方法に関する討議に参加出来る。 | 受講者の発表<br>授業態度 | 15%<br>15% |
| 協働・課題解決力 | 病態別および疾病の合併に合わせて栄養ケア計画を立案、実践することが出来る。 | 課題発表 | 10% |
| 多様性理解力 | 様々なライフステージや環境に応じ、柔軟に栄養管理や食事療法の考え方を持つことができる。 | 課題レポート | 5% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 臨床栄養学講義で学んだ基礎知識を元に、実際の臨床の中で管理栄養士に求められる栄養スクリーニングや栄養アセスメント等をはじめ、栄養管理に必要な実践的スキルを修得する。また様々な症例に対しアクティブラーニングを用い、総合的に評価し、カンファレンスやベッドサイドにおいて問題点やそれに対する提案ができる知識と技術を修得する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ②、③、④、⑥、⑦ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 授業態度により取り組み姿勢や意欲を評価するものとし評価は50％とする。また、課題レポートや課題発表、小テストを行い授業内容の理解度を評価する。 |
| 授業概要 | 臨床現場での経験を基に、管理栄養士に求められる栄養アセスメントに必要な技法等を修得する。また、対象者個々に応じた栄養計画を立案できるよう、ロールプレイや模擬カンファレンス等を通しグループディスカッションを行いプレゼンテーションを実施し、臨床栄養の基本を振り返るとともに、授業内で課題レポートのフィードバックを行うなど、実践的な栄養管理技術を修得する。<br>また授業には必要に応じ、プリントやパワーポイント等を用いる。<br>授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書　：健康・栄養科学シリーズ 臨床栄養学（改訂第3版）　中村丁次 他編集（南江堂）<br>臨床栄養ディクショナリー　（改訂6版）　伊藤孝仁 監修 他編著（メディカ出版）<br>参考書　：各種疾患ガイドライン<br>指定図書：健康・栄養科学シリーズ 臨床栄養学（改訂第3版）　中村丁次 他編集（南江堂） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 症例の病態・疾患を診療録・看護記録・検査データより判断し、各疾患のガイドラインに準じて個々の患者に必要な栄養管理計画を立案できる基礎と応用力を修得し、臨地実習における実践活動をより深く理解できるよう役立てて欲しい。本実習はグループ学習が多いため、積極的にグループでの作業、学習に関わりプレゼンテーション力を養うこと。また、実習中での携帯電話、メール等の不必要な使用は厳禁である。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **栄養マネジメントとスクリーニング** | 臨床栄養管理に必要な技能、管理栄養士として必要な技能。グループ討議・発表。 | 臨床栄養管理に必要な技能について予習。臨床栄養管理の復習。 |
| 2 | **栄養アセスメント(1)**<br>**食事摂取量調査** | 栄養アセスメント、食事摂取量調査。グループ討議・発表。課題レポート。 | 食事摂取量調査について予習。食事摂取量調査について復習。 |
| 3 | **栄養アセスメント(2)**<br>**身体計測** | 栄養アセスメント、身体計測。1日の行動記録によるエネルギー消費量の計算。グループ討議・発表。課題レポートのフィードバック。 | 身体計測についての予習。身体計測についての復習 |
| 4 | **栄養アセスメント(3)**<br>**臨床診査** | 栄養アセスメント・ 臨床検査。症例検討。グループ討議・発表。 | 臨床検査について予習。臨床検査について復習。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 5 | **栄養アセスメント(4)**<br>**臨床検査** | 栄養アセスメント・ 臨床診査。症例検討。グループ討議・発表。 | 臨床診査について予習。臨床検査について復習。 |
| | 6 | **栄養補給法(1)**<br>**経管栄養法** | 栄養補給法、経管栄養法。症例検討。グループ討議・発表。 | 経管栄養法について予習。経管栄養法について復習。 |
| | 7 | **栄養補給法(2)**<br>**静脈栄養法、摂食嚥下** | 静脈栄養法、摂食嚥下について。グループ討議・発表。小テスト。 | 静脈栄養・摂食嚥下について予習。静脈栄養・摂食嚥下について復習。 |
| | 8 | **診療記録** | 診療記録、病院における診療記録の紹介。SOAP・PESに沿った栄養記録の作成。グループでの診療記録の作成・発表。課題レポート。 | 診療記録について予習。診療記録について復習。 |
| | 9 | **糖尿病の栄養管理（1）** | 糖尿病患者の栄養管理と栄養指導。<br>課題レポートのフィードバック。課題レポート。 | 糖尿病患者の栄養管理について予習。糖尿病患者の栄養管理について復習。 |
| | 10 | **糖尿病の栄養管理（2）** | 糖尿病患者の栄養管理。糖尿病食事療法のための食品交換表を用いた栄養指導記録。<br>課題レポートのフィードバック。 | 食品交換表について予習。食品交換表使用の栄養管理について復習。 |
| | 11 | **糖尿病の栄養管理（3）** | カーボカウントを利用した栄養管理。症例の栄養指導。 | カーボカウントについて予習。カーボカウントの栄養管理について復習。 |
| | 12 | **摂食嚥下障害の栄養管理** | 摂食嚥下障害の栄養管理。ディスカッション。 | 摂食嚥下障害の栄養管理について予習。摂食嚥下障害の栄養管理について復習。 |
| | 13 | **症例検討（1）** | COPD・糖尿病の栄養管理。ディスカッション。 | COPD・糖尿病の栄養管理について予習。COPDの栄養管理について復習。 |
| | 14 | **症例検討（2）** | 褥瘡・重症感染症・胃切除後の栄養管理。ディスカッション。 | 褥瘡・重症感染症・胃切除後の栄養管理について予習。褥瘡・重症感染症・胃切除後の栄養管理について復習。 |
| | 15 | **症例検討（3）** | 慢性腎不全・脳血管障害の栄養管理。ディスカッション。 | 慢性腎不全・脳血管障害の栄養管理について予習。慢性腎不全・脳血管障害の栄養管理について復習。 |

授業科目名称　：治療食実習（実践的教育科目）　　授業コード：14018

授業科目英文名称：Practice in Therapeutical Food

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3 | 1 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 林　俊介（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 実習 | | |
| ナンバリング | IB365 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 栄養食事療法を推し進める上で、チーム医療の中で栄養管理の中心的な管理栄養士としての役割と様々な職種との連携について理解できる。患者の特性を鑑み、相応しい食種や食形態を判断できる。それに合わせた献立作成と調理を検討することができる。 | ・授業態度・授業への参加度<br>・課題レポート<br>・実習レポート<br>・定期試験 | 10%<br>10%<br>5%<br>20% |
| 情報収集、分析力 | 多様な対象者に対する栄養管理のための情報収集、分析を行い、そこから課題を見つけ出すことができる。問題解決のための栄養管理に関する計画を立案することができる。 | ・定期試験<br>・課題レポート<br>・実習レポート | 15%<br>10%<br>5% |
| コミュニケーション力 | 多様な対象者(患者など)及びチーム医療で協働する関連職種に対し的確にコミュニケーションを取り、適切な治療食や栄養食事療法について説明することができる。 | ・定期試験 | 5% |
| 協働・課題解決力 | 栄養管理や治療に関わる種々の職種について理解し、それぞれの役割を踏まえた組織運営を計画することができる。チーム医療の中での管理栄養士の役割を知り、それらについて提案することができる。 | ・定期試験 | 10% |
| 多様性理解力 | 多様な対象者(患者など)の特性や様々な疾患の病態や治療、食事療法を理解し、またライフステージや身体状況などを十分に配慮し、その治療のための献立作成、展開、調理を考えることができる。 | ・定期試験 | 10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本実習は各疾患・病態に合わせ適切な栄養管理を実施するために、日本人の食事摂取基準(2025年版)および各疾患のガイドラインをもとにエネルギー量や各栄養素の設定について理解し、必要な献立の作成と各施設での給食管理を行う上で必須な常食からの各食種に合わせた献立の展開が出来るようになることを目指す。適時、授業内でディスカッションを行い、理解を深め、受講者のより効果的な学修活動を推進し、知識の定着を図る。そして、各食種の献立に合わせた適切な調理方法、食材の使い分けを理解し、それに基づき献立作成や調理作業が出来るようになることを目標とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ① ② ③ ④ ⑧ ⑩ ⑪ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・定期試験で筆記試験を行う。課題レポートは、各回の実習・演習時の内容に関係する課題を問う。<br>・定期試験および課題レポート、実習レポートについては、それぞれの疾患に対する食事療法の基本的事項を理解しているか、また栄養管理、食事療法の実践について理論的に説明が出来ているか、各授業での実習内容が理解できているかを評価する。それらについては、レポートと合わせ、授業の中でフィードバックを行う。<br>・実習に臨む上での態度、姿勢も評価する。実習・演習時の忘れ物、調理をするのに相応しい服装・身だしなみ(髪・爪など)には十分留意すること。それらも含めてこの科目へ取り組む姿勢として評価し、フィードバックを行う。 |
| 授業概要 | 医療機関勤務での栄養管理や給食管理業務等の実務経験の経験を活かし、授業を展開していく。教科書、配布プリント、食品交換表、食品成分表、関連資料などを用い、講義と実習・演習の説明(示範)を行い、その後、調理作業または、演習を行う。演習時にはそれぞれの疾患に対する献立作成、献立の展開、栄養価計算などを行う。献立作成、展開、治療食調理の技術は栄養管理、給食運営、栄養指導を行う上での基本的な技能となる。また、長崎県や学修者の出身地の食生活を踏まえ、地域の食材や料理を治療食に取り入れた献立作成についても学ぶ。これらの技術と知識の修得を目指す。授業の予習･復習、課題の指示等についてポートフォリオを活用して行っていく。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：栄養食事療法の実習 第14版 本田佳子編(医歯薬出版)<br>糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会編(日本糖尿病協会・文光堂)<br>参考書：食品成分表 改訂最新版(女子栄養大学出版部)、その他はその都度指示する。<br>指定図書：栄養食事療法の実習 第14版 本田佳子編(医歯薬出版) |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 本実習では様々な疾患に対する治療食として適切な献立作成と展開を学ぶと共に、それを実践(調理)するものである。実習を通して理論だけでなくしっかりと調理技術と献立作成能力、また治療のための食事の調理を身に付けるためには、日頃から調理に取り組むことが大切である。各授業回で扱う食種が治療のため適応される疾患について事前に学修して、実習に臨むこと。授業毎にポートフォリオを確認し、指示した各回の学修内容の復習に取り組むこと。 |
| | |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション<br>治療食の分類と種類<br>炊飯** | 実習の説明。食種、食形態、疾患別分類、栄養成分別分類、約束食事箋、荷重平均成分(値)表、食品構成。<br>(実習・演習) 重湯・全粥・軟飯の調理。食品構成作成。 | 医療における関係法規、栄養補給法について予習。治療食、食品構成の復習と課題に取り組む。 |
| 2 | **流動食** | 栄養補給法について。各種栄養剤、食形態の特性を知る。<br>(実習) 普通・濃厚流動食の調理。重湯・全粥の調理。 | 栄養補給法について予習。炊飯について復習。 |
| 3 | **全粥・軟菜食** | 常食からの全粥・軟菜食への献立の展開。食種による食材と調理方法の使い分け。<br>(実習) 全粥・軟菜食の調理。 | 調理方法(揚、炒、焼、蒸、煮)の特性を予習。軟菜食について復習。 |
| 4 | **五分粥・三分粥食・<br>嚥下食・ミキサー食** | 常食からの分粥食への献立の展開。食種による食材と調理方法の使い分け。<br>(実習) 五分粥食・三分粥食の調理。トロミ剤の使用。 | 分粥の調整、軟菜食の調理と食材について予習。咀嚼嚥下について復習。 |
| 5 | **エネルギーコントロール食(糖尿病食)①** | エネルギーコントロール食の考え方。適応する疾患について。<br>(演習) 糖尿病の食品交換表を用いた献立の作成・単位計算・栄養食事指導。 | 糖尿病治療と食品成分表を用いた栄養価計算について予習。演習課題に取り組む。 |
| 6 | **エネルギーコントロール食(糖尿病食)②** | 常食からエネルギーコントロール食への献立の展開。<br>(演習) 常食からエネルギーコントロール食への献立の展開。 | 糖尿病の食品交換表の使用方法について予習。演習課題に取り組む。 |
| 7 | **エネルギーコントロール食(糖尿病食)③** | 常食からエネルギーコントロール食への献立の展開。<br>(実習) エネルギーコントロール食の調理。 | 課題を通して献立の展開について予習。献立の展開と調理について復習。 |
| 8 | **食塩コントロール食<br>(減塩食)** | 食塩制限食、減塩調理の考え方。適応する疾患について。食塩相当量の計算、減塩調味料の使い方。<br>(実習) 減塩食の調理。 | 食塩制限が必要となる疾患について予習。減塩の技術について復習。 |
| 9 | **たんぱく質コントロール食(腎臓病食)①** | たんぱく質コントロール食の考え方。治療用特殊食品の使用方法。<br>(演習) 低たんぱく食献立の作成、展開。 | 慢性腎不全保存期での栄養管理について予習。演習課題に取り組む。 |
| 10 | **たんぱく質コントロール食(腎臓病食)②** | 常食からたんぱく質コントロール食への献立の展開。治療用特殊食品を使用した調理。<br>(実習) 低たんぱく食の調理。 | 治療用特殊食品の使い方を予習。低たんぱく食の技術について復習。 |
| 11 | **たんぱく質コントロール食(腎臓病食)③** | 透析食の考え方。治療用特殊食品の使用方法。<br>(演習) 透析食献立の作成、展開、栄養食事指導。 | 透析期での栄養管理について予習。演習課題に取り組む。 |
| 12 | **たんぱく質コントロール食(腎臓病食)④** | 常食から透析食への献立の展開。(エネルギー、カリウム、リン、食塩コントロール食)<br>(実習) 透析食の調理。 | 治療用特殊食品の使い方を予習。透析食の技術について復習。 |
| 13 | **脂質コントロール食・易消化食** | 常食から脂質コントロール食・易消化食への献立の展開。<br>(実習) 脂質コントロール食・易消化食の調理。経腸栄養剤の試飲。 | 消化器疾患に対する栄養管理と軟菜食について予習。食材の選択と調理方法について復習。 |
| 14 | **鉄付加食・カルシウム付加食** | 常食から鉄付加食・カルシウム付加食への展開。<br>(実習) 鉄付加食・カルシウム付加食の調理。 | 鉄分、カルシウム付加が必要となる疾患について予習。食材の選択と調理方法について復習。 |
| 15 | **食物アレルギー対応食** | 食物アレルギー対応食の献立、調理方法。除去食、アレルギー対応代替食品の使用方法。<br>(実習) 食物アレルギー対応食の調理。 | 食物アレルギーについて予習。アレルギー対応の技術について復習。 |
| 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：給食栄養管理実習（実践的教育科目）　授業コード：14625

授業科目英文名称：Practice in Administration in Mass Feeding

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3 | 1 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 山口　留美（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 実習 | | |
| ナンバリング | IB377 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 臨床・福祉・介護分野における献立作成ができる。 | 授業態度<br>課題レポート | 20%<br>20% |
| 情報収集、分析力 | 病態別および疾病の合併に対応した献立作成ができる。 | 課題レポート | 15% |
| コミュニケーション力 | 病態別および疾病の合併症に合わせて栄養評価データと傷病者の状態を関係づけ、栄養学的問題と栄養補給方法の説明と傷病者への具体的な献立作成の指導・説明ができる。 | 受講者の発表 | 10% |
| 協働・課題解決力 | 病態別および疾病の合併症に対応した献立作成・調理ができる。 | 課題レポート<br>授業態度 | 10%<br>15% |
| 多様性理解力 | 様々なライフステージや環境に応じ、柔軟に栄養管理や食事療法の考え方を持つことができる。 | 課題レポート | 10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 病態や疾患、また対象者の特徴を理解し、栄養管理の必要性を学ぶ。また、管理栄養士としての適切な献立提案および作成ができ、食事指導等に役立てるスキルと手技を修得することを目的とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ④、⑥、⑦、⑧、⑩、⑪ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・課題レポートは55%として評価する。また、内容に関係する課題を行い、課題のフィードバックについて次の回の授業で行う。受講者の発表は10%として評価する。<br>・課題レポートについては、それぞれの疾患に対する栄養管理と食事療法の基本的事項を理解しているか、また栄養管理、食事療法の実践について理論的に説明が出来ているかを評価する。実習の課題レポート、発表への取り組みを評価する上で重視する。実習に臨む上での授業態度は35%として評価する。 |
| 授業概要 | 本実習は病態別および疾病の合併に対応した献立作成を行う。担当教員の臨床における食事療法等の実務経験をもとに、実際の現場の中で実践可能な献立展開とそれを基にした調理計画を立案し4回の調理実習を実施する。患者の必要とする栄養管理、および患者満足度を向上させる食事の提供、集団給食の中での献立展開の基本を修得する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：健康・栄養科学シリーズ 臨床栄養学（改訂第3版） 中村丁次 他編集（南江堂）<br>参考書：糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会編 （文光堂）<br>腎臓病食品交換表 第9版 黒川清 監修（医歯薬出版株式会社）<br>日本食品成分表 最新版<br>指定図書：健康・栄養科学シリーズ 臨床栄養学（改訂第3版） 中村丁次 他編集（南江堂） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 症例の病態・疾患を診療録・看護記録・検査データより判断し、各疾患のガイドラインに準じて個々の患者に必要な栄養管理計画を立案、献立を作成できる基礎と応用力を修得し、臨地実習における実践活動に役立てて欲しい。学習に関り、献立作成の能力を養うこと。また、実習中での携帯電話、メール等の不必要な使用は厳禁である。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **献立作成の基本（1）** | 集団給食においての対象者の把握と食品構成の作成<br>（演習）授業の中で、献立作成の演習と発表を行う。 | 集団給食献立立案について予習。対象者把握と食品構成について復習。 |
| 2 | **献立作成の基本（2）** | 食品構成に基づいた献立<br>（演習）授業の中で、献立作成の演習と発表を行う。<br>（課題）一般食の献立提出 | 食品構成に基づいた献立について予習。食品構成に基づいた献立について復習。 |
| 3 | **一般食（軟菜食・分粥食）** | 軟菜食・分粥食の概要。常食より展開<br>（演習）授業の中で、献立作成の演習と発表を行う。<br>（課題）軟菜食の献立提出 | 軟菜食・分粥食について予習。軟菜食・分粥食について復習。 |
| 4 | **減塩食** | 減塩食の概要。常食より展開<br>（演習）授業の中で、献立作成の演習と発表を行う。<br>（課題）減塩食の献立提出 | 減塩食について予習。原燃食の栄養管理について復習。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 5 | **糖尿病食（1）** | 常食から糖尿病食への献立展開<br>（演習）授業の中で、献立作成の演習と発表を行う。 | 糖尿病食展開について予習。糖尿病食展開の復習。 |
| | 6 | **糖尿病食（2）** | 糖尿病食の行事食献立作成<br>（演習）授業の中で、献立作成の演習と発表を行う。<br>（課題）糖尿病食の献立提出 | 糖尿病食品交換表について予習。糖尿病食への展開について復習。 |
| | 7 | **病院給食・展開食調理実習（5分菜）** | 5分菜食献立の調理実習 | 5分菜食について予習。5分菜食について復習。 |
| | 8 | **資料作成** | 献立作成上必要となる食材についての資料作成 | 食材についての資料準備と資料まとめ。 |
| | 9 | **資料作成** | 献立作成上必要となる食材についての資料作成と次回の調理作業工程表作成 | 食材についての資料準備と資料まとめ。 |
| | 10 | **病院給食・展開食調理実習（糖尿病行事食）** | 作成した糖尿病の行事食の調理実習 | 調理工程について予習。調理作業について振り返りを行う。 |
| | 11 | **資料作成** | 献立作成上必要となる食材についての資料作成 | 食材についての資料準備と資料まとめ。 |
| | 12 | **資料作成** | 献立作成上必要となる食材についての資料作成 | 食材についての資料準備と資料まとめ。 |
| | 13 | **資料作成** | 献立作成上必要となる食材についての資料作成 | 食材についての資料準備と資料まとめ。 |
| | 14 | **減塩食・資料作成** | 次回の調理作業工程表作成と献立作成上必要となる食材についての資料作成 | 食材についての資料準備と資料まとめ。資料提出。 |
| | 15 | **病院給食・展開食調理実習（減塩食）** | 減塩食の調理実習 | 調理工程について予習。調理作業工程について復習。 |

授業科目名称　：栄養と薬（実践的教育科目）　　授業コード：21612

授業科目英文名称：Medicine and Nutrition

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 廣田　昌彦（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | IB366 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 薬の基本的事項、飲食物と薬の相互作用、薬の使用法、作用・副作用について体系的に理解している。修得した知識を臨床の現場で臨機応変に応用することができる。 | ・定期試験<br>・中間テスト | 70%<br>10% |
| 情報収集、分析力 | 薬に関する情報を収集するためのツールやメディアの特性について理解し、必要な情報を効率的に収集することができる。 | ・定期試験<br>・中間テスト | 5%<br>5% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | 栄養と薬に関する課題を的確に把握し、他の人と協力して課題解決に向けた方策を立案し、着実に実行できる。 | ・授業態度<br>・授業への参加度 | 5%<br>5% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 臨床に関わる管理栄養士は、薬の基本的事項や食品・栄養と薬物の相互作用について理解しておく必要がある。本科目では、薬物についての基本的事項、とくに薬物の吸収・代謝・排泄などの薬物体内動態、薬理作用、飲食物と薬物の相互作用などを理解して説明できることをそのねらいとしている。また、臨床的に良く用いられている薬剤について、その使用法、作用・副作用の概要を説明出来るようになるのが目標である。 |
| アクティブラーニングの類型 | ① ② ③ ⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 評価点は、定期試験の結果を75%とし、12回目に実施する中間テストの結果を15%として算定する。授業態度・授業への参加度は、授業中の態度、取り組み、関心・意欲、質問等に対する返答で、10%として評価する。中間テストについては、授業において解説し、フィードバックをする。 |
| 授業概要 | 本科目では、薬物の体内動態、薬理作用及びその他に関する基本的事項、薬物と飲食物の相互作用、また、臨床で良く使用される薬剤の使用法、作用・効果、副作用などに関する授業を行う。授業中には、できるだけ多くの質問を投げかけ、これに対するディスカッションの時間を設けている。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：栄養科学シリーズNEXT「栄養薬学・薬理学入門」第2版 川添禎浩、古賀信幸（編）講談社<br>参考書：「食と薬の相互作用」山本勝彦、山中克己著 幸書房<br>指定図書：栄養科学シリーズNEXT「栄養薬学・薬理学入門」第2版 川添禎浩、古賀信幸（編）講談社 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 授業内容の理解を深めるために、事前に指定教科書に目を通し、概略を把握して授業に臨むこと。授業中の私語、携帯電話等は厳禁である。本科目の受講を通じて健康の維持・増進、疾病の予防及び治療における飲食物と薬物の重要性を理解し、日常生活においても飲食物と薬物の相互作用などに常に関心を持つことを期待する。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **医薬品の基礎知識(1)** | 薬とは、日本における医薬品<br>薬の種類：医療用医薬品と一般用医薬品 | 予習：教科書p1～22<br>復習：日本における医薬品について、医療用医薬品と一般用医薬品について |
| 2 | **医薬品の基礎知識(2)**<br>**医薬品の体内動態** | 薬の剤形、薬の服用<br>薬の動態、薬の吸収、薬の代謝、薬の排泄 | 予習：教科書p23～52<br>復習：薬の剤形、服用について、薬の代謝、排泄について |
| 3 | **医薬品の作用と副作用**<br>**薬害** | 薬を使用する目的、薬の効果に及ぼす影響<br>薬の有害作用<br>薬害と健康食品による被害 | 予習：教科書p53～76<br>復習：薬の使用目的について、薬の有害作用、薬害について |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 4 | **食品と医薬品に関する相互作用<br>栄養を補給する薬** | 食べ物と薬の相互作用、薬物相互作用、薬と食べ物の相互作用<br>栄養補給法、経腸栄養剤、静脈栄養剤 | 予習：教科書p77～106<br>復習：食べ物と薬の相互作用について、栄養補給法、経腸栄養、静脈栄養について |
| 5 | **代謝・内分泌に作用する薬** | 糖尿病薬、脂質異常症薬、痛風薬 | 予習：教科書p107～124<br>復習：糖尿病薬、脂質異常症薬、痛風薬について |
| 6 | **末梢神経系に作用する薬** | 自律神経系、交感神経系、副交感神経系に作用する薬 | 予習：教科書p125～133<br>復習：末梢神経系に作用する薬について |
| 7 | **中枢神経に作用する薬** | 向精神薬、抗うつ薬、パーキンソン病治療薬、抗認知症薬 | 予習：教科書p135～154<br>復習：精神神経に作用する薬について |
| 8 | **呼吸器に作用する薬** | 鎮咳剤、気管支喘息治療薬、去痰剤 | 予習：教科書p155～162<br>復習：呼吸器に作用する薬について |
| 9 | **消化器に作用する薬** | 健胃消化薬、制吐薬、消化性潰瘍治療薬 | 予習：教科書p163～176<br>復習：消化器に作用する薬について |
| 10 | **循環器系治療薬** | 抗不整脈薬、心不全治療薬、狭心症治療薬、 高血圧治療薬、止血薬、抗血栓薬、造血薬 | 予習：教科書p177～196<br>復習：循環器に作用する薬について |
| 11 | **利尿薬・泌尿器に作用する薬** | 利尿薬、排尿障害治療薬、前立腺肥大治療薬、糖輸送体に作用する薬 | 予習：教科書p197～203<br>復習：利尿薬・泌尿器に作用する薬について |
| 12 | **中間テスト（総論、各論）** | 総論、および各論に関する中間テスト | 予習：教科書全体<br>復習：教科書全体 |
| 13 | **免疫、アレルギーおよび炎症に関する薬** | 中間テストのフィードバック、免疫抑制薬、抗ヒスタミン薬・抗アレルギー薬、炎症に効く薬、解熱鎮痛薬、抗リウマチ薬 | 予習：教科書p205～220<br>復習：免疫、アレルギーに作用する薬について |
| 14 | **細菌、ウイルスなどに作用する薬** | 抗菌薬、抗ウイルス薬、ワクチン | 予習：教科書p221～228<br>復習：微生物に作用する薬について |
| 15 | **がん治療薬** | がんの形成と薬、がん治療薬 | 予習：教科書p229～237<br>復習：がん治療薬について |
| 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：食介護論（実践的教育科目）　　授業コード：03507

授業科目英文名称：Dietary Care

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 4 | 1 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| ※田中　千恵美（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | IB467 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 障害者・要介護高齢者に必要な食事にかかる全てのプロセスで専門性を発揮するための必要な知識と配慮を説明できる。 | ・受講者の発表<br>・課題レポート | 10%<br>40% |
| 情報収集、分析力 | 障害者・要介護高齢者の加齢に伴う心身の変化及びそれに伴う諸問題及び取り組みについて調べ、対処法について指摘できる。 | ・課題レポート | 10% |
| コミュニケーション力 | 障害者・要介護高齢者の関わり方や諸問題に対する支援について、ディスカッションを通して自分の考えを表現し対策についても説明できる。 | ・課題レポート<br>・演習時の態度 | 10%<br>10% |
| 協働・課題解決力 | 障害者・要介護高齢者の関わり方や諸問題に対する支援について、解決に向けて方法を提案し、グループで実践などを通して具体的な成果や課題を説明できる。 | ・課題レポート<br>・演習時の態度 | 10%<br>10% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 障害者・高齢者の食生活について、医学的対応とは別に、食への楽しみと活力創出を狙いとして、食介護の基本・基礎から級別にみた障害者対策、また要介護寝たきり高齢者、認知症高齢者、在宅高齢者の食介護を理解する。様々な機能障害が起こり、疾病等が生じる実例などを、実務経験を踏まえた事例などを織り交ぜながら、より理解を深めていく。 |
| アクティブラーニングの類型 | ②③④⑦⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・課題レポートの成績を70%とする。課題レポートは、演習時の実際や学んだことなどを具体的に記載する。詳細は、講義中に説明する。<br>・レポートは、過去の内容等、授業内で解説を行いフィードバックする。<br>・授業中でのグループディスカッションの取り組みや、プレゼンテーション及び演習時の態度なども勘案して総合的に評価する。 |
| 授業概要 | 介護が必要となる状態になったとき、様々な疾病を有する対象者に提供する食事が、実際にどのような状況でひとりひとりの口に入っていくのか、それぞれの人にとっての食事の意味について、多方面から学び、考察を深めていく。更に、様々な機能障害が起こり、疾病等が生じる実例などを、保健師・看護師の経験を踏まえた事例などを織り交ぜながら、より理解を深めていく。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：その都度、資料を配布する<br>参考書：特になし<br>指定図書：系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 医学書院 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 授業内容の理解を深めるために、指定された内容について事前に予習しておくこと。<br>ひとりひとりの学生の今までの実生活の中で、知り合いや親戚など介護が必要となった体験を整理し、その対象者及び介護に関わる人々の食事の意義についてまとめておくこと。<br>授業中の態度に問題のある学生に対しては、減点の対象とする。<br>講義中の携帯電話、スマートフォン、メールなどは厳しく対応する。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **食生活と介護** | 介護の基本概念と介護を必要とする人々の「食生活」について、講義及びビデオを通して理解する。 | 予習：要介護者にとって食行動の自立の継続の困難さについてまとめる。<br>復習：要点整理 |
| 2 | **摂食嚥下障害** | 介護事故裁判（窒息、誤嚥等）の事例のグループワークを通して、「食を提供する」あるいは「食を介助する」という、介護する側の責任と専門性について学ぶ。 | 予習：「人間」にとっての食事の意義・目的を整理する。<br>復習：摂食嚥下障害をまとめる。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 3 | **特別な配慮が必要な食事介助法及び特別な配慮が必要な介助法** | 様々な疾患等で、一連の食事動作に介助が必要となった人に対する「食」を楽しむための基本的な食事介助技術を学ぶ。 | 予習：嚥下・咀嚼が困難になった場合、どのような援助の工夫があるのか調べる。<br>復習：高齢者、癌患者、障害者の食介助をまとめる。 |
| | 4 | **高次脳機能障害と食事の配慮** | 高次脳機能障害を持つ人が食事の場面でどのような支障が生じ、それらを解決するための方法について学ぶ。 | 予習：高次脳機能障害についてその発生機序と具体的な症状について調べる。<br>復習：高次機能障害の症状をまとめる。 |
| | 5 | **食事と口腔ケアの重要性を学ぶ** | 口腔を良好な状態を保つことの常用性を学ぶ。<br>正しい歯の磨き方など、具体的な口腔清潔の技術実習を通して学ぶ。 | 予習：口腔が全身に及ぼす影響を調べる<br>復習：従来の自分が行ってきた口腔ケアとのちがいをまとめる。 |
| | 6 | **介護現場における食事介助を学ぶ①** | 演習①<br>座位でとる「食」と、ベッド上でとる「食」の違いを体験する。<br>片麻痺の高齢者の食事介助の実際を体験する。 | 予習：演習時に使用する昼食を手作りで準備する。<br>復習：片麻痺高齢者の食事介助の手技をまとめる。 |
| | 7 | **介護現場における食事介助を学ぶ②** | 演習②<br>視覚障害者及び肢体不自由者とその援助方法を体験する。 | 予習：視覚障害者の介助の基本姿勢と車いすの操作方法について調べる。<br>復習：視覚障害、肢体不自由者の援助方法をまとめる。 |
| | 8 | **難病患者と食事の配慮とQOLについて学ぶ** | 難病患者とその家族の事例を通して、食事やコミュニケーションの援助法とＱＯＬについてディスカッションする。 | 予習：主な神経難病の疾患名と症状を調べる。<br>復習：神経難病患者の援助方法をまとめる。 |

授業科目名称　：公衆栄養学Ⅰ（実践的教育科目）　授業コード：22025

授業科目英文名称：Public Health Nutrition Ⅰ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 2 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 川野　香織（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | IB270 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | わが国の健康・栄養に関する法規について、目的や施行の意図について理解し、説明・活用できる。<br>公衆栄養活動を推進するための基準、指針やツール類を的確に使用することができる。 | 定期試験<br>小テスト | 35%<br>15% |
| 情報収集、分析力 | 既存調査結果から健康状況･栄養摂取状況の把握のための資料の選択およびデータの読み取りができる。<br>集団に対する健康・栄養改善活動を行うために、健康・栄養に関する既存資料から現状の把握ができる。 | 定期試験<br>授業態度・授業への参加度 | 20%<br>10% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | 集団を対象とした栄養学的な取組みの必要性を理解し、過去や現在に行われている公衆栄養活動について理解し、説明ができる。<br>公衆栄養活動について、どのような経緯から行われた取組であるか理解できる。 | 定期試験<br>小テスト | 15%<br>5% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 地域の健康・栄養問題とそれを取り巻くさまざまな要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を修得することを目指す。また、地域の健康・栄養問題に対して、栄養関連サービスなどの取組みについて情報の分析を行い、適切なプログラム作成・実施・評価のマネジメントに必要な理論と方法の修得を目指す。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①④⑨⑪ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・定期試験として筆記試験（穴埋め式、筆記式の混合）を行う(70%)。定期試験の内容は、基本概念、関連法規および健康・栄養関連施策等の内容（目標値等も含む）、専門的用語・語句の理解に関して栄養士・管理栄養士の基本的知識となる事項を基に設問を行い、知識および技能の理解や修得状況について総合的評価を行う。<br>・小テストは、毎回、概念や語句の理解に関する設問をポートフォリオで行い、その正答率を専門力及び多様性理解力として評価する（20%）。フィードバックは授業内に解答とその解説をすることによって行う。<br>・授業への質問等はレスポンで受付け、記載事項の返答は授業開始時に記載者を特定できないよう配慮して行う。<br>・授業態度・授業への参加度では、事前の予習状況（レスポン）や授業への取組状況を教員の主観的観点から評価する（10%）。 |
| 授業概要 | ・この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。<br>・講義形式で行い、必要に応じてレジュメや資料を配付する。<br>・健康・栄養に関する法規について説明し、規定内容について把握する。<br>・地域や職域の健康・栄養問題について、既存調査結果などの資料から現状を把握する。また、それらの問題の改善に向けた社会の取組み（ツール類も含む）について説明し、理解を促し、適切な活用ができるようにする。<br>・教員の保健所や病院での実務経験から具体的な事例を取り入れ、より実践的な理解へ導く。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：Nブックス 六訂 公衆栄養学〔第3版〕（建帛社）<br>管理栄養士・栄養士必携―データ・資料集―〈2025年度版〉（第一出版）<br>参考書：栄養・健康データハンドブック（同文書院）（健康･栄養問題や栄養政策に関するグラフ等がある）<br>指定図書：教科書と同じ |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | ・食生活改善、栄養改善を目的とした社会的取組等が身の回りでどのように行われているか知っておくこと。<br>・レスポン行うとき以外の携帯電話の無断使用および不必要な使用は厳禁である。<br>・授業中は、受講者としての常識的な態度で臨み、特別な事情を除き無許可での途中退室は認めない。 |
| 授業計画 | 回 / テーマ / 授業の内容 / 予習・復習 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | **公衆栄養の概念 1** | 公衆栄養の概念 | 復習：公衆栄養の概念を理解し、公衆栄養の特性について考える。<br>予習：公衆栄養活動の歴史の該当頁を読み、身近な公衆栄養活動を考える。 |
| 2 | **公衆栄養の概念 2** | 公衆栄養活動の基本と展開過程 | 復習：公衆栄養活動について理解を深める。<br>予習：わが国の栄養政策の状況や栄養士法を調べる。 |
| 3 | **栄養政策 1** | わが国の公衆栄養活動<br>公衆栄養関連法規① 栄養士法<br>管理栄養士・栄養士制度と職業倫理① | 復習：栄養士法の規定事項の理解及び免許別の規定の違いを再確認する。<br>予習：健康増進法の専門用語の理解および、この法律に基づいた対策を知る。 |
| 4 | **栄養政策 2** | 管理栄養士・栄養士制度と職業倫理②<br>公衆栄養関連法規② 健康増進法 | 復習：法の内容や施策等の実施内容を再確認する。<br>予習：地域保健法などの保健衛生関連法規の専門用語を理解する。 |
| 5 | **栄養政策 3** | 公衆栄養関連法規③ 地域保健法等の保健衛生関連法規 | 復習：健康増進法の内容の再確認および健康増進対策との関わりを理解する。<br>予習：健康・栄養状態の変化を調べる方法の概要およびその結果を調べる。 |
| 6 | **栄養政策 4** | 国民健康・栄養調査 | 復習： 国民健康・栄養状態の理解および近年の調査結果が示す内容を理解する。<br>予習： 食環境を調べる調査方法およびそれらを示す調査結果を調べる。 |
| 7 | **健康･栄養問題の現状と課題 1** | 食事の変化、食生活の変化、食環境の変化 | 復習：食料需給表や食料自給率、近年の食環境の変化を理解する。<br>予習：健康づくりのための食生活指針の策定の背景等を理解する。 |
| 8 | **栄養政策 5** | 栄養政策の実施に関連する指針、ツール① | 復習：指針等の内容理解をしておく。<br>予習：食事バランスガイド、指針等の該当頁を読み、専門用語の意味を理解する。 |
| 9 | **栄養政策 6** | 栄養政策の実施に関連する指針、ツール② | 復習：食事バランスガイド、指針等の詳細を理解する。<br>予習：健康日本21（第2次）を、テキストや厚生労働省のサイト等で確認しておく。 |
| 10 | **栄養政策 7** | 国の健康増進基本方針と地方計画<br>～国の基本方針策定の目的・内容 | 復習：健康増進に対する対策の必要性や方針の理解を深める。<br>予習：国と地方の健康増進対策の関わりと地域特性を持った計画を考える。 |
| 11 | **栄養政策 8** | 国の健康増進計画と地方計画<br>～基本方針の推進と地方健康増進計画 | 復習：地方計画の有用性について理解を深める。<br>予習：食育基本法を読み、専門用語等の意味を理解する。 |
| 12 | **栄養政策 9** | 公衆栄養関連法規④ 食育基本法 | 復習：食育基本法の内容を理解する。<br>予習：第3次食育推進基本計画について、テキストやサイト等で内容を確認する。 |
| 13 | **栄養政策 １０** | 食育推進基本計画と地方計画 | 復習：食育の対策の有用性や対策の方法について理解する。<br>予習：諸外国の健康・栄養について記載しているWHO等のレポートを読んでみる。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 14 | **健康・栄養問題の<br>現状と課題　2** | 諸外国の健康・栄養問題の現状と課題 | 復習：国別の状況の違いを確認し、栄養問題解消に向けた対策について考える。<br>予習：国際的な保健関連機関とその主業務を調べておく。 |
| | 15 | **栄養政策　１１** | 諸外国の健康・栄養政策 | 復習：各国際的な保健関連機関の取組みについて理解する。 |
| | 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：公衆栄養学Ⅱ（実践的教育科目）　　授業コード：12617　42607

授業科目英文名称：Public Health Nutrition Ⅱ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 川野　香織（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | IB271 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 健康・栄養状態の把握のための調査の手法について説明および活用ができる。<br>実際に行われている公衆栄養活動の実施の詳細について説明ができる。 | 定期試験<br>小テスト<br>授業態度・授業への参加度 | 25%<br>10%<br>5% |
| 情報収集、分析力 | 健康･栄養状態の把握するための調査方法の選定ができる。<br>集団の健康や栄養摂取状態から課題を見つけることができる。 | 定期試験<br>授業外レポート | 20%<br>10% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | 集団に対する公衆栄養プログラムの実施のために必要な情報収集することができる。<br>実際に行われている公衆栄養活動の策定の背景について説明ができる。 | 定期試験<br>小テスト | 25%<br>5% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 公衆栄養学Ⅰで修得した知識を基に、対象集団の状況を的確に把握し、適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論や方法の修得と、各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解することを目指す。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①②③④⑨⑪ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・定期試験は筆記試験（穴埋め式、筆記式の混合）を行う（70%）。定期試験の内容は、基本概念や栄養改善活動の詳細や専門用語等の理解から、栄養士・管理栄養士の基本的知識となる事項を基に設問を行い、知識および技能の理解や修得状況について総合的評価を行う。<br>・小テストは、毎回、概念や語句の理解に関する設問をポートフォリオで行い、その正答率を専門力及び多様性理解力として評価する（15%）。小テストのフィードバックは授業内にて解答とその解説をすることによって行う。<br>・第7回目の課題レポートは、ポートフォリオを用いて摂取量の分析・処理の方法および栄養素等摂取量の評価を行えるかを分析力として評価をする（10%）。<br>・授業態度・授業への参加度では、授業への積極的取組を教員の主観的観点から評価する（5%）。<br>授業への質問等についてはレスポンにて受付け、その返答は、授業開始時に記載者を特定できないよう配慮して行う。 |
| 授業概要 | ・講義形式で行い、必要に応じてレジュメなどプリントなどの資料を配付する。<br>・健康・栄養状態の判定のために行われる方法とその適した方法について把握する。<br>・地域や職域の健康・栄養問題の改善に向けて取組みの仕組みについて把握する。<br>・行政施策や保健活動など、社会や生活環境の特徴に基づいた公衆栄養活動について把握する。<br>・教員の保健所や病院での実務経験から具体的な事例を取り入れ、より実践的な理解へ導く。<br>・この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：Nブックス 六訂 公衆栄養学〔第4版〕（建帛社）・管理栄養士・栄養士必携―データ・資料集―〈2025年度版〉（第一出版）・食事摂取基準（2025年版）（第一出版）<br>参考書：食事調査マニュアル（南山堂）（栄養疫学・食事調査の内容）<br>指定図書：教科書と同じ |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | ・食生活改善、栄養改善を目的とした取組など、地域で行われていることに興味を持つこと。<br>・授業中は、受講者としての常識的な態度で臨み、特別な事情を除き無許可での途中退室は認めない。<br>・レスポン行うとき以外の携帯電話の無断使用および不必要な使用は厳禁である。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **栄養疫学１** | 食事摂取量の測定方法（食事調査）　① | 復習：食事調査の種類と方法について、調査手法の違いを理解する。<br>予習：食物摂取頻度調査等の方法、信頼度のテキスト該当頁を確認する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 2 | **栄養疫学２** | 食事摂取量の測定方法（食事調査） ② | 復習：食物摂取頻度調査を理解し、生体検査値が示す事項の理解を深める。<br>予習：栄養疫学・研究デザイン別方法についてテキスト該当頁を確認する。 |
| | 3 | **栄養疫学３** | 栄養疫学の概要と役割 | 復習：栄養疫学・研究デザイン別方法について理解する。<br>予習：疫学調査での栄養素等摂取量のデータの留意点のテキスト該当頁を確認する。 |
| | 4 | **栄養疫学４** | 曝露情報としての食事摂取量① | 復習：疫学調査での栄養素等摂取量のデータの留意点を理解する。<br>予習：栄養素等摂取量を疫学分析するための処理の方法やその意義を調べる。 |
| | 5 | **栄養疫学５** | 曝露情報としての食事摂取量② | 復習：栄養素等摂取量を疫学分析する方法を確認・理解する。<br>予習：食事摂取基準の用途、指標の定義について調べる。 |
| | 6 | **栄養疫学６** | 食事摂取量の評価方法 ① | 復習：食事摂取基準を用いた集団の食事摂取状態の評価と食事改善計画を理解する。<br>予習：食事摂取基準を用いた集団の食事摂取状況の評価と改善計画を調べる。 |
| | 7 | **栄養疫学７** | 食事摂取量の評価方法 ②（課題レポート） | 復習：食事摂取基準を用いた集団の食事摂取状態の評価と食事改善計画を理解する。<br>予習：公衆栄養統計の見方とまとめ方の該当頁を読み理解する。 |
| | 8 | **栄養疫学８** | 公衆栄養統計の見方とまとめ方 | 復習：公衆栄養統計を見る際に必要な指標や語句を理解する。<br>予習：公衆栄養マネジメントの流れについて該当頁を読み理解する。 |
| | 9 | **公衆栄養マネジメント１** | 公衆栄養マネジメント | 復習：公衆栄養活動の過程と重要性について理解する。<br>予習：公衆栄養アセスメントの方法および内容についての該当頁を読み理解する。 |
| | 10 | **公衆栄養マネジメント２** | 公衆栄養アセスメント | 復習：アセスメント方法定について理解を深める。<br>予習：目標設定・計画設定に向けてのアセスメントを調べる。 |
| | 11 | **公衆栄養マネジメント３** | 公衆栄養プログラムの目標設定・計画 | 復習：計画実施に向けてのアセスメントの理解を深める。<br>予習：住民参加および地域社会資源について調べる。 |
| | 12 | **公衆栄養マネジメント４** | 公衆栄養プログラムの実施 | 復習：住民参加の重要性および地域社会資源について調べる。<br>予習：行政の栄養業務および事業評価を調べる。 |
| | 13 | **地域診断と公衆栄養マネジメント５** | 公衆栄養プログラムの評価 | 復習：行政の栄養業務および事業評価を確認・理解する。<br>予習：地域で実施されているプログラムについて調べる。 |
| | 14 | **公衆栄養プログラムの展開 １** | 地域特性に対応したプログラムの展開 | 復習：地域で実施されているプログラムについて理解を深める。<br>予習：法律等に規定されている食環境整備について調べる。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 15 | **公衆栄養プログラムの展開　2** | 食環境づくりのためのプログラムの展開<br>地域集団の特性別プログラムの展開 | 復習：食環境整備の考え方、方法や留意点を理解する。<br>予習：ライフステージや生活習慣病ハイリスク集団に対するプログラム内容を調べる。 |
| | 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：公衆栄養学実習（実践的教育科目）　授業コード：12014

授業科目英文名称：Public Health Nutrition Practice

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3 | 1 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 川野　香織（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 実習 | | |
| ナンバリング | IB372 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 対象集団の健康・栄養問題の把握のために必要な調査を選択し、実践することができる。<br>得られたデータに適した統計処理方法の選択ができる。<br>対象集団の健康・栄養状況から改善策を考えることができる。 | 課題ﾚﾎﾟｰﾄ<br>定期試験<br>媒体 | 5%<br>25%<br>5% |
| 情報収集、分析力 | データの特徴を把握し、得られたデータを統計解析理論に基づいた処理および解析ができる。<br>調査結果に的確な評価および課題を抽出することができる。<br>地域の健康・栄養関連情報を収集し、特性の把握ができる。 | 課題ﾚﾎﾟｰﾄ<br>定期試験 | 10%<br>25% |
| コミュニケーション力 | 食事調査では対象者を気遣い、的確に行うことができる。<br>データの取り扱いは厳守かつ丁重に扱うことを理解できる。 | 授業態度・授業への参加度<br>課題ﾚﾎﾟｰﾄ | 5%<br>5% |
| 協働・課題解決力 | 調査結果から状況を客観的に読みとることができる。<br>栄養改善方法を班員と協働して考え、その実践を行うことができる。 | 課題ﾚﾎﾟｰﾄ<br>媒体 | 5%<br>5% |
| 多様性理解力 | 調査対象者がそれぞれ多様な状況にあることを認識し、臨機応変に対応した調査ができる。<br>調査結果からみられた問題の要因解明について、先入観なく多岐にわたって調べていくことができる。 | 授業態度・授業への参加度<br>媒体 | 5%<br>5% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 公衆栄養学Ⅰ・Ⅱで修得した知識を基に、対象集団の状況を的確に把握し、適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論や方法の修得と、各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解することを目指す。 |
| アクティブラーニングの類型 | ②③④⑥⑪ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・定期試験（50%）は、調査に必要な知識や対処法などを修得し、調査結果から課題抽出、改善活動の能力を会得したことを前提に、公衆栄養学Ⅰ・Ⅱで修得した基本的な知識・技術の理解と応用について筆記試験で評価する。授業態度・授業への参加度では、実習への積極性について教員の主観的観点から評価する(10%)。課題ﾚﾎﾟｰﾄは実習課題に対するデータ処理やとりまとめ能力、調査結果やその改善対策の解説、実習の振り返りを評価するものとし、第6回、8回、15回目にポートフォリオを用いて行う（25%）。また、これらのフィードバックは授業での説明において示す。<br>・媒体（資料）は、食事・栄養調査の結果や2次データから抽出した課題の改善を図るものとして作成する。また、作成した媒体（資料）は、担当教員及び学生自身が内容を検討し、対象を考慮した内容の適性度を評価する（15%）。 |
| 授業概要 | ・実習形式にて、対象者の言葉や写真で示した食事に対応した摂取量を推定し、再現したものから1人分の分量や調味について検討して量的能力の養成を図る。<br>・食事調査を実施し、得られたデータや2次データから集団の健康・栄養問題の課題を抽出して、改善のための媒体作成を行う。<br>・担当教員の病院や保健所での実務経験からより実践的な技術の修得へ導く。<br>・この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：公衆栄養学実習ワークブック第2版（みらい）<br>参考書：食事調査マニュアル（南山堂）・日本人の食事摂取基準（2025年版）（第一出版）<br>指定図書：Nブックス 六訂 公衆栄養学（建帛社）、日本人の食事摂取基準（2020年版） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | ・特に食事調査の精度を高めるために、日ごろから食事や食生活についての興味を持ち、実習に臨むこと。<br>・データ集計・分析には、栄養情報処理で学んだExcel 処理を主として行うため、データ処理手法を復習すること。 |
| 授業計画 | 回 / テーマ / 授業の内容 / 予習・復習 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | **食事・栄養調査** | 公衆栄養学実習の意義・目的<br>食事・栄養調査の実施の重要性及び必要な技術 | 予習：食事・栄養調査の実施の重要性を考える。<br>復習：調理のための分量と食事摂取量把握のための摂取量の違いを理解する。 |
| 2 | **食事・栄養調査** | 食事調査の概要と特徴<br>食事調査1：食事記録調査<br>実施に当たっての留意点<br>食事記録のサンプルのコード化 | 予習：食事調査法の手法や特性を調べる。食品成分表の活用方法を確認する。<br>復習：食事調査の流れや面接での対象者への対応について確認、理解する。 |
| 3 | **食事・栄養調査** | 食事調査2：食物摂取頻度調査法<br>実施に当たっての留意点<br>調査の実施 | 予習：食物摂取頻度調査法の手法や特性を調べ、調査後の処理について確認する。<br>復習：食物摂取頻度調査法によって把握できる事項を理解する。 |
| 4 | **食事・栄養調査** | 食事調査3：24時間思い出し法<br>面接による食事の聞き取り<br>（ロールプレイング） | 予習：24時間思い出し法の手法や特性を調べ、調査後の処理について確認する。<br>復習：調査での対象者への対応を確認し、理解する。 |
| 5 | **食事・栄養調査** | 24時間思い出し法による食事調査の処理 | 予習：各種調査の特性をまとめて理解する。<br>復習：調査票処理の経験を基に、調査員として必要なことが何かを考える。 |
| 6 | **食事・栄養調査** | 食事調査のまとめ<br>調査員として留意点のまとめ | 予習：各種調査の特性をまとめて理解する。<br>復習：調査票処理の経験を基に、調査員として必要なことが何かを考える。 |
| 7 | **食事・栄養調査** | データの取り扱い<br>集計データを読み取る | 予習：データ集計に必要なExcelの技術を確認する。<br>復習： データ読み取りの際の留意点について考える。 |
| 8 | **食事・栄養調査** | データ解析<br>食事摂取基準による栄養素等摂取量の評価 | 予習：食事摂取基準（2020年版）を用いた食事摂取状態の評価の方法を確認・理解する。<br>復習：集団と個人の評価の違いを理解する。 |
| 9 | **公衆栄養マネジメント** | 公衆栄養アセスメント<br>プリシード・プロシードモデルを用いた地域の現状把握と健康課題抽出 | 予習:公衆栄養におけるアセスメントの意義を考える。<br>復習:プリシード・プロシードモデルを理解する。 |
| 10 | **公衆栄養マネジメント** | 優先すべき健康課題の特定<br>ターゲット層と食生活の特徴の明確化 | 予習:優先課題を決定するための方法について理解する。<br>復習：ターゲット層を明確にする必要性について考えをまとめる。 |
| 11 | **公衆栄養マネジメント** | 公衆栄養プログラムの目標設定と計画の立案① 目標の設定方法 | 予習:公衆栄養学における目標の設定方法を理解する。<br>復習:長期・中期・短期目標の種類と設定の際の留意点を理解する。 |
| 12 | **公衆栄養マネジメント** | 公衆栄養プログラムの目標設定と計画の立案② 計画の立案 | 予習:課題を解決するための既存の公衆栄養プログラムを確認する。<br>復習:事業計画書の作成方法や必要性を理解する。 |
| 13 | **公衆栄養マネジメント** | 公衆栄養プログラムの評価<br>評価デザインの設定と評価方法 | 予習:公衆栄養学における評価の種類を確認する。<br>復習:評価デザインの種類と評価の流れを理解する。 |
| 14 | **公衆栄養マネジメント** | 事業計画書のプレゼンテーションに向けた資料作成① | 予習:事業を実施するための連携機関を調べる。<br>復習:事業計画書の内容を関係機関等に提示するための資料づくりを理解する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 15 | **公衆栄養マネジメント** | 事業企画書のプレゼンテーションに向けた資料作成② | 予習:対象者に分かりやすい資料作りの工夫について考える。<br>復習:公衆栄養マネジメントの一連の流れについて理解を深める。 |
| | 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：栄養情報処理（実践的教育科目）　　授業コード：32616

授業科目英文名称：Nutrition-Information Processing

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 尾場　均、川野　香織（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | IB273 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | データの特徴を把握し、得られたデータを統計解析理論に基づいた処理および解析ができる。 | 随時試験 | 30% |
| 情報収集、分析力 | 得られたデータに対する適した統計処理方法の選択ができる。<br>統計処理結果からデータが示すことを読み取ることができる。 | 課題の取組及び課題達成度<br>随時試験<br>課題レポート | 15%<br>15%<br>10% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | データ処理結果の評価から、新たな分析方法の必要性について考えられる。 | 課題の取組及び課題達成度<br>課題レポート | 5%<br>10% |
| 多様性理解力 | データ処理を通して、日常生活に生かす方法を考えることができる。<br>データは、個人情報であることを認識し、丁重に扱うことを理解できる。 | 授業態度・授業への参加度<br>随時試験 | 10%<br>5% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 健康・栄養問題の把握のために得られた情報を基に基礎的なデータ整理の技術は必須である。本科目では、実験や調査などを通して得られた量的データや質的データを整理し、統計解析理論に基づいたデータ処理を行うことで、得た情報の的確性の判断や、対象の状態の把握など、正しい評価ができるような応用力を養うことを目指す。 |
| アクティブラーニングの類型 | ④⑪ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・授業で修得したデータ処理方法についての理解と実践できるようになったことを前提に随時試験を行う。随時試験の内容は、授業期間中に行い、出題されたデータを基にその特徴を把握し、指示に対する適切な処理方法の選択やその技術等の能力を総合的に判断するために実施する（1時間20分程度）。後日、授業内で試験のフィードバックを行い、試験解答を基に誤った処理に対して適切な処理の修正の実践状況も併せて評価する(50%)。<br>・授業態度・授業への参加度は、授業課題への実践態度を主観的に評価する(10%)。課題への取組及び課題達成度は、データ処理の課題に対して課題解決策を積極的に考え、実践する態度およびその達成状況を評価し(20%)、課外でデータ処理を正確な知識を持って的確に行えるかを課題レポートで課題達成度と共に確認・評価する(20%)。 |
| 授業概要 | ・統計解析を基本から体験的に学修するためにメディアセンター演習室でExcelを用いたコンピュータ実習を行う。<br>・この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：毎回、資料を配付する<br>参考書：Excel関連の参考書<br>指定図書：六訂公衆栄養学、日本人のための食事摂取基準（2025年版） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | ・情報の収集・分析は将来、栄養士、管理栄養士、その他の業務においても必要不可欠な技術である。そのためにも積極的に授業に取組み、Excelの統計処理方法の修得を期待する。<br>・授業で行う統計処理は数学的処理を行うことが多い。栄養情報処理についてできるだけ早く理解し、修得できるように算数や統計学に親しみ、データの分析に積極的に取組む姿勢を持つことを望む。<br>・授業開始時刻までには、パソコンの起動を完了しておくこと。<br>・授業中は、受講者としての常識的な態度で臨み、特別な事情を除き、無許可での途中退室を認めない。<br>・携帯電話及びインターネットの無断及び不必要な使用を禁止とする。<br>・授業で修得した内容については、各自で復習をして確実に知識・技術として身につけることを期待する。 |
| 授業計画 | 回 / テーマ / 授業の内容 / 予習・復習 / 担当教員 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | **Excel基本操作１** | データ入力・編集 シートやファイルの管理 | 復習：演習・学修内容の確認をおこなう。<br>予習：セルへの入力の仕方を確認する。 | 川野 |
| 2 | **Excel基本操作2** | ワークシートの編集①<br>関数① 計算式、文字列操作、表の編集 | 復習：授業で行った関数の再実行をする。<br>予習：関数の種類やその方法について確認する。 | 川野 |
| 3 | **Excel基本操作3** | グラフ処理、データベース処理 | 復習：実習のレポートで使用したグラフを用いて実践してみる。<br>予習：グラフについて調べる。 | 川野 |
| 4 | **Excel基本操作4** | ワークシートの編集②<br>表の編集、セルの表示形式、配置 | 復習：セルの表示形式・配置を確認してみる。<br>予習：2回目で行った内容以外の関数の種類や方法について調べる。 | 川野 |
| 5 | **Excel基本操作5** | ワークシートの編集③<br>データ検索 ソート フィルタ、並び替え、集計、ピボットテーブル | 復習：ソート、フィルタを用いた方法の再実行をする。<br>予習：2～4回目で行った内容以外の関数や方法について調べる。 | 川野 |
| 6 | **Excel基本操作6** | ワークシートの編集④<br>関数② 統計関数、絶対参照、相対参照 | 復習：絶対参照・相対参照の違いを理解する。<br>予習：2～5回目で行った内容以外の 関数や方法について調べる。 | 川野 |
| 7 | **Excel基本操作7** | ワークシートの編集⑤<br>関数③ 論理関数1～３、条件付き書式 | 復習：IF関数に関連する各種関数の再実行をする。<br>予習：2～6回目で行った内容以外の 関数や方法について調べる。 | 川野 |
| 8 | **Excel基本操作8** | ワークシートの編集⑥<br>関数④ 検索・行列関数、日付関数 | 復習：LOOKUP関数の再実行をする。<br>予習：2～7回目で行った内容以外の 関数や方法について調べる。 | 川野 |
| 9 | **Excel基本操作9** | ワークシートの編集①～⑥ 関数①～④<br>振り返り | 復習：2～8回目で行った内容を復習する。<br>予習：2～8回目で行った内容以外の 関数や方法について調べる。 | 川野 |
| 10 | **Excel基本操作10**<br>**確認試験** | データ解析方法の知識の再確認 | 復習：演習・学修内容の確認、再実行をする。<br>予習：試験に向けて今まで行った処理を確認し実践できるようにする。 | 川野 |
| 11 | **Excel基本操作11**<br>**確認試験解説** | データ解析方法の知識の再確認<br>確認試験解説 | 復習：試験内容の見直しをする。<br>予習：試験内容に対する正しい処理の方法を確認する。 | 川野 |
| 12 | **データ処理の実践1** | Excelを用いた栄養関連データの集計処理、データ解析（基本統計量） | 復習：Excel基本操作を復習する。<br>予習：データの集計処理、解析方法について再確認する。 | 川野 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 13 | **データ処理の実践2** | Excelを用いた栄養関連データの集計処理、データ解析（エネルギー調整） | 復習：栄養素密度法、残差法を復習する。<br>予習：エネルギー調整について再確認をする 。 | 川野 |
| | 14 | **データ処理の実践3** | Excelを用いた栄養関連データの集計処理、データ解析（食事摂取基準による栄養素等摂取量の評価） | 復習：集団における食事摂取基準による食事評価を復習する。<br>予習：食事摂取状況の評価をExcelで行う。 | 川野 |
| | 15 | **栄養情報処理<br>まとめ** | society5.0時代の健康・栄養管理と管理栄養士に求められる職能 | 復習：これまでの学修内容を復習する。 | 尾場 |

授業科目名称　：臨地実習Ⅰ（給食の運営）（実践的教育科目）　授業コード：03502

授業科目英文名称：Field Nutritional Practice Ⅰ(Meal Service)

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 3 | 1 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 熊井　まどか、林　俊介、山口　留美、松尾　嘉代子、川野　香織、射場　仁美、吉永　奈津希 | | | |
| 展開方法 | 実習 | | |
| ナンバリング | IB382 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 給食の運営に必要な知識・技術・資質に気づき、管理栄養士の責務としてそれらの必要性が理解できる。<br>管理栄養士業務を体験する中で、修得した知識および技術の活用について説明できる。<br>管理栄養士の職務を体験し、社会的な役割および責任に関して、説明できる。 | ・実習先からの評価<br>・課題への取り組み | 30%<br>20% |
| 情報収集、分析力 | | | |
| コミュニケーション力 | 臨地実習施設および学内実習担当者、グループへの報告・連絡・相談事項を類別し、状況に応じた対応ができる。 | ・実習先からの評価<br>・課題への取り組み<br>・実習報告 | 10%<br>5%<br>10% |
| 協働・課題解決力 | 管理栄養士として実習目的を理解し、的確な業務的判断ができる。<br>管理栄養士の職務に基づいて、自らの課題やその改善点等を導き出すことができる。 | ・実習先からの評価<br>・課題への取り組み<br>・実習報告 | 10%<br>5%<br>10% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 臨地実習は、学内の講義・実習で修得した成果を、社会で活かす実践トレーニングの第一歩である。給食の運営の臨地実習では、学校、社会福祉施設、事業所、病院等の集団給食施設で、実際に業務を体験し、管理栄養士としての技術を体得することを目的とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ⑪ ⑫ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・実習先からの評価（50%）：評価票の記載内容等<br>・課題への取り組み（30%）：自己課題や施設課題への取り組み状況、自己学習ノート<br>・実習報告（20%）：事前訪問報告書、臨地実習および自己学習ノート、報告書<br>臨地実習および自己学習ノート、報告書は個別にフィードバックする。 |
| 授業概要 | ・本科目の履修においては、必要な科目を修得した者あるいは履修可能であると判断された者を対象とし、学校・社会福祉施設・事業所・病院等の集団給食施設にて1週間の実習を行う。<br>・事前学習として、具体的な実習先に応じた自己課題および施設課題に取り組み、自己学習ノートにまとめる。<br>・施設での業務体験を通して、課題解決型学習に取り組み、臨地実習ノートにまとめ、考察する。<br>・事後学習として、自己学習ノートを整理しながら、報告書を作成し、学びを深める。<br>・課題内容の指示やグループでの課題の取り組みには、ポートフォリオを利用する。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：管理栄養士・栄養士必携（第一出版）、本学教員作成の臨地実習および自己学習ノート、プリントなど<br>参考書：各科目教科書および参考書など<br>指定図書：「栄養調理六法」（新日本法規）、「一品料理500選 治療食への展開」（医歯薬出版） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 自ら課題を発見し意欲的、積極的な態度で実習に臨み、社会的常識に則った行動をすること。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 給食の運営 | 対象集団、経営形態、運営形態、食事回数、献立形態 | 予習：給食の運営に関する全般<br>復習：実習内容 |
| 2 | 給食の運営 | 供食形態、サービス方法、調理、配食方法 | 予習：実習施設の給食提供の状況等<br>復習：実習内容 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 3 | 給食の運営 | 栄養管理（集団） | 予習：栄養・食事管理の目的<br>復習：実習内容 |
| | 4 | 給食の運営 | 食事計画 | 予習：対象者の栄養アセスメントとその給与栄養目標量の設定<br>復習：実習内容 |
| | 5 | 給食の運営 | 献立計画 | 予習：食数・栄養量・地域性・季節などを考慮した献立の作成<br>復習：実習内容 |
| | 6 | 給食の運営 | 食材料の管理 | 予習：発注から納入・調理にいたるまでの帳票の流れ<br>復習：実習内容 |
| | 7 | 給食の運営 | 調理作業 | 予習：効率的な調理の流れ、適温給食の提供<br>復習：実習内容 |
| | 8 | 給食の運営 | 配食・配膳 | 予習：誤配防止、適時配膳の工夫<br>復習：実習内容 |
| | 9 | 給食の運営 | 下膳、洗浄、清掃 | 予習：施設のおける残菜状況、器具洗浄・清掃の方法<br>復習：実習内容 |
| | 10 | 給食の運営 | 衛生・安全管理 | 予習：衛生・安全管理の目的を明確にし、予防策の具体的方法について調べる<br>復習：実習内容 |
| | 11 | 給食の運営 | 施設・設備管理 | 予習：給食施設の基準・関連法規<br>復習：実習内容 |
| | 12 | 給食の運営 | 食事オーダー管理 | 予習：食事オーダーの方法やその情報収集方法、事故時の対応<br>復習：実習内容 |
| | 13 | 給食の運営 | 食数管理 | 予習：病棟ごとの食事の種類と 数の把握の仕方<br>復習：実習内容 |
| | 14 | 給食の運営 | 食材の購入および在庫管理 | 予習：献立計画による食材の計画的な購入・検収・管理場所・期間等について調べる<br>復習：実習内容 |
| | 15 | 給食の運営 | 運用評価 | 予習：実習期間を通して栄養管理、人事管理、食材管理、生産管理、安全衛生管理を総合的に 確認する<br>復習：実習内容 |

授業科目名称　：臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）（実践的教育科目）　授業コード：03503

授業科目英文名称：Field Nutritional PracticeⅡ (MeatServiceManagemnt)

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 3 | 1 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 熊井　まどか、林　俊介、山口　留美、松尾　嘉代子、川野　香織、射場　仁美、吉永　奈津希 | | | |
| 展開方法 | 実習 | | |
| ナンバリング | IB383 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 給食経営管理に必要な知識・技術・資質に気づき、管理栄養士の責務としてそれらの必要性が理解できる。<br>管理栄養士業務を体験する中で、修得した知識および技術の活用について説明できる。<br>管理栄養士の職務を体験し、社会的な役割および責任に関して、説明できる。 | ・実習先からの評価<br>・課題への取り組み | 30%<br>20% |
| 情報収集、分析力 | | | |
| コミュニケーション力 | 臨地実習施設および学内実習担当者、グループへの報告・連絡・相談事項を類別し、状況に応じた対応ができる。 | ・実習先からの評価<br>・課題への取り組み<br>・実習報告 | 10%<br>5%<br>10% |
| 協働・課題解決力 | 管理栄養士として実習目的を理解し、的確な業務的判断ができる。<br>管理栄養士の職務に基づいて、自らの課題やその改善点等を導き出すことができる。 | ・実習先からの評価<br>・課題への取り組み<br>・実習報告 | 10%<br>5%<br>10% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 臨地実習は、学内の講義・実習で修得した成果を、社会で活かす実践トレーニングの第一歩である。給食の運営の臨地実習では、学校、社会福祉施設、事業所、病院等の集団給食施設で、実際に業務を体験し、管理栄養士としての技術を体得することを目的とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ⑪ ⑫ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・実習先からの評価（50%）：評価票の記載内容等<br>・課題への取り組み（30%）：自己課題や施設課題への取り組み状況、自己学習ノート<br>・実習報告（20%）：事前訪問報告書、臨地実習および自己学習ノート、報告書<br>臨地実習および自己学習ノート、報告書は個別にフィードバックする。 |
| 授業概要 | ・本科目の履修においては、必要な科目を修得した者あるいは履修可能であると判断された者を対象とし、社会福祉施設・事業所・病院等の集団給食施設にて1週間の実習を行う。<br>・事前学習として、具体的な実習先に応じた自己課題および施設課題に取り組み、自己学習ノートにまとめる。<br>・施設での業務体験を通して、課題解決型学習に取り組み、臨地実習ノートにまとめ、考察する。<br>・事後学習として、自己学習ノートを整理しながら、報告書を作成し、学びを深める。<br>・課題内容の指示やグループでの課題の取り組みには、ポートフォリオを利用する。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：管理栄養士・栄養士必携（第一出版）、本学教員作成の臨地実習および自己学習ノート、プリントなど<br>参考書：各科目教科書および参考書など<br>指定図書：「栄養調理六法」（新日本法規）、「一品料理500選 治療食への展開」（医歯薬出版） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 自ら課題を発見し意欲的、積極的な態度で実習に臨み、社会的常識に則った行動をすること。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 給食経営管理論 | 給食における栄養・食事管理 | 予習：給食業務を継続的・計画的に遂行する意義<br>復習：実習内容 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 2 | 給食経営管理論 | 栄養・食事計画 | 予習：給食対象者の栄養アセスメントから食事計画について調べる<br>復習：実習内容 |
| | 3 | 給食経営管理論 | 栄養・食事評価 | 予習：実施給与栄養量・栄養管理報告書・検食の総合的な評価<br>復習：実習内容 |
| | 4 | 給食経営管理論 | 給食の組織、人事管理と労務管理 | 予習：効率的な経営活動のための組織・管理<br>復習：実習内容 |
| | 5 | 給食経営管理論 | 調理施設・設備設計 | 予習：給食施設の設備基準・関連法規<br>復習：実習内容 |
| | 6 | 給食経営管理論 | 機器・設備の保全管理 | 予習：調理機器の種類と管理<br>復習：実習内容 |
| | 7 | 給食経営管理論 | 食材の流通と購買管理 | 予習：食材の購入における価格設定や契約期間・業者の選出<br>復習：実習内容 |
| | 8 | 給食経営管理論 | 安全・衛生管理 | 予習：衛生・安全管理の目的と予防策の具体的方法<br>復習：実習内容 |
| | 9 | 給食経営管理論 | 給食の品質保証と標準化 | 予習：療養環境・患者サービス・食事温度管理・サイクルメニュー<br>復習：実習内容 |
| | 10 | 給食経営管理論 | 給食の予算と売り上げ・原価 | 予習：食事提供の上で必要な金銭・物品の出納の記録・計算・管理<br>復習：実習内容 |
| | 11 | 給食経営管理論 | 会計・原価管理の評価 | 予習：食事を調整して給食提供するための原材料費・販売費・一般管理費の状況<br>復習：実習内容 |
| | 12 | 給食経営管理論 | 給食の情報処理管理 | 予習：適切な栄養管理のための栄養業務上発生する情報と把握<br>復習：実習内容 |
| | 13 | 給食経営管理論 | 危機管理対策 | 予習：災害時対応の組織とその活用および施設の災害時のマニュアル<br>復習：実習内容 |
| | 14 | 給食経営管理論 | 各施設における給食経営 | 予習：病院・福祉施設・学校・事業所における給食の経営管理<br>復習：実習内容 |
| | 15 | 給食経営管理論 | 給食における栄養・食事管理 | 予習：給食業務を継続的・計画的に遂行する意義<br>復習：実習内容 |

授業科目名称　：臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）（実践的教育科目）　授業コード：03504

授業科目英文名称：Field Nutritional Practice Ⅲ(Public Hygiene)

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 4 | 1 | 選択必修 |
| 担当教員 | | | |
| 熊井　まどか、林　俊介、山口　留美、松尾　嘉代子、川野　香織、射場　仁美、吉永　奈津希 | | | |
| 展開方法 | 実習 | | |
| ナンバリング | IB384 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 公衆栄養活動に必要な知識・技術・資質に気づき、管理栄養士の責務としてそれらの必要性が理解できる。<br>管理栄養士業務を体験する中で、修得した知識および技術の活用について説明できる。<br>管理栄養士の職務を体験し、社会的な役割および責任に関して、説明できる。 | ・実習先からの評価<br>・課題への取り組み | 20%<br>10% |
| 情報収集、分析力 | 地域社会の健康・栄養問題および関連要因の把握、課題分析を行うことができる。 | ・課題への取り組み<br>・実習報告 | 15%<br>5% |
| コミュニケーション力 | 臨地実習施設および学内実習担当者、グループへの報告・連絡・相談事項を類別し、状況に応じた対応ができる。 | ・実習先からの評価<br>・実習報告 | 10%<br>10% |
| 協働・課題解決力 | 管理栄養士として実習目的を理解し、的確な業務的判断ができる。<br>管理栄養士の職務に基づいて、自らの課題やその改善点等を導き出すことができる。 | ・実習先からの評価<br>・課題への取り組み<br>・実習報告 | 10%<br>5%<br>5% |
| 多様性理解力 | 管理栄養士として、対象者の多様なニーズや立場を理解し、実習に取り組むことができる。 | ・実習先からの評価 | 10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 臨地実習は、学内の講義・実習で修得した成果を、社会で活かす実践トレーニングの第一歩である。公衆栄養学臨地実習では、保健所、保健センター等で、実際に業務を体験し、管理栄養士としての技術を体得することを目的とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ⑪ ⑫ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・実習先からの評価（50%）：評価票の記載内容等<br>・課題への取り組み（30%）：自己課題や施設課題への取り組み状況、自己学習ノート<br>・実習報告（20%）：事前訪問報告書、臨地実習および自己学習ノート、報告書<br>臨地実習および自己学習ノート、報告書は個別にフィードバックする。 |
| 授業概要 | ・本科目の履修においては、必要な科目を修得した者あるいは履修可能であると判断された者を対象とし、保健所、保健センター等にて1週間の実習を行う。<br>・事前学習として、具体的な実習先に応じた自己課題および施設課題に取り組み、自己学習ノートにまとめる。<br>・施設での業務体験を通して、課題解決型学習に取り組み、臨地実習ノートにまとめ、考察する。<br>・事後学習として、自己学習ノートを整理しながら、報告書を作成し、学びを深める。<br>・課題内容の指示やグループでの課題の取り組みには、ポートフォリオを利用する。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：管理栄養士・栄養士必携（第一出版）、本学教員作成の臨地実習および自己学習ノート、プリントなど<br>参考書：各科目教科書および参考書など<br>指定図書：管理栄養士・栄養士必携 社団法人 日本栄養士会編（第一出版）（特に法律の記載ページ） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 自ら課題を発見し意欲的、積極的な態度で実習に臨み、社会的常識に則った行動をすること。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 公衆栄養学 | 公衆衛生の概念 | 予習：公衆衛生・公衆栄養の意義<br>復習：実習内容 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 2 | 公衆栄養学 | 公衆衛生における行政システムと各行政の役割 | 予習：保健所・保健センター等の管理栄養士の役割と業務内容<br>復習：実習内容 |
| | 3 | 公衆栄養学 | 地域保健にかかわる主な法律 | 予習：地域保健法を中心に、公衆栄養を遂行するための各種法律<br>復習：実習内容 |
| | 4 | 公衆栄養学 | 県・中核市・市町における栄養改善事業の違いと連携調整 | 予習：行政と地域・学校・企業の連携による栄養改善の状況<br>復習：実習内容 |
| | 5 | 公衆栄養学 | 施設先の組織および機構・業務 | 予習：実習施設の組織・機構<br>復習：実習内容 |
| | 6 | 公衆栄養学 | 各保健所管内の「各種報告書」から地域性と疾病構造の分析 | 予習：実習先の産業構造・地域の特性<br>復習：実習内容 |
| | 7 | 公衆栄養学 | 特定健康診査の実際 | 予習：特定健康診査結果の階層化やメタボリックシンドロームの診断基準<br>復習：実習内容 |
| | 8 | 公衆栄養学 | 栄養改善業務に関する企画・調整 | 予習：行政栄養士として地域性と関連ある栄養改善業務の企画<br>復習：実習内容 |
| | 9 | 公衆栄養学 | 特定保健指導の実際 | 予習：行動科学理論に則った保健指導のあり方<br>復習：実習内容 |
| | 10 | 公衆栄養学 | 特定保健指導時の集団指導（プレゼンテーション） | 予習：集団指導の準備<br>復習：実習内容 |
| | 11 | 公衆栄養学 | ライフステージごとの健康教育 | 予習：市町における健康教室の開催とその重要性<br>復習：実習内容 |
| | 12 | 公衆栄養学 | 特定給食施設への栄養管理指導 | 予習：給食施設の形態による管理指導の重点項目<br>復習：実習内容 |
| | 13 | 公衆栄養学 | 難病患者のための支援体制 | 予習：難病の種類、難病患者への支援の状況<br>復習：実習内容 |
| | 14 | 公衆栄養学 | 実習施設における１次予防の整備 | 予習：行政における１次予防の具体的内容<br>復習：実習内容 |
| | 15 | 公衆栄養学 | 施設課題のまとめ | 予習：実習中の課題<br>復習：課題のまとめ |

授業科目名称　：臨地実習Ⅳ（臨床栄養学A）（実践的教育科目）　授業コード：03505

授業科目英文名称：Field Nutritional Practice Ⅳ (ClinicalNutrition A)

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 4 | 1 | 選択必修 |
| 担当教員 | | | |
| 熊井　まどか、林　俊介、山口　留美、松尾　嘉代子、川野　香織、射場　仁美、吉永　奈津希 | | | |
| 展開方法 | 実習 | | |
| ナンバリング | IB385 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 臨床栄養に必要な知識・技術・資質に気づき、管理栄養士の責務としてそれらの必要性が理解できる。<br>管理栄養士業務を体験する中で、修得した知識および技術の活用について説明できる。<br>管理栄養士の職務を体験し、社会的な役割および責任に関して、説明できる。 | ・実習先からの評価<br>・課題への取り組み | 20%<br>10% |
| 情報収集、分析力 | 対象者の健康・栄養問題および関連要因の把握、課題分析を行うことができる。 | ・課題への取り組み<br>・実習報告 | 15%<br>5% |
| コミュニケーション力 | 臨地実習施設および学内実習担当者、グループへの報告・連絡・相談事項を類別し、状況に応じた対応ができる。 | ・実習先からの評価<br>・実習報告 | 10%<br>10% |
| 協働・課題解決力 | 管理栄養士として実習目的を理解し、的確な業務的判断ができる。<br>管理栄養士の職務に基づいて、自らの課題やその改善点等を導き出すことができる。 | ・実習先からの評価<br>・課題への取り組み<br>・実習報告 | 10%<br>5%<br>5% |
| 多様性理解力 | 管理栄養士として、対象者の多様なニーズや立場を理解し、実習に取り組むことができる。 | ・実習先からの評価 | 10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 臨地実習は、学内の講義・実習で修得した成果を、社会で活かす実践トレーニングの第一歩である。臨床栄養学臨地実習では、病院、介護老人保健施設で、実際に業務を体験し、管理栄養士としての技術を体得することを目的とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ⑪ ⑫ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・実習先からの評価（50%）：評価票の記載内容等<br>・課題への取り組み（30%）：自己課題や施設課題への取り組み状況、自己学習ノート<br>・実習報告（20%）：事前訪問報告書、臨地実習および自己学習ノート、報告書<br>臨地実習および自己学習ノート、報告書は個別にフィードバックする。 |
| 授業概要 | ・本科目の履修においては、必要な科目を修得した者あるいは履修可能であると判断された者を対象とし、病院、介護老人保健施設にて1週間の実習を行う。<br>・事前学習として、具体的な実習先に応じた自己課題および施設課題に取り組み、自己学習ノートにまとめる。<br>・施設での業務体験を通して、課題解決型学習に取り組み、臨地実習ノートにまとめ、考察する。<br>・事後学習として、自己学習ノートを整理しながら、報告書を作成し、学びを深める。<br>・課題内容の指示やグループでの課題の取り組みには、ポートフォリオを利用する。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：管理栄養士・栄養士必携（第一出版）、本学教員作成の臨地実習および自己学習ノート、プリントなど<br>参考書：各科目教科書および参考書など<br>指定図書：栄養食事療法の実習（医歯薬出版） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 自ら課題を発見し意欲的、積極的な態度で実習に臨み、社会的常識に則った行動をすること。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 臨床栄養学 | 施設概要 | 予習：実習先の施設の概要・理念<br>復習：実習内容 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 2 | 臨床栄養学 | 栄養管理部門の業務概要 | 予習：管理栄養士の業務内容<br>復習：実習内容 |
| | 3 | 臨床栄養学 | 施設利用者を対象とした栄養管理 | 予習：臨床における栄養管理の意義<br>復習：実習内容 |
| | 4 | 臨床栄養学 | 栄養管理システム | 予習：対象者の栄養管理に関わる一連のシステム<br>復習：実習内容 |
| | 5 | 臨床栄養学 | 栄養アセスメント | 予習：病態ごとに必要なアセスメント項目の確認<br>復習：実習内容 |
| | 6 | 臨床栄養学 | ケアカンファレンス | 予習：ケアカンファレンスの意義とそのメンバー構成<br>復習：実習内容 |
| | 7 | 臨床栄養学 | 栄養ケアプラン | 予習：カルテの読み取りとケアプランとの関連<br>復習：実習内容 |
| | 8 | 臨床栄養学 | 栄養補給方法 | 予習：対象者の食事摂取状況とその調査方法・内容・特徴・リスク等<br>復習：実習内容 |
| | 9 | 臨床栄養学 | クリニカルパス | 予習：クリニカルパス<br>復習：実習内容 |
| | 10 | 臨床栄養学 | チーム医療 | 予習：チーム医療に於ける管理栄養士の役割<br>復習：実習内容 |
| | 11 | 臨床栄養学 | 栄養管理・栄養ケアマネジメント報告書 | 予習：スタッフが共有できる患者情報の報告書の書き方<br>復習：実習内容 |
| | 12 | 臨床栄養学 | 個別栄養指導 | 予習：対象者へ理解しやすい方法で行動科学理論に基づいた指導を行う準備<br>復習：実習内容 |
| | 13 | 臨床栄養学 | 集団栄養指導 | 予習：集団の対象者へ理解・実践のための媒体作成と指導を行う準備<br>復習：実習内容 |
| | 14 | 臨床栄養学 | 栄養指導報告書作成 | 予習：SOAPによる報告書の作成<br>復習：実習内容 |
| | 15 | 臨床栄養学 | 施設課題のまとめ | 予習：実習中の課題<br>復習：課題のまとめ |

授業科目名称　：臨地実習Ⅴ（臨床栄養学B）（実践的教育科目）　授業コード：03506

授業科目英文名称：Field Nutritional Practice Ⅴ (ClinicalNutrition B)

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 4 | 2 | 選択必修 |
| 担当教員 | | | |
| 熊井　まどか、林　俊介、山口　留美、松尾　嘉代子、川野　香織、射場　仁美、吉永　奈津希 | | | |
| 展開方法 | 実習 | | |
| ナンバリング | IB386 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 臨床栄養に必要な知識・技術・資質に気づき、管理栄養士の責務としてそれらの必要性が理解できる。<br>管理栄養士業務を体験する中で、修得した知識および技術の活用について説明できる。<br>管理栄養士の職務を体験し、社会的な役割および責任に関して、説明できる。 | ・実習先からの評価<br>・課題への取り組み | 20%<br>10% |
| 情報収集、分析力 | 対象者の健康・栄養問題および関連要因の把握、課題分析を行うことができる。 | ・課題への取り組み<br>・実習報告 | 15%<br>5% |
| コミュニケーション力 | 臨地実習施設および学内実習担当者、グループへの報告・連絡・相談事項を類別し、状況に応じた対応ができる。 | ・実習先からの評価<br>・実習報告 | 10%<br>10% |
| 協働・課題解決力 | 管理栄養士として実習目的を理解し、的確な業務的判断ができる。<br>管理栄養士の職務に基づいて、自らの課題やその改善点等を導き出すことができる。 | ・実習先からの評価<br>・課題への取り組み<br>・実習報告 | 10%<br>5%<br>5% |
| 多様性理解力 | 管理栄養士として、対象者の多様なニーズや立場を理解し、実習に取り組むことができる。 | ・実習先からの評価 | 10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 臨地実習は、学内の講義・実習で修得した成果を、社会で活かす実践トレーニングの第一歩である。臨床栄養学臨地実習では、病院、介護老人保健施設で、実際に業務を体験し、管理栄養士としての技術を体得することを目的とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ⑪ ⑫ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・実習先からの評価（50%）：評価票の記載内容等<br>・課題への取り組み（30%）：自己課題や施設課題への取り組み状況、自己学習ノート<br>・実習報告（20%）：事前訪問報告書、臨地実習および自己学習ノート、報告書<br>臨地実習および自己学習ノート、報告書は個別にフィードバックする。 |
| 授業概要 | ・本科目の履修においては、必要な科目を修得した者あるいは履修可能であると判断された者を対象とし、病院、介護老人保健施設にて2週間の実習を行う。<br>・事前学習として、具体的な実習先に応じた自己課題および施設課題に取り組み、自己学習ノートにまとめる。<br>・施設での業務体験を通して、課題解決型学習に取り組み、臨地実習ノートにまとめ、考察する。<br>・事後学習として、自己学習ノートを整理しながら、報告書を作成し、学びを深める。<br>・課題内容の指示やグループでの課題の取り組みには、ポートフォリオを利用する。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：管理栄養士・栄養士必携（第一出版）、本学教員作成の臨地実習および自己学習ノート、プリントなど<br>参考書：各科目教科書および参考書など<br>指定図書：栄養食事療法の実習（医歯薬出版） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 自ら課題を発見し意欲的、積極的な態度で実習に臨み、社会的常識に則った行動をすること。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 臨床栄養学 | 施設概要 | 予習：実習先の施設の概要・理念<br>復習：実習内容 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 2 | 臨床栄養学 | 栄養管理部門の業務概要 | 予習：管理栄養士の業務内容<br>復習：実習内容 |
| | 3 | 臨床栄養学 | 施設利用者を対象とした栄養管理① | 予習：臨床における栄養管理の意義<br>復習：実習内容 |
| | 4 | 臨床栄養学 | 施設利用者を対象とした栄養管理② | 予習：臨床における栄養管理の意義<br>復習：実習内容 |
| | 5 | 臨床栄養学 | 栄養管理システム① | 予習：対象者の栄養管理に関わる一連のシステム<br>復習：実習内容 |
| | 6 | 臨床栄養学 | 栄養管理システム② | 予習：対象者の栄養管理に関わる一連のシステム<br>復習：実習内容 |
| | 7 | 臨床栄養学 | 栄養アセスメント① | 予習：病態ごとに必要なアセスメント項目の確認<br>復習：実習内容 |
| | 8 | 臨床栄養学 | 栄養アセスメント② | 予習：病態ごとに必要なアセスメント項目の確認<br>復習：実習内容 |
| | 9 | 臨床栄養学 | ケアカンファレンス① | 予習：ケアカンファレンスの意義とメンバー構成<br>復習：実習内容 |
| | 10 | 臨床栄養学 | ケアカンファレンス② | 予習：ケアカンファレンスの意義とメンバー構成<br>復習：実習内容 |
| | 11 | 臨床栄養学 | ケアカンファレンス③ | 予習：ケアカンファレンスの意義とメンバー構成<br>復習：実習内容 |
| | 12 | 臨床栄養学 | 栄養ケアプラン① | 予習：カルテの読み取りとケアプランとの関連<br>復習：実習内容 |
| | 13 | 臨床栄養学 | 栄養ケアプラン② | 予習：カルテの読み取りとケアプランとの関連<br>復習：実習内容 |
| | 14 | 臨床栄養学 | 栄養ケアプラン③ | 予習：カルテの読み取りとケアプランとの関連<br>復習：実習内容 |
| | 15 | 臨床栄養学 | 栄養補給方法 | 予習：対象者の食事摂取状況とその調査方法等<br>復習：実習内容 |
| | 16 | 臨床栄養学 | クリニカルパス | 予習：クリニカルパス<br>復習：実習内容 |
| | 17 | 臨床栄養学 | チーム医療① | 予習：チーム医療に於ける管理栄養士の役割<br>復習：実習内容 |
| | 18 | 臨床栄養学 | チーム医療② | 予習：チーム医療に於ける管理栄養士の役割<br>復習：実習内容 |
| | 19 | 臨床栄養学 | チーム医療③ | 予習：チーム医療に於ける管理栄養士の役割<br>復習：実習内容 |
| | 20 | 臨床栄養学 | チーム医療④ | 予習：チーム医療に於ける管理栄養士の役割<br>復習：実習内容 |
| | 21 | 臨床栄養学 | チーム医療⑤ | 予習：チーム医療に於ける管理栄養士の役割<br>復習：実習内容 |
| | 22 | 臨床栄養学 | 栄養管理・栄養ケアマネジメント報告書① | 予習：多職種で共有する患者情報報告書の書き方<br>復習：実習内容 |
| | 23 | 臨床栄養学 | 栄養管理・栄養ケアマネジメント報告書② | 予習：多職種で共有する患者情報報告書の書き方<br>復習：実習内容 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 24 | 臨床栄養学 | 個別栄養指導① | 予習：行動科学理論に基づいた指導を行う準備<br>復習：実習内容 |
| | 25 | 臨床栄養学 | 個別栄養指導② | 予習：行動科学理論に基づいた指導を行う準備<br>復習：実習内容 |
| | 26 | 臨床栄養学 | 集団栄養指導① | 予習：媒体作成と指導内容の準備<br>復習：実習内容 |
| | 27 | 臨床栄養学 | 集団栄養指導② | 予習：媒体作成と指導内容の準備<br>復習：実習内容 |
| | 28 | 臨床栄養学 | 栄養指導報告書作成① | 予習：SOAPによる報告書の作成<br>復習：実習内容 |
| | 29 | 臨床栄養学 | 栄養指導報告書作成② | 予習：SOAPによる報告書の作成<br>復習：実習内容 |
| | 30 | 臨床栄養学 | 施設課題のまとめ | 予習：実習中の課題<br>復習：課題のまとめ |

授業科目名称　：栄養学応用演習Ⅱ（実践的教育科目）　授業コード：43621

授業科目英文名称：Applied Seminar of Nutrition Ⅱ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3 | 1 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 廣田　昌彦（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 演習 | | |
| ナンバリング | IC394 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 栄養学的に重要な内科的な疾患について、その知識を体系的に理解して説明でき、その知識を臨床の場面で活用することができる。 | ・定期試験<br>・中間テスト | 70%<br>10% |
| 情報収集、分析力 | 栄養学的に重要な内科的な疾患について、必要な情報を信頼できる情報源から効率よく収集することができる。 | ・定期試験<br>・中間テスト | 5%<br>5% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | 栄養学的に重要な内科的疾患に関する課題を的確に把握し、他の人と協力して、課題解決に向けた方策を立案し、着実に実行できる。 | ・授業態度<br>・授業への参加 | 5%<br>5% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 栄養学の基礎となる学問は、多くあるが、本科目では、特に臨床医学に重点を置き、医学と栄養の関連する領域について、3年次前期までに学修した知識を基に、より具体的かつ詳細、また総合的に理解することを目的とする。すなわち、代表的な内科的疾患について、その疾患の病態、診断法、治療法、予防法を理解する。管理栄養士に必要な臨床医学とそれに関連する栄養学の基礎と専門の知識を身につけることが目標である。 |
| アクティブラーニングの類型 | ① ② ③ ⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 評価点は、定期試験の結果を75%とし、12回目に実施する中間テストの結果を15%として算定する。授業態度・授業への参加度は、授業中の態度、取り組み、関心・意欲、質問等に対する返答で、10%として評価する。中間テストについては、授業において解説し、フィードバックする。 |
| 授業概要 | あらかじめ各項目ごとに、要点を整理した自作のプリントを配布し、解説を加えていく。外科医としての臨床経験に基づき、実際の医療の場面に即した、パワーポイント、ビデオなどの視聴覚教材を使用する。臨床医学的な検査法については、実習の形で実際に行ない、また、医療機器についてもできるだけ供覧する。また、授業中には、できるだけ多くの質問をし、これに対するディスカッションの時間を設けている。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書： 特に指定しない。各項目についてプリントを配布する。<br>参考書： 栄養科学イラストレイテッド演習版「臨床医学ノート 疾病の成り立ち」. 田中 明、他編. 羊土社<br>栄養科学シリーズNEXT「臨床医学入門」第2版. 武田英二、河田光博、編. 講談社<br>指定図書： 栄養科学シリーズNEXT「臨床医学入門」第2版. 武田英二、河田光博、編. 講談社 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | あらかじめ伝えた次回の授業の内容について、自分で調べて大まかな把握をしておくこと。授業中に生じた幾つかの疑問点については、できるだけ授業時間内に質問し、解決する。授業中の私語、携帯電話等の不必要な使用は厳禁である。管理栄養士は、医療現場での重要なスタッフの一員なので、医療における幅広く深い知識、患者教育に役立つ実践的な知識を身に付けるように努力されることを期待する。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | **総論Ⅰ** | 医療人としての心構え、疾患総論、臨床検査について学ぶ。 | 医療人としての心構え・疾患総論・臨床検査についての復習<br>高血圧についての予習 |
| 2 | **高血圧** | 高血圧の概要を習得し、検査データの見方・考え方、治療方針、食事療法について学ぶ。 | 高血圧についての復習<br>糖尿病についての予習 |
| 3 | **糖尿病** | 糖尿病の概要を習得し、症例について、検査データの見方・考え方、治療方針、食事療法について学ぶ。 | 糖尿病についての復習<br>内分泌疾患についての予習 |
| 4 | **内分泌疾患** | 内分泌疾患の概要を習得し、症例について、検査データの見方・考え方、治療方針、食事療法について学ぶ。 | 内分泌疾患についての復習<br>慢性腎臓病・ネフローゼについての予習 |
| 5 | **悪性腫瘍疾患** | 悪性腫瘍疾患の概要を習得し、症例について、検査データの見方・考え方、治療方針、食事療法について学ぶ。 | 悪性腫瘍疾患についての復習<br>腎不全・腎癌についての予 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 6 | **腎疾患** | 慢性腎臓病(CKD)・ネフローゼ、腎不全・腎癌の概要を習得し、症例について、検査データの見方・考え方、治療方針、食事療法について学ぶ。 | 腎不全・腎癌についての復習<br>肥満症・動脈硬化・メタボリックシンドロームについての予習 |
| | 7 | **総論Ⅱ、肥満症・動脈硬化・メタボリックシンドローム** | 疾患総論、肥満、動脈硬化、メタボリックシンドロームの概要を学び、症例について、検査データの見方・考え方、治療方針、食事療法について習得する。 | 疾患総論、肥満症・動脈硬化・メタボリックシンドロームについての復習<br>循環器疾患についての予習 |
| | 8 | **循環器疾患** | 虚血性心疾患・不整脈・心不全の概要を習得し、症例について、検査データの見方・考え方、治療方針、食事療法について学ぶ。 | 循環器疾患についての復習<br>高尿酸血症・脂質異常症についての予習 |
| | 9 | **高尿酸血症・脂質異常症** | 高尿酸血症(痛風)、脂質異常症の概要を習得し、症例について、検査データの見方・考え方、治療方針、食事療法について学ぶ。 | 高尿酸血症・脂質異常症についての復習 肝・胆・膵疾患についての予習 |
| | 10 | **肝・胆・膵疾患** | 肝疾患・胆のう胆道疾患、膵疾患の概要を習得し、症例について、検査データの見方・考え方、治療方針、食事療法について学ぶ。 | 肝・胆・膵疾患についての復習<br>消化管疾患についての予習 |
| | 11 | **消化管疾患** | 消化管疾患の概要を習得し、症例について、検査データの見方・考え方、治療方針、食事療法について学ぶ。 | 消化管疾患についての復習<br>血液疾患についての予習 |
| | 12 | **血液疾患、中間テスト** | 血液疾患の概要を習得し、検査データの見方・考え方、治療方針、食事療法について学ぶ。 | 血液疾患についての復習<br>呼吸器疾患についての予習 |
| | 13 | **呼吸器疾患** | 中間テストのフィードバック、呼吸器疾患の概要を習得し、検査データの見方・考え方、治療方針、食事療法について学ぶ。 | 呼吸器疾患についての復習<br>免疫異常についての予習 |
| | 14 | **免疫異常** | 感覚器・運動器疾患、神経疾患の概要を習得し、検査データの見方・考え方、治療方針、食事療法について学ぶ。 | 免疫異常についての復習<br>感覚器・整形疾患についての予習 |
| | 15 | **感覚器・運動器疾患、神経疾患** | 感覚器・運動器疾患、神経疾患の概要を習得し、検査データの見方・考え方、治療方針、食事療法について学ぶ。 | 感覚器・運動器疾患、神経疾患についての復習 |
| | 16 | **定期試験** | | |

授業科目名称　：ホスピタリティ演習Ⅰ（実践的教育科目）　授業コード：34604

授業科目英文名称：Hospitality Ⅰ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 2 | 0.5 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 神田　紘介*、藤田　英明、西奥　剛、藤本　京子、吉田　達貞（*実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 演習 | | |
| ナンバリング | N4A201 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | | | |
| 情報収集、分析力 | | | |
| コミュニケーション力 | 医療人の役割について体験し、自ら学ぶことができるようになる。 | 質問・態度<br>プレゼンテーション<br>レポート | 15%<br>5%<br>20% |
| 協働・課題解決力 | チーム医療における他の医療職との連携・役割分担について関心を持てるようになる。 | 態度<br>プレゼンテーション<br>レポート | 5%<br>5%<br>20% |
| 多様性理解力 | チーム医療における他の医療職と薬剤師の役割の違いについて、体験し理解する。 | 態度<br>プレゼンテーション<br>レポート | 5%<br>5%<br>20% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 「ホスピタリティ演習Ⅰ」は、「臨床体験学習」を主体としたヒューマニズム教育を行う科目である。１年次の「早期体験学習」をベースに、医療現場での体験学習を通じて、医療人としての心構えを学ぶと共に、学習へのモチベーション向上を目指す。 |
| アクティブラーニングの類型 | ②⑦ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 「臨床体験学習」は原則参加することが必須であり、リハビリテーション病院での体験について、各グループでSGDを行い、プレゼンテーションを行う。評価は、SGDにおける積極的な議論への参加（15%）、質問内容・態度（10%）、プレゼンテーション（15%）、レポート（60%）で実施する。プレゼンテーション・レポート評価の評価指標（ルーブリック）は別途配布する。プレゼンテーションやレポートについては、授業内やポートフォリオでフィードバックを行う。 |
| 授業概要 | 「臨床体験学習」は長崎市にあるリハビリテーション病院において、実際の医療現場を見学・体験する。病院薬剤師として実務経験を有する経験を有する教員が、その経験を活かし、事前学習、SGD、及びプレゼンテーションの準備と実施を主導する。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：配布プリント等<br>参考書：なし<br>指定図書：「薬学生dead or alive―薬学生,成功への鍵は…」（京都廣川書店） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 「臨床体験学習」は実際の医療現場を体験するため、薬剤師が他者（患者・医師・理学療法士など）とどのような関わりをするのかについて考えて欲しい。また、自分が将来どのような薬剤師になるかについて、思いを馳せて欲しい。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **臨床体験学習１** | 事前学習を行い、リハビリテーション病院での体験を行う目的について、各グループでSGDを行い、明確にする。（２コマ） | 配布資料を熟読して体験学習の目的について予習する。 | 47, 48, 51, 54 B-1-1,B-1-2, B-1-3,B-2-1, B-2-2,F-2-1 | 神田・藤田・西奥・藤本・吉田 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2 | **臨床体験学習2** | リハビリテーション病院で医療現場を体験する。（２コマ） | 配布資料を熟読して体験学習の目的について予習する。 | 47, 48, 51, 54<br>B-1-1, B-1-2, B-1-3, B-2-1, B-2-2, F-2-1 | 神田・藤田・西奥・藤本・吉田 |
| | 3 | **臨床体験学習3** | リハビリテーション病院での体験について、各グループでSGDを行い、プレゼンテーションの準備を行う。（２コマ） | 体験学習した内容について復習する。 | 54<br>B-1-1, B-1-2, B-1-3, B-2-1, B-2-2, F-2-1 | 神田・藤田・西奥・藤本・吉田 |
| | 4 | **臨床体験学習4** | リハビリテーション病院での体験について、各グループでプレゼンテーションを行う。（２コマ） | 他のグループのプレゼンテーションの内容ついて復習する。 | 54<br>B-1-1, B-1-2, B-1-3, B-2-1, B-2-2, F-2-1 | 神田・藤田・西奥・藤本・吉田 |
| | | **★注意事項** | 注）上記の第１回～第4回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。<br>＊到達目標番号と到達目標の対応は、大学HP掲載のコアカリSBO番号／項目対応表を参照して下さい。 | | | |

授業科目名称　：ホスピタリティ演習Ⅱ（実践的教育科目）　授業コード：34004

授業科目英文名称：Hospitality Ⅱ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 3 | 0.5 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 神田　紘介*、黒川　健児、高井　伸彦、出口　雄也、波多江　日成子（*実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 演習 | | |
| ナンバリング | N4A302 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | | | |
| 情報収集、分析力 | | | |
| コミュニケーション力 | 自分のコミュニケーションについて見つめ直し、改善に向けた目標を立てることができる。また、スモールグループディスカッションを通じて主体性を持って学習すると共に、研究倫理や医療人の使命感について議論が行える。 | 態度<br>レポート | 10%<br>30% |
| 協働・課題解決力 | 研究倫理、医療人としての使命感について、議論を行い、考えをまとめることができる。 | 態度<br>レポート | 10%<br>15% |
| 多様性理解力 | 研究倫理、東洋医学の考え方、医療人の使命感、薬学者による研究について関心を持ち、理解した上で、それぞれの必要性を説明できる。 | 態度<br>レポート | 10%<br>25% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 「ホスピタリティ演習Ⅱ」では、①コミュニケーション、研究倫理、使命感の修得、東洋医学の考え方、薬学研究・教育者への理解、②学生の自主性と連携を通じ、コミュニケーション能力、共同・課題解決力、多様性理解力を養い、薬剤師としての資質を醸成する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①④⑥⑪⑫ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | コミュニケーション、薬剤師の使命、研究倫理、薬学研究・教育者へのキャリアパス、寄付講座（東洋医学の理解）に関して、いずれもレポートを評価する。また、スモールグループディスカッションを行う場合は参加態度も評価する。評価割合は、コミュニケーション15%、薬剤師の使命35%、研究倫理20%、薬学研究・教育者へのキャリアパス10%、寄付講座20%とする。レポートについては、ポートフォリオでフィードバックする。 |
| 授業概要 | コミュニケーションに関しては、ワークショップを行う。薬剤師の使命については、授業、SGD、ワークショップを行う。研究倫理に関しては授業形態をとり、SGDを行う。東洋医学の考え方（寄付講座）においては、東洋医学の考え方に関する説明の後、薬膳グラノーラWS等の5項目の体験学習を行う。研究教育者へのキャリアパスでは、外部講師の講演と質疑応答を行う。学習の過程において、積極的に議論を行い、学生間の学び合いを推奨する。病院または薬局において薬剤師としての実務経験を有する教員やゲストスピーカーが、その経験を活かし、講義や演習を実施する。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書、参考書、指定図書：別に指示する。 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 医療人として、コミュニケーション力、倫理観（ルールや規範）、および研究マインドを身につけ、日々の誠実な学びを通じて豊富な知識と知恵を修得することが求められる。そして、卒業後には修得した学問を実践し、社会に貢献することが重要である。本講義では、社会で活躍する多様なゲストスピーカーからこれらに必要な知識を学び、その後、仲間とディスカッションを行い、学びを深めることを目指す。また、西洋医学とは異なる東洋医学の考え方を理解し、新たな視点を養う機会も提供する。講義で得た知識と気づきを日常生活で意識し、生涯にわたり研鑽を続けることを期待する。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **コミュニケーション** | 事前学習を行う。その後、ワークショップを通して、コミュニケーションについて学ぶ。<br>ゲストスピーカー：今村清楓(マイナビ) | 指示に従ってレポートを提出する。 | 41-51 | 神田 |
| 2 | **東洋医学の考え方（寄付講座）** | 東洋医学による未病改善の提案：体験内容の説明<br>ゲストスピーカー：平野智也(回生薬局) | 予め与えられた資料を読んでおく。 | 2、4、13、109 | 出口 |
| 3 | **東洋医学の考え方（寄付講座）** | 薬膳グラノーラWS、太極拳、お灸、ヨガ、薬草風呂作りWSの5つを体験<br>ゲストスピーカー：平野智也(回生薬局) | 予め与えられた資料を読んでおく。 | 2、4、13、109 | 出口 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 4 | **薬剤師の使命** | 医療の担い手としてのこころ構えについて学ぶ。<br>ゲストスピーカー：澤勢瑞城(さわせ薬局・長崎市議会議員) | 予め与えられた課題を読んでおく。指示に従ってレポートを提出する | 1-3、8 | 神田・高井・出口・波多江 |
| | 5 | **薬剤師の使命** | 「医療の担い手としてのこころ構え」についてのスモールグループディスカッション（SGD）を行う。<br>ゲストスピーカー：澤勢瑞城(さわせ薬局・長崎市議会議員) | 予め与えられた課題を読んでおく。指示に従ってレポートを提出する | 1-3、8 | 神田・高井・出口・波多江 |
| | 6 | **薬剤師の使命** | ワークショップを通して、「薬剤師の使命」を果たすために必要な基礎力の養成方法について学ぶ。<br>ゲストスピーカー：今村清楓(マイナビ) | 指示に従ってレポートを提出する。 | 1-3、8 | 神田 |
| | 7 | **研究倫理** | 「ヒトを対象とする研究活動に求められる態度」について学ぶ。<br>ゲストスピーカー：福島千鶴(長崎大学病院) | 予め与えられた課題を読んでおく。指示に従ってレポートを提出する | 34-37、40、83 | 神田・高井・出口・波多江 |
| | 8 | **研究倫理** | 「ヒトを対象とする研究活動に求められる態度」についてのスモールグループディスカッション（SGD）を行う。<br>ゲストスピーカー：福島千鶴(長崎大学病院) | 予め与えられた課題を読んでおく。指示に従ってレポートを提出する | 34-37、40、83 | 神田・高井・出口・波多江 |
| | 9 | **薬学研究･教育者へのキャリアパス** | 薬学研究･教育者へのキャリアパスに関する講演とディスカッション<br>ゲストスピーカー：尾崎省吾(九大)・住谷瑛理子(東大) | 指示に従ってレポートを提出する | 1062,1064 | 黒川・高井・出口・波多江 |
| | | **※注意事項** | 上記の第1回～第9回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。<br>※到達目標番号と到達目標の対応は、大学HP掲載のコアカリSBO番号／項目対応表を参照してください。 | | | |

授業科目名称　：ホスピタリティ演習Ⅲ（実践的教育科目）　授業コード：34605

授業科目英文名称：Hospitality Ⅲ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 4 | 0.5 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 藤井　佑樹、大磯　茂*、小林　秀光、長岡　寛明、室　高広*、神田　紘介*、倉岡　卓也、山口　拓、山田　耕平、末廣　真理恵*（*実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 演習 | | |
| ナンバリング | N4A401 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | | | |
| 情報収集、分析力 | 施設訪問研修で医薬品の品質管理や流通に関する情報を的確に収集し、後発医薬品の利点と問題点について分析できる。 | 施設訪問研修のレポート | 40% |
| コミュニケーション力 | 地域医療における問題点を地域で働く薬剤師と共にスモールグループディスカッション（SGD）で意見を述べることができる。 | SGDにおける発言・態度 | 15% |
| 協働・課題解決力 | 地域医療における問題点を地域で働く薬剤師と共に抽出し、その解決方法について議論できる。 | プレゼンテーションと成果物 | 15% |
| 多様性理解力 | 実務実習を受ける前に身に付けておくべき基本的なルールとマナーを修得する。<br>耳の遠い高齢者とのコミュニケーションの取り方を修得する。 | マナー講座レポート<br>接遇研修レポート | 15%<br>15% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 「ホスピタリティ演習Ⅲ」では、5年次の「実務実習（病院・薬局）」で医療の現場に出る前に、社会人・薬剤師としてのマナーを身に付け、施設訪問研修で医薬品の品質管理や流通の仕組みなどについて理解を深め、地域医療における問題点を地域で働く薬剤師とともに考え、また耳の遠い高齢者とのコミュニケーションの取り方を学ぶことで、薬剤師としての資質を醸成することを目的とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①④⑥⑪⑫ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 寄附講座（製薬工場、医薬品卸売企業、調剤薬局の訪問研修）、生涯教育セミナー、マナー講座に関してはいずれもレポートにより評価する。地域の期待に応える実践活動については、SGDにおける積極的な発言・態度とレポートにより総合的に評価する。評価結果はポートフォリオ等でフィードバックする。評価割合は、寄附講座40%、地域の期待に応える実践活動30%、接遇研修15%、マナー講座15%とする。 |
| 授業概要 | 寄附講座では、医薬品の品質管理や流通の仕組みについて理解を深めるために、製薬会社、医薬品卸売会社及び調剤薬局の施設訪問研修を実施する。地域の期待に応える実践活動では、地域の薬剤師の協力を得てPBL（問題発見解決型学修）方式による参加型学修を実施する。接遇研修では、耳の遠い高齢者とのコミュニケーションの取り方について学ぶ。マナー講座では、「薬剤師のプロフェッショナリズム」修得の第一歩として必要な基本的マナーを身に付ける。病院または薬局において薬剤師としての実務経験を有する教員およびゲストスピーカーが、その経験を活かし、講義や演習を実施する。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：「先輩薬剤師から聞いた これだけは押さえてほしいルール＆マナー 1版」池田義明、坂野昌志、寺沢匡史 編著（南山堂）<br>参考書、指定図書：別に指示する。 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | マナー講座では、実務実習に臨む薬学生が身に付けておくべき社会人としてのマナーの他に、実習生の心構えなどを学ぶので、真剣に取り組み、確実に身に付けて欲しい。施設訪問研修では「寄附講座」提供企業の施設を訪問する、また地域の期待に応える実践活動には地域の薬剤師が多数参加されるので、薬剤師を目指す学生として恥ずかしくない身だしなみ・言動・態度で行動して欲しい。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **マナー講座** | 実務実習に臨む前に身に付けておきたい社会人としてのマナー、知っておきたい現場の常識、薬剤師としての心構え<br>ゲストスピーカー：今村清楓(マイナビ) | 教科書の指定箇所を読んでおく | 1, 8, 47, 48, 62 | 大磯、室 |
| 2 | **製薬工場研修（寄附講座＊1）** | ・医薬品の安全性<br>・後発医薬品メーカーとしての品質管理及び製造工程 | 配布プリントの内容確認 | 104, 760, 796 | 神田、藤井 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 | **医薬品卸売企業研修１（寄附講座＊2)** | ・適正な医薬品流通の仕組み<br>・製造業者から医療現場への迅速な医薬品供給<br>・法的規制薬（麻薬・向精神薬等）の薬剤管理 | 配布プリントの内容確認 | 92, 102, 961, 967 | 神田、藤井 |
| 4 | **医薬品卸売企業研修２（寄附講座＊2)** | ・「育薬」の取組み<br>・臨床現場からの情報による新知見・薬効提供<br>・DI業務 | 配布プリントの内容確認 | 758-761 | 神田、藤井 |
| 5 | **調剤薬局研修（寄附講座＊3)** | ・薬局における最新調剤設備による過誤防止の取り組み | 配布プリントの内容確認 | 980 | 神田、藤井 |
| 6 | **地域の期待に応える実践活動１** | 地域の魅力開発（招請講演）<br>地域で働くことの魅力（招請講演） | 配布プリントの内容確認 | | 小林、山口拓、藤井、神田、倉岡、山田、末廣 |
| 7 | **地域の期待に応える実践活動２** | 地域医療に携わる薬剤師（SGD、プレゼンテーション） | 配布プリントの内容確認 | 106, 112, 115, 116, 739, 1045, ADV14 | 小林、山口拓、藤井、神田、倉岡、山田、末廣 |
| 8 | **接遇研修** | 耳の遠い高齢者とのコミュニケーション<br>～マスクで会話、伝わっていますか？～<br>ゲストスピーカー：宮谷真紀子(CLEAR JAPAN) | 配布プリントの内容確認 | 47, 48 | 長岡、室 |
| | **＊1東七株式会社、沢井製薬株式会社<br>＊2東七株式会社<br>＊3東ファーマシー株式会社** | 注）上記の第１回～第8回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。<br>＊到達目標番号と到達目標の対応は、大学HP掲載のコアカリSBO 番号／項目対応表を参照して下さい。 | | | |

授業科目名称　：ホスピタリティ演習Ⅳ（実践的教育科目）　授業コード：34005

授業科目英文名称：Hospitality Ⅳ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 6 | 0.5 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 限　博幸、大磯　茂*、小川　由起子、室　高広*、神田　紘介*、大久保　伸哉*、末廣　真理恵*、中島　健輔*、＊嶋内　麻佐子、※栁井　駿平（*実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 演習 | | |
| ナンバリング | N4A601 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | | | |
| 情報収集、分析力 | | | |
| コミュニケーション力 | 茶道教育を通して、亭主と客とのコミュニケーション（接遇）の在り方を修得し、薬剤師として患者や協働医療従事者とより良い関係の構築に応用できる。<br>実務実習で得られた自身の学習内容について、他者にわかりやすく伝達できる。 | 茶道実習への参加意欲<br>発表 | 10%<br>15% |
| 協働・課題解決力 | 茶道教育を通した”おもてなし”の心を持つ薬剤師として、様々な患者や協働医療従事者に対する接し方を小グループ内で話し合い、まとめることができる。 | SGDの取り組み状況・発表 | 25% |
| 多様性理解力 | 薬剤師として異なるバックグラウンド（年齢、趣味、文化、国籍など）を持つ様々な患者や協働医療従事者に対して理解を示しながら接することができる。<br>他の実習生の実務実習で得られた学習内容について聴講し、理解した上で説明できる。 | 課題レポート<br>レポート | 15%<br>35% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 茶道教育を通して、本学薬学部のヒューマニティ教育（倫理感、コミュニケーション力、多様性理解力）の集大成とするとともに、本学のモットーである「ホスピタリティ」を具現化した質の高い薬剤師を養成する。<br>実務実習は異なる施設で行われるため、施設の特性や事情により学習内容に差異が生じる。実務実習で学んだ内容を他の実習生の前で発表することにより、その内容を共有するとともにプレゼンテーション能力の向上を図る。また、他者の学習内容を聴講し理解・共有することで、多様性への理解力を高める。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①④⑨⑩⑪⑫ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 茶道によるヒューマニティ教育では、レポート内容や実習への取り組み姿勢及びSGDでの積極性についてルーブリックを用いて評価する。<br>実務実習報告会の評価は、プレゼンテーション（15%）、レポート（35%）で実施する。プレゼンテーション、レポートの評価指標（ルーブリック）は別途配布する。 |
| 授業概要 | 茶道によるヒューマニティ教育では、薬剤師の医療業務におけるホスピタリティ精神の重要性についてのSGD・発表会実施とレポート提出を課す。<br>実務実習報告会では、実務実習で学習した内容を他の実習生の前で発表して、その内容を共有する。また、他者の学習内容を聴講し、理解する。病院または薬局において薬剤師としての実務経験を有する教員が、その経験を活かし、実務実習報告会を指導する。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：別に指示する。<br>参考書：別に指示する。 |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 茶道の精神を学ぶことで、薬剤師と患者や協働医療従事者との関係性において何が最も重要かについて考えてもらいたい。<br>薬局や病院では、それぞれの施設の状況に応じて工夫しながら業務が行われている。また、薬剤師による薬学的ケアも、症例の特徴に応じて工夫を重ねながら実施されている。実務実習報告会は、自身の学習内容を他者に伝えるとともに、他の実習生の学習内容を聴講し、自分が実務実習中に気付かなかった点や経験できなかった事項を補完する貴重な機会である。この報告会を通じて、情報共有の重要性を理解し、それを生涯にわたる自己研鑽へとつなげることが期待される。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **実務実習報告会** | 実務実習で学んだ内容を発表して、その内容を他の実習生と共有する | 実務実習日誌等から実務実習で学んだ内容を復習する | 1-7/70/891-894 | 大磯、室、神田、大久保、末廣、中島 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2 | **実務実習報告会** | 実務実習で学んだ内容を発表して、その内容を他の実習生と共有する | 実務実習日誌等から実務実習で学んだ内容を復習する | 1-7/70/891-894 | 大磯、室、神田、大久保、末廣、中島 |
| | 3 | **実務実習報告会** | 他の実習生の実務実習で学んだ内容を聞いて理解する。 | 実務実習報告会で学んだ内容を復習する。 | 1-7/70/891-894 | 大磯、室、神田、大久保、末廣、中島 |
| | 4 | **実務実習報告会** | 他の実習生の実務実習で学んだ内容を聞いて理解する。 | 実務実習報告会で学んだ内容を復習する。 | 1-7/70/891-894 | 大磯、室、神田、大久保、末廣、中島 |
| | 5 | **茶道文化を通したコミュニケーションスキル1** | 「礼法、点て出しの仕方」：日常生活に必要な礼儀作法を学び、医療従事者としての患者対応において活かすことを考える。 | “ホスピタリティ”の、”サービス”や”マナー”との意味の違いについて調べる（予習） | | 嶋内、隈、小川他専任教員 |
| | 6 | **茶道文化を通したコミュニケーションスキル2** | 「お菓子の取り方、お茶室の出入りの仕方、お茶の点て方・飲み方」：茶会の基本について学ぶ他、お茶の種類、抹茶成分や機能について学び、人の健康維持・増進について考える。 | 薄茶点前の流れを復習する。お茶の成分が健康に与える影響について調べる（予習） | | 嶋内、隈、小川、出口他専任教員 |
| | 7 | **茶道文化を通したコミュニケーションスキル3** | 「ミニ茶会の準備・練習」：グループの中でのコミュニケーション能力を高めると共に、”もてなし”の心を理解することで医療従事者として他者への対応がどうあるべきか考える。 | 茶会（茶室）で分担された役割（亭主・客など）について確認する（復習） | | 嶋内、隈、小川他専任教員 |
| | 8 | **茶道文化を通したコミュニケーションスキル4** | 「ミニ茶会」と「SGD」：茶事の運営を通して相手への心遣いや協調性、礼儀作法を学び、薬剤師業務だけでなく、一般社会生活において他者とのコミュニケーションで何が最も重要かをSGDにより明確化する。 | 病院（ホスピタル）とホスピタリティの語源が同じであることを踏まえ、薬剤師と患者の関係がどうあるべきかをレポートにまとめる（予習：課題） | | 嶋内、隈、小川他専任教員 |
| | | | 注）上記の第１回～第8回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。<br>＊到達目標番号と到達目標の対応は、大学HP掲載のコアカリSBO 番号／項目対応表を参照して下さい。 | | | |

授業科目名称　：医薬品情報論（実践的教育科目）　　授業コード：14627

授業科目英文名称：Drug Information

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3 | 1.5 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 大磯　茂、室　高広(実務経験のある教員) | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | N4F330 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 医薬品適正使用に必要な情報や制度について説明できる。<br>医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。<br>医薬品情報源を列挙し、それらの特徴について説明できる。<br>薬剤疫学および薬剤経済学について説明できる。<br>医薬品情報を加工・提供における注意点について説明できる。 | ・定期試験<br>・小テスト<br>・宿題 | 55%<br>20%<br>4% |
| 情報収集、分析力 | 臨床適用上の効果指標（オッズ比、必要治療数、相対危険度など）を算出しその意味を判別できる。<br>情報提供システム等から必要な医薬品情報を検索する方法について説明でき、さらにそれらを入手できる。 | ・定期試験<br>・宿題 | 5%<br>2% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | EBM実践の手順について説明できる。<br>医療従事者や患者に必要な医薬品情報を適切に加工できる。 | ・定期試験<br>・宿題<br>・情報文書作成課題 | 5%<br>4%<br>5% |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 臨床上の問題解決に有用な医薬品情報を患者や他の医療従事者に適切に伝えることができるようになるために、医薬品情報の種類や特徴、情報収集、評価、加工、提供、管理に関する基本的な知識、技能、態度を修得する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①⑧⑨⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 定期試験の成績を65%とし筆記試験を行う。第10講目に第9講までの授業内容に関係する小テストを実施します。また、予習・復習を促すために毎回の講義毎に宿題を、さらに第11講において情報文書作成課題を課します。それらの成績も最終評価に加えます（小テスト20%、宿題10%、情報文書作成課題5%）<br>小テストおよび宿題は、各問題の解答を示すことによりフィードバックを行います。 |
| 授業概要 | 薬剤師の実務経験のある教員が、薬剤師の業務遂行に必要な医薬品情報の基礎知識を説明します。薬物治療に必要な情報を医療従事者および患者に提供できるようになるために、医薬品情報の種類や特徴、情報の収集、評価、加工、提供および管理方法に関する基本的知識・技能・態度の習得を目標とします。また、臨床上の疑問を解決する手段であるEvidence-Based Medicine(EBM)の基礎や薬剤疫学について理解することも目標とします。授業は教科書による講義を中心とし、パワーポイントや別途配布するプリント等を用います。ポートフォリオを活用した演習も行います。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：医薬品情報学【第5版】（東京大学出版会）<br>参考書：図解 医薬品情報学(南山堂)、医薬品情報・評価学(南江堂)<br>指定図書：教科書と同じ |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 教科書および配布プリント等を利用して予習・復習をしっかりしてください。医薬品に関する報道に関心を持ってください。また、多くの医薬品情報はインターネットで閲覧できるので、積極的に検索して、多くの医薬品情報に触れてください。講義内容に関する質問は、担当教員（大磯：P310、室：P302）を訪ねてください。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **・医薬品情報とは** | 医薬品情報を活かした医薬品適正使用およびリスクマネージメントについて説明する。 | 教科書<br>まえがき、第1章 | 21,90,758 | 大磯 |
| 2 | **・医薬品開発の流れ**<br>**・医薬品開発制度** | 医薬品開発の流れおよびそれらに関連する薬事関連制度を説明する。 | 教科書<br>第2章、第14章、第16章、第19章、第20章 | 38,39,82-83,<br>592,760,<br>762,<br>785,790,<br>792 | 大磯 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 | **・市販後の調査<br>・医薬品の市販後調査制度** | 医薬品開発時の情報とその限界、製造販売後調査(PMS)の意義、安全性情報の収集の制度を説明する。 | 教科書<br>第3章、第14章、第15章、第16章、第20章 | 85,90,<br>592,<br>761-762 | 室 |
| 4 | **・医薬品情報源の種類と特徴<br>・医薬品情報検索・収集法の基礎** | 各種医薬品の添付文書、インタビューフォーム、安全性情報などの医薬品情報源の特徴、中毒、妊婦への影響などの情報源について説明する。<br>医薬品情報検索のプロセス、医学・薬学文献データベース等による医薬品情報の検索・収集やシソーラスなど医薬品情報の検索・収集に必要な基本的事項について説明する。 | 教科書<br>第4章、第5章、第15章、第16章、第17章、第18章 | 759,765-768,<br>769-770 | 室 |
| 5 | **・医薬品情報源の種類と特徴<br>・医薬品情報検索・収集法の基礎** | 各種医薬品の添付文書、インタビューフォーム、安全性情報などの医薬品情報源の特徴、中毒、妊婦への影響などの情報源について説明する。<br>医薬品情報検索のプロセス、医学・薬学文献データベース等による医薬品情報の検索・収集やシソーラスなど医薬品情報の検索・収集に必要な基本的事項について説明する。 | 教科書<br>第4章、第5章、第15章、第16章、第17章、第18章 | 759,765-768,<br>769-770 | 室 |
| 6 | **・医薬品情報の評価** | 一次資料の評価を行うための批判的吟味の指標および評価の観点について説明する。 | 教科書<br>第6章、第8章、第9章 | 763-764,786,<br>769-773,775-776,784 | 大磯 |
| 7 | **・医薬品情報の評価** | 一次資料の評価を行うための批判的吟味の指標および評価の観点について説明する。 | 教科書<br>第6章、第8章、第9章 | 763-764,786,<br>769-773,775-776,784 | 大磯 |
| 8 | **・医薬品情報と生物統計** | 臨床研究情報を評価する際に必要となる生物統計関連事項について説明する。 | 教科書<br>第6章、第8章、第9章 | 775,778-783,<br>785,786,<br>789,<br>791,793 | 大磯 |
| 9 | **・医薬品情報と生物統計** | 臨床研究情報を評価する際に必要となる生物統計関連事項について説明する。 | 教科書<br>第6章、第8章、第9章 | 775,778-783,<br>785,786,<br>789,<br>791,793 | 大磯 |
| 10 | **・医薬品情報の加工と提供** | 医薬品情報の加工および再構築ならびにそれらの提供について説明する。 | 教科書<br>第7章、第12章、第13章 | 773,794-796 | 大磯 |
| 11 | **・医薬品情報提供の実践** | ここまでの講義内容を踏まえ、医薬品情報の検索・加工等を実践する。 | これまでの内容を復習しておくこと。 | 795,796,<br>993 | 大磯・室 |
| 12 | **・EBM実践の基礎<br>・臨床研究デザインと薬剤疫学の実践** | EBMの考え方、EBM実践のステップならびにEBM実践で用いられる診療ガイドラインやメタアナリシスについて説明する。<br>薬剤疫学研究の臨床研究デザインの種類やその特徴と配慮すべきポイントについて解説する。 | 教科書<br>第9章、第10章 | 775,777,<br>785,<br>787-788,<br>790,792 | 室 |
| 13 | **・EBM実践の基礎<br>・臨床研究デザインと薬剤疫学の実践** | EBMの考え方、EBM実践のステップならびにEBM実践で用いられる診療ガイドラインやメタアナリシスについて説明する。<br>薬剤疫学研究の臨床研究デザインの種類やその特徴と配慮すべきポイントについて解説する。 | 教科書<br>第9章、第10章 | 775,777,<br>785,<br>787-788,<br>790,792 | 室 |
| 14 | **・薬剤経済学の実践** | 薬剤経済学の考え方、分析手法、費用の種類と分析視点、分析のためのデータ収集・研究デザインについて説明する。 | 教科書<br>第11章 | 105,774,<br>796 | 大磯 |
| 15 | **・ビッグデータに関連する法規制と活用例** | ビッグデータの活用例と関連する法規制と薬剤師活動の成果を測定・評価するための臨床研究の実践方法について説明する。 | 教科書<br>第8章、第12章、第20章 | 38,39,91,<br>774,775,<br>785-787,793,<br>798,1065,<br>1066,1069 | 室 |
| 16 | **定期試験** | 筆記試験 | | | |
| | **★注意事項** | 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。<br>※到達目標番号と到達目標の対応は、大学HP掲載のコアカリSBO番号／項目対応表を参照してください。 | | | |

授業科目名称　：病院薬学（実践的教育科目）　　授業コード：12619

授業科目英文名称：Hospital Pharmacy

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 3 | 1.5 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 室　高広、神田　紘介、末廣　真理恵（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | N4F331 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 薬の専門家として高度化・複雑化する社会の医療ニーズに対応することができる。 | ・定期試験<br>・小テスト | 30%<br>15% |
| 情報収集、分析力 | 医療や薬学に関する諸問題について、有用な科学的データを選択し、自ら論理的に思考・判断できる。 | ・定期試験 | 15% |
| コミュニケーション力 | 薬の専門家として十分なコミュニケーション能力を修得する。 | ・定期試験 | 15% |
| 協働・課題解決力 | 個々の患者や医師・看護師等に薬の情報を的確に提供することができる。 | ・定期試験 | 15% |
| 多様性理解力 | 地域医療・保健に参画することができる。 | ・定期試験 | 10% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本学薬学部薬学科のディプロマポリシーである、薬の専門家として高度化・複雑化する社会の医療ニーズに対応するために必要な知識、医療や薬学に関する諸問題について、有用な科学的データを選択し、自ら論理的に思考・判断できる技能、薬の専門家として十分なコミュニケーション能力、個々の患者や医師・看護師等に薬の情報を的確に提供することができる能力、地域医療・保健に参画することができる能力を備えることを目標とする。特に、この科目では、卒業後に臨床において医療チームの一員として参画できるための知識、技能、態度を身につける。 |
| アクティブラーニングの類型 | ① ④ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 講義、配布資料、パワーポイント等の内容から定期試験成績（70%）、小テスト（30%）を基に長崎国際大学の成績評価基準に準拠して厳正に判定する。小テストについては、授業内およびポートフォリオを利用してフィードバックする。 |
| 授業概要 | 病院・薬局の勤務経験がある教員が、実務経験で得られた知見や事例等を取り入れ、課題解決型学習を展開する。<br>基本的には教科書およびプリント等の資料配布、パワーポイントを利用し、資料を事前配布する。<br>授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分です。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：実務実習事前学習テキストブック（京都廣川書店）<br>参考書：グラフィックガイド薬剤師の技能 第２版 －理論まるごと実践へー（京都廣川書店）<br>スタンダード薬学シリーズⅡ7 臨床薬学（東京化学同人）<br>指定図書：スタンダード薬学シリーズⅡ7 臨床薬学（東京化学同人） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 卒業後に、病院薬学で修得した知識・技能を応用し、医療現場において医療チームの一員として活躍できる薬剤師になって欲しい。<br>配布されたプリント及び参考書等を利用して予習・復習をしっかりするようにして下さい。講義中および講義後の質問は大いに歓迎します。<br>※質問は、基本的に在室中は可能ですので、担当教員のオフィス（薬学研究棟P302：室、P312：神田、S302：末廣）を訪ねて下さい。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **病院薬剤師の社会における役割** | 病院薬剤師の社会における役割について理解する。 | 病院薬剤師の社会における役割に関する予習課題を提示する・配布資料の確認 | 9, 10, 12, 489, 731, 732, 895, 1049, 1052 | 神田 |
| 2 | **病院薬剤師に必要とされる知識、技能** | 中毒や長期療養に付随する合併症、個別の患者情報（遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など）の取得法、医薬品情報を利用した薬学的管理について理解する。 | 病院薬剤師に必要とされる知識、技能に関する予習課題を提示する・配布資料の確認 | 756, 757, 814, 988, 989, 1050 | 神田 |
| 3 | **治験の意義と治験関連業務** | 治験の意義や関連する倫理規範、病院薬剤師の治験関連業務への関わりについて理解する。 | 治験の意義と治験関連業務に関する予習課題を提示する・配布資料の確認 | 31, 35, 38, 39, 897 | 神田 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 | **各種専門薬剤師とチーム医療** | 病院薬剤師に特徴的な業務。各種専門薬剤師制度、専門薬剤師の役割とチーム医療の実践。 | 専門薬剤師について調べておく・教科書・配布資料の確認 | 52, 53, 897, 898, 905, 906, 1026, 1027 | 室 |
| 5 | **病棟薬剤業務と薬剤管理指導（1）** | 実際の病院薬剤師の業務について。 | 病院薬剤師の業務について調べておく・教科書・配布資料の確認 | 895-897, 900 | 末廣、外部講師 |
| 6 | **病棟薬剤業務と薬剤管理指導（2）** | 病棟専任薬剤師、薬剤師業務と保険評価、患者情報源の種類、患者情報の収集方法、問題志向型システムについて。 | 患者情報の収集方法や収集すべき内容について考えておく・教科書・配布資料の確認 | 797-800, 907, 945, 946, 948, 950, 953, 954, 958, 987, 991 | 末廣 |
| 7 | **病棟薬剤業務と薬剤管理指導（3）** | インタビューからの情報収集。患者の効果・副作用情報の評価と対処法。チーム医療における患者情報の共有。SOAP形式での患者記録作成演習【基礎編】。 | チーム医療での患者情報共有方法について考えておく・教科書・配布資料の確認 | 801, 901-907, 955, 956, 1015 | 末廣 |
| 8 | **病棟薬剤業務と薬剤管理指導（4）** | 患者情報の取扱い（守秘義務等）。薬剤管理指導の留意点。患者に合わせた調剤や用法の工夫。SOAP形式での患者記録作成演習【応用編】。 | 守秘義務について調べておく・教科書・配布資料の確認 | 802, 990, 1010 | 末廣 |
| 9 | **病棟薬剤業務と薬剤管理指導（5）** | 医療従事者・患者への情報提供。インフォームドコンセントの定義と必要性。コミュニケーションの方法。 | インフォームドコンセントについて調べておく・教科書・配布資料の確認 | 36, 37, 42, 47, 48, 52-54, 56, 986, 1026-1028 | 末廣 |
| 10 | **持参薬確認と処方提案** | 病院薬剤師に特徴的な業務。持参薬確認の必要性と実際。処方提案時の留意点。 | 持参薬確認と処方提案に関する予習課題を提示する・配布資料 確認 | 897, 900, 946, 987, 991, 1009 | 神田 |
| 11 | **感染制御と抗菌薬適正使用** | 病院薬剤師に特徴的な業務の説明。感染制御と抗菌薬適正用に関する薬剤師のかかわり。 | 感染制御について調べておく・教科書・配布資料の確認 | 52, 53, 897, 898, 1026 | 室 |
| 12 | **製剤室の業務：無菌調製、抗がん剤調製他** | 病院薬剤師に特徴的な業務。製剤室の業務内容、無菌調製、抗がん剤調製他。 | 製剤室の業務に関する予習課題を提示する・教科書・配布資料の確認 | 897, 898, 906 | 神田 |
| 13 | **薬品情報室の情報管理と医薬品の採用** | 病院薬剤師に特徴的な業務の説明。薬品情報室の業務内容。薬品情報の管理。採用・選択に当たっての検討項目。 | 薬品情報の管理の必要性、医薬品採用基準について調べておく・教科書・配布資料の確認 | 764, 897, 898 | 室 |
| 14 | **その他の払い出し業務とリスクマネージメント** | 薬剤師が係わりあう病院内の伝票の役割とその流れ。薬剤師が係わりあう医療事故防止。 | 医療事故を防止するための方法について考えておく・教科書・配布資料の確認 | 972, 974, 981 | 室 |
| 15 | **災害医療と薬剤師** | 災害医療における薬剤師の役割。 | 災害医療における薬剤師の役割について考えておく・配布資料の確認 | 1058-1060 | 室 |
| 16 | **定期試験** | | | | |
| | **★注意事項** | 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。<br>※到達目標番号と到達目標の対応は、大学HP掲載のコアカリSBO番号／項目対応表を参照してください。 | | | |

授業科目名称　：　調剤学(実践的教育科目)　　授業コード：　41028

授業科目英文名称：　Dispensing Pharmacy

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 4 | 1.5 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 大久保　伸哉、中島　健輔（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | N4F408 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | ・処方せん受付から服薬指導までの一連の調剤における用語を理解し、実施事項および実施上の注意点を説明できる。<br>・医薬品の適正使用において果たすべき薬剤師の役割を調剤と関連づけて説明できる。<br>・社会の医療ニーズを把握し、薬剤師としての対応策を提案することができる。 | 定期試験 | 65% |
| 情報収集、分析力 | ・「調剤」を理解するとともに、高度化・複雑化する社会の医療ニーズに薬剤師として対応できる。 | 定期試験<br>課題レポート | 5%<br>20% |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | ・患者に多様性があることを理解し、適切な配慮をすることができる。 | 課題レポート<br>受講態度 | 5%<br>5% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 薬剤師法第一条に謳われている薬剤師の任務のひとつ「調剤」を理解するとともに、高度化・複雑化する社会の医療ニーズに薬剤師として対応し、医療チームの一員として医薬品の適正使用における役割を果たすために必要な基本的知識を修得する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①②③⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・定期試験の成績を70%、課題レポートの成績を25%、受講態度を5%として評価する。<br>・定期試験は、講義内容を出題範囲とした多肢選択式の筆記試験とし、調剤の基本概念や医療用語の理解を前提に医薬品の適正使用における調剤の意義および薬剤師の役割を理解しているかを問う。<br>・課題レポートは、課題開示から2週間以内にポートフォリオに提出されたものについて、自分なりの視点をもって論理的に書かれているかを評価する。加えて、指定条件を満たさない場合は、減点の対象とする。<br>・受講態度は、講義中に出題される質問等に対して、ポートフォリオやresponに回答した内容で評価する。<br>・授業の理解度をポートフォリオを利用し確認を行い、授業中にフィードバックを行う。 |
| 授業概要 | 病院及び薬局薬剤師としての実務経験を有する教員が、医薬品の適正使用のために、薬剤師が実施する幅広い医療薬剤業務の理解に主眼を置き、講義を進める。薬剤師としての実務経験及び講義に関係する最新のトピックスを講義中に紹介する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：Crosslink 薬学テキスト 調剤学（鈴木貴明、メジカルビュー社）<br><br>参考書：<br>スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅰ 臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤（東京化学同人）<br>スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅱ 薬物療法の実践（東京化学同人）<br>スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅲ チーム医療及び地域の保健・医療・福祉への参画（東京化学同人）<br><br>指定図書：Crosslink 薬学テキスト 調剤学（鈴木貴明、メジカルビュー社） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 薬理学、薬剤学、製剤学、医薬品情報論、薬事関係法規等の科目と関連づけることによって薬物療法の一端を担う「調剤」を深く理解し、医療現場で応用できる力を身につける。薬剤師は生涯にわたって学び続けなければならないことを理解し、医薬に関する報道に関心を持つ。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **内用剤・外用剤の調剤（1）** | 薬袋・薬札の作成、内用剤・外用剤の計数調剤 | 経口剤の剤形を調べておく | 864 | 中島 |
| 2 | **内用剤・外用剤の調剤（2）** | 内用剤の計量調剤、工夫を要する調剤、経腸栄養剤 | 内用剤の処方例を調べておく | 864 | 中島 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 | **疑義照会** | 医療用医薬品添付文書の見方、疑義照会の意義と法的根拠 | 医療用医薬品添付文書の記載事項を調べておく | 910 | 中島 |
| 4 | **工夫を要する調剤ならびに医療用語** | 工夫を要する調剤の具体例について学ぶ、医療用語およびその略語を理解する | 工夫を要する調剤の具体例ならびに医療用語の略語について調べておく | 898 | 中島 |
| 5 | **調剤学概論** | 医療人としての薬剤師の役割、生涯研鑽、処方せんに基づく調剤 | 生涯研鑽の意味について考えておく | 10、64、65、895、896、897、915、916、917、918、928 | 大久保 |
| 6 | **調剤業務の進め方** | 処方せんに基づく調剤、薬剤交付・服薬指導、薬歴管理 | 保険処方せんの様式を調べておく | 37、802、896、915、916、917、918、928、945 | 大久保 |
| 7 | **注射剤・輸液の調剤（1）** | 注射剤の種類・特徴、注射剤処方せん、注射剤の計数調剤 | 注射剤の種類と特徴を調べておく | 866、1002 | 大久保 |
| 8 | **注射剤・輸液の調剤（2）** | 注射剤の配合変化、注射剤の無菌調製 | 配合変化の例を調べておく | 929 | 大久保 |
| 9 | **注射剤・輸液の調剤（3）** | 輸液の種類、栄養輸液の種類と適応、電解質濃度の調整（1） | 輸液の種類と適応を調べておく | 1002、1003 | 大久保 |
| 10 | **注射剤・輸液の調剤（4）** | 輸液の種類、栄養輸液の種類と適応、電解質濃度の調整（2） | 輸液の種類と適応を調べておく | 1002、1003 | 大久保 |
| 11 | **抗悪性腫瘍薬の調剤** | 抗悪性腫瘍薬の調剤 | 抗悪性腫瘍薬の調剤時の注意点を調べておく | 897、1003 | 大久保 |
| 12 | **服薬指導、調剤録、薬歴管理** | 服薬指導の意義・留意点・テクニック、患者からの情報収集と患者への情報提供、POSとSOAP | POSとSOAPについて調べておく | 37、799、800、802、896、945 | 大久保 |
| 13 | **安全管理** | 処方から投薬までの過程で生じやすい過誤と対策 | 処方から投薬までの過程で生じやすい過誤を調べておく | 18、19、929、932、972、974、1001 | 大久保 |
| 14 | **ポリファーマシー** | 超高齢社会における調剤関連の課題と対応策 | ポリファーマシーについて調べておく | 896、1001 | 大久保 |
| 15 | **薬剤師の専門性を活かす** | チーム医療、多職種連携、在宅医療 | 薬剤師の専門性が活きる状況を考察しておく | 53、54、1026、1027、1028、1035、1036、1040、1041 | 大久保 |
| 16 | **定期試験** | | | | |
| | **★注意事項** | 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。<br>※到達目標番号と到達目標の対応は、大学HP掲載のコアカリSBO番号／項目対応表を参照してください。 | | | |

授業科目名称　：薬局管理・経営学（実践的教育科目）　授業コード：24020

授業科目英文名称：Management and Business for Pharmacy

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 4 | 1.5 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 大久保　伸哉（実務経験のある教員）・※作元　誠司 | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | N4F409 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | ・薬剤師の活動分野と社会における役割ならびに薬剤師が守るべき倫理規範や法令について説明できる。<br>・薬局開設に必要な基礎知識、関連法規、施設基準や地域薬局として必要な医薬品や人材の管理について説明できる。<br>・薬局経営に必要な基礎知識および医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。<br>・地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動について説明できる。<br>・在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。<br>・災害時医療および災害時の薬局の役割について説明できる。<br>・一般用医薬品のリスク分類（第一類、第二類、第三類）について理解し、適切に取り扱うことができる。<br>・地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。<br>・地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について説明できる。 | 小テスト | 80% |
| 情報収集、分析力 | ・一般用医薬品の選択や受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集し、論理的に思考・判断することができる。 | 小テスト | 5% |
| コミュニケーション力 | ・薬の専門家として信頼される薬剤師になるために有用なコミュニケーションスキルについて説明できる。 | 課題レポート | 5% |
| 協働・課題解決力 | ・公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を提案できる。 | 小テスト | 5% |
| 多様性理解力 | ・薬剤師が倫理規範や法令を遵守することの重要性を理解し、薬局薬剤師と病院薬剤師に求められる役割や能力の違いについて説明できる。 | 課題レポート | 5% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 薬の専門家としての薬剤師に対する社会の医療ニーズは、年々高度化・複雑化している。本授業は薬局薬剤師として、このニーズに対応できる能力を修得することを目標とする。基本的な薬局薬剤師の業務について学び、保険薬局に求められる役割や地域における保健、医療、福祉の連携の重要性を理解し、地域医療に参画できる機能を備えた薬局として必要な医薬品や人材の管理および薬局経営に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ②、③、⑨、⑩ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・本授業は第１回の講義を本学教員が、第２～１５回の講義を３人の外部講師が交代で担当する（授業計画参照）。各外部講師は連続で３～４回講義を行い、講師が交代するタイミングで小テストを実施する。そのため、本授業では合計３回の小テストが実施される。なお、本学教員は課題レポートを出題する。これらを踏まえて本授業では、小テストの成績を９０％（３０％×３回）、課題レポートの成績を１０％として評価する。<br><br>・小テストは、各講師による講義内容を出題範囲とし冒頭３０分程度で実施する。その後残り時間を用いて、小テストの内容について各講師が解説を行うことでフィードバックする。<br><br>・課題レポートは、ポートフォリオに提出されたものについて、自分なりの視点をもって論理的に書かれているかを評価する。評価点は、ポートフォリオ上で開示する。 |
| 授業概要 | 薬局管理の実務経験を有する教員が、パワーポイントやプリント等の配布資料を用いて講義形式で行う。授業中に配布する資料は、パワーポイントの内容とその他必要な資料であるが、法令の改訂や医療情勢の変化に伴って、その時点での最新の情報を配布する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：指定しない<br>参考書：実務実習事前学習テキストブック（京都廣川書店）<br>指定図書：日本薬剤師会編 薬局実務実習指導の手引き2018年版（薬事日報社） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 薬局薬剤師に対する地域社会のニーズは年々増加しており、内容も変化、高度化している。また法令等も頻繁に改訂がなされる。これらに対応するために、日頃から関連するニュース等に関心を持ち情報の収集に務めモチベーション高く本授業を受講してくれることを期待する。 |
| 授業計画 | 回 / テーマ / 授業の内容 / 予習・復習 / 到達目標番号 / 担当教員 | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **薬剤師が果たすべき役割①** | 薬剤師の活動分野（医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について | 病院薬剤師と薬局薬剤師の違いについて考察する | 9、928 | 大久保伸哉 |
| 2 | **薬局開設** | 薬局開設に必要な基礎知識、関連法規、施設基準について | 薬局を開設する際の注意点について調べる | 71 | 作元誠司（非常勤講師・実務家） |
| 3 | **薬局管理** | 薬局における医薬品および人材の管理 | 管理方法に注意が必要な医薬品としてどのようなものがあるか考察する | 9、71、739 | 作元誠司（非常勤講師・実務家） |
| 4 | **薬局経営** | 薬局経営について | 薬局を経営する際に重要になりそうなポイント等について調べる | 9、71、111 | 作元誠司（非常勤講師・実務家） |
| 5 | **地域における薬局の役割①** | 医療費の適正化に薬局が果たす役割について、調剤報酬（調剤基本料等）について | 医療費の適正化に薬局が果たす役割について考察する | 111 | 作元誠司（非常勤講師・実務家） |
| 6 | **小テスト①** | 第２回～第５回の講義内容に関する小テスト | 第２回～第５回の配布資料の確認 | | 作元誠司（非常勤講師・実務家） |
| 7 | **薬剤師の倫理観** | 薬剤師が守るべき倫理規範や法令について | 薬剤師の倫理観について考察する | 9、71 | 後藤かおり（ゲストスピーカー・実務家） |
| 8 | **地域における保健、医療、福祉の連携①** | 在宅医療と薬剤師その１（薬剤師の役割や関連法規・報酬について） | 在宅医療における薬剤師の役割について考察する | 113 | 後藤かおり（ゲストスピーカー・実務家） |
| 9 | **地域における保健、医療、福祉の連携②** | 在宅医療と薬剤師その２（在宅訪問の実際の事例、その効果や課題等について） | 在宅医療における薬剤師の役割について考察する | 111、113 | 後藤かおり（ゲストスピーカー・実務家） |
| 10 | **地域保健への参画** | 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動、具体的な感染防止対策、災害時医療について | 学校薬剤師、薬物乱用防止、自殺防止、アンチドーピング活動等について調べる | 110、1045、1046、1058 | 後藤かおり（ゲストスピーカー・実務家） |
| 11 | **小テスト②** | 第７回～第１０回の講義内容に関する小テスト | 第７回～第１０回の配布資料の確認 | | 後藤かおり（ゲストスピーカー・実務家） |
| 12 | **地域における薬局の役割②** | 一般用医薬品・セルフメディケーションその１（薬剤師の役割や基礎知識について） | 一般用医薬品の分類やセルフメディケーションについて調べる | 739、740、742、743 | 國松聡（ゲストスピーカー・実務家） |
| 13 | **地域における薬局の役割③** | 一般用医薬品・セルフメディケーションその２（実際の事例やその後のフォロー等について） | セルフメディケーションにおける薬剤師の役割について考察する | 739、740、742、743 | 國松聡（ゲストスピーカー・実務家） |
| 14 | **地域における薬局と薬剤師** | 地域の保健、医療、福祉における社会資源について<br>疾病予防、健康維持増進、かかりつけ薬局・薬剤師について | かかりつけ薬局・薬剤師について調べる | 115 | 國松聡（ゲストスピーカー・実務家） |
| 15 | **小テスト③** | 第１２回～第１４回の講義内容に関する小テスト | 第１２回～第１４回の配布資料の確認 | | 國松聡（ゲストスピーカー・実務家） |
| | **★注意事項** | 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。<br>※到達目標番号と到達目標の対応は、大学HP掲載のコアカリSBO番号／項目対応表を参照してください。 | | | |

授業科目名称　：薬事関係法規（実践的教育科目）　　授業コード：22028

授業科目英文名称：Law and Ethics

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 4 | 1.5 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 室　高広、末廣　真理恵（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | N4F410 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | ①種々の薬剤師の職種に関する制度を理解し、薬事関係法規とその施行に関する基本的知識を説明できる。②医療環境を取り巻く諸問題を理解し、薬剤師の職種、職能及び医療関係者との連携等に関する基本的知識を説明できる。③医療行政を理解し、将来の薬剤師の職能について、自分が進む方向性を思考、判断等に関する基本的知識を説明できる。 | ・定期試験<br>・小テスト | 70%<br>30% |
| 情報収集、分析力 | | | |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 薬剤師法に基づく薬剤師の身分及び業務について理解し、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（以後、医薬品医療機器等法）に定める医薬品・医薬部外品・化粧品・医療機器・再生医療等製品について、その品質･有効性・安全性を確保するための知識を習得する。加えて、麻薬、向精神薬、毒劇物、あへん、大麻、覚せい剤の取り取締法について学び、法に基づく運用を理解する。また、種々の医療制度について学び、社会保障の内容を理解し、薬剤師として責任を持った行動ができるよう必要な知識を備える。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①⑧⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 講義、配布資料、パワーポイント等の内容から定期試験成績（70%）、小テスト（30%）を基に長崎国際大学の成績評価基準に準拠して厳正に判定する。小テストについては、授業内およびポートフォリオを利用してフィードバックする。 |
| 授業概要 | 病院の勤務経験がある教員が、実務経験で得られた知見や事例等を取り入れ、課題解決型学習を展開する。<br>最初に、最新の医療行政及び薬務行政など薬剤師を取り巻く諸問題について情報提供を行い、随時、事例をあげながら講義を行う。教科書に従って進め、必要に応じてプリントなどの資料を配布、パワーポイントを利用し、資料を事前配布する。<br>小テストを行い、理解度の確認を行う。標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分です。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：わかりやすい薬事関係法規・制度（神村英利・木方正・佐藤拓夫・安田一郎 編集 廣川書店）<br>参考書：薬事法規・制度及び倫理 解説（薬事衛生研究会 編 薬事日報社）、薬学と社会（薬学教育センター評言社）<br>指定図書：薬事法規・制度マニュアル（中村健・白神誠・木村和子 編 南山堂） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 薬剤師は、薬剤師法、医薬品医療機器等法、その他多くの法の規制の下で独占的に業務を行っており、その職責は非常に重い。社会保障制度や医療を取り巻く環境は、刻々と変化しており厳しいものがある。薬剤師の職能を自覚し、薬局、病院における薬剤師像を念頭に入れて進路を常日頃から考え、また、これら社会情勢に目を向け、免許のもつ重要性と責任の重さを認識してほしい。<br><br>オフィス・アワー：在室中は随時、対応する。（薬学研究棟Ｐ302：室 高広、S302：末廣） |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **法･倫理･責任** | 憲法と医薬品医療機器等法の関連、法の構成、倫理、生涯教育、法的責任、製造物責任法 | 教科書1-3章・配布資料の確認 | 32, 35, 37, 38, 39, 72, 79, 80 | 室 |
| 2 | **倫理・ヒューマニズム** | 生命の尊厳、医療の目的、先進医療と生命倫理、コミュニケーション | 教科書2-3章・配布資料の確認 | 27, 28, 29, 30, 33, 41, 42, 43 | 室 |
| 3 | **医療制度** | 医療提供体制、医療保障制度の仕組み、医療行政体制、地域薬局、医薬分業制度、後発医薬品 | 教科書4章・配布資料の確認 | 95, 96, 98, 106, 107, 108, 899 | 末廣 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 | **医療と経済** | 国民医療費、老人医療費、薬剤経済、保険医療と薬価制度、薬剤費、生産金額、流通 | 教科書5章・配布資料の確認 | 102, 103, 104, 105 | 末廣 |
| 5 | **医薬品の開発と生産・<br>承認審査システム** | 新薬の研究・開発、治験、臨床試験の実施の基準、承認審査システム、医薬品等の製造販売後の安全対策、規範 | 教科書6章・8章の該当部分・配布資料の確認 | 82, 83, 84, 85 | 末廣 |
| 6 | **薬剤師法** | 薬剤師の資格と任務、薬剤師の業務、調剤業務、処方せん、調剤録 | 教科書7章・配布資料の確認 | 73, 74, 75 | 末廣 |
| 7 | **医薬品医療機器等法1** | 規制対象物の定義と分類、医薬品医療機器等法の3つの目的、薬局、薬局開設、管理、医薬品販売業、許可と種類 | 教科書8章の該当部分・配布資料の確認 | 81, 86, 87 | 室 |
| 8 | **医薬品医療機器等法2** | 医薬品・医療機器の販売、品質確保・製造責任、製造販売、製造業、総括販売責任者、医薬品等の基準及び検定、日本薬局方 | 教科書8章の該当部分・配布資料の確認 | 87, 88 | 室 |
| 9 | **医薬品医療機器等法3** | 医薬品の取扱い、毒・劇薬、処方せん医薬品の取扱い、生物由来製品、血液製剤、監督、指定薬物の取扱い、希少疾病用医薬品 | 教科書8章の該当部分・配布資料の確認 | 87, 89 | 室 |
| 10 | **医薬品医療機器総合機構法** | 機構法の目的及び機構の目的、医薬品副作用救済業務、生物由来製品感染等救済業務、受託業務、その他の業務 | 教科書9章・配布資料の確認 | 87, 90 | 室 |
| 11 | **麻薬・向精神薬の取締法<br>あへん・大麻・覚せい剤取締法** | 麻薬及び向精神薬取締法、向精神薬に関する取締り、あへん法、大麻取締法、覚せい剤取締法の目的、定義、禁止行為、保管 | 教科書10章・配布資料の確認 | 92, 93 | 室 |
| 12 | **毒物及び劇物取締法** | 毒物および劇物の取扱い、法の目的、規制対象物質、譲渡、廃棄、行政措置・命令 | 教科書11章・配布資料の確認 | 94 | 室 |
| 13 | **医療法<br>医師法・歯科医師法・保健助産師看護師法** | 医療施設、薬剤師の員数、医療供給体制の確保、処方せんの交付義務と例外規定、記載事項、薬剤師以外の医療従事者について | 教科書12-13章・配布資料の確認 | 76, 77, 78 | 末廣 |
| 14 | **医療保険関係法規1** | 健康保険法、国民健康保険法、保険医療の実施、保険給付の仕組み、療養担当規則、診療報酬、調剤報酬、薬価基準制度、かかりつけ薬局・薬剤師 | 教科書14-15章・配布資料の確認 | 95, 96, 97, 98, 100, 101, 104, 108, 899 | 末廣 |
| 15 | **医療保険関係法規2** | 高齢者医療確保法、後期高齢者医療制度、介護保険制度、在宅医療における薬剤師の関わり | 教科書16-17章・配布資料の確認 | 95, 96, 98, 99, 899 | 末廣 |
| 16 | **定期試験** | | | | |
| | **★注意事項** | 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。<br>※到達目標番号と到達目標の対応は、大学HP掲載のコアカリSBO番号／項目対応表を参照してください。 | | | |

授業科目名称　：薬事関係法規演習（実践的教育科目）　授業コード：12017

授業科目英文名称：Tutorial: Law and Ethics

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 6 | 0.5 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 室　高広、末廣　真理恵（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 演習 | | |
| ナンバリング | N4F606 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | ①種々の薬剤師の職種に関する制度を理解し、薬事関係法規とその施行に関する基本的知識を説明できる。②医療環境を取り巻く諸問題を理解し、薬剤師の職種、職能及び医療関係者との連携等に関する基本的知識を説明できる。③医療行政を理解し、将来の薬剤師の職能について、自分が進む方向性を思考、判断等に関する基本的知識を説明できる。 | ・定期試験<br>・小テスト | 70%<br>30% |
| 情報収集、分析力 | | | |
| コミュニケーション力 | | | |
| 協働・課題解決力 | | | |
| 多様性理解力 | | | |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 薬剤師はさまざまな業務に携わっているが、どの業務も社会保障制度という大きな仕組みの中に位置づけられる。生命の尊厳、医療の担い手としての心構えを理解し、医療を取り巻く諸問題、薬剤師の役割を見据え、将来、薬剤師の業務における制度と法規のもと、責任を持った行動ができるよう必要な知識を備える。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①⑧⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 講義、配布資料、パワーポイント等の内容から定期試験成績（70%）、小テスト（30%）を基に長崎国際大学の成績評価基準に準拠して厳正に判定する。小テストについては授業内およびポートフォリオを利用してフィードバックする。 |
| 授業概要 | 病院の勤務経験がある教員が、実務経験で得られた知見や事例等を取り入れ、課題解決型学習を展開する。<br>最初に、最新の薬務行政など薬剤師を取り巻く諸問題について情報提供・事例紹介を行い、教科書に従って進め、必要に応じてプリントなどの資料を配布、パワーポイントを利用し資料を事前配布する。また、共用試験、薬剤師国家試験の傾向を踏まえ演習をおりまぜながら授業を行う。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：わかりやすい薬事関係法規・制度（神村英利・木方正・佐藤拓夫・安田一郎 編集 廣川書店）<br>参考書：薬事法規・制度及び倫理 解説（薬事衛生研究会 編 薬事日報社）、薬学と社会（薬学教育センター評言社）<br>指定図書：薬事法規・制度マニュアル（中村健・白神誠・木村和子 編 南山堂） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 薬剤師は、薬剤師法、医薬品医療機器等法、その他多くの法の規制の下で独占的に業務を行っており、その職責は非常に重い。社会保障制度や医療を取り巻く環境は、刻々と変化しており厳しいものがある。薬剤師の職種によっては関係する法規・制度に対する注意が異なる場合がある。将来の進むべき薬剤師職種に合わせた法規・制度を理解し、これら社会情勢に目を向け、免許のもつ重要性と責任の重さを認識してほしい。<br><br>オフィス・アワー：在室中は随時、対応する。（薬学研究棟Ｐ302：室 高広、S302：末廣） |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **倫理・ヒューマニズム** | 生命の尊厳、医療の目的、先進医療と生命倫理、医療行為、研究活動、コミュニケーション、チームワーク、演習 | 教科書1-3章・配布資料の確認 | 27, 28, 29, 30, 33, 41, 42, 43 | 室 |
| 2 | **社会保障制度** | 社会保障制度（共助と公助）：医療保険制度、国民医療費、薬物治療の経済評価、高齢者医療制度、介護保険、演習 | 教科書14-17章・配布資料の確認 | 95, 96, 97, 98, 99, 100, 101, 104, 108, 899 | 末廣 |
| 3 | **イントロダクション<br>社会保障制度<br>（補講）** | 法律と制度、社会保障制度（医療と健康）：予防接種、医薬品副作用救済制度、演習 | 教科書1-3, 9章・配布資料の確認 | 87, 90, 95, 96, 98, 106, 107, 108, 899 | 室 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 | **法令の仕組み<br>薬剤師になるということ** | 薬剤師の免許、倫理と責任、薬剤師の処分と薬剤師再教育制度、製造物責任法、演習 | 教科書1-3，7章・配布資料の確認 | 31，32，33，35，37，38，39，71-74，79，80 | 室 |
| 5 | **薬局を開設する<br>調剤業務に従事する** | 薬局開設、医薬分業、薬局業務運営ガイドライン、薬局製剤、調剤業務、個人情報の取り扱い、演習 | 教科書7,8章・配布資料の確認 | 37，75，76，79，80，81，86，87 | 末廣 |
| 6 | **保険調剤を始める<br>診療・調剤報酬を理解する** | 保険薬局と保険薬剤師、保険調剤、ジェネリック医薬品、診療・調剤報酬、薬価基準、保険給付、高額療養費制度、演習 | 教科書8,14-15章・配布資料の確認 | 102，103，104，105 | 末廣 |
| 7 | **麻薬を扱う** | 麻薬等の調剤、向精神薬、覚せい剤、覚せい剤原料を扱うための免許、麻薬等の保管管理、演習 | 教科書10章・配布資料<br>の確認 | 92，93 | 室 |
| 8 | **医薬品の販売業を始める<br>（補講）** | 医薬品の定義と種類、医薬品の販売業、リスク分類に応じた構造設備、登録販売者、演習 | 教科書8章・配布資料の確認 | 87，88，89，90 | 室 |
| 9 | **医薬品を販売する** | 処方せん医薬品の販売、薬局医薬品の販売、一般用医薬品の販売、毒薬、劇薬の販売、<br>演習 | 教科書8章・配布資料の確認 | 87，88，89，90 | 室 |
| 10 | **医療機器等を販売する<br>（補講）** | 医療機器を販売するには、医薬部外品や化粧品を販売するには、生物由来製品を扱うには、演習 | 教科書8章・配布資料の確認 | 87，88，90 | 室 |
| 11 | **毒物や劇物を販売する** | 毒劇法、毒物・劇物を販売するには、毒物・劇物の取り扱い、毒物劇物業務上取扱者、<br>演習 | 教科書11章・配布資料<br>の確認 | 94 | 室 |
| 12 | **病院・診療所で働く<br>大学や研究機関で研究に従事する（補講）** | 医療施設、病院の管理、医療安全、医療提供体制、医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法、演習 | 教科書4,8,11-13章・配布資料の確認 | 105，1049-53，1056-61 | 末廣 |
| 13 | **製薬企業で医薬品の研究・開発・生産に従事する～承認まで～<br>（補講）** | 医薬品の研究・開発・生産の流れ、薬事部門に勤務する、研究・開発部門に勤める、演習 | 教科書6章・配布資料の確認 | 12，82，83，84，85 | 末廣 |
| 14 | **製薬企業で医薬品の研究・開発・生産に従事する～承認されてから～<br>（補講）** | 品質保証統括部門に勤める、安全管理統括部門に勤める、医薬品の製造部門に勤務する、営業部門に勤務する、演習 | 教科書8章・配布資料の確認 | 82，83，84，85 | 末廣 |
| 15 | **医療機器等を取り扱う企業に勤める<br>薬事衛生行政に従事する<br>（補講）** | 医療機器のクラス分類、医薬品との違い、医療行政体制、薬事衛生とは、監視員の仕事、演習 | 教科書4,8,11章・配布資料の確認 | 82，83，84，85<br>94 | 末廣 |
| 16 | **定期試験** | | | | |
| | **★注意事項** | 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。<br>※到達目標番号と到達目標の対応は、大学HP掲載のコアカリSBO番号／項目対応表を参照してください。 | | | |

授業科目名称　：治験コーディネート論（実践的教育科目）　授業コード：32029

授業科目英文名称：Introduction to Clinical Trial Coordination

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 6 | 1.5 | 選択必修 |
| 担当教員 | | | |
| 大磯　茂、室　高広(実務経験のある教員) | | | |
| 展開方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | N4F607 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 治験に関する用語を説明できる。治験に関連する法令を説明できる。治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。治験業務に携わる各職種・各組織の役割と責任を説明できる。 | ・小テスト<br>・定期試験 | 5%<br>60% |
| 情報収集、分析力 | 医薬品創製における治験の役割を理解した上で、わが国における治験の問題点に関する情報を収集できる。 | ・復習課題 | 5% |
| コミュニケーション力 | グループ討議により作成したプロダクトを発表し、他グループの発表に対し質問やコメントを適切にすることができる。 | ・グループによる発表 | 10% |
| 協働・課題解決力 | 被験者に説明すべき項目や配慮すべき事項を理解した上で、インフォームドコンセントの取得補助をディスカッションによりシミュレートできる。 | ・グループ討議 | 10% |
| 多様性理解力 | 多様な被験者や家族に配慮すべき事項を指摘できる。臨床試験の実施計画の妥当性を評価できる。 | ・小テスト<br>・定期試験 | 5%<br>5% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 新しい医薬品開発の過程で実施される「治験」は医薬品としての製造承認を目的とした臨床試験であり、医薬品医療機器等法に則り厳格な基準に従って適正に行う必要がる。また、「治験」はヒトを対象として行われる試験であるが故にその実施にあたっては、科学性、倫理性、信頼性が確保されなければならない。本科目では、治験薬管理者、治験コーディネーター（CRC）などのスタッフとして治験業務に携わる際に必要な法的・実務的知識を修得する。【本学薬学部独自のアドバンスト科目】 |
| アクティブラーニングの類型 | ①⑥⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 定期試験、小テスト、グループ討議・発表及び課題により評価する。定期試験は成績を65%とする筆記試験を行う。定期試験は、概ね8割を選択肢問題、2割を記述問題とする。第5および12講目に小テストを実施する。グループ討議および発表は、インフォームドコンセント取得補助のシミュレーションを行うための小グループディスカッションの様子およびその発表内容を評価する。復習課題は、ポートフォリオに出題する課題の成績を評価する。それらの成績も最終評価に加える（小テスト10%、グループ討議10%、グループによる発表10%、復習課題5%）。<br>小テストおよび復習課題は、各問題の解答を示すことによりフィードバックを行う。 |
| 授業概要 | 病院薬剤師としての実務経験を有する教員ならび治験業務に現在携わっている非常勤講師が講義を行う。<br>「『医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令』のガイダンス」を第7講目終了時に、「医法研 被験者の健康被害補償に関するガイドライン」を第10講目終了時に配布する。以降の講義には必ず持参すること。また、非常勤講師により講義に関係する最新のトピックス等を紹介してもらう。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 参 考 書：治験薬学（南江堂）<br>CRCテキストブック第3版（医学書院）<br>臨床薬理学第4版（医学書院）<br>薬学倫理・医薬品開発・臨床研究・医療統計学（中山書店）<br>指定図書：治験薬学（南江堂） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 実務実習中に見聞した薬剤師や他の職種のCRCによる治験関連業務と関連づけながら受講して欲しい。配布資料や参考書等を利用して予習・復習をすること。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **治験の概要** | 臨床試験における治験の定義・位置づけ、国際的な協調との関係を理解する。 | 臨床研究、臨床試験、治験の関係を調べておくこと | 38、39、1066、ADV5 | 大磯 |
| 2 | **医薬品開発の流れ** | 医薬品開発の流れ、医薬品開発における非臨床試験と臨床試験の位置づけを理解する。 | 非臨床試験の種類を調べておくこと | 82、83、84 | 大磯 |
| 3 | **医薬品承認審査の流れ** | 医薬品承認審査の流れならびに治験に関連した治験依頼者と行政側の体制の概略を理解する。 | 医薬品の審査業務について調べておくこと | 85、761、ADV11 | 大磯 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 | **臨床試験のデザイン・治験の実施プロセス** | 臨床試験のデザインならびに治験の開始から終了までの流れを理解する。 | 臨床試験のデザインを調べておくこと | 760、785、787、790、792 | 大磯 |
| 5 | **日本の治験における問題点** | 治験の空洞化、ドラッグラグなど、日本の治験における問題点を理解する。 | 治験の空洞化、ドラッグラグについて調べておくこと | 12 | 大磯 |
| 6 | **治験薬管理者、治験事務局の業務の実際** | 治験実施機関側の治験薬管理者、治験事務局の業務内容について最新の状況を理解する。 | 治験実施機関の治験管理体制について調べておくこと | | ゲストスピーカー・鶴丸雅子 |
| 7 | **日本の治験における治験依頼者および行政側の体制の現状** | 日本の治験における治験依頼者および行政側の体制の現状ならびに最新の情報などを理解する。 | 治験依頼者における治験管理体制について調べておくこと | | ゲストスピーカー・中村忠博 |
| 8 | **人を対象とする研究の倫理** | 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針について理解する。 | これまで学習した医療倫理について復習しておくこと | 38、39、40 | 室 |
| 9 | **GCP・治験関連用語** | 治験実施の基準であるGCPの概要と治験に関連して使用される基本的用語を理解する。 | GCP目次、及び第1-2条を予習しておくこと | 762 | 室 |
| 10 | **治験実施に関わる基本的文書** | 治験関連の基本的文書である治験実施計画書、治験薬概要書、同意説明文書の位置づけ、構成などを理解する。 | GCP第7-9条、第50-55条を予習しておくこと | 762 | 室 |
| 11 | **治験実施体制（1）** | 医療機関側の治験実施スタッフ、治験薬管理者、治験事務局と業務内容を理解する。 | GCP第36条、第38-39条、第42-43条を予習しておくこと | 762 | 室 |
| 12 | **治験実施体制（2）** | 治験審査委員会の業務内容を理解する。モニタリング・監査の意義と実施体制を理解する。 | GCP第21-23条、第27-34条、第37条を予習しておくこと | 762 | 室 |
| 13 | **治験実施体制（3）** | 保険外併用療養費制度と被験者負担軽減費、治験における補償・賠償の考え方を理解する。 | 医法研ガイドラインを予習しておくこと | 96 | 室 |
| 14 | **治験コーディネーター（CRC）（1）** | CRCの役割と業務内容を理解し、インフォームドコンセントの取得補助をシミュレートする。<br>（小グループディスカッション） | 被験者の視点に立って治験について考えておくこと | 1、36 | 大磯・室 |
| 15 | **治験コーディネーター（CRC）（2）** | CRCの役割と業務内容を理解し、インフォームドコンセントの取得補助をシミュレートする。<br>（発表・レポート） | グループ単位で発表の打合せをしておくこと | 1、36 | 大磯・室 |
| 16 | **定期試験** | 筆記試験 | | | |
| | **★注意事項** | 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。<br>※到達目標番号と到達目標の対応は、大学HP掲載のコアカリSBO番号／項目対応表を参照してください。 | | | |

授業科目名称　：調剤Ⅰ(実践的教育科目)　　授業コード：43028

授業科目英文名称：Dispensing Pharmacy Ⅰ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 4 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 大磯　茂*、室　高広*、神田　紘介*、大久保　伸哉*、末廣　真理恵*、中島　健輔*、倉岡　卓也(*実務経験のある教員) | | | |
| 展開方法 | 講義・演習・実習 | | |
| ナンバリング | N4F411 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | ・医療の担い手が守るべき倫理規範、患者・生活者の個人情報や自己決定権を説明できる。<br>・処方せんに基づき医薬品の調製をシミュレートできる。<br>・特別な配慮を要する医薬品の管理方法を説明できる。 | 筆記試験<br>実技試験 | 40%<br>40% |
| 情報収集、分析力 | ・医薬品情報を適切に収集、加工、提供できる。 | 課題レポート | 10% |
| コミュニケーション力 | ・グループ討議により作成したプロダクトを適切に発表できる。<br>・他グループの発表に対し質問やコメントを適切にすることができる。 | 観察記録 | 評価方法参照 |
| 協働・課題解決力 | ・提示された症例の問題点を指摘し、その解決策をディスカッションにより提案できる。 | 課題レポート | 10% |
| 多様性理解力 | ・患者・利用者に配慮した適切な態度および行動ができる。 | 観察記録 | 評価方法参照 |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 卒業後、医療、保健活動に参画できるようになるために、薬局および病院における実務実習に先立って、処方せんと調剤、医薬品の管理と供給等に関する基本的知識、技能、態度を修得する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①②④⑥⑪ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・筆記試験と実技試験から成る随時試験の結果、レポート、小グループディスカッション（SGD）およびその発表により評価する。<br>・筆記試験は、講義、演習・SGDおよび実習で行うすべての項目を出題範囲とする。<br>・実技試験は、計数調剤、計量調剤、分包、調剤薬鑑査のうち、指定する1つ以上の項目の習得度を評価する。<br>・SGDに対する課題レポートは、SGD実施日から１週間以内にポートフォリオに提出されたものについて、自分なりの視点をもって論理的に書かれているかを評価する。指定条件を満たさない場合ならびに誤字・脱字は、減点の対象とする。<br>・医薬品情報に対する課題レポートは、医薬品情報実習実施日から１週間以内にポートフォリオに提出されたものについて、与えられたテーマに対して適切な内容の文書が作成できているかを評価する。指定条件を満たさない場合ならびに誤字・脱字は、減点の対象とする。<br>・レポートおよびポートフォリオ課題のフィードバックをポートフォリオで行う。<br>・グループ討議・プレゼンテーション・実習における評価は観察記録を用いる。観察記録は、指示事項の遵守度、身だしなみ、授業態度等を評価する。観察記録による態度等の評価は0～1.0の評価点に換算し、他の項目の評価点の合計に態度等の評価点をかけたものを最終の総合評価とする。 |
| 授業概要 | 病院または薬局における薬剤師としての実務経験を有する教員が、その経験を講義、演習・SGD及び実習に活かし、4月から5月にかけて、講義、演習・SGD、実習が一体化した形式で授業を行う。必要に応じてプリントを配布する。SGD後にはレポート提出を課す。実習については、事前に実習書を配布する。また、理解を深めるために、ポートフォリオに演習問題を出題する。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、講義として行うものは112.5分、演習として行うものは45分、実習として行うものは45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書①：実務実習事前学習テキストブック（京都廣川書店）<br>教科書②：グラフィックガイド薬剤師の技能 第２版 －理論まるごと実践へ－（京都廣川書店）<br><br>参考書：<br>・調剤学総論改訂13版（南山堂）、調剤指針第十四改訂（薬事日報社）<br>・スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅰ 臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤（東京化学同人）<br>・スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅱ 薬物療法の実践（東京化学同人）<br>・スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅲ チーム医療及び地域の保健・医療・福祉への参画（東京化学同人）<br><br>指定図書：<br>・実務実習事前学習テキストブック（京都廣川書店）<br>・グラフィックガイド薬剤師の技能 第２版 －理論まるごと実践へ－（京都廣川書店） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 医療における薬剤師の使命を理解し、生涯にわたる自己研鑽の必要性を認識して欲しい。医薬品が有効かつ安全に適用されるための調剤、医薬品管理等の薬剤師職務に関する知識、技能、態度を修得し、病院・薬局における実務実習につなげて欲しい。また、事前学習は実務実習前の準備学習であり、薬剤師としてのプロフェッ |

| | |
|---|---|
| | ショナリズムの観点からの態度評価も重要視する。実習中における行動やふるまいなどに注意して受講してほしい。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **臨床における心構え** | 医療の担い手が守るべき倫理規範と法令、患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応（講義） | 教科書①②の予習、配布プリントの復習 | 888、889 | 大磯 |
| 2 | **臨床における心構え** | 医療の担い手が守るべき倫理規範と法令、患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応（演習・SGD） | 教科書①②の予習、配布プリントの復習 | 888、889 | 大磯・室・神田・大久保・末廣・中島 |
| 3 | **医薬品の供給と管理（1）** | 医薬品管理の意義と必要性、医薬品管理の流れ、医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件（講義） | 教科書①②の予習、配布プリントの復習 | 959、960、966 | 大磯 |
| 4 | **医薬品の供給と管理（2）** | 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱い（講義） | 教科書①②の予習、配布プリントの復習 | 961 | 大磯 |
| 5 | **医薬品の供給と管理（3）** | 特定生物由来製品の取り扱いおよび保管管理方法（講義） | 教科書①②の予習、配布プリントの復習 | 962 | 大磯 |
| 6 | **医薬品情報の収集・加工・提供** | 適切な情報の収集・整理および加工方法に基づく医薬品情報提供文書の作成（演習） | 配布プリントの予習、復習 | 993、996 | 大磯・室・神田・大久保・末廣・中島 |
| 7 | **処方せんに基づく医薬品の調製** | 処方せんの種類・特徴・必要記載事項、処方せんに基づく薬袋作成（演習） | 教科書①②の予習、配布プリントの復習 | 925、928 | 中島 |
| 8 | **医薬品鑑別** | 適切なツールを用いた医薬品鑑別（演習） | 配布プリントの復習 | 933 | 大磯・大久保・中島 |
| 9～10 | **処方せんに基づく医薬品の調製実習（1）** | 薬袋・薬札の作成、内用剤・外用剤・自己注射用注射剤の計数調剤、調剤薬鑑査（実習） | 教科書①②と実習書の該当部の予習 | 925、926、927、928、935、943 | 担当教員全員 |
| 11～12 | **処方せんに基づく医薬品の調製実習（2）** | 薬袋・薬札の作成、外用剤の計量調剤、調剤薬鑑査（実習） | 教科書①②と実習書の該当部の予習 | 925、926、927、928、935、943 | 担当教員全員 |
| 13～14 | **処方せんに基づく医薬品の調製実習（3）** | 薬袋の作成、内用散剤の計量調剤、調剤薬鑑査（実習） | 教科書①②と実習書の該当部の予習 | 925、926、927、928、935、936、943 | 担当教員全員 |
| 15～16 | **処方せんに基づく医薬品の調製実習（4）** | 薬札の作成、内用液剤の計量調剤、調剤薬鑑査（実習） | 教科書①②と実習書の該当部の予習 | 925、926、927、928、935、943 | 担当教員全員 |
| 17 | **随時試験** | 筆記試験 | | | 大磯・大久保・中島 |
| 18 | **随時試験** | 実技試験 | | | 担当教員全員 |
| | **★注意事項** | 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。<br>※到達目標番号と到達目標の対応は、大学HP掲載のコアカリSBO番号／項目対応表を参照してください。<br>※実習サポート助手：李 政洙 | | | |

授業科目名称　：調剤Ⅱ（実践的教育科目）　　授業コード：44018

授業科目英文名称：Dispensing Pharmacy Ⅱ

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 4 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 大磯　茂*、室　高広*、神田　紘介*、大久保　伸哉*、末廣　真理恵*、中島　健輔*、波多江　日成子（実務経験のある教員） | | | |
| 展開方法 | 講義・演習・実習 | | |
| ナンバリング | N4F412 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | ・代表的な疾患における注意すべき生活指導項目を列挙できる。<br>・患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などを評価できる。<br>・院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理、薬局製剤・漢方製剤などについて説明できる。<br>・代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。<br>・感染予防の基本的考え方とその方法を説明できる。<br>・無菌操作の原理を理解し、基本的な無菌操作を実施できる。<br>・抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。 | 筆記試験<br>実技試験 | 40%<br>40% |
| 情報収集、分析力 | ・医薬品情報を適切に収集、加工、提供できる。 | 課題レポート | 10% |
| コミュニケーション力 | ・グループ討議により作成したプロダクトを適切に発表できる。<br>・他グループの発表に対し質問やコメントを適切にすることができる。 | 観察記録 | 評価方法参照 |
| 協働・課題解決力 | ・提示された症例の問題点を指摘し、その解決策をディスカッションにより提案できる。 | 課題レポート | 10% |
| 多様性理解力 | ・患者・利用者に配慮した適切な態度および行動ができる。 | 観察記録 | 評価方法参照 |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 卒業後、医療、保健活動に参画できるようになるために、薬局および病院における実務実習に先立って、院内製剤・薬局製剤、無菌操作、医療安全管理における感染予防に関する基本的知識、技能、態度を修得する。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①②④⑪ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | ・筆記試験と実技試験から成る随時試験の結果、レポート、小グループディスカッション（SGD）およびその発表により評価する。<br>・筆記試験は、講義、演習・SGDおよび実習で行うすべての項目を出題範囲とする。<br>・実技試験は、衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションのシミュレーション、基本的な無菌操作およびケミカルハザード回避手技のうち、指定する1つ以上の項目の手技の習得度を評価する。<br>・レポートは、SGD実施日から１週間以内にポートフォリオに提出されたものについて、自分なりの視点をもって論理的に書かれているかを評価する。指定条件を満たさない場合並びに誤字・脱字は、減点の対象とする。<br>・レポートおよびポートフォリオ課題のフィードバックをポートフォリオで行う。<br>・グループ討議・プレゼンテーション・実習における評価は観察記録を用いる。観察記録は、指示事項の遵守度、身だしなみ、授業態度等を評価する。観察記録による態度等の評価は0～1.0の評価点に換算し、他の項目の評価点の合計に態度等の評価点をかけたものを最終の総合評価とする。 |
| 授業概要 | 病院または薬局における薬剤師としての実務経験を有する教員が、その経験を講義、演習・SGD及び実習に活かし、6月から7月にかけて、講義、演習・SGD、実習が一体化した形式で授業を行う。必要に応じてプリントを配布する。SGD後にレポート提出を課す。実習については、事前に実習書を配布する。また、理解を深めるために、ポートフォリオに演習問題を出題する。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、講義として行うものは112.5分、演習として行うものは45分、実習として行うものは45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書①：実務実習事前学習テキストブック（京都廣川書店）<br>教科書②：グラフィックガイド薬剤師の技能 第２版 －理論まるごと実践へ－（京都廣川書店）<br><br>参考書：<br>・調剤指針第十四改訂（薬事日報社）<br>・スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅰ 臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤（東京化学同人）<br>・スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅱ 薬物療法の実践（東京化学同人）<br>・スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅲ チーム医療及び地域の保健・医療・福祉への参画（東京化学同人）<br><br>指定図書：<br>・実務実習事前学習テキストブック（京都廣川書店）<br>・グラフィックガイド薬剤師の技能 第２版 －理論まるごと実践へ－（京都廣川書店） |
| | |

| | |
|---|---|
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 医薬品が有効かつ安全に適用されるための院内製剤・薬局製剤、無菌操作、医療安全管理、患者の栄養状態・電解質の過不足の評価に関する知識、技能、態度を修得し、病院・薬局における実務実習につなげて欲しい。また、事前学習は実務実習前の準備学習であり、薬剤師としてのプロフェッショナリズムの観点からの態度評価も重要視する。実習中における行動やふるまいなどに注意して受講してほしい。 |

授業計画

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **患者・来局者対応** | 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目（講義） | 教科書①②の予習、配布プリントの復習 | 948 | 中島 |
| 2 | **臨床における心構え** | 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上と薬剤師の積極的な貢献（演習・SGD） | 教科書①②の予習、配布プリントの復習 | 890 | 大磯・室・神田・大久保・末廣・中島 |
| 3 | **医薬品の供給と管理（1）** | 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理、薬局製剤・漢方製剤（講義） | 教科書①②の予習、配布プリントの復習 | 964、965 | 大磯 |
| 4 | **医薬品の供給と管理（2）** | 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点（講義） | 教科書①②の予習、配布プリントの復習 | 977 | 大磯 |
| 5 | **安全管理** | 感染予防の基本的考え方とその方法（講義） | 教科書①②の予習、配布プリントの復習 | 975 | 大磯 |
| 6 | **処方設計と提案（1）** | 患者の栄養状態や体液量・電解質の過不足の評価（講義・演習） | 教科書①②と実習書の該当部の予習 | 1004 | 大久保・中島 |
| 7～8 | **処方せんに基づく医薬品の調製、安全管理 実習（1）** | 基本的な無菌操作、衛生的な手洗い、スタンダードプリコーション（実習） | 教科書①②と実習書の該当部の予習 | 930、976 | 担当教員全員 |
| 9～11 | **処方せんに基づく医薬品の調製 実習（2）、医薬品情報の収集・加工・提供** | 注射剤無菌調製（実習）、DIニュース等作成（自習課題） | 教科書①②と実習書の該当部の予習 | 930、993、996 | 室・大久保・末廣 |
| 9～11 | **処方せんに基づく医薬品の調製 実習（3）、医薬品情報の収集・加工・提供** | 医薬品の配合変化（実習）、DIニュース等作成（自習課題） | 教科書①②と実習書の該当部の予習 | 939、993、996 | 大磯・神田 |
| 9～11 | **医薬品の供給と管理 実習（4）、医薬品情報の収集・加工・提供** | 薬局製剤・漢方製剤（実習）、DIニュース等作成（自習課題） | 教科書①②と実習書の該当部の予習 | 965、993、996 | 中島 |
| 12～13 | **処方せんに基づく医薬品の調製 実習（5）、処方設計と提案（2）** | ケミカルハザード回避の基本的手技（実習）、計算演習問題の解説（講義・演習） | 教科書①②と実習書の該当部の予習 | 931、1004 | 担当教員全員 |
| 14 | **随時試験** | 筆記試験 | | | 大磯・大久保・中島 |
| 15 | **随時試験** | 実技試験 | | | 担当教員全員 |
| | **★注意事項** | 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。<br>※到達目標番号と到達目標の対応は、大学HP掲載のコアカリSBO番号／項目対応表を参照してください。 | | | |

授業科目名称　：医療コミュニケーション（実践的教育科目）　授業コード：23628

授業科目英文名称：Medical Communication

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 後期 | 4 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 神田　紘介*、大磯　茂*、室　高広*、大久保　伸哉*、末廣　真理恵*、中島　健輔*、大神　正次、福森　良(*実務経験のある教員) | | | |
| 展開方法 | 講義・演習・実習 | | |
| ナンバリング | N4F413 | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 薬剤服用歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。代表的な疾患の症例についての患者応対の内容を適切に記録できる。代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と身体所見・検査所見等を具体的に説明できる。使用上の説明が必要な製剤の取扱い方法を説明できる。 | 随時試験<br>（実技）<br>（筆記）<br>（確認テスト） | <br>10%<br>25%<br>10% |
| 情報収集、分析力 | 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的・方法と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。 | 随時試験<br>（実技）<br>（確認テスト） | <br>10%<br>5% |
| コミュニケーション力 | 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤の取扱い方法を説明できる。 | 随時試験<br>（実技） | <br>30% |
| 協働・課題解決力 | 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計支援ができる。代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す患者について、患者情報や身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）から得られた情報を活用し、適切な薬学的管理を行うことができる。 | 随時試験<br>（レポート）<br>（発表） | <br>5%<br>5% |
| 多様性理解力 | 患者・利用者に配慮した適切な態度および行動ができる。 | 観察記録 | 0～1.0を乗ずる |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 本学薬学部薬学科のディプロマポリシーである、薬の専門家として高度化・複雑化する社会の医療ニーズに対応するために必要な知識、医療や薬学に関する諸問題について、有用な科学的データを選択し、自ら論理的に思考・判断できる技能、薬の専門家として十分なコミュニケーション能力、個々の患者や医師・看護師等に薬の情報を的確に提供することができる能力を備えることを目標とする。<br>特に、卒業後、医療、健康保険事業に参画できるようになるために、病院実務実習・薬局実務実習に先立って、大学内で薬物投与計画、服薬指導、フィジカルアセスメントなどの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を修得することを目標とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①②④⑥⑦⑨ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 随時試験（実技試験、筆記試験）・小テスト・レポート・プレゼンテーションの他、観察記録で評価をする。観察記録は、指示事項の遵守度、身だしなみ、授業態度等を評価する。観察記録による態度等の評価は0～1.0の評価点に換算し、他の項目の評価点の合計に態度等の評価点をかけたものを最終の総合評価とする。小テストやレポートについては、授業内およびポートフォリオを利用してフィードバックする。 |
| 授業概要 | 病院・薬局の勤務経験がある教員が、実務経験で得られた知見や事例等を取り入れ、実習を展開する。教科書、実習書を主体とし、これに参考書や配布資料等を補助的教材として用いて講義、実習を行う。講義、実習（模擬患者とのロールプレイおよびweb教材、シミュレーターを使った実習）、グループ討議（SGD）、プレゼンテーションを行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、講義として行うものは112.5分、演習として行うものは45分、実習として行うものは45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 教科書：実務実習事前学習テキストブック（京都廣川書店）・グラフィックガイド薬剤師の技能 第２版 －理論まるごと実践へ－（京都廣川書店）/治療薬マニュアル（医学書院）<br>参考書：スタンダード薬学シリーズⅡ 7臨床薬学Ⅲ チーム医療および地域の保健・医療・福祉への参画（東京化学同人）<br>スタンダード薬学シリーズⅡ 7臨床薬学Ⅰ 臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤（東京化学同人）<br>指定図書：スタンダード薬学シリーズⅡ 7臨床薬学Ⅱ 薬物療法の実践（東京化学同人） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 薬局・病院実務実習に先立って、大学内で薬学的管理、服薬指導、フィジカルアセスメントなどの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を修得するための事前学習のひとつの科目です。実務実習のことも想定して取り組んでください。講義と実習は連動しているので実習はもとより講義を欠席しないようにしてください。 |

| | |
|---|---|
| | 配布されたプリント及び参考書等を利用して予習・復習をしっかりするようにして下さい。講義中および講義後の質問は大いに歓迎します。※質問は、基本的に在室中は可能ですので、担当教員のオフィスを訪ねて下さい。（薬学研究棟P312：神田） |
| 授業計画 | |

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **処方設計と薬物療法の実践と副作用モニタリング** | 個別の患者情報（遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など）および医薬品情報などの情報に基づいて薬物療法の最適化を討議する。 | 教科書・実習書・配布資料確認 | 755, 756, 757, 814, 999, 1000 | 神田・室・大磯・大久保・末廣・中島・ゲストスピーカー（立石・古川・淀） |
| 2 | **服薬指導、患者教育** | 吸入器具・眼軟膏・インスリン自己注射・坐薬・点鼻薬・点鼻薬等の使用方法を理解し説明。 | 教科書・実習書・配布資料確認 | 949 | 神田・室・大磯・大久保・末廣・中島・ゲストスピーカー（立石・古川・淀） |
| 3 | **患者・来局者応対（薬局）** | 患者から薬物治療に係る基本的な情報（症状、既往歴、アレルギー歴、薬歴、副作用歴、生活状況等）を収集する。模擬患者（SP）との面談。収集した内容を適切に記録する。 | 教科書・実習書・配布資料確認 | 944, 946 | 神田・室・大磯・大久保・末廣・中島・大神・福森・ゲストスピーカー（立石・古川・淀） |
| 4 | **服薬指導、患者教育（薬局）** | 医薬品を安全かつ有効に使用するための情報を種々のツールを用いて患者に提供する。模擬患者（SP） との面談。 | 教科書・実習書・配布資料確認 | 947 | 神田・室・大磯・大久保・末廣・中島・大神・福森・ゲストスピーカー（立石・古川・淀） |
| 5 | **患者・来局者応対（病院）** | 患者から薬物治療に係る基本的な情報（症状、既往歴、アレルギー歴、薬歴、副作用歴、生活状況等）を収集する。指導、教育内容を適切に記録する。模擬患者（SP）との面談。収集した内容を適切に記録する。 | 教科書・実習書・配布資料確認 | 944, 946 | 神田・室・大磯・大久保・末廣・中島・大神・福森・ゲストスピーカー（立石・古川・淀） |
| 6 | **服薬指導、患者教育（病院）** | 医薬品を安全かつ有効に使用するための情報を種々のツールを用いて患者に提供する。模擬患者（SP） との面談。指導、教育内容を適切に記録する。 | 教科書・実習書・配布資料確認 | 947 | 神田・室・大磯・大久保・末廣・中島・大神・福森・ゲストスピーカー（立石・古川・淀） |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 7 | **DXに伴う医療コミュニケーションの変化の理解** | DX機器を服薬指導、薬歴管理に活用し、医療環境の変化の理解をする。オンライン服薬指導の実技。 | 教科書・実習書・配布資料確認 | 947,950,951 | 神田・室・大磯・大久保・末廣・中島・ゲストスピーカー（立石・古川・淀） |
| 8 | **服薬指導、患者教育（在宅医療）** | 在宅医療について把握し、地域での保健・医療・福祉について理解を深める。患者から薬物治療に係る基本的な情報（症状、既往歴、アレルギー歴、薬歴、副作用歴、生活状況等）を収集する。在宅医療・介護にかかわる薬剤師の管理業務について理解を深める。模擬患者（SP）との面談。（担当教員全員・外部講師）。 | 教科書・実習書・配布資料確認 | 951,988,989,1039,1040,1041 | 神田・室・大磯・大久保・末廣・中島・ゲストスピーカー（立石・古川・淀） |
| 9 | **患者・来局者応対（一般用医薬品）** | 地域包括ケアシステムの中でのプライマリケア、セルフメディケーション重要性を討議する。代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。模擬生活者・模擬来局者（SC）参加の医療面談。 | 教科書・実習書・配布資料確認 | 1049,1050,1051,1052 | 神田・室・大磯・大久保・末廣・中島・大神・福森・ゲストスピーカー（立石・古川・淀） |
| 10 | **服薬指導、患者教育（一般用医薬品）** | 模擬来局者の状態の把握と評価を行い、ニーズにあった適切な対応を行う。代表的な生活習慣の改善についてのアドバイスを行う。模擬生活者・模擬来局者（SC）参加の医療面談 | 教科書・実習書・配布資料確認 | 1049,1050,1051,1052 | 神田・室・大磯・大久保・末廣・中島・大神・福森・ゲストスピーカー（立石・古川・淀） |
| 11 | **患者状態の把握** | Web教材およびシミュレーターを利用したフィジカルアセスメント及び身体所見の観察・測定・評価。筋肉注射手技の理解およびシミュレーターを使用した実技。 | 教科書・実習書・kikuzosound.com・配布資料確認 | 988, 989 | 神田・室・大磯・大久保・末廣・中島・大神・福森・ゲストスピーカー（立石・古川・淀） |
| 12 | **随時試験１** | 筆記試験 | | | 神田 |
| 13 | **随時試験２** | 実技試験 | | | 神田・室・大磯・大久保・末廣・中島・大神・福森 |
| | **★注意事項** | 上記の第1回～第13回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。<br>※到達目標番号と到達目標の対応は、大学HP掲載のコアカリSBO番号／項目対応表を参照してください。 | | | |

授業科目名称　：実務実習（病院・薬局）　　授業コード：04529

授業科目英文名称：Pharmacy Practice Experience(Hospital and Communit

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|---|---|---|---|
| 通年 | 5 | 20 | 必修 |
| 担当教員 | | | |
| 大磯　茂、室　高広、神田　紘介、大久保　伸哉、末廣　真理恵、中島　健輔、兼任 | | | |
| 展開方法 | 実習 | | |
| ナンバリング | N4F501 | | |
| 添付ファイル | | | |
| R7_N4F501_実務実習（病院・薬局）（大磯 他）.pdf | | | |

| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | 評価手段・方法 | 評価比率 |
|---|---|---|---|
| 専門力 | 薬の専門家として高度化・複雑化する社会の医療ニーズに対応するために必要な知識を修得する。 | 実習施設の総括評価<br>実務実習記録の評価 | 20%<br>20% |
| 情報収集、分析力 | 医療や薬学に関する諸問題について、有用な科学的データを選択し、自ら論理的に思考・判断できる技能を修得する。 | 実習施設の総括評価<br>実務実習記録の評価 | 10%<br>10% |
| コミュニケーション力 | 薬の専門家として十分なコミュニケーション能力を修得する。 | 実習施設の総括評価<br>実務実習記録の評価<br>実習中の態度評価 | 5%<br>5%<br>10% |
| 協働・課題解決力 | 個々の患者や医師・看護師等に薬の情報を的確に提供することができる能力を修得する。 | 実習施設の総括評価<br>実務実習記録の評価 | 5%<br>5% |
| 多様性理解力 | 地域医療・保健に参画することができる能力を修得する。 | 実習施設の総括評価<br>実務実習記録の評価 | 5%<br>5% |
| 出席 | | 受験要件 | |
| 合計 | | 100% | |

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 薬局および病院における参加型実習を通し、本学薬学部薬学科のディプロマポリシーである、薬の専門家として高度化・複雑化する社会の医療ニーズに対応するために必要な知識、医療や薬学に関する諸問題について、有用な科学的データを選択し、自ら論理的に思考・判断できる技能、薬の専門家として十分なコミュニケーション能力、個々の患者や医師・看護師等に薬の情報を的確に提供することができる能力、地域医療・保健に参画することができる能力を備えることを目標とする。 |
| アクティブラーニングの類型 | ①④⑥⑦⑪⑫ |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | 実習施設の総括評価は指導薬剤師の終了時評価から、実務実習記録の評価は実習生の担当教員の評価表から換算する。実習中の態度評価は指導薬剤師および担当教員の態度評価から換算する。無断欠席、実習態度不良、誓約書内容遵守違反など実習に支障をきたすような行為が認められた場合、実習中止を検討する。 |
| 授業概要 | 保険調剤、医薬品などの供給・管理、情報提供、健康相談、医療機関や地域との関わりなどの薬局薬剤師業務ならびに調剤および製剤、薬剤管理指導業務、医薬品管理などの病院薬剤師業務に関する臨床実習を行う。<br>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 |
| 教科書・参考書・指定図書 | 参考書：治療薬マニュアル（医学書院）<br>スタンダード薬学シリーズⅡ 7臨床薬学Ⅰ 臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤（東京化学同人）：参考書①<br>スタンダード薬学シリーズⅡ 7臨床薬学Ⅱ 薬物療法の実践（東京化学同人）：参考書②<br>スタンダード薬学シリーズⅡ 7臨床薬学Ⅲ チーム医療及び地域の保健・医療・福祉への参画（東京化学同人）：参考書③<br>薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト2024 じほう：参考書④<br>薬局実務実習指導の手引き2018年版：参考書⑤<br>実務実習事前学習テキストブック　（京都廣川書店）参考書⑥<br>グラフィックガイド薬剤師の技能 理論まるごと実践へ 第2版（京都廣川書店）参考書⑦<br><br>指定図書：治療薬マニュアル（医学書院） |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | 卒業後、医療チームに参画できるように、医療倫理観および基本的な臨床技能と態度を身につけて欲しい。<br>また、実務実習施設の規則も遵守し、特に下記の点に注意して欲しい。<br>１）周囲への配慮、２）緊張感、３）感謝の気持ち・素直な態度、４）、礼儀、５）積極性 |
| | |

| 授業計画 | 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 添付ファイル参照 | | | |